NEC

高輝度液晶プロジェクタ
GT1150
取扱説明書

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。
この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

＊IBM, ATは米国International Business Machines, Corporation.の登録商標です。
＊Macintoshは米国Apple Computer Inc.の商標です。
＊ Microsoft, Windows, PowerPointは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
＊その他取扱説明書に記載のメーカー名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

（1）本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
（2）本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
（3）本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気付きのことがありましたらご連絡ください。
（4）本機の使用を理由とする損害、逸失利益等の請求につきましては、当社では（3）項にかかわらず、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
（5）乱丁、落丁はお取り替えいたします。

このたびはNEC 液晶プロジェクタをお買いあげいただきありがとうございました。
ご使用の前に、本機の機能を十分生かしてご利用いただくために、この「取扱説明書」を最後までお読みください。
お読みになったあとは、「保証書」・「NECフィールディング株式会社 支店･営業所所在地一覧表」とともに、いつでも見られる所に大切に保存してください。万一、ご使用中にわからないことや不具合が生じたときにお読みください。

ご使用の前に

絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ **警告**	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡や大けがをするなど人身事故の原因となります。**
⚠ **注意**	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人がけがをしたり周囲の家財に損害をあたえたりすることがあります。**

絵表示の例	
	△記号は注意（警告を含む）をうながすことを表しています。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。
	⃠記号はしてはいけないことを表しています。図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号はしなければならないことを表しています。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

必ず守ってください

⚠警告

水場や水にぬれるような所には置かない

水ぬれ禁止

次のような水にぬれるようなおそれがある所では使用しないでください。またプロジェクタの上に水の入った容器を置かないでください。火災・感電の原因となります。

- 雨天や降雪中、海岸や水辺で使用しない
- 風呂やシャワー室で使用しない
- プロジェクタの上に花びん、植木鉢を置かない
- プロジェクタの上にコップ、化粧品、薬品を置かない

万一、プロジェクタの内部に水などが入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

次のようなところでは使用しない

次のようなところでは使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- ぐらついた台の上、傾いた所など、不安定な場所
- 暖房の近くや振動の多い所
- 湿気やほこりの多い場所
- 油煙や湿気の当たるような場所
- 調理台や加湿器のそば

天吊りの設置について

- 天吊りなどの特別な工事が必要な設置につきましては販売店にご相談ください。お客様による設置は絶対におやめください。落下してけがの原因となります。

LANモジュール（別売品）の取り付けについて

- サービスマン以外の方は、LANモジュール（別売品）の取り付けをしないでください。感電の原因になります。

プロジェクタのレンズをのぞかない

レンズをのぞかない

- プロジェクタのレンズをのぞかないでください。
  動作中は強い光が投写されていますので、目を痛める原因となります。特にお子様にはご注意ください。

内部に物をいれない

異物挿入禁止

- プロジェクタの通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落し込んだりしないでください。
  火災・感電の原因となります。特にお子様のいる家庭ではご注意ください。

  万一、異物がプロジェクタ内部に入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

キャビネットは絶対にあけない

分解禁止

- プロジェクタのキャビネットを外したり、開けたりしないでください。
  また改造しないでください。火災・感電の原因となります。
  内部の点検・調整・修理は販売店にご相談ください。

⚠警告

雷が鳴りだしたら、電源プラグに触れない

- 雷が鳴りだしたら、電源プラグに触れないでください。
  感電の原因になります。

ランプ交換は電源を切ってから

電源プラグを
コンセントから抜く

- ランプの交換は、電源を切り1分間待って、冷却ファン停止後、電源プラグをコンセントから抜き、約60分おいてから行ってください。
  動作中や停止直後にランプを交換すると高温のため、やけどの原因となります。
  詳細は121, 122ページをご覧ください。

電源コードの取り扱いは大切に

電源コードは大切に取り扱ってください。コードが破損すると、火災・感電の原因となります。

- コードの上に重いものをのせない
- コードをプロジェクタの下敷きにしない
- コードの上を敷物などで覆わない
- コードを傷つけない、加工しない
- コードを無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしない
- コードを加熱しない
- 添付されているもの以外の電源コードは使用しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。

故障したときは電源プラグを抜く

電源プラグを
コンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする場合やプロジェクタを落したり、キャビネットを破損した場合は、本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
  火災・感電の原因となります。
  販売店へ修理をご依頼ください。

⚠注意

通風孔をふさがない

- プロジェクタの通風孔をふさがないでください。またプロジェクタの下に紙や布などの柔らかい物を置かないでください。
  火災の原因となることがあります。
  プロジェクタを設置する場所は周囲から適当な空間（目安として10cm以上）あけてください。

⚠注意

移動するときは電源コードを抜く

電源プラグを
コンセントから抜く

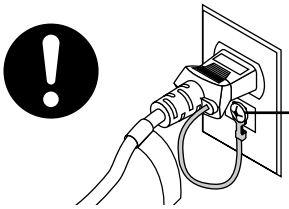
- 移動させる場合は、電源を切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続ケーブルを外したことを確認の上、行ってください。

長期間使用しないときは、電源プラグを抜く

電源プラグを
コンセントから抜く

- 長期間、プロジェクタをご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

機器のアースは確実にとってください



- 本機の電源プラグはアースつき2芯プラグです。機器の安全確保のため、機器のアースは確実にとってご使用ください。詳細は37ページをご覧ください。

ぬれた手で電源プラグに触れない

ぬれた手は危険

- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

動作中にレンズキャップをしない

- 動作中にレンズにふたをしないでください。ふたの部分が高温になり溶けることがあります。
- 動作中にレンズの前に金魚鉢、凸レンズ（虫眼鏡）などを置かないでください。火災の原因になることがあります。

電池の取り扱いについて

電池の取り扱いには注意してください。火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 電池をショート、分解、火に入れたりしない
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
- 電池を入れるときは、極性（＋と－の向き）に注意し、表示通りに入れる

お手入れの際は電源コードを抜く

電源プラグを
コンセントから抜く

- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。

持ち運びのときフロントパネルに手をかけない

禁止

- プロジェクタを持ち運ぶとき、フロントパネルに手をかけないでください。フロントパネルが外れてプロジェクタが落下し、けがの原因となります。

点検・工事について

内部の掃除を販売店で

- **1年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。プロジェクタの内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、内部の掃除費用につきましては販売店などにご相談ください。**

お願い

性能確保のため、次の点にご留意ください。

- **振動や衝撃が加わる場所への設置は避けてください**
  動力源などの振動が伝わる所に設置したり、車両、船舶などに搭載すると、本機に振動や衝撃が加わって内部の部品がいたみ、故障の原因となります。
  振動や衝撃の加わらない場所に設置してください。

- **高圧電線や動力源の近くに設置しないでください**
  高圧電線、動力源の近くに設置すると、妨害を受ける場合があります。

- **スクリーンへの外光対策をしてください**
  スクリーンには、照明など本機以外からの光が入らないようにしてください。
  外光が入らないほど、ハイコントラストで美しい映像が見られます。

- **持ち運びについて**
  本体側面のキャリングハンドルを持って運んでください。。その際、レンズに傷が付かないように必ずレンズキャップを取り付けてください。また、プロジェクタ本体には強い衝撃を与えないでください。

- **輸送の前にはレンズユニットを外し、レンズキャップを付けてください**
  輸送中にレンズシフト機構が破損する恐れがあります。

- **投写レンズ面は素手でさわらないでください**
  投写レンズ面に指紋や汚れが付くと、拡大されてスクリーンに映りますので、レンズ面には手をふれないでください。また、本機を使用されないときは、添付のレンズキャップをかぶせておいてください。

- **スクリーンについて**
  ご使用のスクリーンに汚れ、傷、変色などが発生すると、きれいな映像が見られません。
  スクリーンに揮発性のものをかけたり、傷や汚れが付かないよう取り扱いにご注意ください。

- **廃棄について**
  本体廃棄の際は、お買いあげの販売店または、自治体にお問い合わせください。

以下のような場合は電源プラグをコンセントから絶対に抜かないでください。
機器が故障する恐れがあります。

- **砂時計アイコンが出ているとき**
- **「しばらくお待ちください」というメッセージが表示されているとき**（電源を切るとこのメッセージが出ます。）
- **電源プラグをコンセントに差し込んだ直後（POWERインジケータがオレンジ色に点灯しないとき）**
- **アフタークーリング（POWERボタンOFF後の1分間ファン回転）終了直後**
- **POWERインジケータとSTATUSインジケータが交互に一瞬点滅しているようなとき**

目　次

はじめに

ご使用の前に **3**
必ず守ってください **4**
本誌の説明について **10**
特長 **11**
梱包品の確認 **12**
本体各部のはたらき **13**
レンズキャップの取り付けかた 15
プロジェクタを移動するとき 15
本体操作部／ビューワ部 **16**
ビューワ部 17
入出力端子部 **18**
コントロール端子部 **19**
リモコン各部のはたらき
リモコン各部の名称 **20**
リモコンを使用する前に **22**
リモコン乾電池の入れかた 22
リモコン有効範囲（ワイヤレス使用時） 22
ワイヤードで使うとき 23
オンスクリーンメニューを使う前に
オンスクリーンメニューの基本操作 **24**
メニュー選択のしかた 24
メニューや設定・調整画面を移動する 26
設定・調整のしかた 26
オンスクリーンメニュー一覧 **28**

設置と接続

設置・調整
設置手順 **32**
投写距離と画面サイズ **33**
適用レンズと投写距離／画面サイズ一覧 33
レンズシフト範囲（参考） 34
レンズユニットの取り付け **35**
レンズユニットの取り付け手順 35
電源の接続と入／切 **37**
電源の入／切 38
電源を入れたときスタート画面が表示された場合 39
プロジェクタを設置調整する **40**
標準的な設置調整 40
プロジェクタの水平位置微調整 42
リンクモードスタックの設置調整（ご参考） **43**
特殊な設置 **46**
接続
プロジェクタを単体で使用する **47**
ビデオ機器（ビデオ／S-ビデオ）との接続 47
ビデオ機器（コンポーネント信号）との接続 48
パソコンとの接続 49
パソコンの投写画面がうまく映らない場合 50
RGBモニタとの接続 51
DVI端子との接続 51
ワークステーションとの接続 52
磁気コアの付けかた 52
ビデオユニット（ISS-6020J）を経由する **53**
ビデオユニットを1台接続する 53
複数のビデオユニットを接続する 54
REMOTE1端子について 55
複数のプロジェクタをリモコンで操作する **56**
リモコンで各々のプロジェクタをワイヤレス操作する 56
リモコンで複数のプロジェクタを同時に操作する 56
PC-CONTROL端子を使う **57**
リンクモードスタック設置の接続 57

リモコン操作

基本操作 **58**
入力の選択 58
音量の調整 59
プロジェクタの操作説明を見る 59
画像を自動調整する 60
映像・音声・オンスクリーン表示を消去する 60
画面の拡大と移動 61
信号リストから入力選択する 62
ビデオユニット（ISS-6020J）のスロット選択 62
情報画面を開く 63
調整と設定 **64**
画面位置を調整する 64
画面サイズを調整する 64
フォーカス（焦点）を調整する 64
テストパターンを映す 65
上下方向台形歪みの調整 65
映像の調整 66
ホワイトバランスの調整 66
画像の表示位置と画素を調整する 67
画像設定表示・機器の設定メニューを直接開く 67
リモコンのIDを設定する 68

メニュー操作

【　】内はメニュー表示の項目名です。

入力の選択
入力の選択（プロジェクタ単体で使用時）【信号選択】 69
ビデオユニットの入力選択（ビデオユニット接続時）【信号選択】 69
ビューワツールバーの名称とはたらき 70
信号リストからの入力選択【信号リスト】 72
信号リストの編集 72
映像調整・音量調整
映像の調整【映像調整】 75
音量の調整【音量】 75
画像の調整
上下方向台形歪みの調整【台形補正】 76
色温度の調整【色温度】 76
ランプモードの選択【ランプモード】 76
ガンマ補正の選択【ガンマ補正】 77
表示モードの選択【アスペクト】 77
ノイズを低減する【ノイズリダクション】 77
カラーマトリクスの選択【カラーマトリクス】 78
ホワイトバランスの調整【ホワイトバランス】 78
ビデオユニットの調整【スイッチャゲイン】 78
画像の表示位置と周波数の調整【位置・周波数】 79

アドバンスド・アキュブレンドの選択【解像度】.....80
映像フィルタの設定【ビデオ帯域フィルタ】.....80
オーバースキャンの選択【オーバースキャン】.....80
クランプタイミングの設定【クランプタイミング】.....81
Y／Cディレイを調整する【Y／Cディレイ】.....81
輝度信号のトランジェント調整【YTR調整】.....81
色信号のトランジェント調整【CTR調整】.....81
HDディレイの調整【HDディレイ】.....81
調整データのリセット【データリセット】.....82
機器設定
タイマー.....83
オン・オフタイマーの設定と動作【オン／オフタイマー】...83
スリープタイマーの設定【スリープタイマー】.....84
メニュー設定.....85
表示させるメニューモードの選択【メニューモード】.....85
ベーシックメニューを編集する【ベーシックメニュー編集】....85
メニューの表示言語を選択【表示言語】.....87
メニューの表示時間の選択【表示時間】.....87
画面に表示する内容の選択【表示項目選択】.....87
日付の表示形式を選択する【日付表示形式】.....88
現在時刻を設定する【時刻設定】.....88
ポインタの種類を選択【ポインタ】.....89
音量調整表示のOn／Off【音量調整バー】.....89
台形補正表示のOn／Off【台形補正バー】.....89
セットアップ.....90
プロジェクタの投写方法を選択【投写方法】.....90
無信号時の背景色を選択【バックグラウンド】.....90
ビューワ機能を設定する【ビューワオプション】.....91
キャプチャの画像圧縮度を設定する【キャプチャオプション】.....92
信号モードの選択【信号選択】.....92
画像の自動調整【自動調整】.....93
自動で立ち上げる【オートスタート】.....94
RGB入力端子無信号時に電源を切る【パワーマネージメント】.....94
電源を切るとき確認表示を出す【電源オフ確認メッセージ】....94
台形補正データを保存する【台形補正保存】.....95
冷却ファンを高速回転させる【ファン高速モード】.....95
内蔵スピーカの音声を消す【内蔵スピーカ】.....95
ランプ使用時間をクリアする【ランプ時間クリア】.....96
フィルタ使用時間をクリアする【フィルタ使用時間クリア】....96
リモコン受光部の選択【リモコン受光部設定】.....96
S－ビデオモードの設定【S－ビデオモード】.....97
通信速度の設定【通信速度】.....97
プロジェクタのIDを設定する【プロジェクタID】.....97
初期入力の設定【初期入力選択】.....98
リンクモードを設定する【リンクモード】.....99
スイッチャ連動モードの設定【スイッチャ連動モード】.....99
ツールの機能.....100
キャプチャ機能【キャプチャ】.....100
PCファイルを映す【ファイル選択】.....100
バックグラウンドロゴ変更のしかた【ファイル選択】.....102
ヘルプと情報を見る.....103
ヘルプを見る【目次】.....103
入力信号と機器情報を見る【情報】.....104
テストパターン.....105
テストパターンを映す【テストパターン】.....105

ビューワを使う

ビューワを使う前に
こんなことができます.....106
ビューワで映るようにするには.....106
フラッシュメモリカードの出し入れ.....108
入れかた.....108
出しかた.....108
添付ソフトウェアのインストール.....109
インストールをする.....109
添付ソフトウェアの起動.....110
ビューワ専用ソフトウェア［PC Card Viewer Utility 1.0］の起動.....110
PowerPoint変換ソフトウェア
［PC Card Viewer PPT Converter 1.0］の起動.....110
ビューワを使う
スライドを映す.....111
スライドを映す基本操作.....111
ビューワツールバーを使って操作する.....112
自動再生でスライドを切り換える.....113
手動再生でスライドを切り換える.....114
プロジェクタの表示画像をキャプチャ（保存）する..115
表示画像をフラッシュメモリカードに保存する.....115
キャプチャされた画像を見る.....116
キャプチャされた画像を削除する.....117
キャプチャされた画像をパソコンで削除・保存する.....118
デジタルカメラで撮影した画像を見る.....118
ファイル選択のしかた.....119

お知らせとお願い

性能維持
ランプ交換のしかた.....121
フィルタの交換と清掃.....123
エアーフィルタの交換.....123
エアーフィルタの清掃.....123
インジケータ（LED）表示一覧.....124
LAMPインジケータ表示.....124
温度プロテクタについて.....125
故障かな？と思ったら.....126
お手入れについて.....128
仕　様.....129
付　録
対応解像度一覧.....130
リンクモードでの調整可能機能一覧.....131
プレゼンテーションリモコン各部のはたらき（別売品）.....132
SC, TRIGGER端子の仕様.....134
RGB2端子のピン配列と信号名.....134
外観図.....135
関連商品.....135
スタック時の推奨投写距離.....136
保証と修理サービス（必ずお読みください）.....137

本誌の説明について

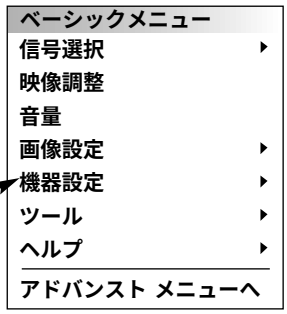
■説明書に記載の本体やリモコンの操作ボタン名とメニュー項目名の区別

説明文中に〈MENU〉ボタンや［機器設定］など操作ボタン名称やメニューの名称にカッコを付けています。
〈　〉……プロジェクタ本体やリモコンの操作ボタンを表しています。
［　］……メニュー表示の項目名や調整・設定名を表しています。

■ メニュー選択のしかた

1 メニューを表示する

〈MENU〉ボタンを押します。



- 〈MENU〉ボタンを押してから10秒間（工場出荷時）操作をしないとメニューが自動的に消えます。
- 〈MENU〉ボタン、〈ENTER〉ボタン、〈CANCEL〉ボタン、〈SELECT ◀／▶〉ボタンのいずれかを押すと、消える前に表示していた状態のメニューが表示されます。
- 時間は［機器設定］→［メニュー設定］→［ページ1］の［表示時間］で選択できます。（*87ページ参照*）

本書は主にリモコンのボタンで説明しています。プロジェクタ本体とリモコンの同じボタン名称は同じ働きをしますが、本体のボタンがリモコンの動作と異なる場合は本体のマークを表記します。
また、別売のプレゼンテーションキットのリモコン特有の説明にはリモコンのマークを表記します。

本体のマーク

別売のプレゼンテーションリモコンマーク

お知らせ

本体の〈ENTER〉、〈CANCEL〉、〈SELECT ▼▲◀▶ 〉ボタンとプレゼンテーションリモコンの〈L-CLICK/ENTER〉、〈R-CLICK/CANCEL〉、マウス／SELECT〈▼▲◀▶ 〉のボタンは、プロジェクタを操作する場合は同じ動作をします。但し、本体のボタンはプロジェクタ専用の操作ボタンとなります。

■説明書に記載のマーク表示と意味

下記の入力信号マークがついている項目はマークに書かれた入力信号のみ動作します。

表示無し……本機の可能入力信号の全てに動作します。

入力 RGB **……RGB信号入力時に動作します。**

入力 コンポーネント **……コンポーネント信号入力時に動作します。**

入力 ビデオ **……ビデオ信号入力時に動作します。**

入力 Sビデオ **……Sビデオ信号入力時に動作します。**

入力 ビューワ **……ビューワ入力時に動作します。**

入力 DVI **……DVIデジタル／DVIアナログ信号入力時に動作します。**

入力 DVIデジタル **……DVIデジタル信号入力時に動作します。**

入力 DVIアナログ **……DVIアナログ信号入力時に動作します。**

入力 HDTV **……HDTV信号入力時に動作します。**

特　長

パソコン入力信号を自動調整

アナログRGB出力のDOS/V対応機やMacintoshなど他社パソコン入力信号も自動調整。（調整しきれない機器もあります。）

アドバンスド・アキュブレンド機能によりUXGAまでの解像度に対応

XGA（1024×764ドット）にフル対応、NEC独自のアドバンスド・アキュブレンド機能によりUXGA（1600×1200ドット）の入力信号までカバー。

電動レンズコントロールシステムの採用

ボタン操作で画面サイズ、フォーカス調整、投写位置調整ができます。リモコンを使えば離れた場所から調整ができます。（一部レンズでは画面サイズは固定となります。）

動画もきれいに再生できるコンポーネント入力に対応

RGB入力端子に別売のケーブルを接続すると、自動判別機能によりコンポーネント信号に自動切り換え。DVDやハイビジョン放送など16：9のワイドサイズ映像もクリアなデジタル映像で再生（アドバンスド・アキュブレンド機能により表示可能）。

わかりやすいメニューとオンラインヘルプでらくらく調整

各種設定は、パソコンライクでわかりやすいプルダウンメニュー。アドバンストメニューとよく使う機能だけを表示させるベーシックメニューの2モードメニュー。いつでも操作説明が見られるオンラインヘルプのヒューマンインターフェース。

プロジェクタだけでプレゼンテーションができるビューワ搭載

フラッシュメモリカードに記録したプレゼンテーション資料（パソコンで作成）、デジタルカメラで撮影した画像のメモリカード再生*など、その場にパソコンが無くてもプレゼンテーションが行えます。（*再生できないメモリカードもあります。）

マイクロレンズアレイ（MLA）付液晶パネル

マイクロレンズアレイ付1.3型ポリシリコンTFT液晶パネルの採用により、高輝度を実現。

設置場所に応じて選べる豊富なオプションレンズ

4種類のオプションレンズを用意。小会議室から大講堂、イベント会場まで、設置場所・投映方法に合わせたレンズの選択が可能です。レンズ交換が簡単なセンターカバー方式を採用。

2台のスタックにより、さらなる高輝度化の追求が可能

2台スタックが可能なため大画面での高輝度映像を実現。

多彩な入出力＆システム制御インターフェース

DVI、アナログRGB、コンポーネント、S－ビデオ、コンポジットなどさまざまな入力信号に対応。リンクモード、スイッチャ連動モード、LANモード*と多彩なシステム制御ができるためユーザーニーズに合わせたシステム構築が可能です。（* 別売のLANモジュールが必要です。）

最新ユーティリティをホームページ上で常時提供

添付ソフトの最新バージョンをホームページ上で提供。
常に最新のバージョンをお使いいただけます。

http://www.nevt.co.jp

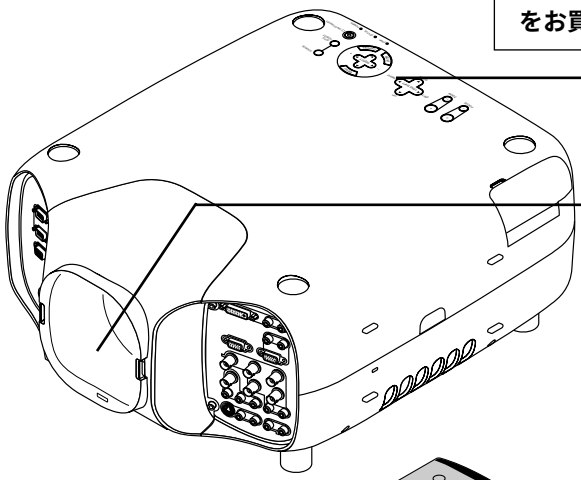
アドバンスド・アキュブレンドについて

アドバンスド・アキュブレンドとは、パソコンの出力信号のドット数とプロジェクタの液晶パネルのドット数が一致しない場合 (例：パソコン出力が1280×1024ドット、プロジェクタが1024×768ドット)や拡大表示する場合に、NEC独自のデジタル補間技術を用いて、より見やすい状態で解像度を変換し表示する技術です。
従来方式では、単純に間引いたり二度書きしているだけでしたので、表の罫線が数本完全に消えてしまう・斜め線がギザギザになってしまうなど見づらい点がありましたが、アドバンスド・アキュブレンドにより、そのような点が解消・軽減されました。

梱包品の確認

梱包品の内容をご確認ください。万一、添付品などが不足している場合はお買いあげの販売店にご連絡ください。

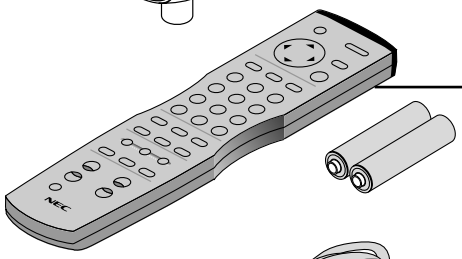
レンズユニットは別売品です。設置場所に合わせたレンズユニットをお買い求めください。取り付けかたは35ページをご覧ください。



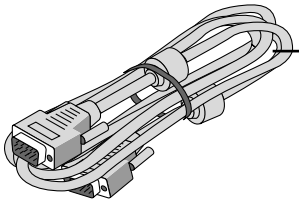
プロジェクタ
パソコンやDVDプレーヤなどを接続して大画面をスクリーンに映す本体です。

レンズキャップ
プロジェクタのキャビネットに装着しています。

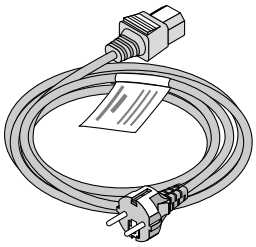
レンズキャップ用ヒモ（プッシュリベット付）
レンズキャップをなくさないようにプロジェクタに取り付けるヒモです。（*15ページ参照*）



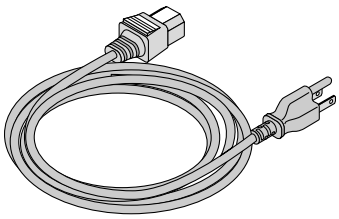
リモコン（乾電池2個付）
プロジェクタを操作するリモコンです。（初めてのご使用時は乾電池を入れてください。（*22ページ参照*）



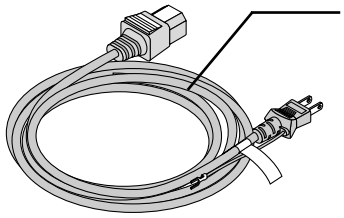
RGB信号ケーブル
（ミニ D-Sub 15ピン）
パソコンの画面をプロジェクタで映すときに接続します。



欧州仕様電源コード（AC220～240V）

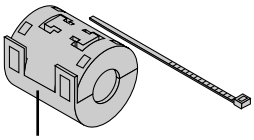


米国仕様電源コード（AC120V）

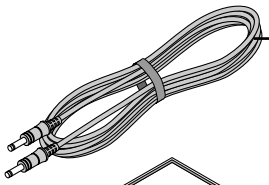


国内仕様電原コード（AC100V）

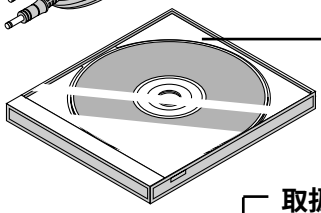
電源コード
電源を接続する電源コードです。国内、米国、欧州仕様があります。日本でご使用の場合は国内仕様をお使いください。



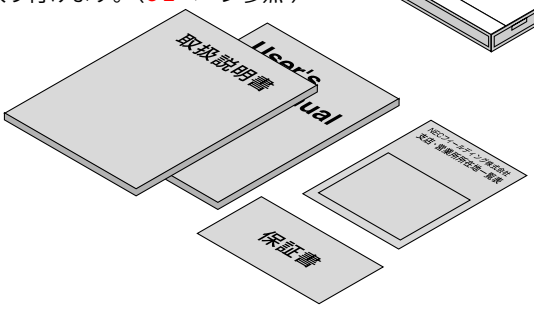
磁気コア
市販品のBNCケーブルをRGB端子1（BNC）に接続する場合、ノイズ防止のため取り付けます。（*52ページ参照*）



リモコンケーブル
リモコンをワイヤード（有線）で操作するとき使います。（リモコンをプロジェクタに向けなくても操作できます。）



CD-ROM
ご使用に便利な次の内容が入っています。
・ビューワ専用ソフトウェア・PowerPoint用コンバータ・PCコントロールユーティリティ

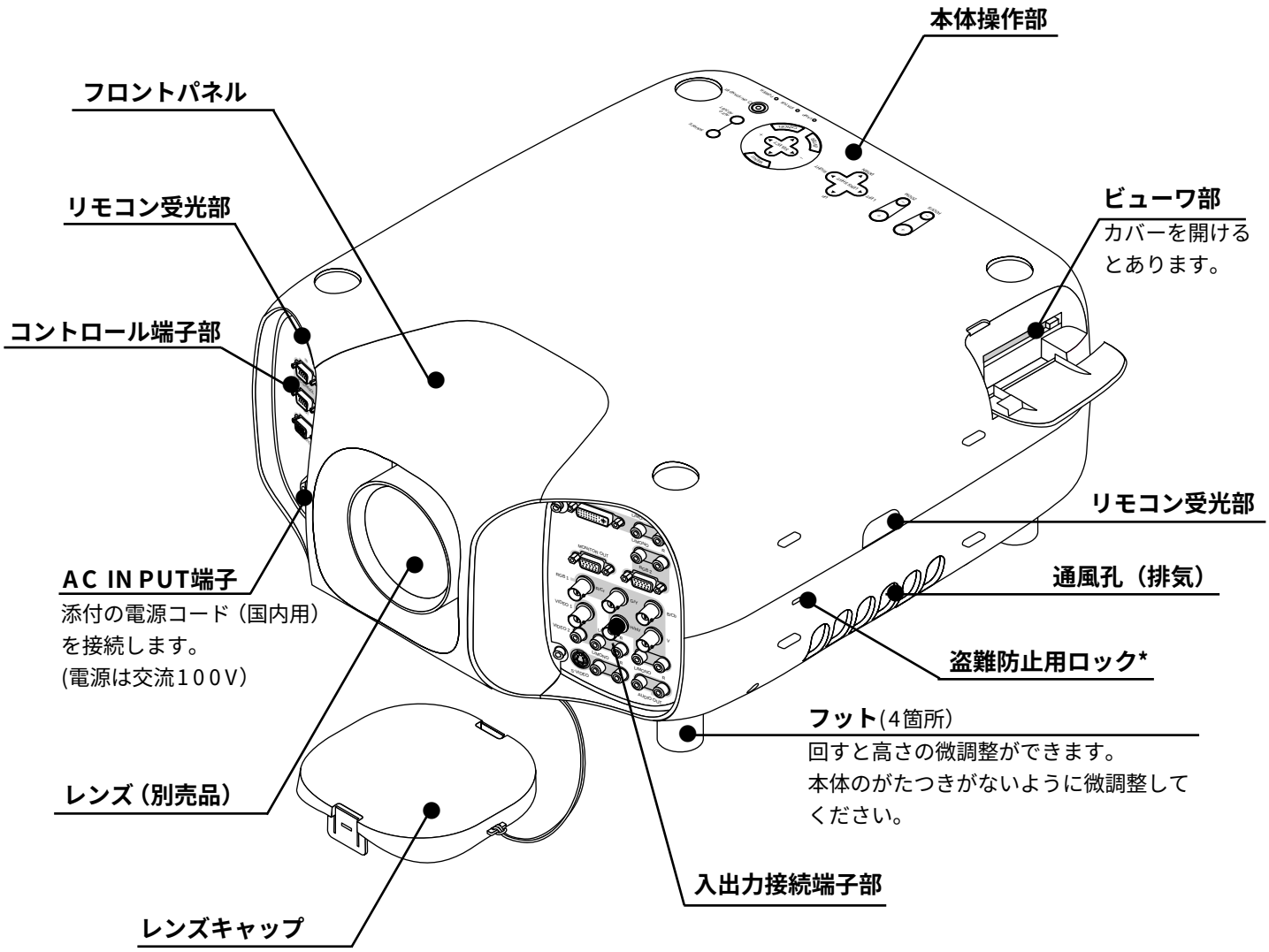


取扱説明書
プロジェクタの使いかた、安全のため守っていただきたいこと、保証とサービスなどについて書かれています。

NECフィールディング株式会社　支店・営業所所在地一覧表
お客様が困ったときの相談窓口が書かれています。

保証書
プロジェクタの保証内容・条件が書かれています。

本体各部のはたらき



お知らせ

盗難防止用ロックについて

盗難防止用ロックは、Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。この製品についてのお問い合わせ先は、以下のとおりです。

日本ポラデジタル株式会社
〒104-0032　東京都中央区八丁堀1丁目5番2号　はごろもビル
Tel : 03-3537-1070　　Fax : 03-3537-1071

フット受け
4個所

リモコン受光部

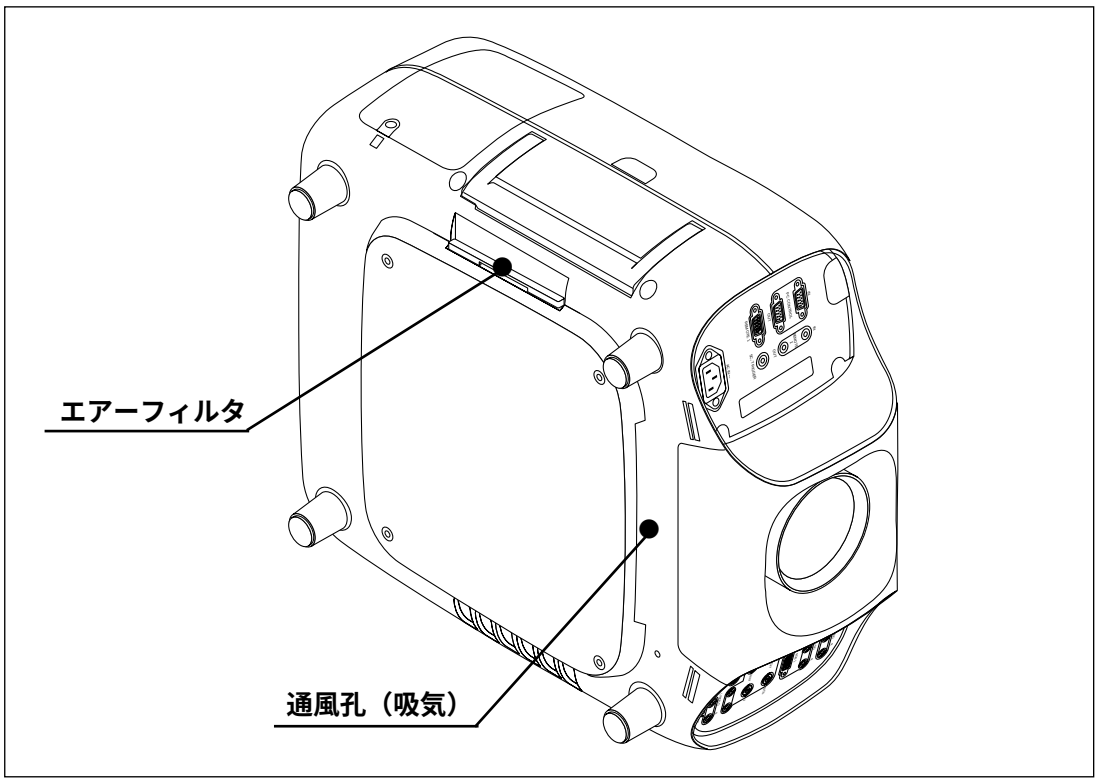
キャリングハンドル

スピーカ（左音声）

リモコン受光部

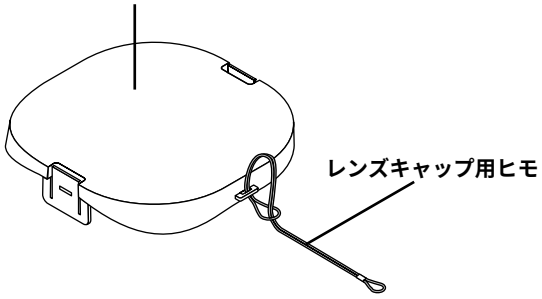
ランプカバー
ランプ交換のときカバーをはずします。

スピーカ（右音声）

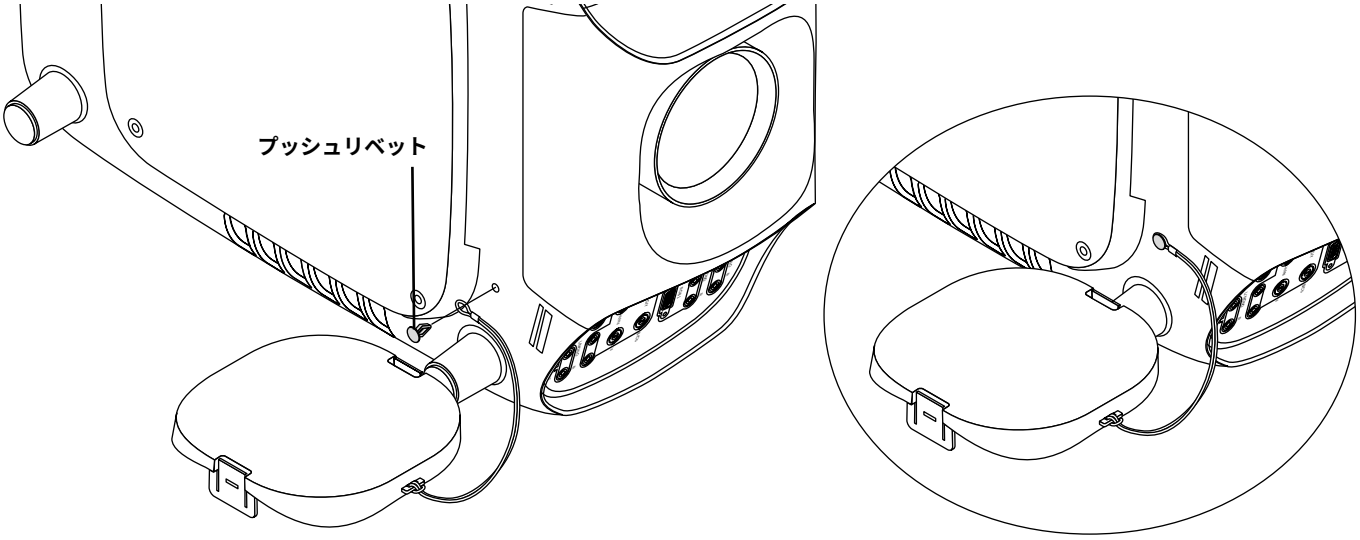


■レンズキャップの取り付けかた

（1）添付のレンズキャップ用ヒモを図の様にレンズキャップの穴に通します。

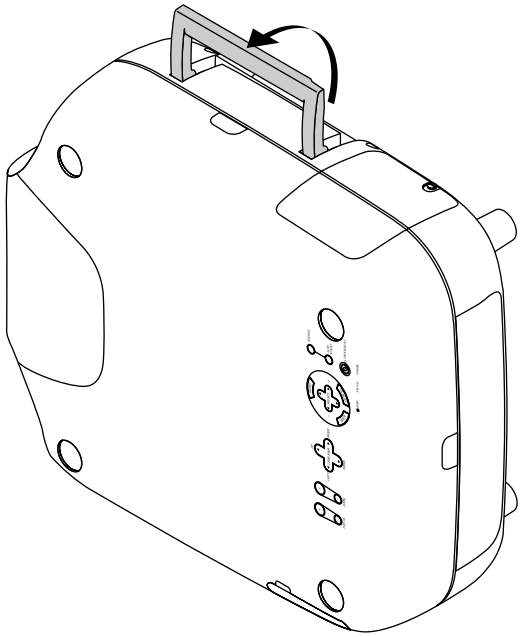


（2）添付のプッシュリベットで本体底面にあるレンズキャップ用ヒモ固定用穴に差込みます。（このとき、プロジェクタが倒れないように手をそえて行ってください。）



■プロジェクタを移動するとき

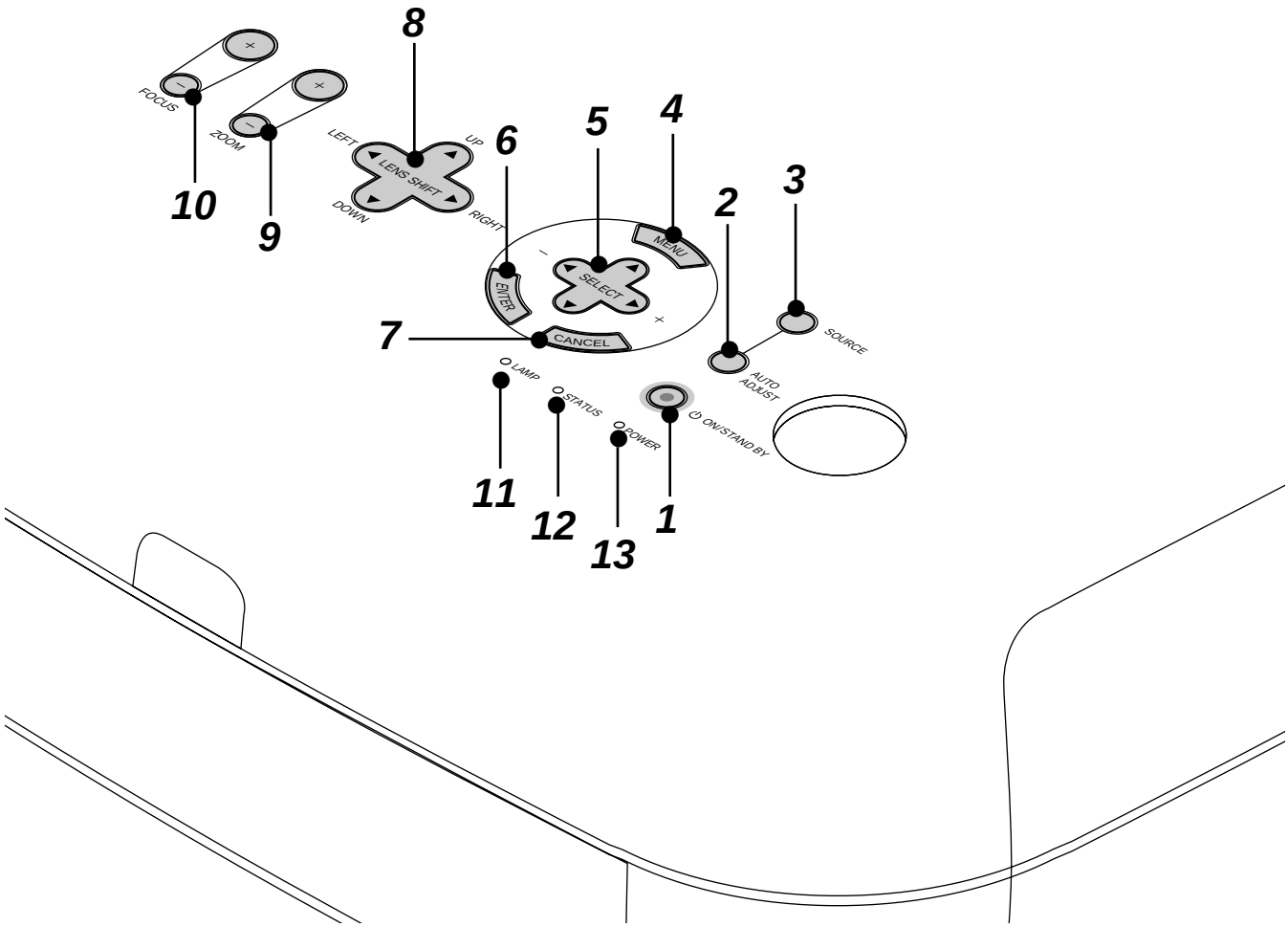
図のようにキャリングハンドルを起こし、キャリングハンドルを持って運びます。



お願い

- **運ぶときはレンズ保護のためレンズキャップをつけてください。**
- **側面を下にして立てたまま投写しないでください。機器が損傷することがあります。**

本体操作部／ビューワ部



1 POWER〈ON / STAND BY〉ボタン

本機の電源を入／切(スタンバイ状態)します。
電源を切るときは、2秒以上押してください。

2 〈AUTO ADJUST〉ボタン

映しているRGB信号の画像を最適な状態に自動調整します。（*60ページ参照*）

3 〈SOURCE〉ボタン

RGB 1、RGB 2、ビデオ1、ビデオ2、Sビデオ、DVI（デジタル）、DVI（アナログ）、ビューワの入力を切り換えます。押すごとに順次切り換わります。
入力されていない信号は飛び越します。

4 〈MENU〉ボタン

各種設定・調整のメニューを表示します。

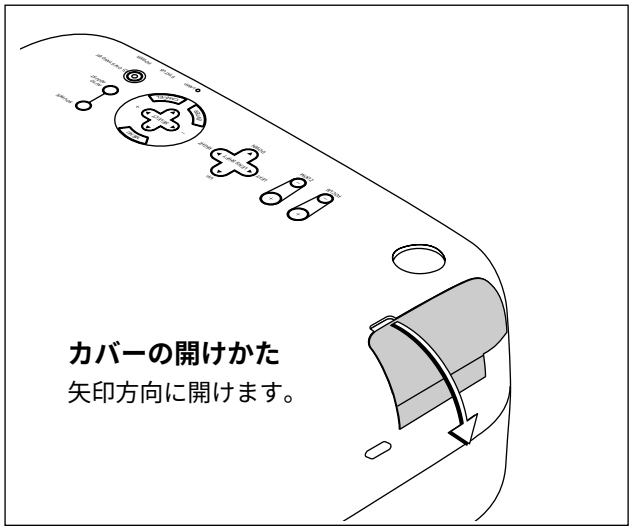
5 〈SELECT▼▲◀▶〉／音量調整ボタン

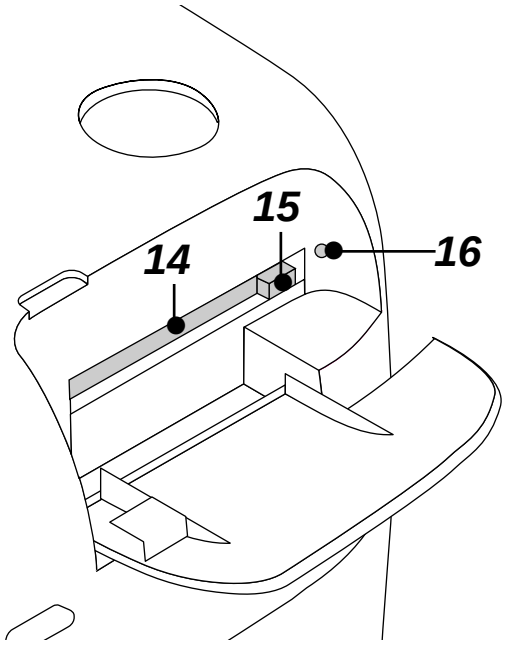
メニューを表示しているときは、設定・調整したい項目を選択します。
ポインタを表示しているときは、ポインタの移動や画面拡大の表示位置の調整に使います。
メニューやポインタなどを表示していないときは、〈▼▲〉ボタンで音量が変わります。
また、ビューワ表示中は〈◀▶〉ボタンでスライドを切り換えたり、フォルダ／スライド一覧のカーソルを移動します。

6 〈ENTER〉ボタン

メニューを表示しているときは、項目を決定します。
各種調整・設定画面を表示しているときは、調整・設定値を確定してメニュー表示に戻ります。

■ビューワ部





7 〈CANCEL〉ボタン

メニューを表示しているときは、メニューを閉じます。
各種調整･設定画面を表示しているときは、調整･設定値を調整･設定前の状態に戻してメニュー表示に戻ります。

8 〈LENS SHIFT〉ボタン

投写画面位置を上下左右に移動して、オフセットを調整します。

9 〈ZOOM〉ボタン

画面サイズを調整します。

10 〈FOCUS〉ボタン

画面のフォーカス（ピント）を調整します。

11 〈LAMP〉インジケータ

光源ランプの使用時間や交換時期を知らせます。
詳しくは124ページ「LAMPインジケータ表示」をご覧ください。

12 〈STATUS〉インジケータ

本機をエコモードで使用しているときや、本機に異常が発生したとき点灯／点滅します。
詳しくは124ページ「 STATUSインジケータ（LED）表示一覧表」をご覧ください。

13 〈POWER〉インジケータ

電源が入っているときは緑色に点灯します。
電源が切れている（スタンバイ状態）ときはオレンジ色に点灯します。
詳しくは38ページ「電源の入／切」をご覧ください。

14 PCカードスロット

フラッシュメモリカードをセットする所です。

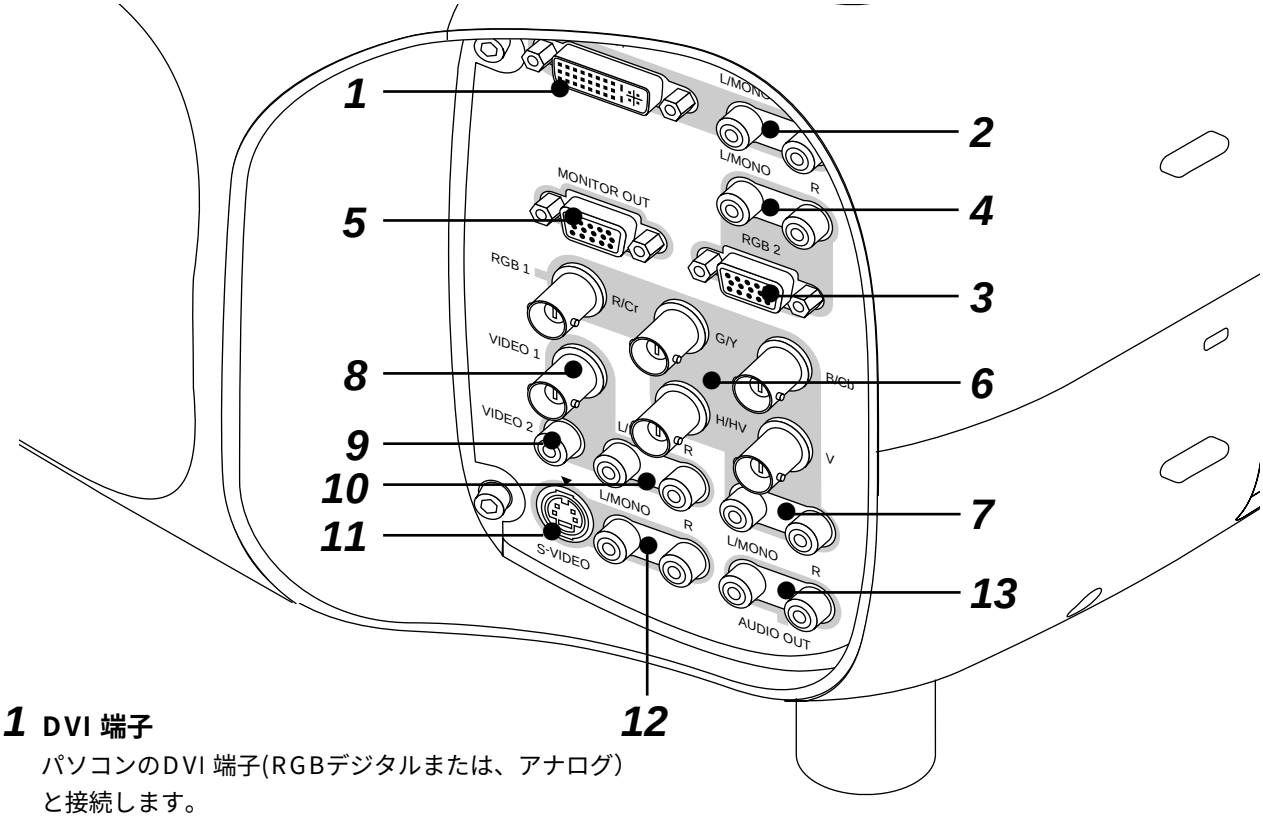
15 〈PCカード取り出し〉ボタン

フラッシュメモリカードを出すとき押します。

16 〈PC CARD ACCESS〉インジケータ

フラッシュメモリカードへのアクセス（データの読み込み または 書き込み）中に点灯します。

入出力端子部



1 DVI 端子

パソコンのDVI 端子(RGBデジタルまたは、アナログ）と接続します。

2 DVI AUDIO 端子（RCA）

DVI 端子に接続した機器の音声出力端子と接続します。

3 RGB2 端子（ミニD-Sub 15ピン）

パソコンや高精細書画カメラなどのアナログRGB出力端子と接続します。
スイッチャ連動モードには対応していません。

4 RGB2 AUDIO 端子（RCA）

RGB2端子に接続した機器の音声出力端子と接続します。
モノラルの場合は L（MONO）端子に接続します。

5 MONITOR OUT 端子（ミニD-Sub 15ピン）

モニタ機器のアナログRGB入力端子と接続します。

6 RGB1 端子（BNC）

外部機器（ビデオユニットなど）のR, G, B, H(水平同期信号)および V(垂直同期信号)出力端子と接続します。
外部機器がSYNC(複合同期信号)端子のときは、H/V 端子に接続してください。
またDVDプレーヤなどのコンポーネント出力にも接続できます。

7 RGB1 AUDIO 端子（RCA）

RGB1端子に接続した機器の音声出力端子と接続します。
モノラルの場合は L（MONO）端子に接続します。

8 VIDEO1 端子（BNC）

ビデオデッキなど映像機器のBNCタイプの映像出力端子と接続します。

9 VIDEO2 端子（RCA）

ビデオデッキなど映像機器のRCAタイプの映像出力端子と接続します。

10 VIDEO AUDIO 端子（RCA）

VIDEO1または VIDEO2端子に接続した機器の音声出力端子と接続します。モノラルの場合は L（MONO）端子に接続します。

11 S-VIDEO 端子（DIN 4ピン）

ビデオデッキなど映像機器のS映像出力端子と接続します。

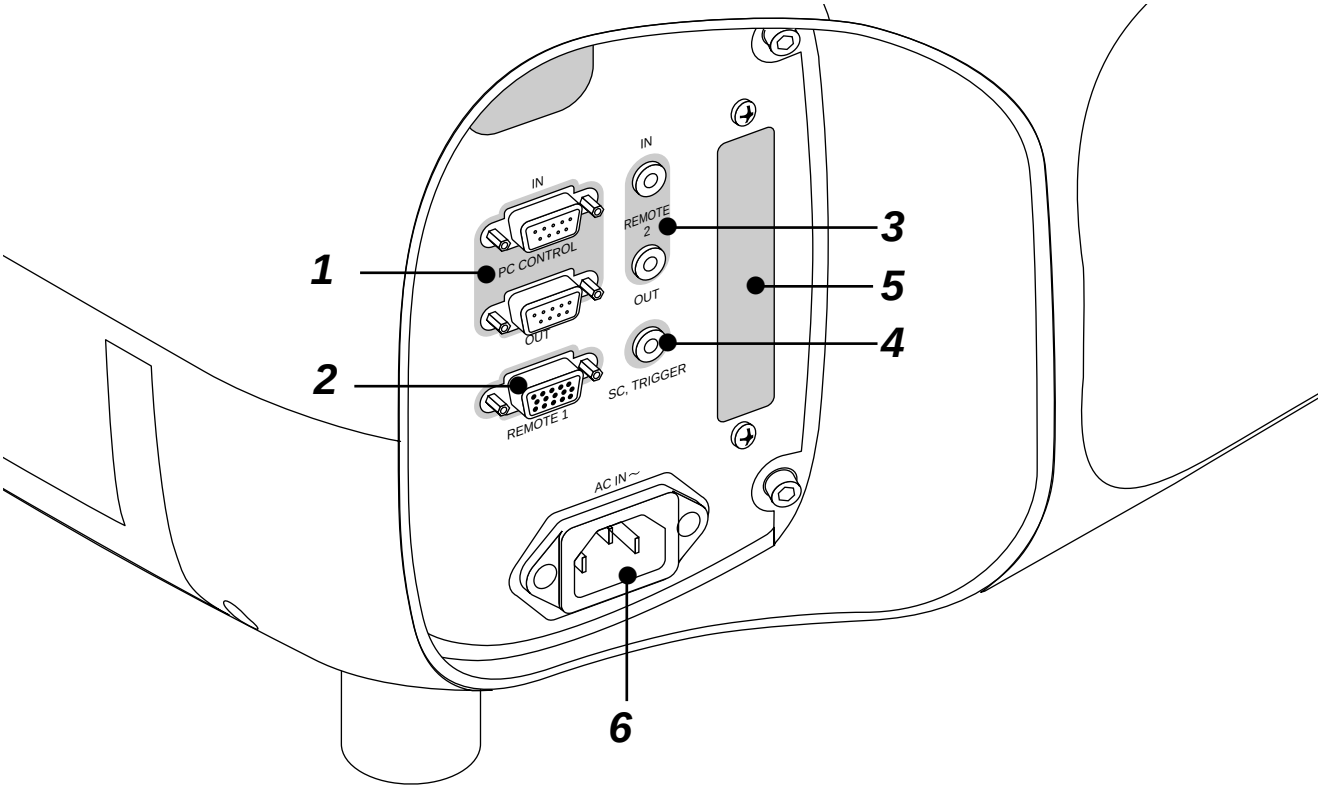
12 S-VIDEO AUDIO 端子（RCA）

S-VIDEO 端子に接続した機器の音声出力端子と接続します。 モノラルの場合は L（MONO）端子に接続します。

13 AUDIO OUT 端子（RCA）

オーディオ機器の音声入力端子と接続します。
入力選択時の音声を出力します。

コントロール端子部



1 PC CONTROL 端子（ミニD-Sub 9ピン）

プロジェクタを制御するシステム拡張用の端子です。

IN……パソコンなどの外部制御機器と接続します。

OUT …複数台のプロジェクタを1つの外部制御機器で操作するときに、1台目のプロジェクタのOUT端子と2台目のIN端子を接続し、以下同様に接続します。

2 REMOTE1 端子（ミニD-Sub 15ピン）

プロジェクタからビデオユニット（ISS-6020J）を制御するときの端子です。ビデオユニットのREMOTE1端子と接続します。また、外部コントロールを使用する場合もこの端子と接続します。

3 REMOTE2 端子（ステレオミニ）

IN……リモコンをワイヤードで使用するときに接続します。

OUT …IN端子に入力された信号をそのまま出力します。複数台のプロジェクタを1つのリモコンで操作するとき、1台目のプロジェクタのこのOUT端子と2台目のプロジェクタのIN端子を接続し、以下同様に接続します。

4 SC, TRIGGER 端子（ステレオミニ）

本機の電源を入れると、スクリーンコントローラへ制御電圧が出力されて、スクリーンが降ります。電源を切ると制御電圧の出力が止まり、スクリーンが上がります。制御電圧の仕様は134ページ「SC, TRIGGER端子の仕様」をご覧ください。

5 LANボード取り付け口

LAN接続でプロジェクタをパソコンで遠隔操作する端子用です。

別売のLANキット［型名GT50LAN］のLANモジュールを装着します。

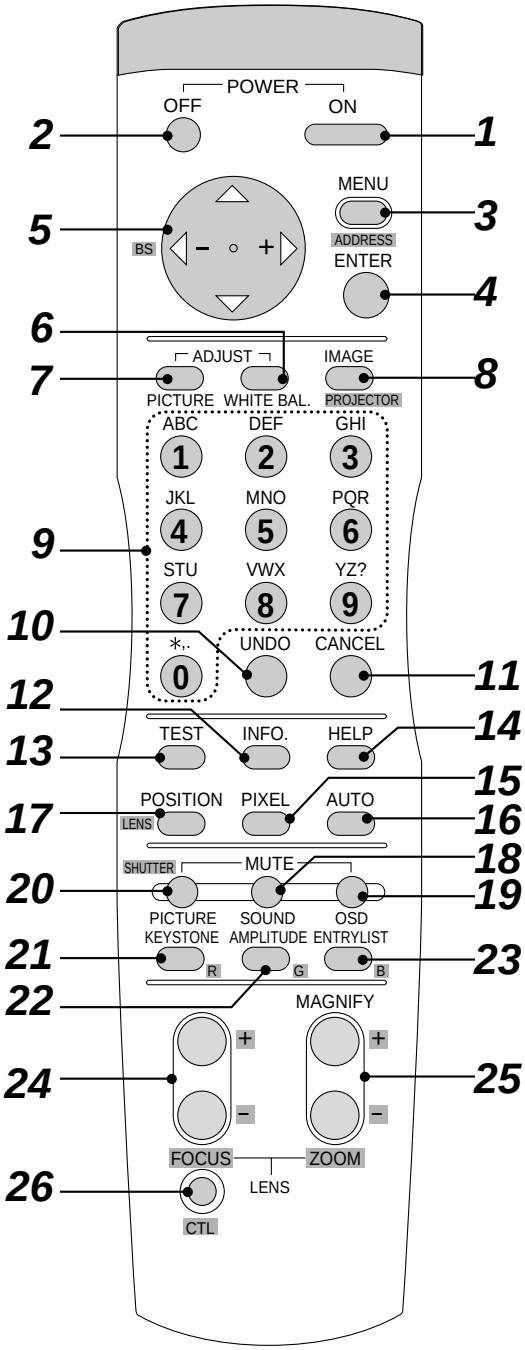
接続については販売店へご相談ください。

6 AC IN 端子

電源を供給する端子です。添付の国内用電源コードを接続してください。

リモコン各部のはたらき

リモコン各部の名称



1 POWER 〈ON〉 ボタン
スタンバイ時に電源が入ります。

2 POWER 〈OFF〉 ボタン
電源をOFF（スタンバイ状態）にします。2秒以上押してください。

3 〈MENU〉ボタン
各調整・設定のメニューを表示します。
〈CTL〉ボタンを押しながらこのボタンを押すと、リモコンのIDを変更できます（*68ページ参照*）。

4 〈ENTER〉ボタン
メニューを表示している場合は、項目を選択します。
各種調整・設定画面を表示している場合は、調整値・設定を確定してメニュー表示に戻ります。

5 〈SELECT ▼▲◀▶ 〉／音量調整ボタン
メニュー操作に使います。
また、メニューや調整・設定画面を表示中に〈CTL〉ボタンを押しながらこのボタンを押すと、メニューや調整・設定画面を移動できます。
〈CTL〉ボタンを押しながら ◀ ボタンを押すと、文字入力を1文字削除します。
メニューを表示していないときは、〈▼▲〉ボタンで音量が変わります。
また、ビューワ表示中は〈◀▶ 〉ボタンでスライドを切り換えたり、フォルダ／スライド一覧のカーソルを移動します。
画面拡大中はポインタを移動します（*61ページ参照*）。

6 〈ADJUST WHITE BAL.〉ボタン
色に関する調整画面を表示します。
押すごとに ［色温度］→［ホワイトバランス］→［スイッチャゲイン］と切り換わり、各調整ができます。

7 〈ADJUST PICTURE〉ボタン
［映像調整］の画面を表示します。

8 〈IMAGE〉ボタン
［画像設定］内にある各設定画面を表示します。
押すごとに ［ガンマ補正］→［アスペクト］→［ノイズリダクション］→［カラーマトリクス］→［解像度］→［ビデオ帯域フィルタ］→［オーバースキャン］→［クランプタイミング］→［Y/Cディレイ］→［YTR調整］→［CTR調整］→［HDディレイ］と切り換わり、各調整ができます。（入力信号によっては表示しない設定画面があります。）
〈CTL〉ボタンを押しながらこのボタンを押すと、[機器設定]内にある各設定画面を表示します。
押すごとに［オン／オフタイマー］→［スリープタイマー］→［メニュー設定］→［セットアップ］→［リンクモード］→［スイッチャ連動モード］→［LANモード］と切り換わり、各設定ができます。

お知らせ

［LANモード］の設定画面について
画面表示はできますが、別売品のLANモジュールを取り付けると有効になります。

9 〈INPUT〉ボタン
入力の選択や英数字入力に使います。
〈1〉ボタン
RGB1 入力端子を選択します。
〈2〉ボタン
RGB2 入力端子を選択します。
〈3〉ボタン
VIDEO1入力端子を選択します。
〈4〉ボタン
VIDEO2 入力端子を選択します。
〈5〉ボタン
S-VIDEO1 入力端子を選択します。
〈6〉ボタン
DVI入力端子のデジタル信号を選択します。
〈7〉ボタン
DVI 入力端子のアナログ信号を選択します。
〈8〉ボタン
ビューワ（PC CARD VIEWER）を選択します。
〈9〉ボタン
RGB1入力端子（VIDEO信号）を選択します。
〈0〉ボタン
RGB1入力端子（S-VIDEO信号）を選択します。

10 〈UNDO〉ボタン
調整・設定値を直前の状態に戻します。
〈CTL〉ボタンを押しながらこのボタンを押すと、メニューや調整・設定画面をすべて閉じます。調整・設定値はその時点で保存されます。
ただし、[確定]・[取消] ボタンのある画面での調整・設定値は保存されません。

11 〈CANCEL〉ボタン
調整・設定画面を終了します。
調整・設定画面を表示しているときに〈CTL〉ボタンを押しながらこのボタンを押すと、調整・設定画面を消さずに1つ前のメニューに戻ります。これにより、複数の調整・設定を平行して行うことができます。

12 〈INFO.〉ボタン
情報画面を表示します。

13 〈TEST〉ボタン
画面をテストパターンに切り換えます。押すごとに内蔵のテストパターンを順次切り換えて表示します。

14 〈HELP〉ボタン
ヘルプ画面を表示します。

15 〈PIXEL〉ボタン
位置・周波数調整の画面を表示します。

16 〈AUTO〉ボタン
映像位相、クロック周波数、位相、信号レベルなどを最適な状態に自動調整します。（RGB入力のみ）

17 〈POSITION〉ボタン
位置・周波数調整の画面を表示します。
〈CTL〉ボタンを押しながらこのボタンを押すと、レンズシフト調整画面を表示します。

18 〈MUTE SOUND〉ボタン
音声を一時的に消します。もう一度押すと戻ります。

19 〈MUTE OSD〉ボタン
入力表示やオンスクリーンメニューを一時的に消します。入力切り換えなどのボタン操作をしたり、もう一度このボタンを押すと戻ります。
〈CTL〉ボタンを押しながらこのボタンを押すと、非表示で調整ができます。（*60ページ参照*）

20 〈MUTE PICTURE〉ボタン
映像を一時的に消します。もう一度押すと戻ります。

21 〈KEYSTONE〉ボタン
台形補正調整の画面を表示します。

22 〈AMPLITUDE〉ボタン
（サービスマン用です。動作しません。）

23 〈ENTRY LIST〉ボタン
信号リストの画面を表示します。

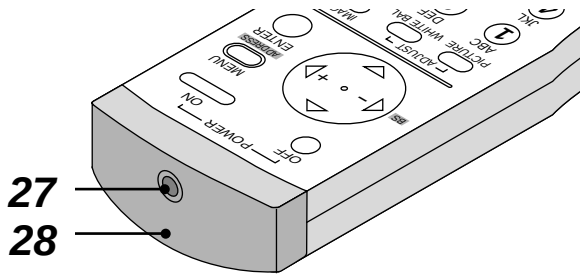
24 〈FOCUS ＋, −〉ボタン
〈CTL〉ボタンを押しながらこのボタンを押すと、レンズフォーカスを調整できます。

25 〈MAGNIFY＋, −〉／〈ZOOM ＋, −〉ボタン
映している画面のサイズを拡大・縮小（元に戻す）します。ポインタを出して拡大画面を移動できます。
（61ページ参照）
〈CTL〉ボタンを押しながらこのボタンを押すと、レンズズームを調整できます。

26 〈CTL〉ボタン
他のボタンと併用するための複合機能ボタンです。

27 リモコンケーブル接続端子
リモコンをワイヤード（有線）で使用するときに、リモコンケーブルを接続します。

28 赤外線発光部
リモコンのボタンを押すと赤外線の信号が出ます。



リモコンを使用する前に

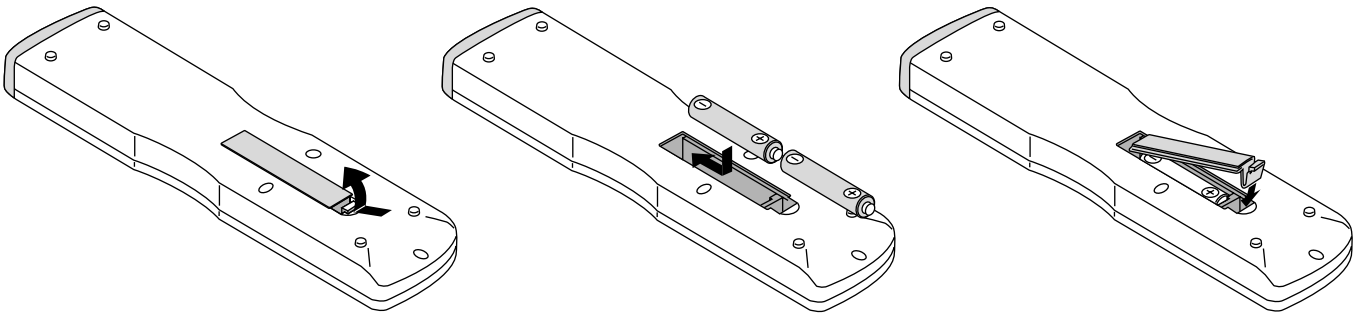
■リモコン乾電池の入れかた

交換用乾電池は単四乾電池を2個お買い求めください。

1 ふたのツメを押しながら開けてはずします。

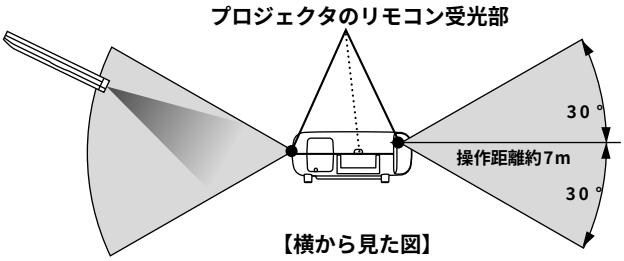
2 ケース内の表示にしたがって電池の（－）側が奥になるようにして、電池を2個入れます。

3 ふたをもと通りに戻します。

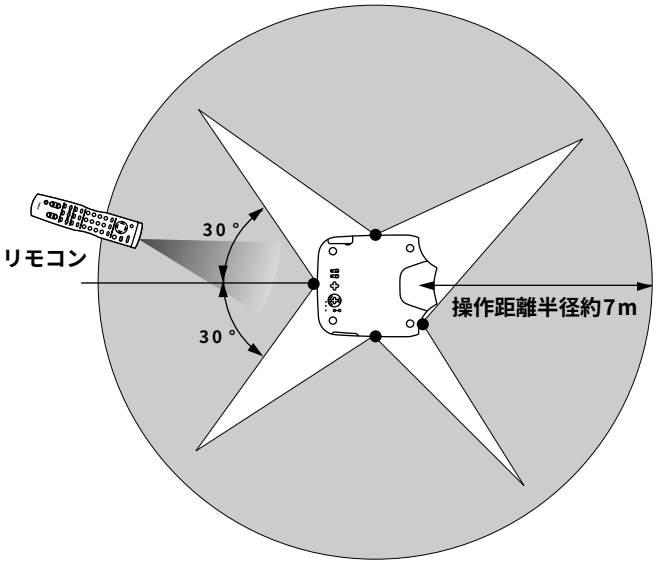


■リモコン有効範囲（ワイヤレス使用時）

リモコン送信部を本体のリモコン受光部に向けて操作してください。おおよそ次の範囲内でリモコンの信号が受信できます。
リモコンをスクリーンに反射させて本体前面のリモコン受光部で受信することもできます。



【横から見た図】



【上から見た図】

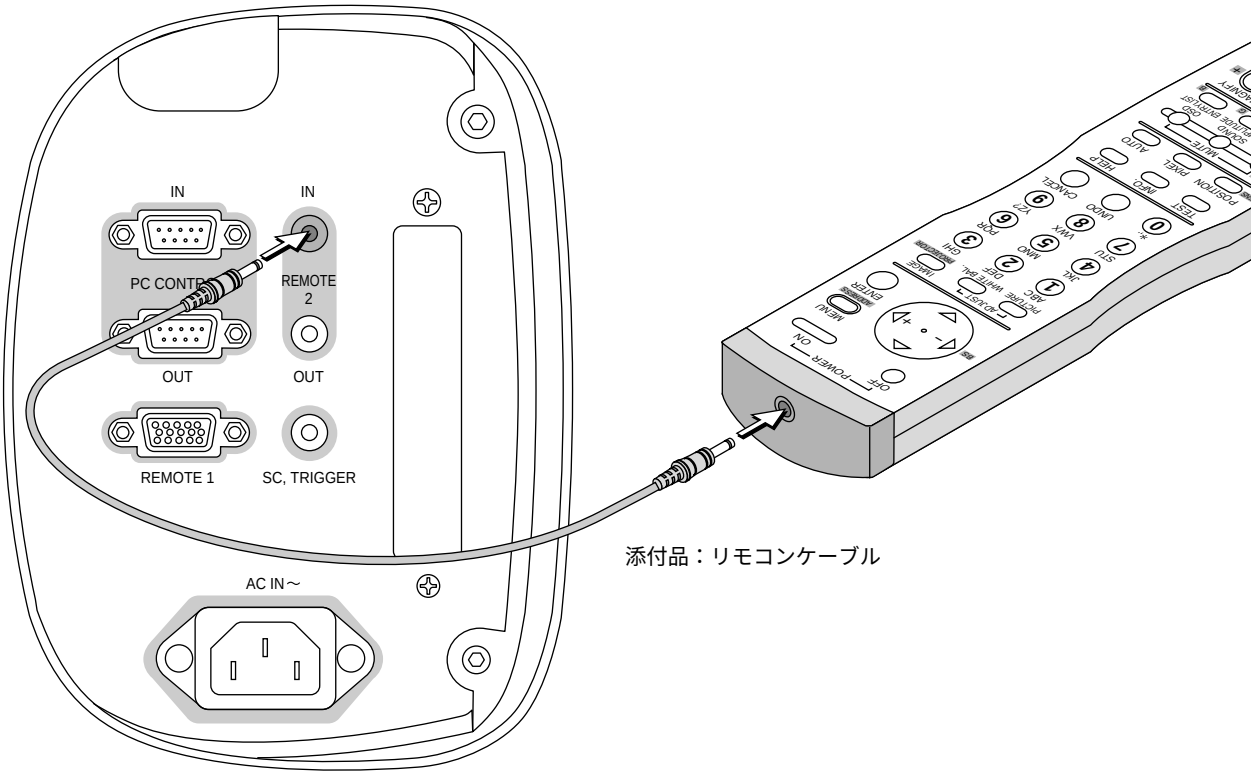
有効範囲のイメージを表した図のため実際とは多少異なります。

お知らせ

リモコンIDが［なし］または、プロジェクタIDとリモコンIDが同じ番号になっていないと、リモコンで本機を操作することはできません。複数のプロジェクタをリモコンで操作する場合は56ページをご覧ください。
リモコンID設定は68ページ、プロジェクタID設定は97ページをご覧ください。

■ワイヤードで使うとき

本体のリモコン受光部とリモコンの間に遮へい物などがあるときや、有効範囲外でリモコン操作するときはワイヤード（有線）でご使用ください。
本機を複数台接続してリモコン操作する場合は56ページをご覧ください。



【コントロール端子部】

お願い

リモコン使用上のお願い

- ワイヤレスでご使用のときは、本体のリモコン受光部やリモコンの赤外線発光部に明るい光が当たっていたり、途中に障害物があって信号がさえぎられていると動作しません。
- ワイヤレスでご使用のときは、本体から約7m以内で本体のリモコン受光部に向けて操作してください。

リモコンの取り扱いについて

- リモコンを落としたり、誤った取り扱いはしないでください。
- リモコンに水や液体をかけないでください。万一、ぬれた場合は、すぐにふき取ってください。
- できるだけ熱や湿気のないところで使用してください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、乾電池を取り出してください。

オンスクリーンメニューを使う前に

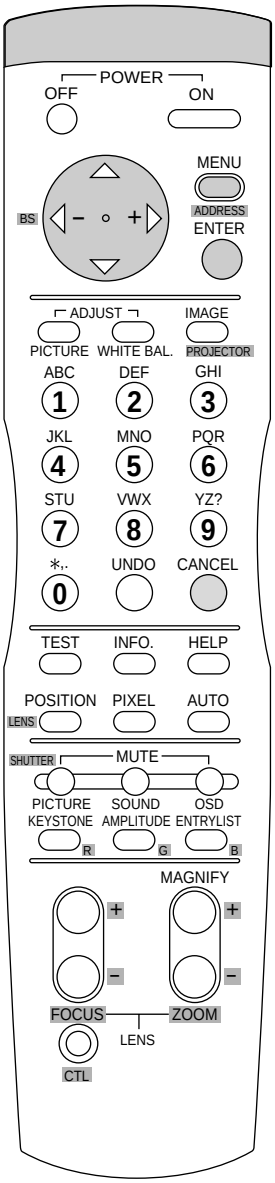
プロジェクタの調整や設定項目はたくさんあります。目的の調整や設定がすばやくできるように目次を設けて、その中からしぼりこんで探して行く方法をメニュー操作と呼び、画面上に表示しているメニューをオンスクリーンメニューと言います。本機は2モードメニューです。*

- **アドバンストメニュー ……全てのメニュー項目を表示します。**
- **ベーシックメニュー ……お客様独自のメニュー項目を表示します。工場出荷時は基本的なメニュー項目が登録されています。登録内容を変えるには、85ページ「ベーシックメニューを編集する」をご覧ください。**

＊サービスマンメニューはサービスマン専用メニューです。

オンスクリーンメニューの基本操作

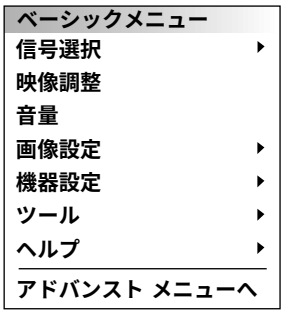
メニュー操作の選択や確定などのしかたを説明しています。メニュー操作中わからなくなった場合にご覧ください。
オンスクリーンメニューの基本操作はベーシックメニュー（工場出荷時状態）で説明しています。



■ メニュー選択のしかた

1 メニューを表示する

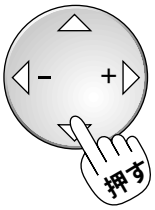
〈MENU〉ボタンを押します。

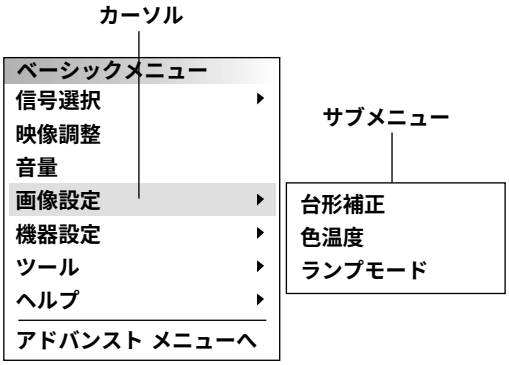


- 〈MENU〉ボタンを押してから10秒間（工場出荷時）操作をしないとメニューが自動的に消えます。
- 〈MENU〉ボタン、〈ENTER〉ボタン、〈CANCEL〉ボタン、〈SELECT ◀／▶〉ボタンのいずれかを押すと、消える前に表示していた状態のメニューが表示されます。
- 時間は［機器設定］→［メニュー設定］→［ページ1］の［表示時間］で選択できます。（*87ページ参照*）

2 メニュー項目を選ぶ

〈SELECT▼／▲〉ボタンを押すとカーソルが出ます。
〈SELECT▼／▲〉ボタンでカーソルを移動して、メニュー項目を選択します。





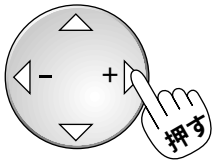
- ［▶］のあるメニュー項目はサブメニューがあることを示します。カーソルを合わせるとサブメニューを表示します。
- ［▶］の無い項目は〈ENTER〉ボタンを押すと調整画面／設定画面の表示に変わります。（〈SELECT▶〉ボタンを押しても調整画面／設定画面に変わります。）
- 白文字の項目は選択できません。

お知らせ

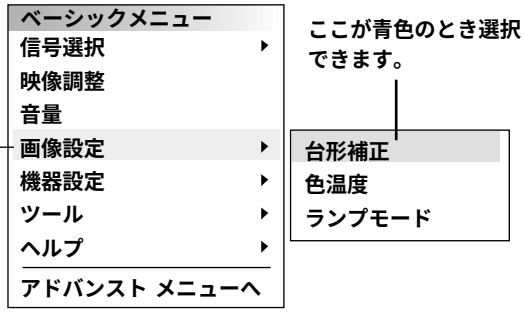
- 入力信号や接続により、調整／設定できる項目が異なります。調整／設定できない項目は、オンスクリーンメニューで白文字表示となり、選択することはできません。
- インターレース信号の動画を映しているときにオンスクリーンメニューを表示すると、画面が乱れる場合があります。

3 サブメニューの項目を選ぶ

〈SELECT▶〉ボタンを押すとサブメニューの項目が青色に変わります。



サブメニューに移すとグレイに変わります。



青色を確認してから〈SELECT ▼／▲〉ボタンでサブメニュー項目を選択します。

さらに［ ▶ ］のある項目は第2サブメニューを表示します。

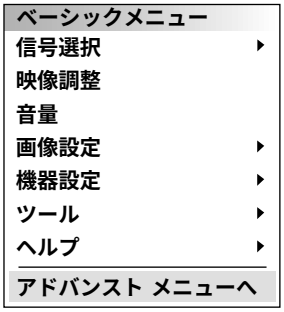
4 項目を決定する

〈ENTER〉ボタンを押すと決定され、目的の設定表示や調整表示に変わります。

【調整表示例】台形補正

- 〈SELECT▶〉ボタンを押しても同じ動作をします。

ベーシックメニューをアドバンストメニューに一時的に変えるには……



〈SELECT▼／▲〉ボタンで［アドバンストメニューへ］を選択してから〈ENTER〉ボタンを押してください。

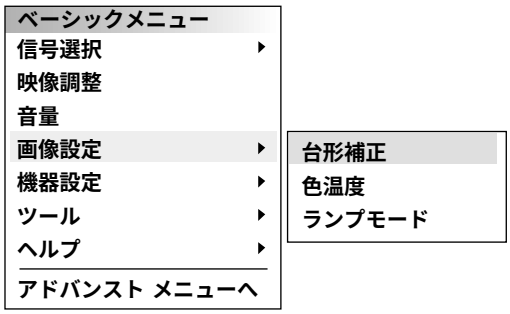
設定表示・調整表示の使いかたは次ページをご覧ください。

5 終了する

設定や調整終了後は、メニュー表示に戻ります。

〈CANCEL〉ボタンを押すとメニューが閉じます。

押すごとに、サブメニュー、メニューと閉じます。



メニューを表示しているときの〈CANCEL〉ボタンと〈ENTER〉ボタンの働き

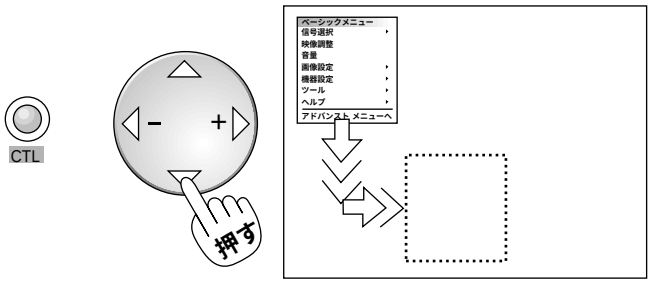
〈CANCEL〉ボタン …… メニューを閉じます。

〈ENTER〉ボタン …… 項目を選択します。

■ メニューや設定・調整画面を移動する

メニューや調整・設定画面の移動ができます。

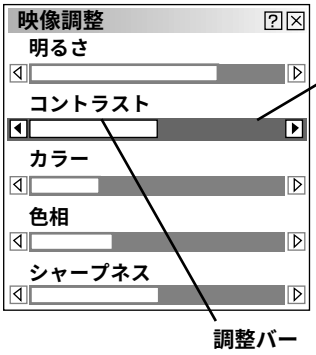
〈CTL〉ボタンを押しながら〈SELECT〉ボタンを押します。
調整にじゃまな場合は〈CTL〉ボタンを押しながら〈MUTE OSD〉ボタンを押すと、調整・設定画面が消えます。
（*60ページ参照*）



■ 設定・調整のしかた

いくつも項目のある調整表示での項目の選択は〈SELECT ▼／▲〉ボタンで行います。図は［コントラスト］が選択されています。
〈SELECT ◀／▶〉ボタンで調整します。
［コントラスト］調整表示例では
〈SELECT ◀〉ボタンを押し続けると映像が淡くなります（調整バーが短くなります）。
〈SELECT ▶〉ボタンを押し続けると映像が濃くなります（調整バーが長くなります）。

【調整表示例】



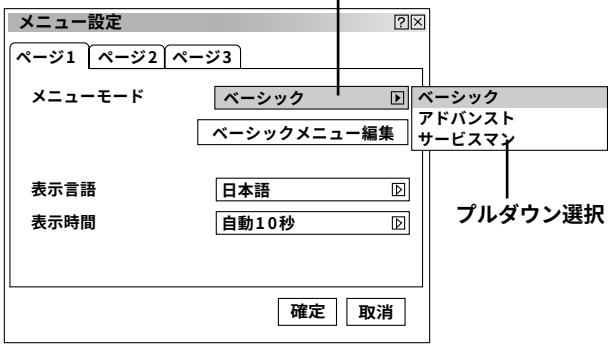
標準調整の位置のときのみ緑色になります。

※映像調整表示項目は、入力の信号によって異なります。
（*75ページ参照*）

【設定表示例 1】
項目の選択は〈SELECT ▼／▲〉ボタンで行います。
押すごとにカーソルが次の項目に移ります。

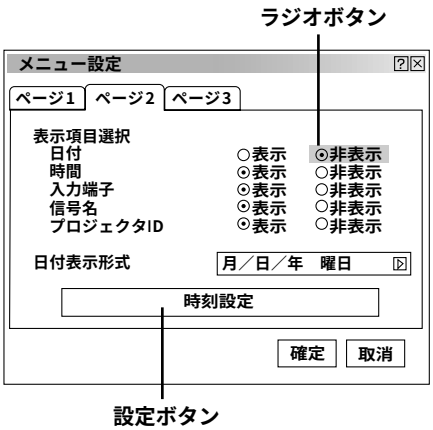
プルダウン選択
〈SELECT ▶〉ボタンを押すとプルダウンリストを表示します。
〈SELECT ▼／▲〉ボタンで内容を選択し〈ENTER〉ボタンを押します。

【設定表示例 1】



ラジオボタンの選択
どれか1つが選択できる設定がラジオボタン（●）です。
カーソルがラジオボタン選択の項目に移ると現在設定されている内容にカーソルが移動します。
〈SELECT ◀／▶〉ボタンで目的の内容にカーソルを合わせると同時に（●）のラジオボタンが付きます。
〈ENTER〉ボタンを押すとメニュー表示に戻ります。

設定ボタン
ボタンを押すとさらに設定表示が出ます。
〈SELECT ▼／▲〉ボタンで項目を選択します。



【設定表示例 2】

ページタブ

数ページの設定項目がある場合に表示されます。
〈SELECT▼／▲〉ボタンを数回押してページタブにカーソルを合わせます。
〈SELECT ◀／▶〉ボタンで目的のページにカーソルを合わせるとページが切り換わります。

チェックボタン

いくつも選択できる設定がチェックボタン（✔）です。
〈SELECT ▼／▲〉ボタンを押してチェック項目にカーソルを合わせます。設定したい箇所で〈ENTER〉ボタンを押すとチェックマークが入ります（チェックマークが入っている場合は消えます）。

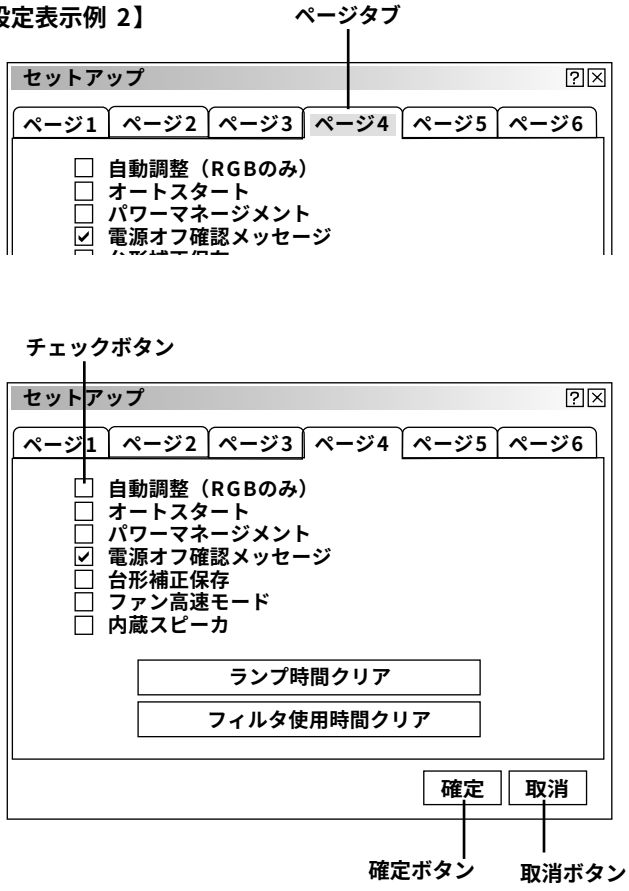
確定ボタン

設定内容を確定する場合に使います。
〈SELECT ▼／▲〉ボタンを数回押してカーソルを［確定］に合わせ、〈ENTER〉ボタンを押すと設定内容を確定し、メニュー表示に戻ります。

取消ボタン

設定内容を取り消す場合に使います。
〈SELECT ▼／▲〉ボタンを数回押してカーソルを［取消］に合わせ〈ENTER〉ボタンを押すと設定内容を取り消しメニュー表示に戻ります。
〈CANCEL〉ボタンを押しても同じ動作をします。

【設定表示例 2】



調整／設定画面を表示しているときの〈CANCEL〉ボタンと〈ENTER〉ボタンおよび〈UNDO〉ボタンの働き

CANCEL

〈CANCEL〉ボタン

調整値を調整前の状態に戻してメニュー表示に戻ります。

ENTER

〈ENTER〉ボタン

調整値／設定値を確定してメニュー表示に戻ります。

UNDO

〈UNDO〉ボタン

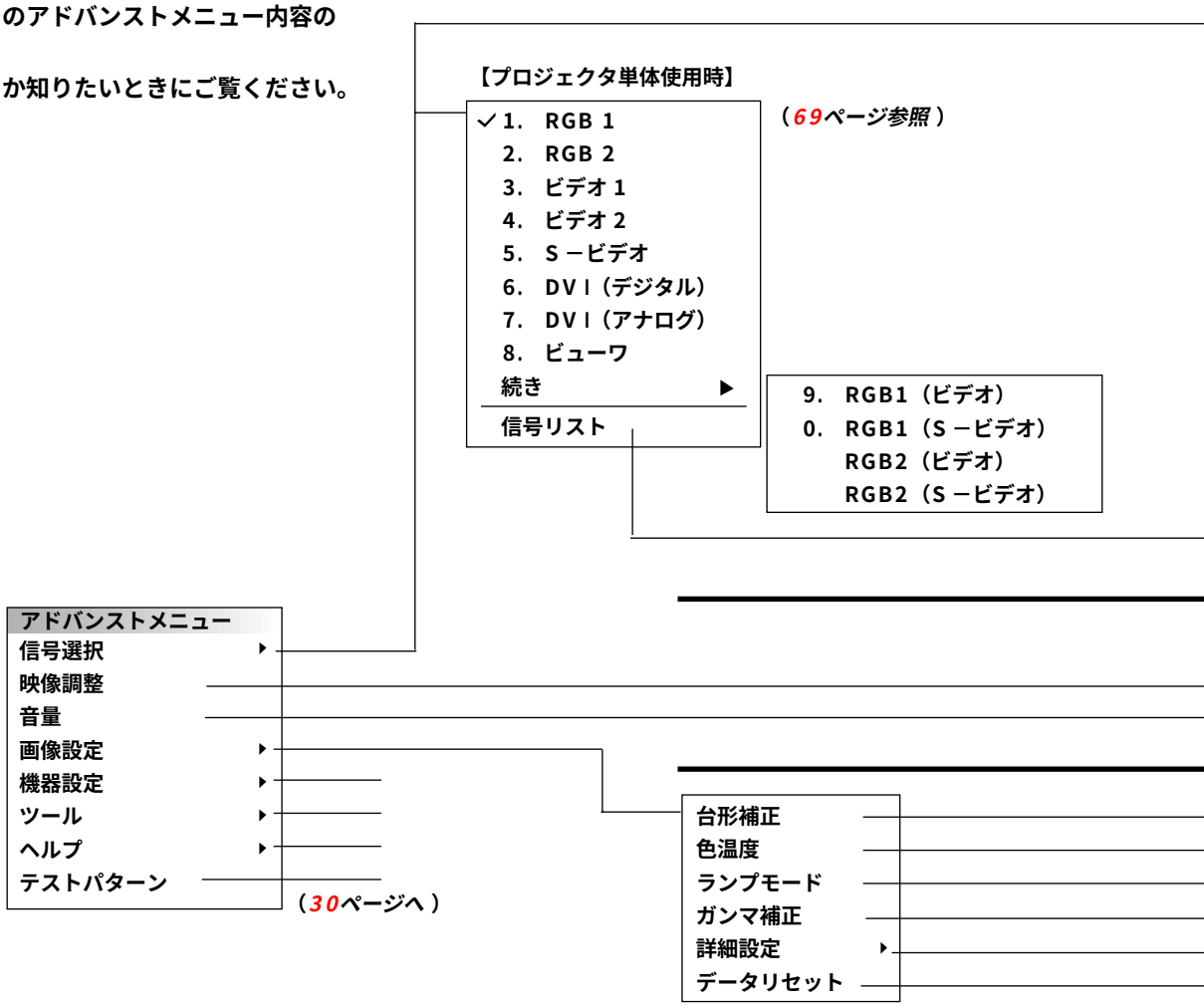
調整値／設定値を直前の状態に戻します。

CTL ＋ UNDO

〈CTL〉ボタンを押しながらこのボタンを押すと、メニューや調整・設定画面をすべて閉じます。調整・設定値はその時点で保存されます。
ただし、［確定］・［取消］ボタンのある画面での調整・設定値は保存されません。

オンスクリーンメニュー一覧

オンスクリーンメニューのアドバンストメニュー内容の一覧です。
目的の項目がどこにあるか知りたいときにご覧ください。



【ビデオユニットと接続しスイッチャ連動モード設定時】

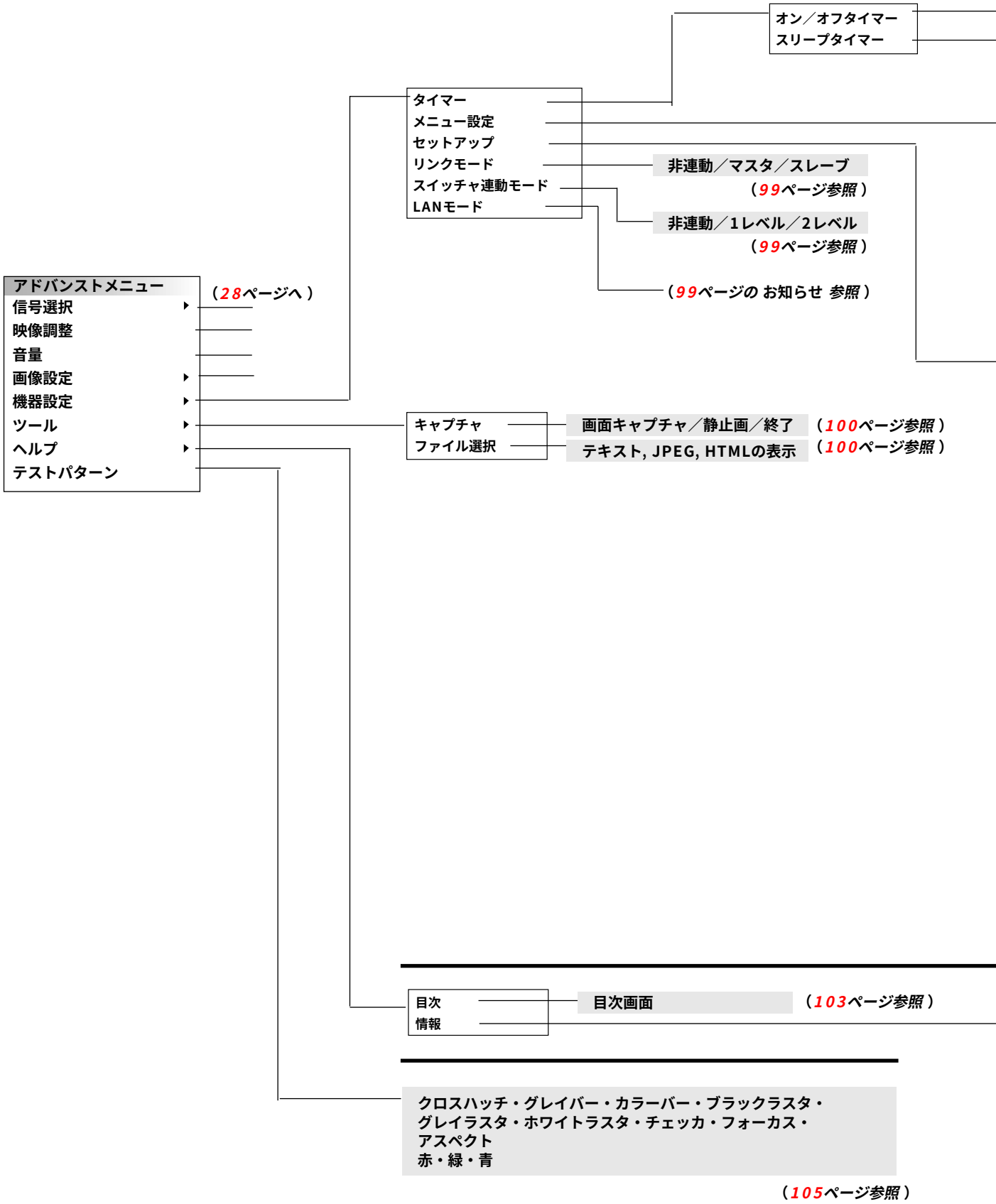
スイッチャ	［1レベル］設定時（［マスタスロット］のメニュー表示） ［2レベル］設定時（［マスタ／スレーブスロット］の入力選択表示）	（69ページ参照）
信号リスト	信号リスト表示 〈CTL〉＋〈ENTER〉で編集表示（カット・コピー・貼付け・編集）	（72ページ参照）

	（明るさ／コントラスト／カラー／色相／シャープネス）調整表示 入力信号（RGB, コンポーネント, ビデオ, DVI）により表示が異なります。	（75ページ参照）
	音量 調整表示	（75ページ参照）

	台形補正 調整表示	（76ページ参照）
	色温度 調整表示	（76ページ参照）
	高輝度モード／エコモード	（76ページ参照）
	ノーマル／ナチュラル1／ナチュラル2	（77ページ参照）
	全データ／表示中の信号	（82ページ参照）

アスペクト	1.33：1／1.78：1／1.85：1／2.35：1	（77ページ参照）
ノイズリダクション	オフ／弱／中／強	（77ページ参照）
カラーマトリクス	マトリクス選択（HDTV／SDTV） マトリクスタイプ（B-Y/R-Y／Cb/Cr／Pb/Pr）	（78ページ参照）
ホワイトバランス	（明るさR／明るさG／明るさB／コントラストR／コントラストG／コントラストB）調整表示	（78ページ参照）
スイッチャゲイン	（赤／緑／青）調整表示	（78ページ参照）
位置・周波数	（水平／垂直／クロック周波数／位相）調整表示	（79ページ参照）
解像度	フル／リアル	（80ページ参照）
ビデオ帯域フィルタ	動作／非動作	（80ページ参照）
オーバースキャン	0%／5%／10%／25%	（80ページ参照）
クランプタイミング	自動／3値／フロントポーチ	（81ページ参照）
Y／Cディレイ	Y/Cディレイ 調整表示	（81ページ参照）
YTR調整	（ゲイン／タップ）調整表示	（81ページ参照）
CTR調整	（ゲイン／タップ）調整表示	（81ページ参照）
HDディレイ	動作／非動作	（81ページ参照）

は調整表示や設定表示の内容を示します。


アドバンストメニュー
信号選択
映像調整
音量
画像設定
機器設定
ツール
ヘルプ
テストパターン
（28ページへ）
タイマー
メニュー設定
セットアップ
リンクモード
スイッチャ連動モード
LANモード
オン／オフタイマー
スリープタイマー
非連動／マスタ／スレーブ
（99ページ参照）
非連動／1レベル／2レベル
（99ページ参照）
（99ページの お知らせ 参照）
キャプチャ
ファイル選択
画面キャプチャ／静止画／終了
（100ページ参照）
テキスト, JPEG, HTMLの表示
（100ページ参照）
目次
情報
目次画面
（103ページ参照）
クロスハッチ・グレイバー・カラーバー・ブラックラスタ・
グレイラスタ・ホワイトラスタ・チェッカ・フォーカス・
アスペクト
赤・緑・青
（105ページ参照）

動作切換（動作／非動作）　（83ページ参照）
編集

（オフ／0：30／1：00／1：30／2：00）　（84ページ参照）

ページ1　メニューモード（アドバンスト／ベーシック／サービスマン）　（85ページ参照）
ベーシックメニュー編集　（85ページ参照）
表示言語（English ／ Deutsch ／ Français ／ Italiano ／ Español ／ Svenska ／日本語）　（87ページ参照）
表示時間（手動／自動5秒／自動10秒／自動30秒）　（87ページ参照）
ページ2　表示項目選択（日付, 時間, 入力端子, 信号名, プロジェクタID　各々 表示／非表示）　（87ページ参照）
日付表示形式（月/日/年, 月/日/年 曜日, 日/月/年, 日/月/年 曜日, 年/月/日, 年/月/日 曜日）　（88ページ参照）
時刻設定　（88ページ参照）
ページ3　ポインタ（ポインタ1／……／ポインタ8）　（89ページ参照）
ダイレクトボタン　音量調整バー（表示／非表示）　（89ページ参照）
台形補正バー（表示／非表示）　（89ページ参照）

ページ1　投写方法（デスク/フロント ／ 天吊り/リア ／ デスクリア ／ 天吊り/フロント）　（90ページ参照）
バックグラウンド（ブルーバック／ブラックバック／ロゴ）　（90ページ参照）
ビューワオプション　フォルダ一覧（On／Off）　（91ページ参照）
自動再生／手動再生　（91ページ参照）
間隔（5～300秒）　（91ページ参照）
キャプチャオプション（高品質／標準／高圧縮）　（92ページ参照）
ページ2　信号選択 RGB1　（自動判別／RGB／コンポーネント）　（92ページ参照）
RGB2　（自動判別／RGB／コンポーネント）　（92ページ参照）
ビデオ1　（自動判別／NTSC3.58／NTSC4.43／PAL／PAL60／SECAM）　（93ページ参照）
ビデオ2　（自動判別／NTSC3.58／NTSC4.43／PAL／PAL60／SECAM）　（93ページ参照）
S-ビデオ　（自動判別／NTSC3.58／NTSC4.43／PAL／PAL60／SECAM）　（93ページ参照）
ページ3　信号選択 RGB1（ビデオ）　（自動判別／NTSC3.58／NTSC4.43／PAL／PAL60／SECAM）　（93ページ参照）
RGB1（S−ビデオ）　（自動判別／NTSC3.58／NTSC4.43／PAL／PAL60／SECAM）　（93ページ参照）
RGB2（ビデオ）　（自動判別／NTSC3.58／NTSC4.43／PAL／PAL60／SECAM）　（93ページ参照）
RGB2（S−ビデオ）　（自動判別／NTSC3.58／NTSC4.43／PAL／PAL60／SECAM）　（93ページ参照）
ページ4　自動調整（RGBのみ）, オートスタート, パワーマネージメント, 電源オフ確認メッセージ, 台形補正保存, ファン高速モード, 内蔵スピーカ　各々 On／Off　（93～95ページ参照）
ランプ時間クリア　（96ページ参照）
フィルタ使用時間クリア　（96ページ参照）
ページ5　リモコン受光部設定（前側／後側／左側／右側）　（96ページ参照）
S-ビデオモード（Off／S2）　（97ページ参照）
ページ6　通信速度（4800／9600／19200／38400）　（97ページ参照）
プロジェクタID（無効／有効：1～64）　（97ページ参照）
初期入力選択（ラスト／自動／指定）　（98ページ参照）
単体使用時（RGB1／RGB2／ビデオ1／ビデオ2／S−ビデオ／DVI［デジタル］／DVI［アナログ］／ビューワ／RGB1（ビデオ）／RGB1（S−ビデオ）／RGB2（ビデオ）／RGB2（S−ビデオ））
スイッチャ［1レベル］設定時（スロット1～10）
スイッチャ［2レベル］設定時（M−01 S−01 ～ M−10 S−10）

ページ1　信号名・入力端子・登録番号・水平同期周波数・垂直同期周波数・同期極性　（104ページ参照）
ページ2　信号形式・ビデオ標準・同期形態・インターレース・解像度・ダイレクトキー設定（一覧表示）
ページ3　アスペクト・ガンマ補正・ノイズリダクション・カラーマトリクス・マトリクスタイプ
ページ4　ランプ残量・ランプ使用時間・フィルタ使用時間・機器使用時間・プロジェクタID
ページ5　バージョン情報（BIOS・ファームウェア・データ・サブCPU）　（105ページ参照）
ページ6　リンクモード（マスタ・スレーブ）

は調整表示や設定表示の内容を示します。

設置・調整

設置手順

プロジェクタは大画面スクリーンに映像を映す投写機器です。このため、スクリーンの位置決めをし、映像を出力する機器をプロジェクタに接続する必要があります。

1 設置場所と画面サイズを決め、別売品のレンズユニットとスクリーンを用意する

設置場所とスクリーン間の距離、画面サイズにより別売のレンズユニットをお買い求めください。
(「投写距離と画面サイズ」33ページ参照、「特殊な設置」46ページ参照))

2 レンズユニットを本体に取り付ける (「レンズユニットの取り付け」35ページ参照)

3 電源コードを接続する

電源コード（添付）の接続（*37ページ参照* ）
電源の入／切（*38ページ参照* ）
電源を入れたときスタート画面が表示された場合（*39ページ参照* ）

4 プロジェクタを設置調整をする

標準的な設置調整（*40ページ参照* ）
リンクモードスタックの設置調整（*43ページ参照* ）

5 機器を接続する

プロジェクタを単体で使用する（*47ページ参照* ）
ビデオユニット（ISS-6020J）を経由する（*53ページ参照* ）
複数のプロジェクタをリモコンで操作する（*56ページ参照* ）
PC-CONTROL 端子を使う（*57ページ参照* ）

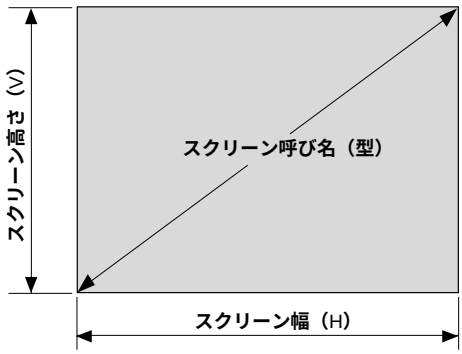
6 機器の設定やメニュー設定をする

機器設定（*83ページ参照* ）

投写距離と画面サイズ

■適用レンズと投写距離／画面サイズ一覧

目的の画面サイズとスクリーンやプロジェクタの設置位置およびレンズ選択の目安にお使いください。



●スクリーン呼び名と寸法表

画面サイズ	スクリーン幅 H（m）	スクリーン高さ V（m）
80型	1.626	1.219
100型	2.032	1.524
150型	3.048	2.286
200型	4.064	3.048
250型	5.080	3.810
300型	6.096	4.572
400型	8.128	6.096
500型	10.160	7.620

スクリーン呼び名と画面寸法の計算法

スクリーン幅 H（m）＝画面サイズ×4／5×0.0254

スクリーン高さ V（m）＝画面サイズ×3／5×0.0254

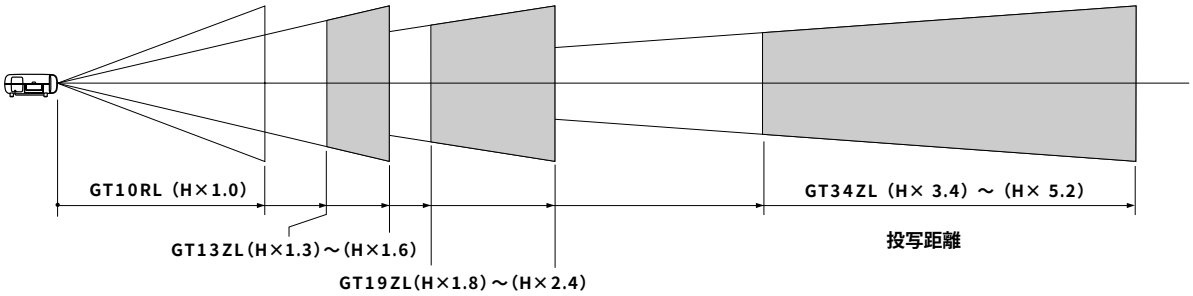
画面サイズからの投写距離算出法

GT10RLレンズユニットの投写距離＝H×1（m）＊最短0.8mから最長6.1mまで

GT13ZLレンズユニットの投写距離＝H×1.3 ～ H×1.6 (m)＊最短1.1mから最長9.8mまで

GT19ZLレンズユニットの投写距離＝H×1.8 ～ H×2.4 (m)＊最短1.5mから最長14.6mまで

GT34ZLレンズユニットの投写距離＝H×3.4 ～ H×5.2 (m)＊最短5.5mから最長52.8mまで



レンズユニットGT19ZLを使用して300型スクリーンに映す場合の投写距離

スクリーン呼び名と寸法表より　H＝6.096mとなります。

投写距離は 6.096×1.8～6.096×2.4　　計算すると 10.924～14.63m となります。（ズームレンズのため）

レンズ＼画面サイズ	80型	100型	150型	200型	250型	300型	400型	500型
GT10RL	1.6	2.0	3.0	4.1	5.1	6.1	—	—
GT13ZL	2.1～2.6	2.6～3.3	4.0～4.9	5.3～6.5	6.6～8.1	7.9～9.8	—	—
GT19ZL	2.9～3.9	3.7～4.9	5.5～7.3	7.3～9.8	9.1～12.2	11.0～14.6	—	—
GT34ZL	5.5～8.5	6.9～10.6	10.4～15.8	13.8～21.1	17.3～26.4	20.7～31.7	27.6～42.3	34.5～52.8

単位（m）

お知らせ

- 設計値のため、±5%の誤差があります。
- 画面サイズが80型から500型で投写距離が表にないときは、上記の計算式から求めてください。

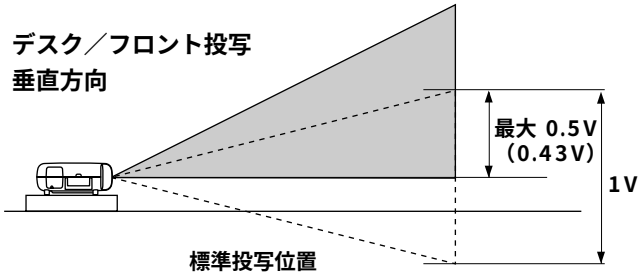
■レンズシフト範囲（参考）

本機にはレンズシフト機能があります（*40, 64ページ参照*）。次の範囲内のレンズシフトができます。
デスク／フロント投写、天吊り／フロント投写、プロジェクタを積み重ねて投写（スタック投写）するときの調整に使用します。

【GT13ZL／GT19ZL／GT34ZLのレンズシフト】

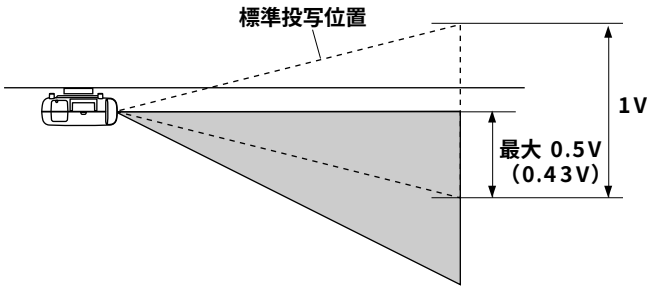
GT10RL（固定レンズ）はレンズシフトは対応していません。

デスク／フロント投写
垂直方向

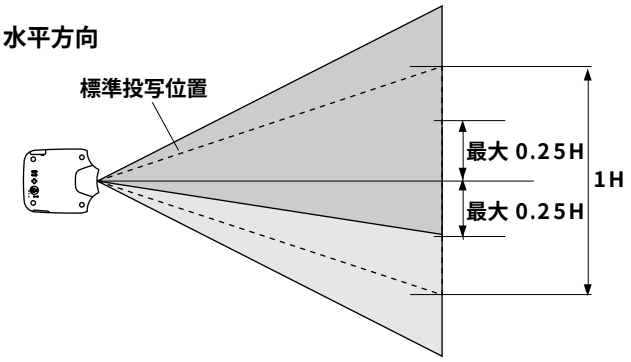


（　）内はGT13ZLレンズを示します。

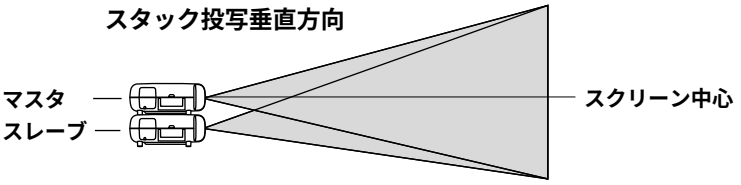
天吊り／フロント投写
垂直方向

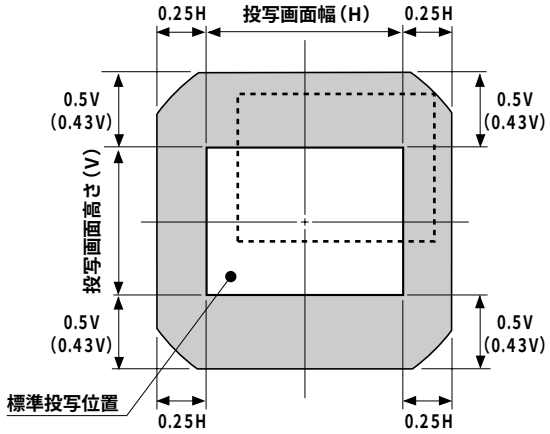


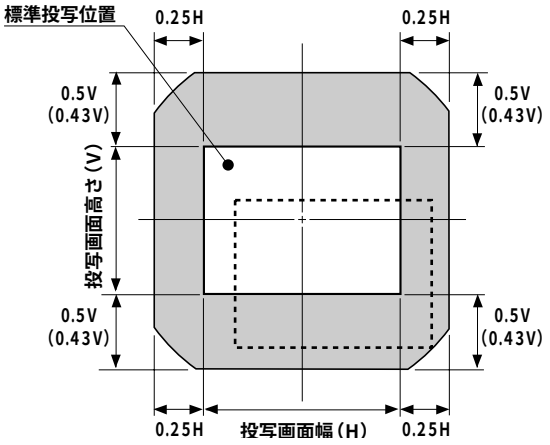
水平方向



スタック投写垂直方向







レンズシフト最大角度＊

GT13ZLレンズ	V方向	±13.93°～11.40°
	H方向	±10.88°～9.08°
GT19ZLレンズ	V方向	±11.77°～8.88°
	H方向	±7.91°～5.95°
GT34ZLレンズ	V方向	±6.29°～4.12°
	H方向	±3.16°～2.07°

＊H方向とV方向の両方をレンズシフトした場合、この角度より小さくなる方向（4隅）があります。

お願い

- 設計値のため、±5%の誤差があります。
- 高温または低温になる場所には設置しないでください。（使用温度：0℃～40 ℃）
- 直接スクリーンに日光や照明の光が当たらないように設置してください。スクリーンに周囲の光が当たると、白っぽく、見にくい画面になります。

レンズユニットの取り付け

レンズはGT10RLのショートフォーカス固定レンズユニットとGT13ZL, GT19ZL, GT34ZLのズームレンズユニットを別売で用意しています。下図の手順に従ってレンズを本体に取り付けてください。

お願い

- **プロジェクタおよびレンズユニットは精密部品でできています。衝撃を与えたり、無理な力を加えたりしないでください。**
- **レンズユニットの取り付けの際は、電源を切り、冷却ファン停止後行ってください。**
- **作業中、レンズ面には絶対に手を触れないでください。**
- **レンズ面にゴミや油などが付着しないよう、また、傷が付かないように十分ご注意ください。**
- **作業は平らな場所で、傷が付かないように布などを敷いて行ってください。**

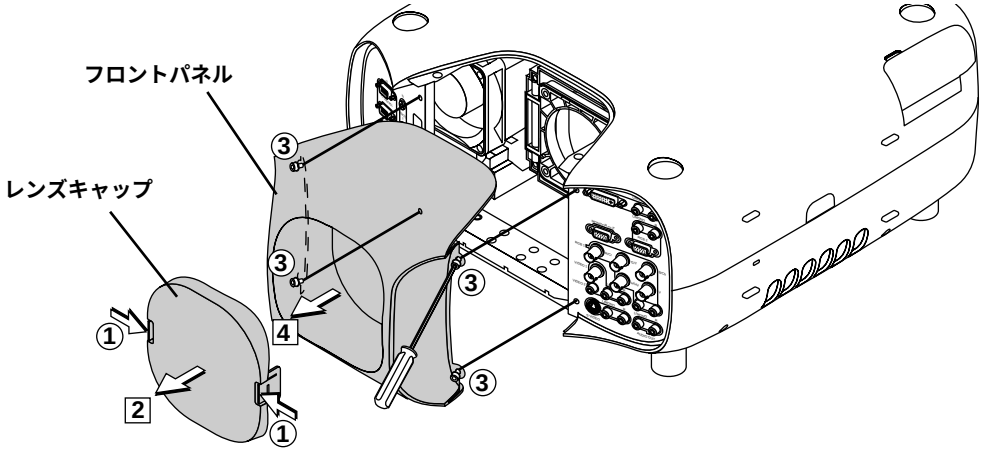
■レンズユニットの取り付け手順

レンズユニットに添付の六角ドライバーとレンズプレートを用意してください。

1 レンズキャップとフロントパネルを取り外す

① レンズキャップ両端のツメを押したまま 2 引いて外します。

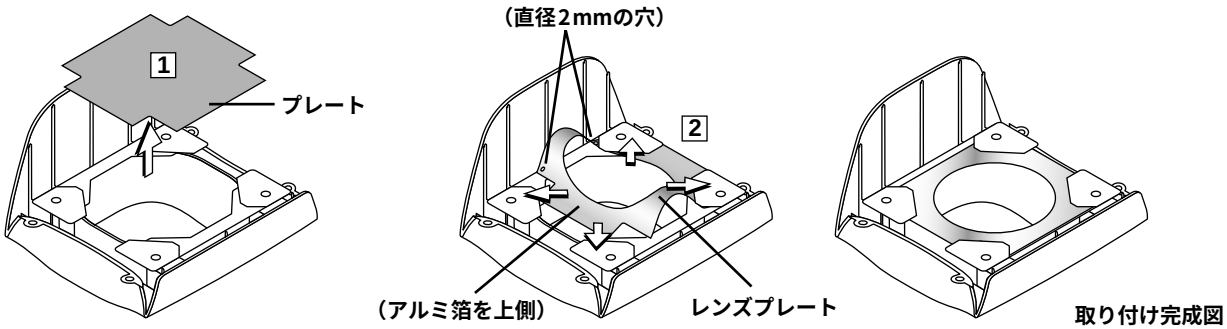
③ 添付六角ドライバーでフロントパネル4カ所のネジを左に空転するまでゆるめ（ネジは外れません）、 4 引いて外します。



2 フロントパネルのプレートを取り替える

1 フロントパネルの裏側についているプレートを外し（引っ張ると外れます）、 2 レンズユニットに添付のレンズプレートに取り替えます。

このとき、アルミ箔面を上側、取り付け方向を示す直径2mmの穴を上にして、レンズプレートを折らないようにたわませて差し込んでください。



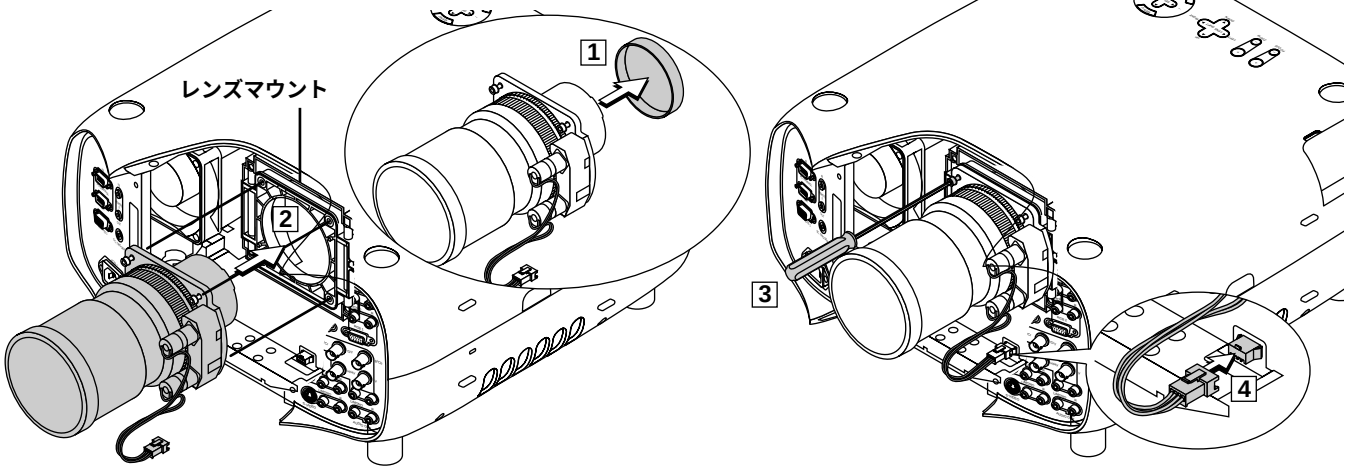
3 レンズ保護キャップを外し、本体のレンズマウントへネジ止めし、コネクタを取り付ける

1 レンズユニットの後ろのレンズ保護キャップを外します。

2 レンズユニットの4箇所のネジ位置を本体のレンズマウントに合わせ（手を添えた状態で）、3 添付の六角ドライバーで4箇所のネジを右に回して締めつけます。

4 レンズユニットのコネクタを本体のソケットに向きを合わせてしっかり差し込みます（ロックされます）。

お願い レンズ保護のため、レンズ保護キャップ（前）は付けたままで作業してください。

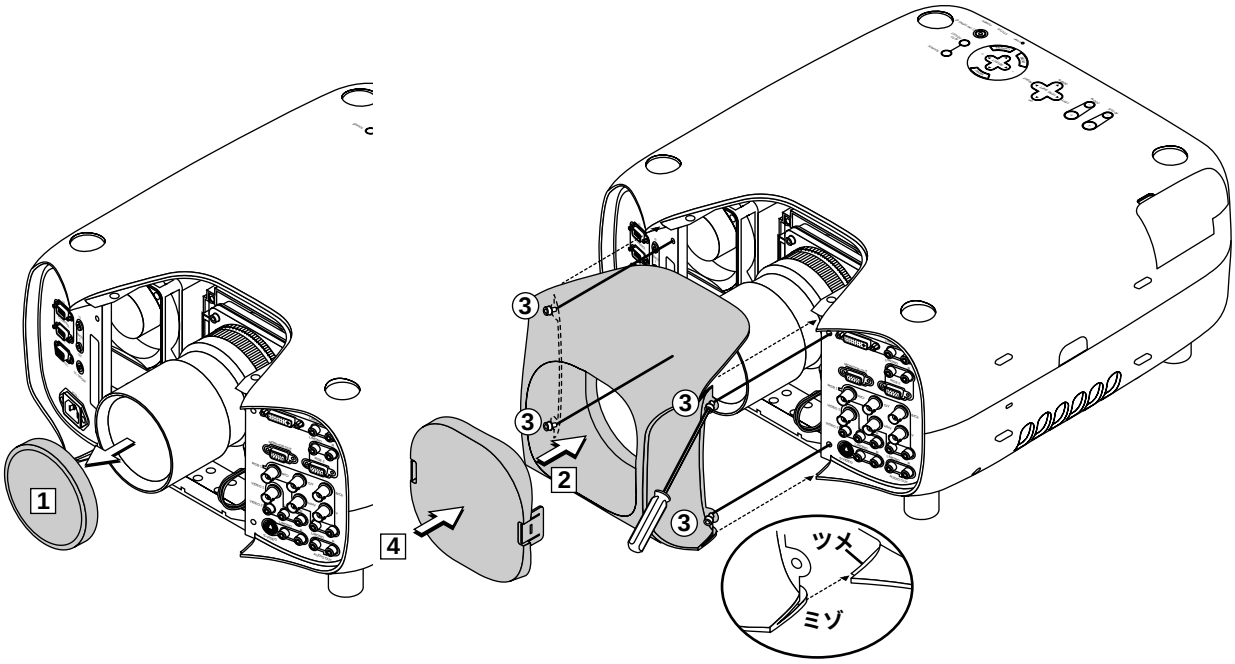


4 フロントパネルとレンズキャップを取り付ける

1 レンズユニットの前面のレンズ保護キャップを外します。

2 フロントパネル4隅のミゾを本体のツメ（4箇所）に正しく入れてフロントパネルを取り付け、③ 添付の六角ドライバーで4箇所のネジを右に回して締めつけます。

4 プロジェクタを使用しないときは、レンズキャップを取り付けてください。

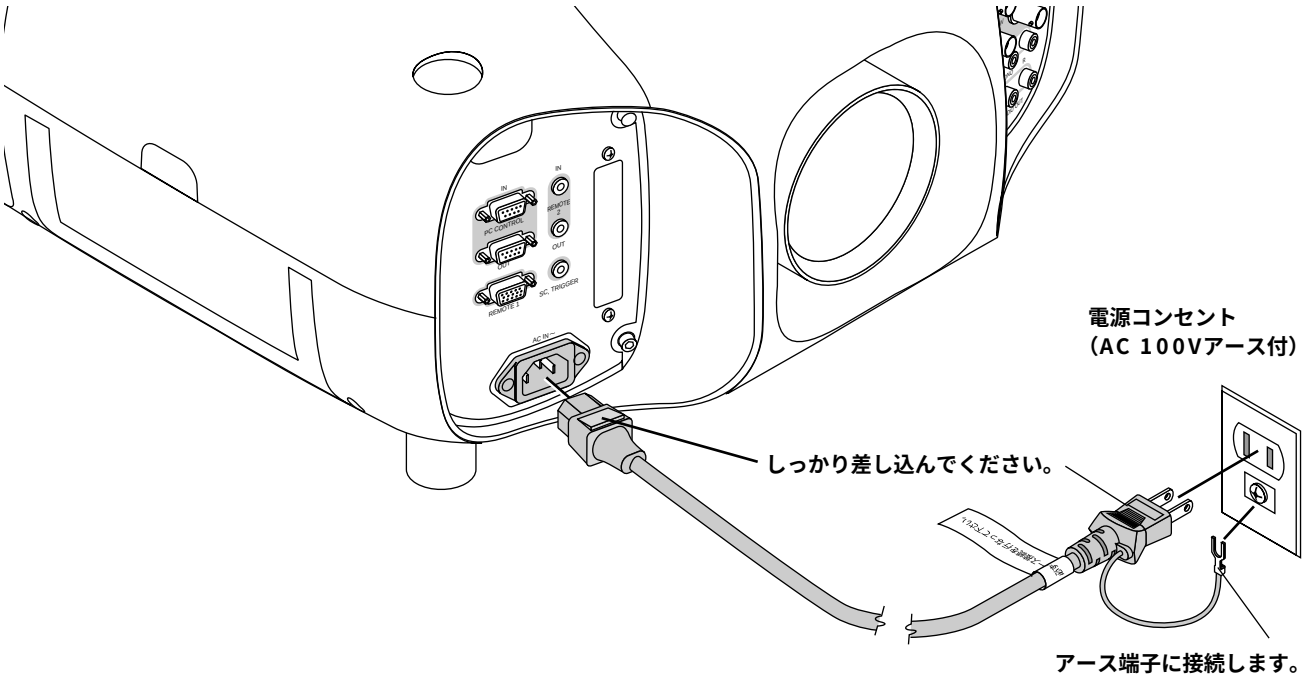


電源の接続と入／切

■ 電源コード（添付）の接続

プロジェクタのAC INとAC 100V アース付のコンセント（アース工事済み）と添付の国内用電源コードで接続します。
電源コードを接続するとプロジェクタのPOWERインジケータがオレンジ色に点灯します（スタンバイ状態）。

> **機器の安全確保のため、機器のアースは確実にとってご使用ください。**
> **感電の原因となりますので、アース工事は専門業者にご依頼ください。**
> **アースの接続は、必ず電源プラグをコンセントに差し込む前に行ってください。**
> **また、アースをはずす場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。**



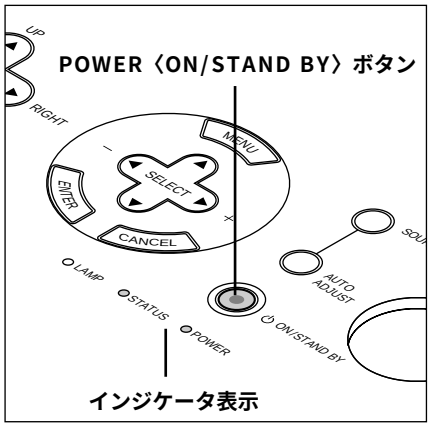
お願い

以下のような場合は電源プラグをコンセントから絶対に抜かないでください。
機器が故障する恐れがあります。

- **砂時計アイコンが出ているとき**
- **「しばらくお待ちください」というメッセージが表示されているとき**（電源を切るとこのメッセージが出ます。）
- **電源プラグをコンセントに差し込んだ直後（POWERインジケータがオレンジ色に点灯しないとき）**
- **アフタークーリング（POWERボタンOFF後の1分間ファン回転）終了直後**
- **POWERインジケータとSTATUSインジケータが交互に一瞬点滅しているようなとき**

また、〈PC CARD ACCESS〉インジケータが点灯しているとき（ビューワ機能を使用中）に電源を切ったり、電源プラグをコンセントから抜くとフラッシュメモリカードが破損します。

電源を入れる前にレンズキャップを外してください。

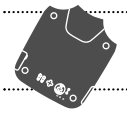


■電源の入／切

電源を入れるとき

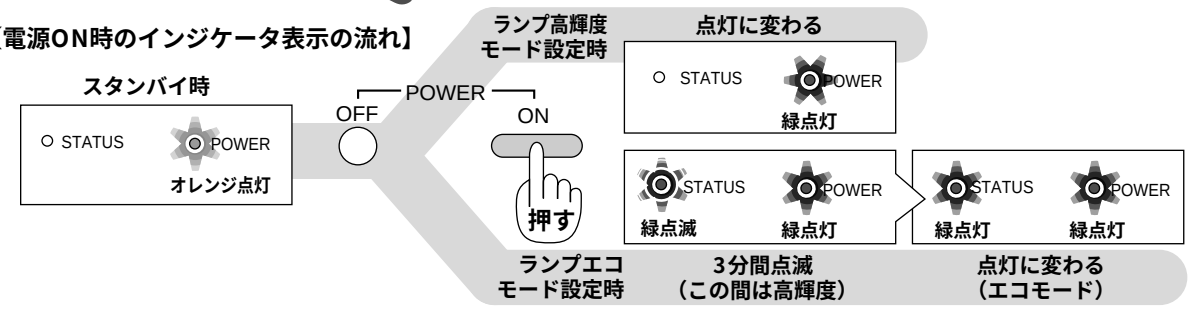
リモコンのPOWER〈ON〉ボタンを押すと電源が入ります。
しばらくすると（約30秒）スクリーンが明るくなります。信号が入力されていないとき工場出荷時は青い画面が表示されます（ブルーバック）。

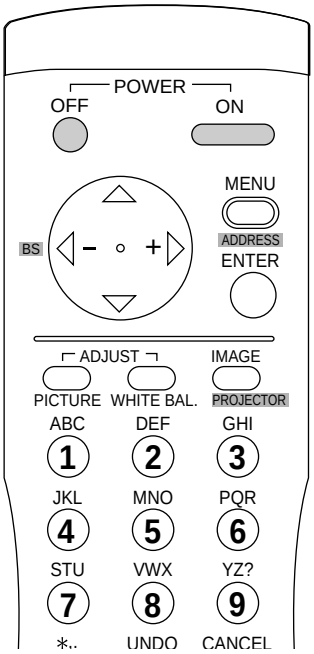
- ご購入後はじめて電源を入れた場合はスタート画面が表示されます。
  詳しくは次ページをご覧ください。



POWER〈ON/STAND BY〉ボタンを押すと電源が入ります。

【電源ON時のインジケータ表示の流れ】



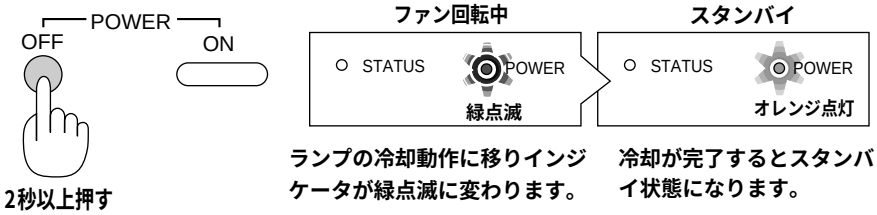


電源を切るとき

リモコンのPOWER〈OFF〉ボタンを2秒以上押し続けると「しばらくお待ちください」というメッセージが表示され、しばらくすると電源が切れPOWERインジケータがオレンジ点灯に変わります。

POWER〈ON/STAND BY〉ボタン2秒以上押し続けると電源が切れます。

【電源OFF時のインジケータ表示の流れ】



電源コードを抜くときは、POWERインジケータがオレンジ色に点灯していることをご確認ください。

インジケータ表示が上記以外の点滅をしている場合は124ページをご覧ください。

お知らせ

電源を入れたとき

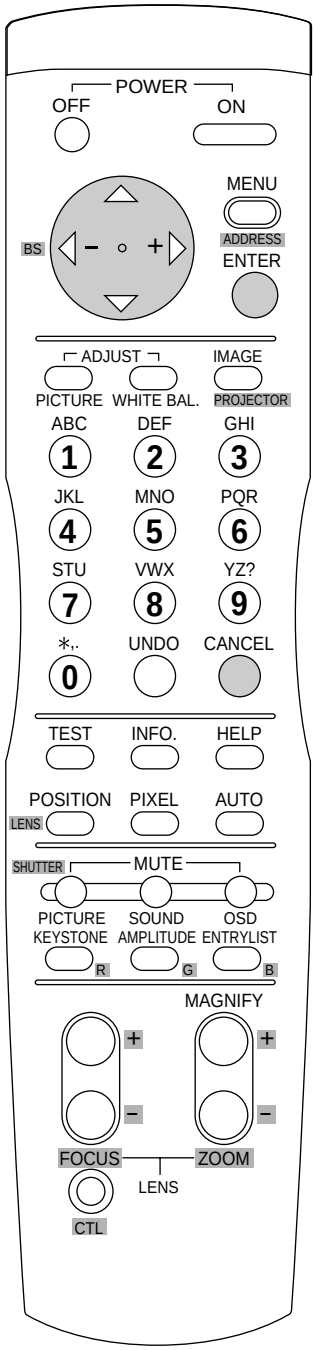
- 電源ON後、ランプが安定して点灯するまで（3～5分）に映像がちらつく場合があります。これはランプの特性上発生するもので、故障ではありません。

電源が入らないとき

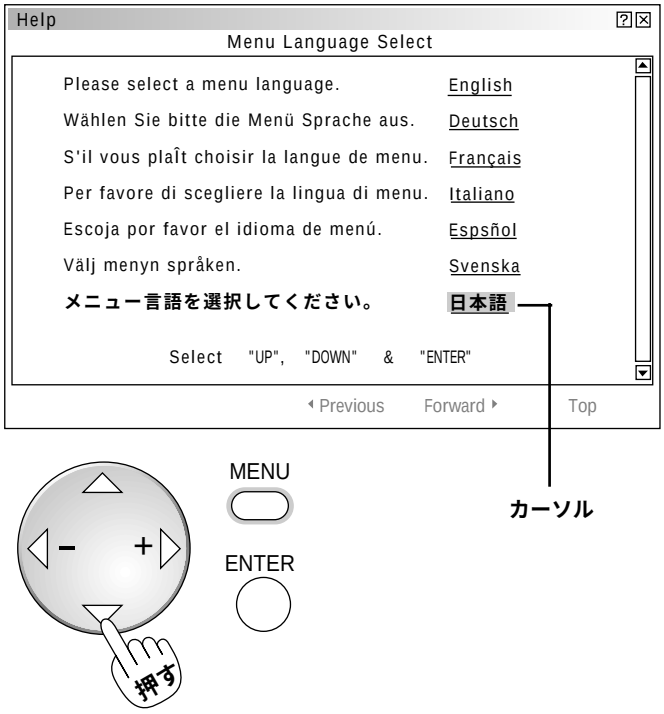
- 内部温度が高くなっていませんか。内部の温度が異常に高いと保護のため電源は入りません。しばらく待ってから電源を入れてください。
- ランプの寿命がきた場合は電源が入りません。
- STATUSインジケータが点滅（6秒点灯／6秒消灯）している場合はランプエラーで、ランプが点灯しません。1分以上待って再度電源を入れてください。

■ 電源を入れたときスタート画面が表示された場合

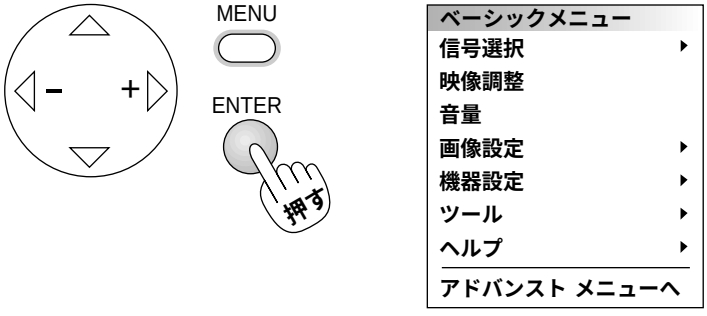
ご購入後、はじめて電源を入れたときはスタート画面が表示されます。以下の手順に従って、プロジェクタの表示言語を選択してください。



（1）〈SELECT ▼〉ボタンを押して緑色のカーソルを［日本語］に合わせます。



(2)〈ENTER〉ボタンを押して決定します。
選択した言語でメニューが表示されます。



（3）メニューを消すには〈CANCEL〉ボタンを押します。

これで、表示言語の選択が終わりました。

プロジェクタを設置調整する

プロジェクタやスクリーン等を固定工事する場合は、仮設置の状態で次の設置調整を行ってください。
目的のスクリーンサイズと設置位置が調整範囲内にあることを確認してから、本工事に移ってください。

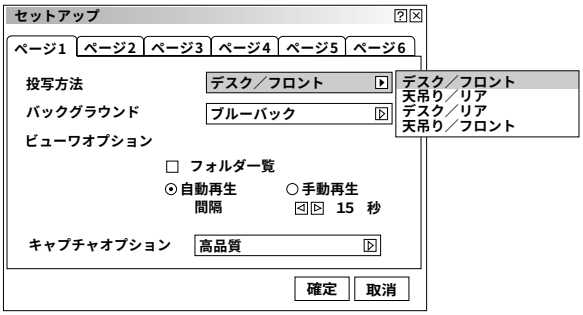
■標準的な設置調整

準備：レンズキャップを外し、プロジェクタの電源を入れます。（*38ページ参照*）
スクリーンに映し出されるまで約30秒かかります（ランプ照度が安定するまで）。

1 設置に合わせた投写方法を設定する

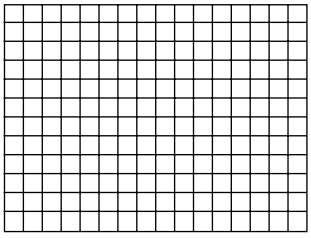
メニューの［機器設定］→［セットアップ］→［ページ1］の設定画面で目的の投写方法を選択します。（*90ページ参照*）

- 工場出荷時は［デスク／フロント］に設定されています。



2 テストパターンを映す

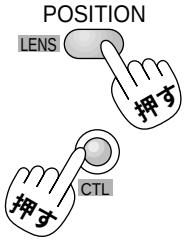
リモコンの〈TEST〉ボタンを押すと表示します。（*65ページ参照*）

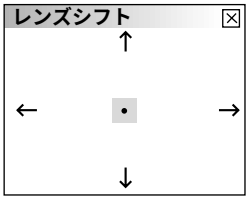


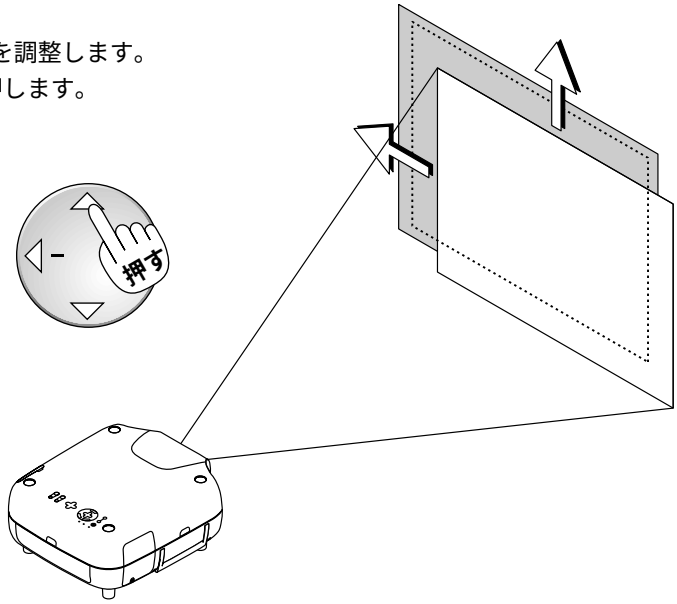
メニューの［テストパターン］でも表示します。（*105ページ参照*）

3 投写画面の位置と画面の大きさを調整する

1）〈CTL〉ボタンを押したまま〈POSITION〉ボタンを押してレンズシフト表示を出します。
〈SELECT ▼▲◀▶〉ボタンで画面の上下左右の位置を調整します。
レンズシフト表示を閉じるには〈CANCEL〉ボタンを押します。



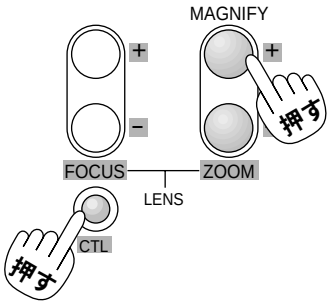


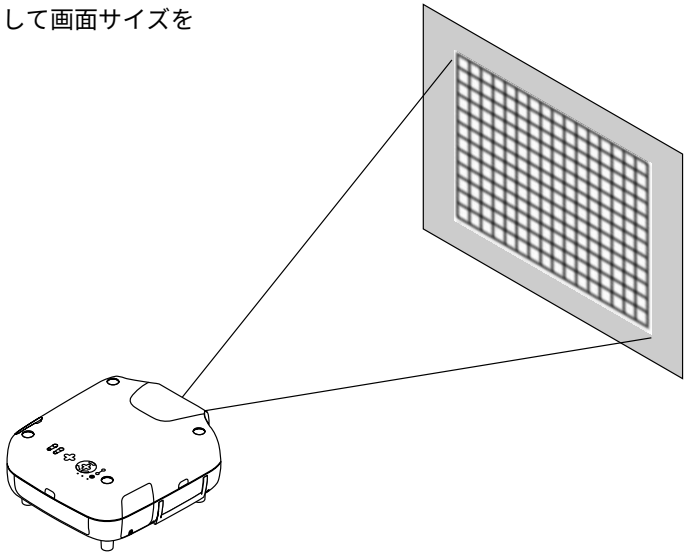


〈LENS SHIFT ▼▲◀▶〉ボタンを押すと移動します。

⚠ 警告	⃠ ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。

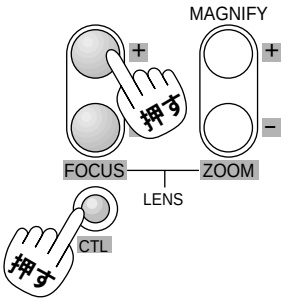
2)〈CTL〉ボタンを押したまま〈ZOOM ＋,－〉ボタンを押して画面サイズを調整します。

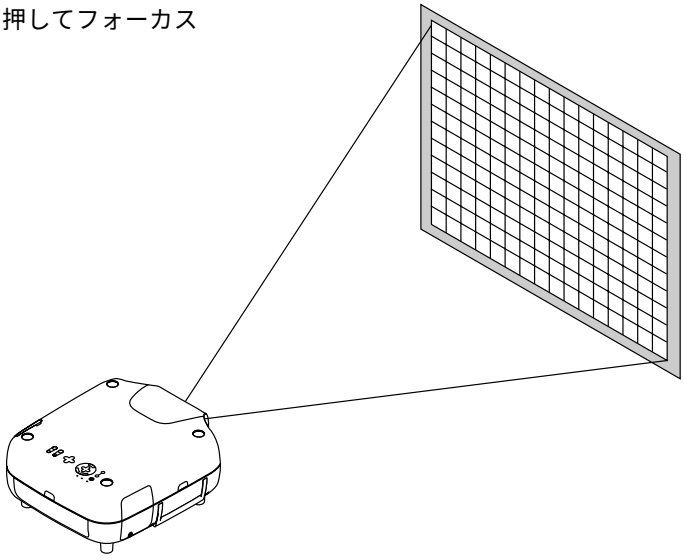


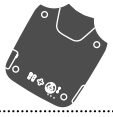


〈ZOOM ＋,－〉ボタンで直接画面サイズが変わります。

3)〈CTL〉ボタンを押したまま〈FOCUS ＋,－〉ボタンを押してフォーカス（焦点）を合わせます。







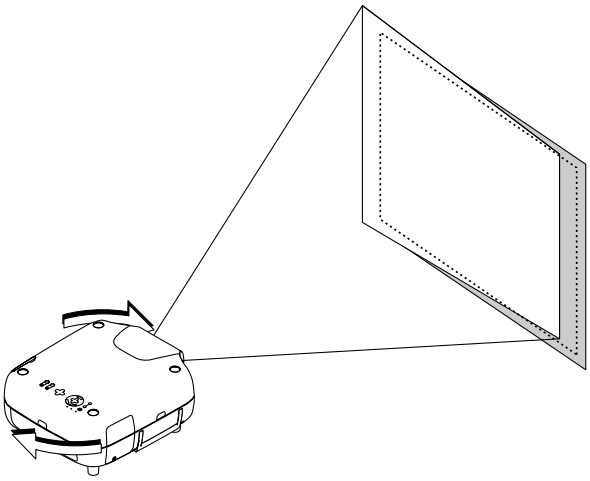
〈FOCUS ＋,－〉ボタンで直接フォーカスが変わります。

これで、設置調整が終わりました。

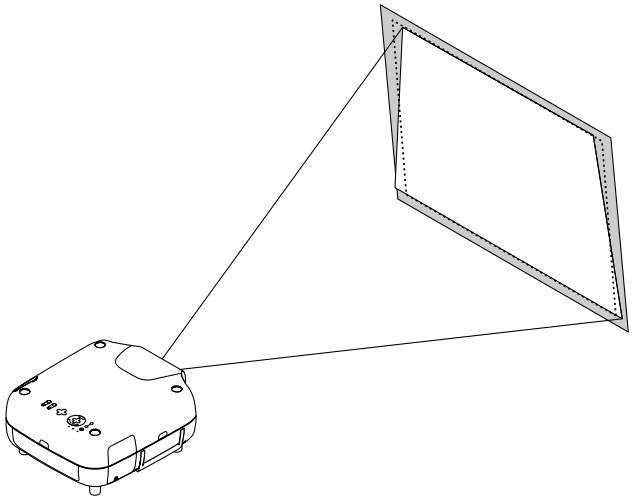
お願い

- 高温または低温になる場所には設置しないでください。（使用温度：0～40℃）
- 直接スクリーンに日光や照明の光が当たらないように設置してください。スクリーンに周囲の光が当たると、白っぽく、見にくい画面になります。

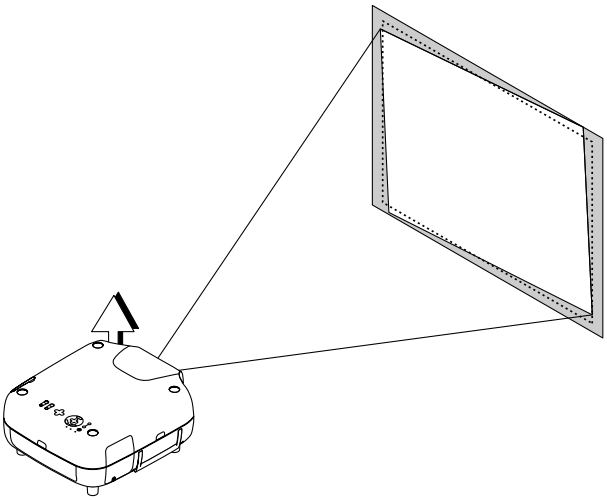
その他の位置調整



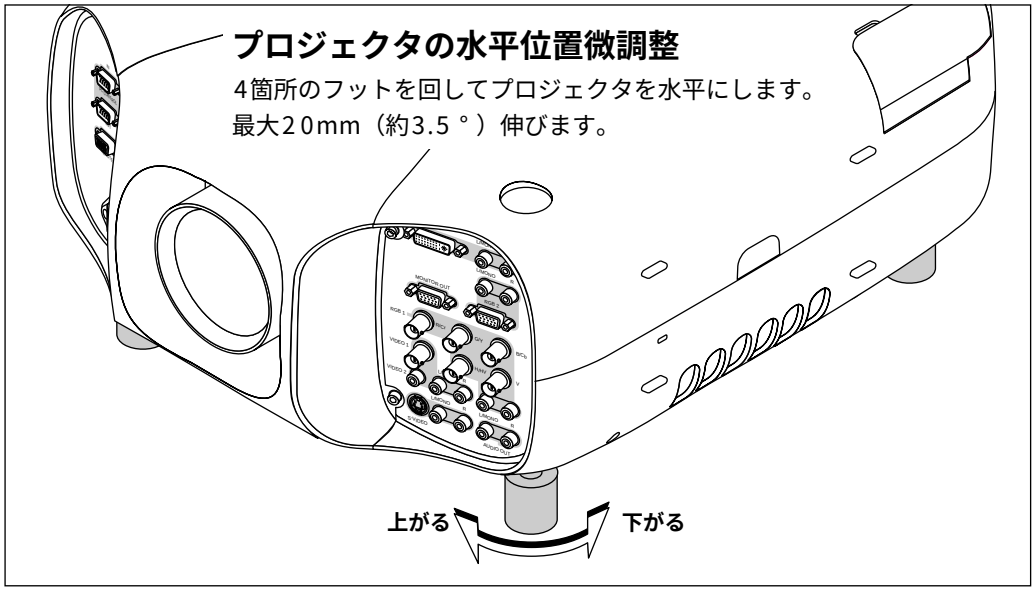
この場合はプロジェクタと本体が平行に（プロジェクタの投写面とスクリーンの向がずれている）なっていません。プロジェクタを回転して合わせてください。



この場合はリモコンの〈KEYSTONE〉ボタンまたはメニューの台形補正で調整できます。



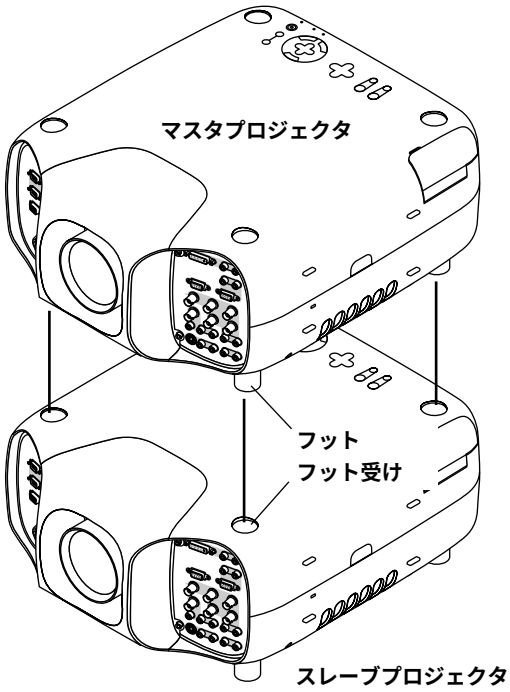
この場合は本体の4箇所のフットを回すと調整できます。



■リンクモードスタックの設置調整（ご参考）

本機を2段積み重ねて使用することにより最大6,000ANSIルーメン（高輝度モード選択時）の高輝度の画面にすることができます。本機は2段まで積み重ねて投写することができますが、細かい文字やCADなどの画像が完全に重なるようには設計されておりませんので、ご了承ください。
また、各プロジェクタのリンク設定をすることにより、マスタ（親）プロジェクタのみの操作でスレーブ（子）プロジェクタも同時に調整することができます。

ご注意
- **設置や調整はサービスマンにご依頼ください。**
- **スタック設置の設置場所や構造物は、プロジェクタの質量に長期間十分に耐えうる強度を確保してください。**
  プロジェクタの質量は1台約10kg（レンズ含まず）です。
- **レンズは同じものを使用してください。**
- **ランプ寿命のときはランプを同時に取り替えてください。**
- **地震などによる転倒防止対策を十分に施してください。**
- **プロジェクタを2台使用すると高温になります。室内の温度管理も十分に対応してください。**
- **天井にスタック設置することはできません。**



お願い

スタック時のズームとレンズシフト位置について
- 専用のオプションレンズは、ズームのワイド側とテレ側で幾何学ひずみが異なります。できるだけ、ひずみが小さくなるズーム位置を選んでスタック設置するようにしてください。
  画面サイズに対する推奨投写距離については136ページをご覧ください。
- 横方向のレンズシフト位置はセンターに合わせてください。

リンクモード スタック時には信号分配器をご使用ください
- スタック投写時リンクモードで使用する場合は、信号分配器で2台のプロジェクタに信号を分配することをおすすめします。分配器を使用しない場合は、リンクモードに設定する前に、信号ごとに各プロジェクタの水平位置を調整してください。調整しないと画像がずれます。

1 プロジェクタを積み重ねる

プロジェクタのフット受け（4箇所）にフットの凸部（4箇所）を確実にはめ込みます。

2 接続する

2台のプロジェクタのRGB 端子、PC-CONTROL 端子の接続が必要です。57ページ「リンクモードスタック設置の接続」をご覧ください。
外部機器を接続する場合は、マスタプロジェクタに接続してください。外部機器の接続は47～52ページをご覧ください。
リンクモードで調整可能な機能は、131ページ「リンクモードでの調整可能機能一覧」をご覧ください。

接続が終わりましたら、2台のプロジェクタの電源を入れ、画面位置・ズーム・フォーカスなどの調整を大まかに行います。

お願い　DVI デジタル入力信号は対応していません。その場合は、市販の分配器を使用して各プロジェクタの端子に接続してください。

3 投写する信号を調整・登録する

マスタプロジェクタとスレーブプロジェクタの設定データを合わせます。

A. マスタプロジェクタの調整・設定データをフラッシュメモリカードにコピーします。

1） マスタとなるプロジェクタを選びます。
2） 映したい信号を全て表示し、信号毎に調整します。その全調整データをマスタプロジェクタに保存します。（入力を切り換えたり、メニューを消すと自動的に保存されます）
3）マスタプロジェクタの電源を切って、スタンバイ状態にします。
4） フラッシュメモリカードにマスタプロジェクタに保存してあるデータをコピーします。

フラッシュメモリカードへのコピー方法：

1） ビューワ部のカバーを開けてください。ＰＣカードスロットがあります。
2） フラッシュメモリカードをスロットに差しこみます。
3）マスタプロジェクタの本体操作部の〈CANCEL〉ボタンを押しながら、〈POWER〉ボタンを押します。
POWERインジケータが緑に点灯し、PC CARD ACCESS インジケータが点滅を始めます。
フラッシュメモリカードへのコピーが終了すると、POWERインジケータがオレンジ色(スタンバイ状態）に戻ります。
4） マスタプロジェクタからフラッシュメモリカードを取り出します。

B. フラッシュメモリカードのデータをスレーブプロジェクタに移します。

1）フラッシュメモリカードをスレーブプロジェクタのPCカードスロットに差しこみます。

お知らせ　このとき、スレーブプロジェクタにデータがあると消えてしまいますので、必要なら先にデータのバックアップをとっておきます。

2）スレーブプロジェクタの本体操作部の〈ENTER〉ボタンを押しながら、〈MENU〉ボタンを押します。
POWERインジケータは緑に点灯し、PC CARD ACCESS インジケータが点滅を始めると、データがフラッシュメモリカードからスレーブプロジェクタへコピーされます。
フラッシュメモリカードへのコピーが終了すると、POWERインジケータがオレンジ色(スタンバイ状態）に戻ります。
3）スレーブプロジェクタからフラッシュメモリカードを取り出します。

スレーブプロジェクタの入力端子がマスタプロジェクタと異なる場合は、入力端子を変更してください。変更方法については72ページ「信号リストの編集」をご覧ください。

4 各プロジェクタのテストパターン（クロスハッチ）を映す

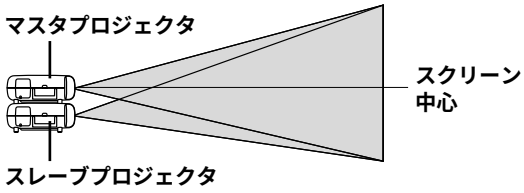
1） リモコンの〈TEST〉ボタンを1回押してクロスハッチを表示させます。
2） プロジェクタごとに色（R,G,B）を変えて投写します。
例：マスタプロジェクタはGをオンし、スレーブプロジェクタはRをオンします。
色を変えるにはリモコンの〈CTL〉ボタンを押しながら〈KEYSTONE〉でR(赤)を、〈AMPLITUDE〉でG(緑)を、〈ENTRY LIST〉でB(青)を押します。

※メインメニューの［テストパターン］設定でも同じ操作ができます。

お知らせ　ワイヤレスで各プロジェクタを操作するときは誤動作防止のため各々リモコンIDとプロジェクタIDの設定を行なってください。（*68, 97ページ参照*）

5 各プロジェクタのレンズシフト・ズーム・フォーカスを調整して投写映像を一致させる

- 本体の〈LENS SHIFT〉ボタンを押して画面の位置を調整します。
  シフトの範囲は34ページをご覧ください。
- 本体の〈ZOOM〉ボタンを押して画面の大きさを調整します。
- 本体の〈FOCUS〉ボタンを押してフォーカス(ピント)を調整します。
- 画面の位置が上下にずれている場合は、各プロジェクタのフットを回して高さを調整します。また、台形歪が出ている場合は、プロジェクタごとに「台形補正」を調整して、その調整値を保存します。
  「台形補正」については76ページ、「台形補正保存」については95ページをご覧ください。



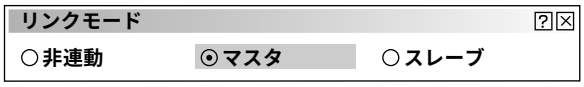
6 各プロジェクタのプロジェクタIDを設定する

メニューの［機器設定］→［セットアップ］→［ページ6］の設定画面で［プロジェクタID］を設定します。2台のプロジェクタIDが重複しないように設定してください。
プロジェクタID設定を行わないとリンクモードは動作しません。

7 各プロジェクタの通信速度を同じにする

メニューの［機器設定］→［セットアップ］→［ページ6］の設定画面で［通信速度］を同じbpsに設定します。

8 各プロジェクタのリンクを設定する



メニューの［機器設定］→［リンクモード］の設定画面で［マスタ］／［スレーブ］を設定します。
マスタプロジェクタは最後に設定してください。スレーブ機器の設定ができなくなります。

1）スレーブプロジェクタの設定…スレーブプロジェクタで［スレーブ］を選択してください。
2）マスタプロジェクタの設定…マスタプロジェクタで［マスタ］を選択してください。

リンクモードの確認をする

1）スクリーンに任意の信号を投写します。
2）リンクモードで投写映像が連動しているか確認します。

お知らせ

リンクモード中は、新たに投写する信号を登録することはできません。
投写する信号を新たに登録する場合は、リンクモードを［非連動］にした後、***3***項から再調整する必要があります。
登録していない信号が入力された場合は、マスタプロジェクタのみ表示します。入力されている信号の情報がメニューの［ヘルプ］→［情報］の［ページ1］画面にて確認できます。

スレーブプロジェクタの調整をします。

1）一時的にマスタプロジェクタのリンクモード設定を「マスタ」から「非連動」にします。
2）マスタプロジェクタで投写したい信号を表示します。
3）スレーブプロジェクタ側で信号リストでマスタプロジェクタの投写信号と同じ信号の番号を選択して、投写します。
4）「明るさ」「コントラスト」「カラー」「色温度」などの「映像調整」項目を調整します。
5）マスタプロジェクタのリンクモード設定を「非連動」から「マスタ」にして、リンクモードを有効にします。

これで設置・調整が終わりました。マスタプロジェクタに入力した信号が投写されます。

リンクモードについては99ページをご覧ください。

特殊な設置

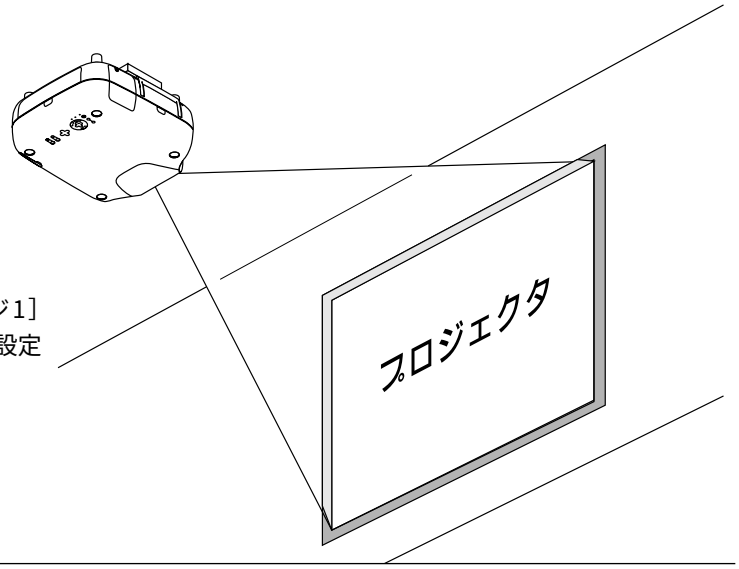
使用条件に合わせて下記のように設置することができます。
設置方法につきましては販売店にご相談ください。
プロジェクタの設置調整方法は40ページ「標準的な設置調整」をご覧ください。

⚠注意　**天吊りなど特別な工事が必要な設置方法の場合には販売店にご相談ください。**
お客様による天吊りなどの設置はおやめください。落下してけがの原因となります。

■天吊り／フロント投写

天井取付けには別売品の［プロジェクタ天井取付ユニットGT50CMKIT］をご使用ください。

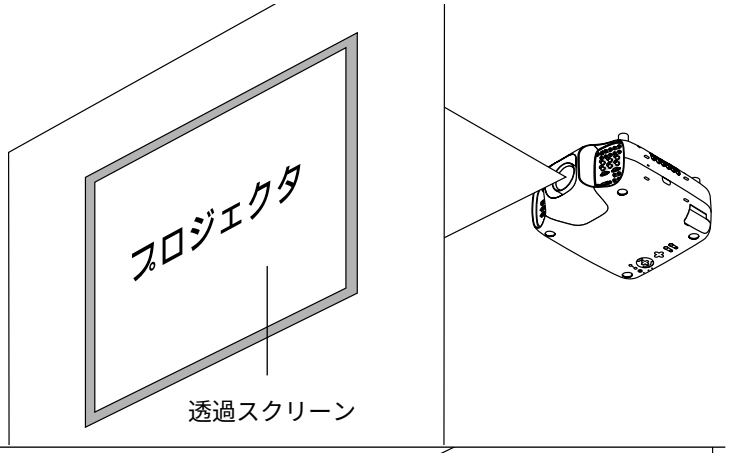
天井に設置し前面から投写する方法です。
メニューの［機器設定］→［セットアップ］→［ページ1］の設定画面で［投写方法］を［ 天吊り／フロント」に設定してください。



■天吊り／リア投写

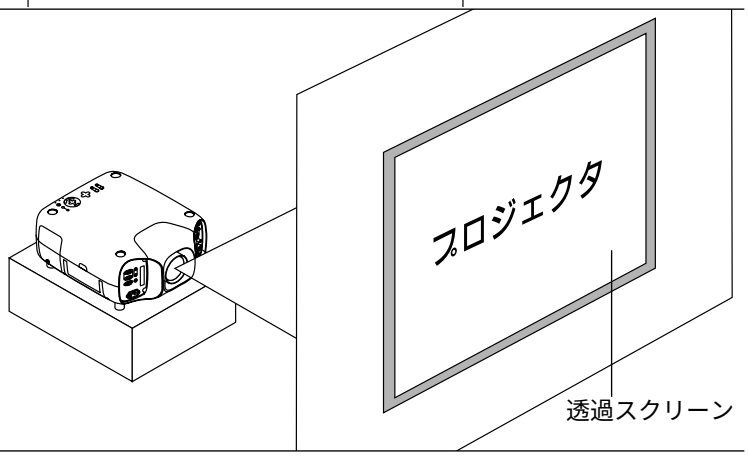
天井取付けには別売品の［プロジェクタ天井取付ユニットGT50CMKIT］をご使用ください。

スクリーンの裏面から投写し、さらに天井に設置する方法です。
メインメニューの［機器設定メニュー］→［セットアップ］→［ページ1］の設定画面で［投写方法］を［天吊り／ リア］に設定してください。



■デスク／リア投写

スクリーンの裏面から投写する方法です。
メニューの［機器設定］→［セットアップ］→［ページ1］の設定画面で［投写方法］を［デスク／リア］に設定してください。



接　続

参考例を記載しています。システム構成について詳しくは、販売店にお問い合わせください。

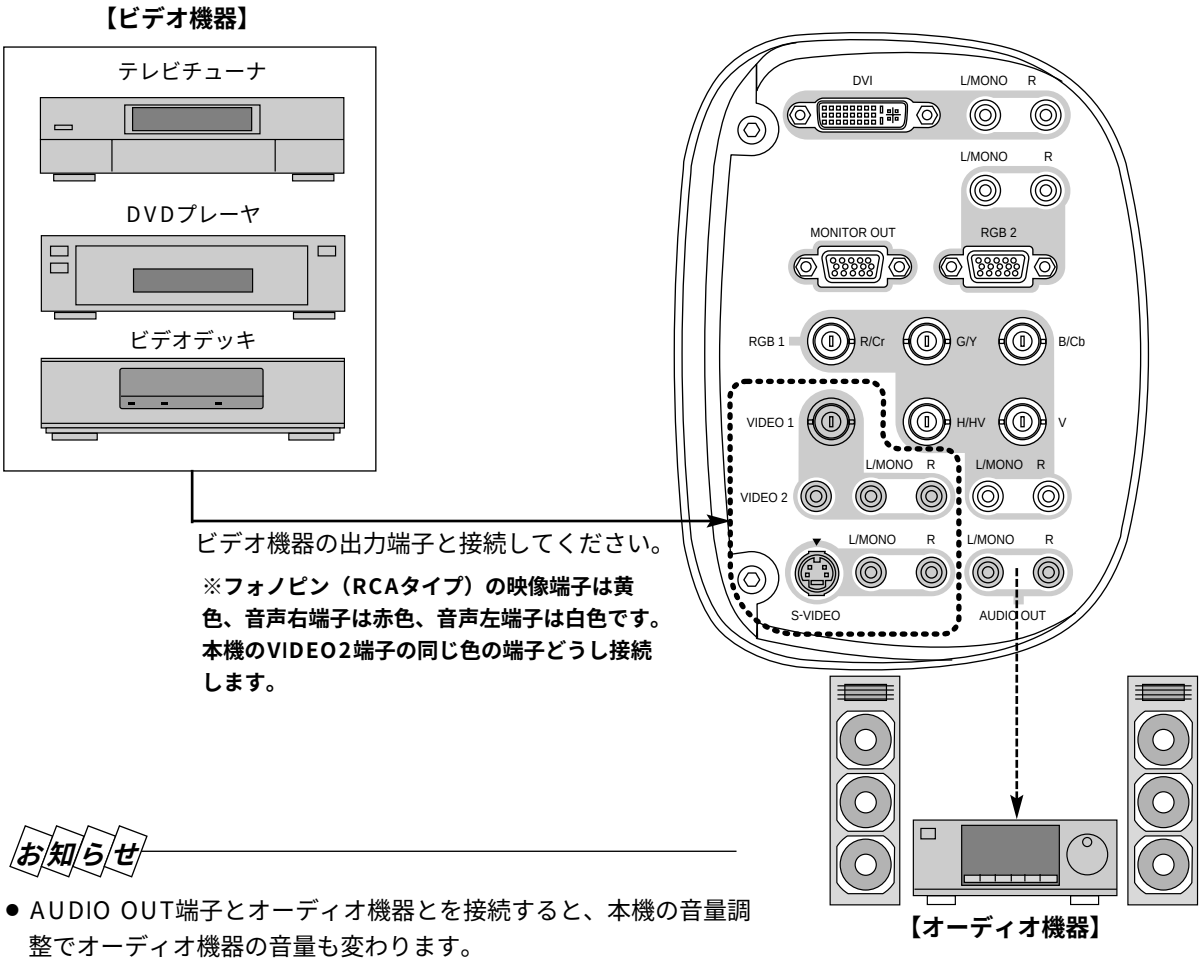
接続の前に

- **接続するときはそれぞれの機器の保護のため電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。プロジェクタのコンセントを抜くときは37ページをご覧ください。**
- **電源プラグは確実にコンセントへ差し込んでください。不完全な差し込みはノイズの原因となります。**
- **システムアップする機器の取扱説明書もよくご覧ください。信号ケーブルはフェライトコア付きのものをお使いください。それ以外のものを使用した場合、ラジオ・テレビなどへ受信妨害がでる恐れがあります。**

プロジェクタを単体で使用する

■ビデオ機器（ビデオ／S-ビデオ）との接続

接続機器の映像出力端子のタイプに合わせて接続してください。VIDEO1とVIDEO2の音声端子は共用端子です。VIDEO1またはVIDEO2の入力選択をしても音声端子に接続している機器の音声が本機の内蔵スピーカまたはAUDIO OUT端子から出力されます。



ビデオ機器の出力端子と接続してください。

※フォノピン（RCAタイプ）の映像端子は黄色、音声右端子は赤色、音声左端子は白色です。本機のVIDEO2端子の同じ色の端子どうし接続します。

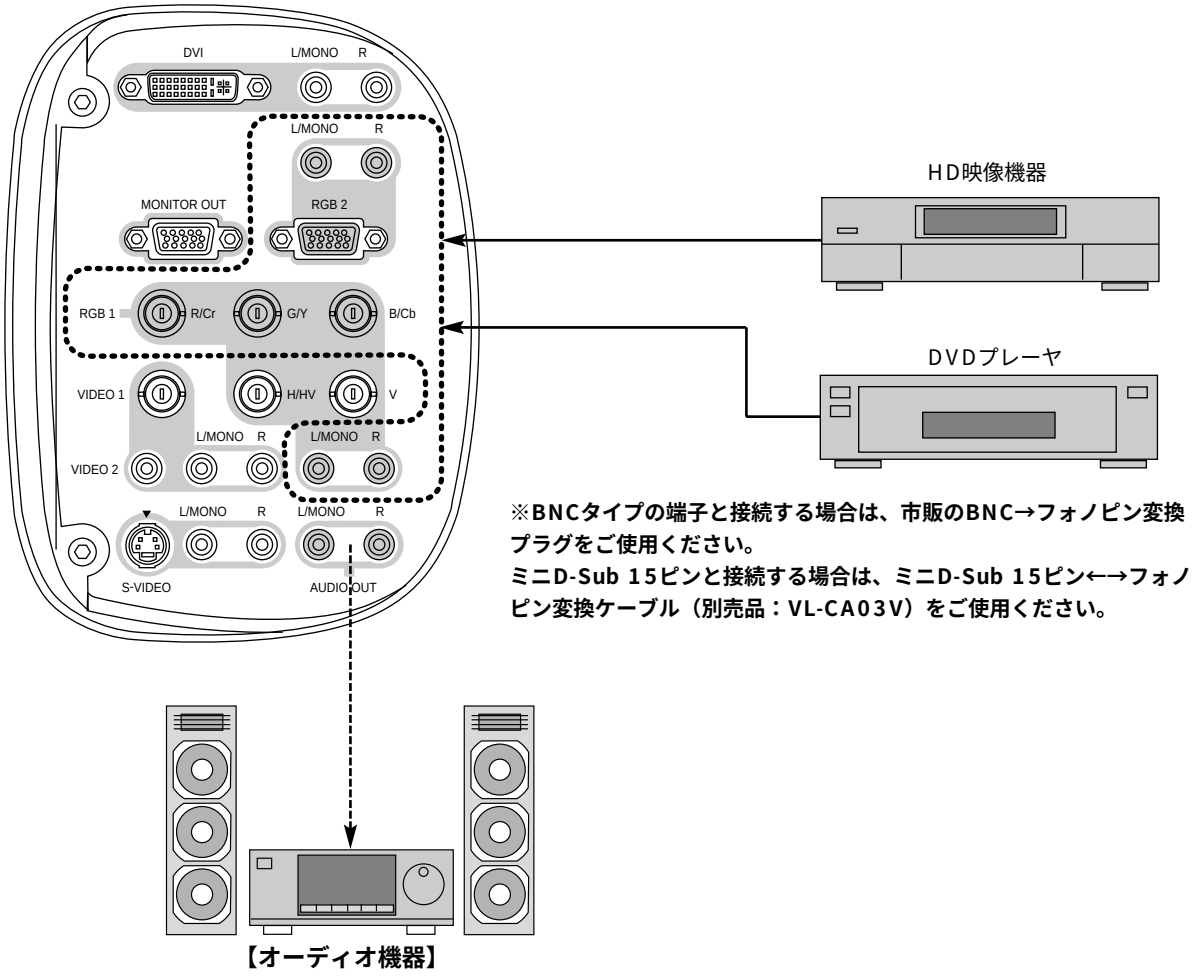
お知らせ

- AUDIO OUT端子とオーディオ機器とを接続すると、本機の音量調整でオーディオ機器の音量も変わります。
  この端子を使う場合は、オーディオアンプの音量を最小にしてから電源を入れ各々の音量範囲の整合をとってください。
- 本機の内蔵スピーカの音声を切るには95ページをご覧ください。

■ビデオ機器（コンポーネント信号）との接続

DVDプレーヤーやMUSEデコーダなどのコンポーネント信号の映像を映します。

- RGB1端子、RGB2端子はRGB信号とコンポーネント信号を通常は自動判別します。判別できない場合は、メニューの［機器設定］→［セットアップ］→［ページ3］→［信号選択］の設定画面で接続する端子のRGBを［コンポーネント］に設定してください。
- コンポーネント信号のカラーマトリスクタイプはメニューの［画像設定］→［詳細設定］→［カラーマトリクス］→［マトリクスタイプ］で選択してください。
- HD映像機器（Y Pb Pr出力端子）と接続する場合は、メニューの［画像設定］→［詳細設定］→［カラーマトリクス］→［マトリクス選択］でHDTVを、マトリクスタイプはPb/Prに設定してください。



お知らせ

- AUDIO OUT端子とオーディオ機器とを接続すると、本機の音量調整でオーディオ機器の音量も変わります。
  この端子を使う場合は、オーディオアンプの音量を最小にしてから電源を入れ各々の音量範囲の整合をとってください。
- 本機の内蔵スピーカの音声を切るには95ページをご覧ください。

■パソコンとの接続

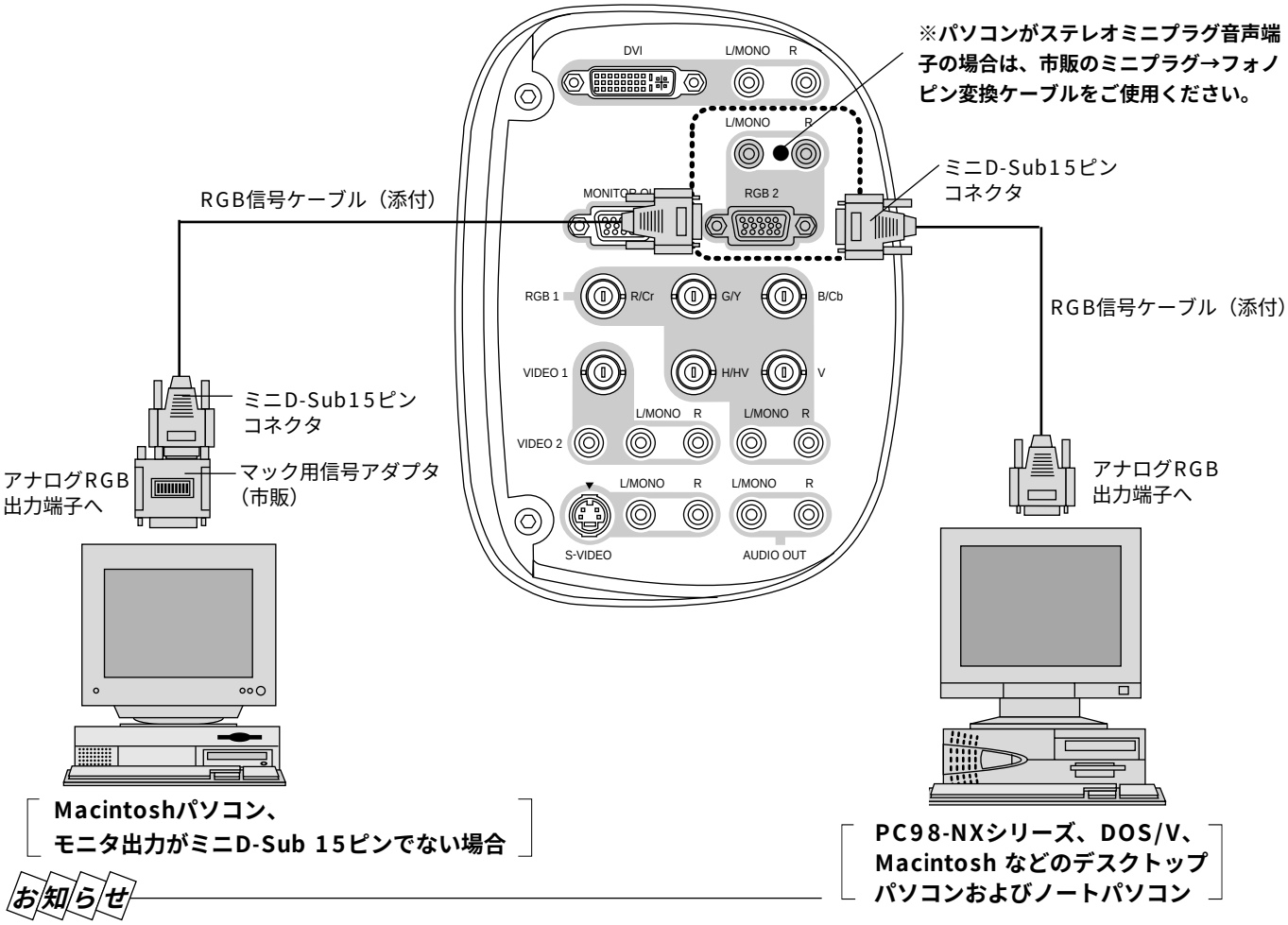
パソコンのアナログRGB出力端子と本機のRGB 端子（IRGB1，RGB2）を接続すると大画面ディスプレイとして多用途にお使いいただけます。

PC98-NXシリーズ、DOS/V対応機、Macintoshとの接続

- モニタ出力端子がミニD-Sub15ピンではないMacintosh PowerBookシリーズとの接続には、Apple社製PowerBookビデオアダプタケーブルが別途必要です。
- Macintoshを接続する場合、プロジェクタに適したモードはVGA/SVGAモードの1024×768ドットの設定です。Macintosh側がこのモードに対応している場合、Macintosh側の表示解像度をこの設定にすることを推奨します。

PC-9800シリーズとの接続

- D-Sub15ピンのPC-9800シリーズと接続する場合は、旧9800シリーズ用ディスプレイケーブルコネクタ変換アダプタPC-9821-K13（別売）を使用してください。
  H98s以外のPC-H98シリーズを接続する場合は、マルチシンクアダプタPC-H98-U03（別売）がさらに必要です。
- ノートタイプの場合(PC-9821Nrシリーズ以降)、機種によってはミニD-Sub15ピンアナログRGB出力端子を持つポートバー、またはファイルベースなどを接続する必要があります。



お知らせ

プロジェクタをパソコンから離れた場所で使用する場合、別売のマルチシンク10mケーブル（型名 VL-CA10MD）をご使用ください。また、信号減衰を補うために別売のRGB信号分配器（型名 VL-DA102）の使用をおすすめします。

■パソコンの投写画面がうまく映らない場合

パソコンを接続して投写する際の、ケーブル接続とパソコン起動の手順や、パソコン起動後の操作など、あらかじめ必要な知識について説明します。うまく映らないという場合にチェックしてみてください。

●パソコンの起動は……

パソコンとプロジェクタを接続してからパソコンを起動してください。

特にノート型パソコンの場合、接続してからパソコンを起動しないと外部出力信号が出力されないことがあります。
【参考】プロジェクタのメニューの［ヘルプ］→［情報］の水平同期周波数が「0KHz」表示の時は、パソコンから外部出力信号が出ていません。（*104ページ参照*）

●パソコンの起動後に操作が必要な場合

ノート型パソコンの場合、起動しても、外部出力信号を出力させるために更に操作が必要な場合があります。
（ノート型パソコン自身の液晶画面に表示されていても、外部出力信号が出力されているとは限りません）

【参考】外部出力させる操作の例

- **PC98-NXシリーズ、DOS/V対応機（PC/AT 100%互換機）の場合：**
  Fnキー＋「 F1～F12キーのいずれか(機種によって異なります)」を押す。
- **Nrシリーズ以降のPC-98ノートの場合：**「サスペンドレジューム」スイッチを押す。

●ノート型パソコンの同時表示時の外部出力信号が正確ではない場合

ノート型パソコンの場合、自身の液晶画面は正常に表示されていても投写された画面が正常ではない場合があります。
多くの場合、ノート型パソコンの制約により同時表示(パソコン自身の液晶画面と外部出力を同時に出力する場合）の際は、周波数などが標準的規格に合った信号を出力できない場合があり、この際の外部出力信号が、プロジェクタで対応できる範囲の信号から大きくはずれている場合、調整を行っても正常に表示がされない場合があります。
そのようなときはノート型パソコンの同時表示をやめ、外部出力のみのモードにする（または液晶パネルを閉じると、このモードになる場合が多い）操作を行うと外部出力信号が標準的規格に合った信号になる場合があります。

●Macintoshを起動させたとき、画面が乱れたり何も表示しない場合

Macintoshおよびプロジェクタがサポートしている表示モード以外の設定を、ディップスイッチで設定した場合、表示が乱れたり、なにも表示できなくなる場合があります。万一表示できない場合は、ディップスイッチを13インチ固定モードに設定し、Macintoshをリスタートしてください。その後表示可能なモードに変更して、再度リスタートさせてください。

●PowerBookとプロジェクタを同時に表示させる場合

PowerBookディスプレイの「ビデオミラーリング」を“切”にしないと外部出力を1024×768ドットに設定できないことがあります。

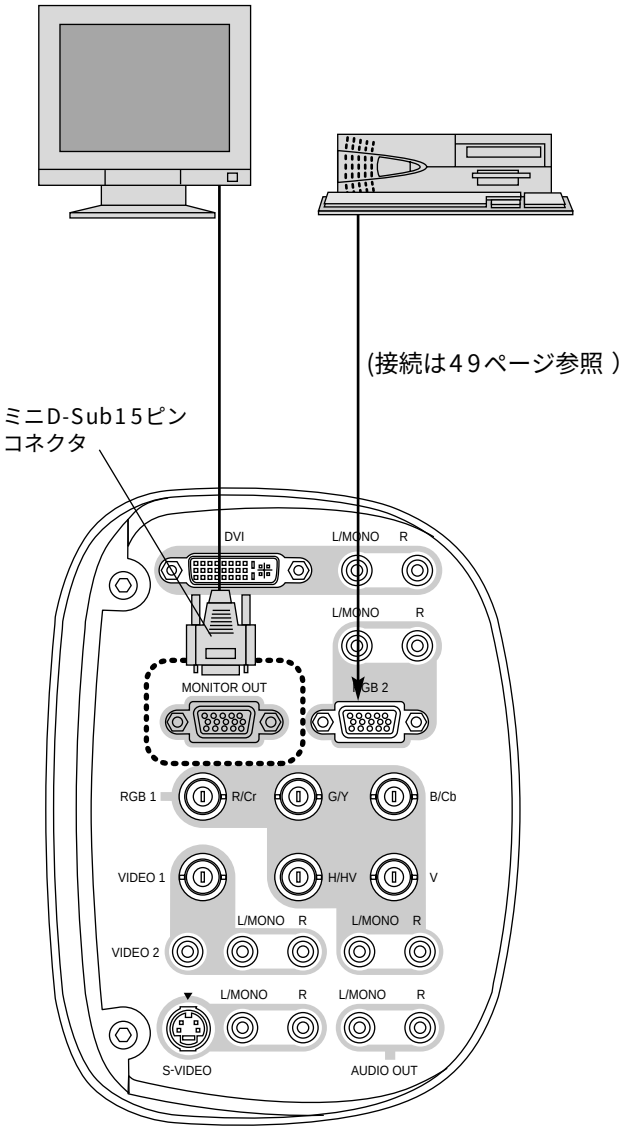
●Macintoshの投写画面からフォルダなどが切れている場合

以前に接続していたディスプレイがプロジェクタより高い解像度で使用し、フォルダなどが隅にあった場合は切れたり隠れたりします。このような場合はMacintoshのファインダー画面で「option」キーを押した状態で「ウインドウの整頓」を選択してください。隠れたフォルダが画面内に移動します。

■RGBモニタとの接続

プロジェクタに映しているRGB1入力またはRGB2入力のRGBアナログ信号，コンポーネント信号，DVIアナログ信号を出力します。

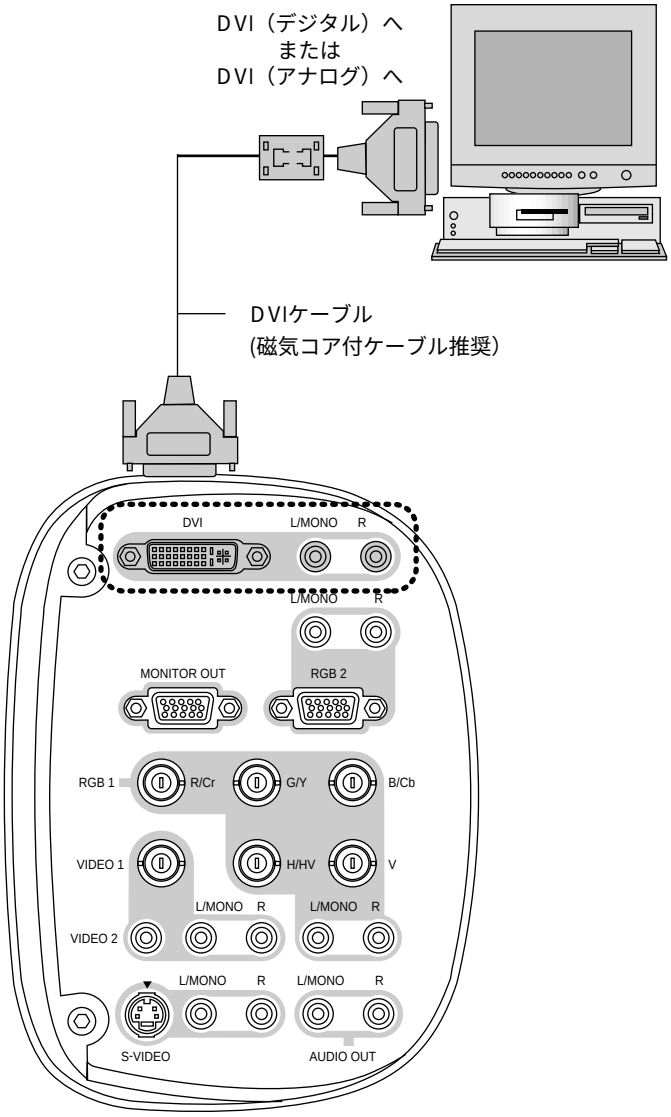
- DVIデジタル信号は出力しません。



■DVI端子との接続

パソコンのDVI出力信号を本機で映すことができます。
パソコンにDVI端子付グラフィックカードの搭載が必要です。

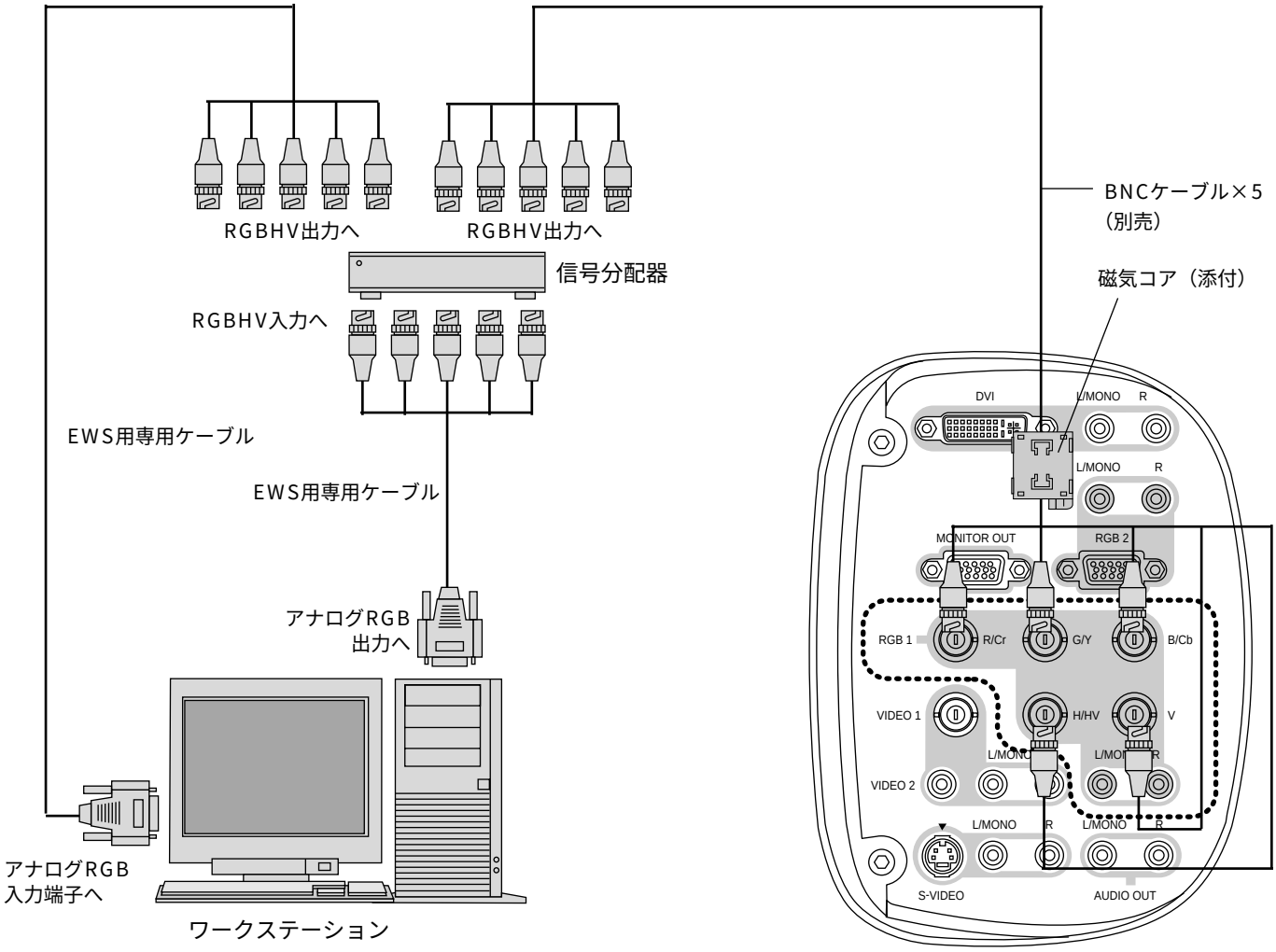
- DVI端子で対応できる解像度はデジタルの場合はXGA（1024×768）までです。
- DVI（デジタル）信号を映しているときは画像の自動調整が動作しません。画面の表示位置がずれている場合は手動で調整してください。（*79ページ参照*）



お知らせ

- MONITOR OUT端子はリンクモードスタック設置やプロジェクタを複数台接続する場合にも使います。

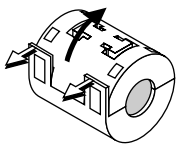
■ワークステーションとの接続



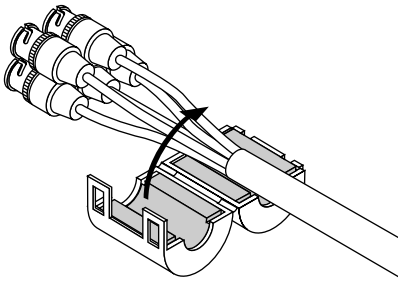
接続の際はノイズ防止のため添付の磁気コアを取り付けてください。

磁気コアの付けかた

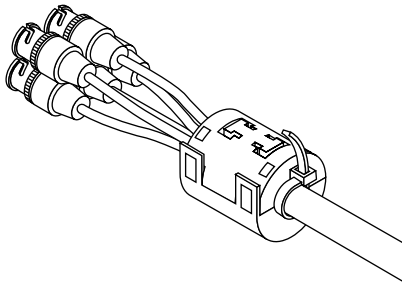
1 ツメを引いて開けます。



2 ケーブルを挟んで閉めます。プロジェクタ側の端子の近くに取り付けてください。



3 添付の束線バンドでしっかり締めつけます。



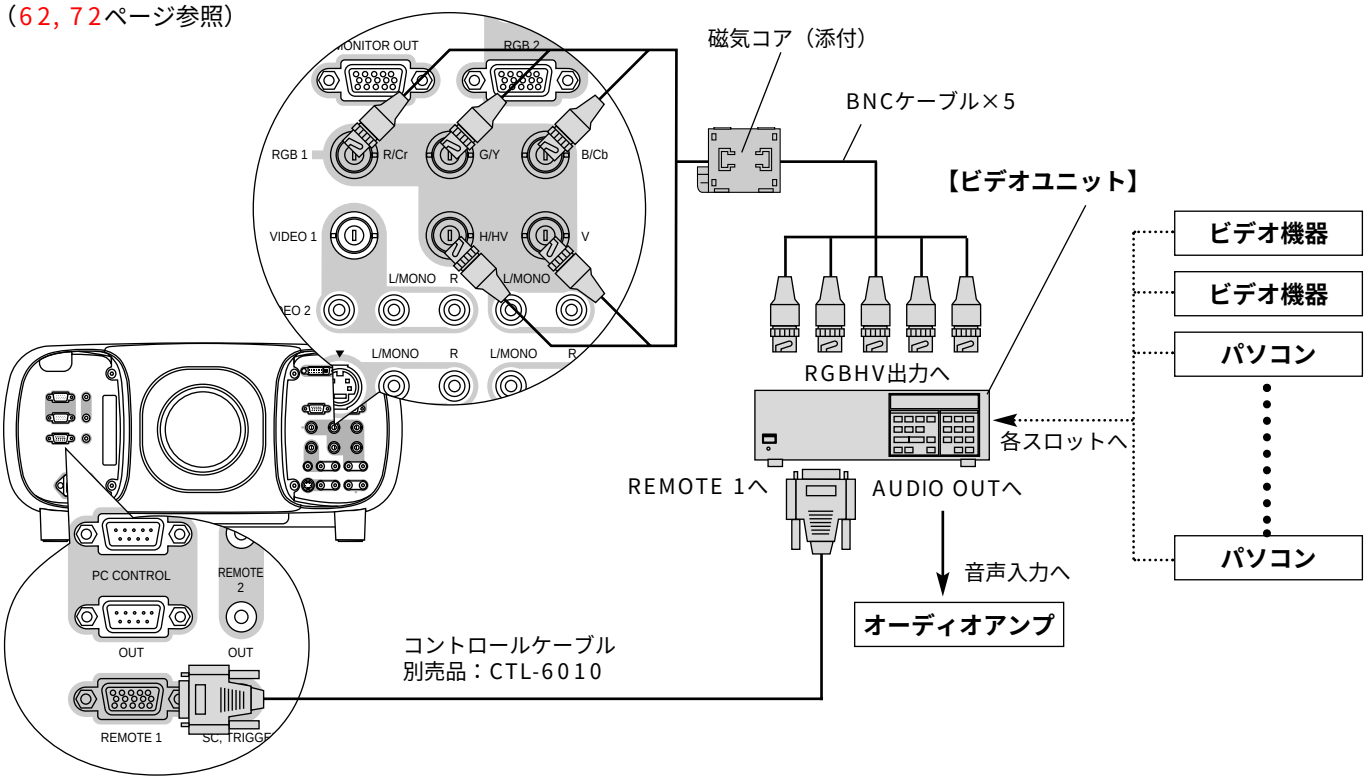
ビデオユニット（ISS-6020J）を経由する

■ビデオユニットを1台接続する

入力機器の数が多いシステムの場合にビデオユニットを使用します。
入力機器をビデオユニットに接続し、ビデオユニットを本機に接続し、さらにコントロールケーブルを接続すると、次のことができます。

- 最大10チャンネルの信号を入力することができます。
- プロジェクタやパソコンからビデオユニットが操作できます。
- 本機の信号リストからビデオユニットのチャンネルごとの最適な画面調整状態を呼び出すことができます。

（62, 72ページ参照）



本機をビデオユニット（ISS-6020J）連動モードで使用するときは、以下のことを行ってください。
●ビデオユニットの VIDEO INPUT MODULE（6020-VID）と接続するときは、VIDEO INPUT MODULE 端子部にある VIDEO MODE 切換スイッチ（S3001)を8に設定してください。
お知らせ：スイッチャ連動モードでの VIDEO MODE 切換の設定は、プロジェクタ側の機能で行います。
●ビデオユニットに QUAD DECODER（6010-QUAD：オプション）が装着されているときは、QUAD DECODER を取り外してください。
お知らせ：QUAD DECODERを装着したままスイッチャ連動モード時に切換スイッチ（S3001)を8に設定すると、映像が正常に表示されません。
くわしくは、お買い上げの販売店またはNECフィールディング株式会社の支店・営業所にご相談ください。

- RGB2端子は、スイッチャ連動モードには対応していません。
- ビデオユニットのディップスイッチを「プロジェクタ連動モード」に設定してください。

・ディップスイッチ（S8601）の8番ピンを「OPEN」側に切り換えます。

- プロジェクタのオンスクリーンメニューで次の設定・調整が必要です。

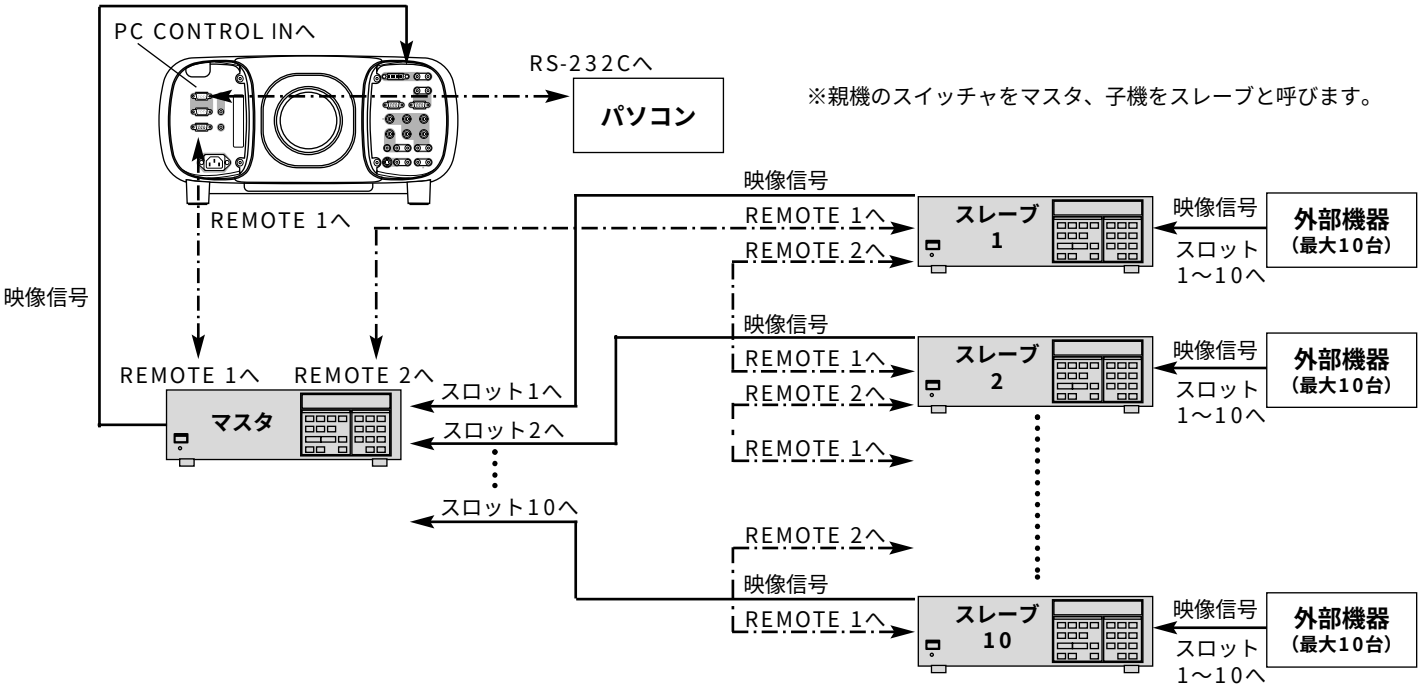
・ビデオユニット接続の設定
　［機器設定］→［スイッチャ連動モード］の設定画面で［1レベル］を選択します。（*99ページ参照*）
・各機器のチャンネルと入力信号及び画面調整の切り換えと編集
　［信号選択］→［信号リスト］でリストを表示します。入力信号の切り換えや編集ができます。（*72ページ参照*）

- ビデオユニットのR, G, Bゲイン調整がプロジェクタから制御できます。
　［画像設定］→［詳細設定］→［スイッチャゲイン］の調整表示画面で行います。（*78ページ参照*）
- ビデオユニットISS-6O20J用オプションリモコンは、本機のスイッチャ連動モードには対応していません。

■複数のビデオユニットを接続する

多数のパソコンを接続し、パソコンを切換えながらプロジェクタで講義や会議を行う場合に複数のビデオユニットを使用します。

- 最大100チャンネルの信号を入力することができます。
- プロジェクタやパソコンからビデオユニットが操作できます。
- 本機の信号リストからビデオユニットのチャンネルごとの最適な画面調整状態を呼び出すことができます。

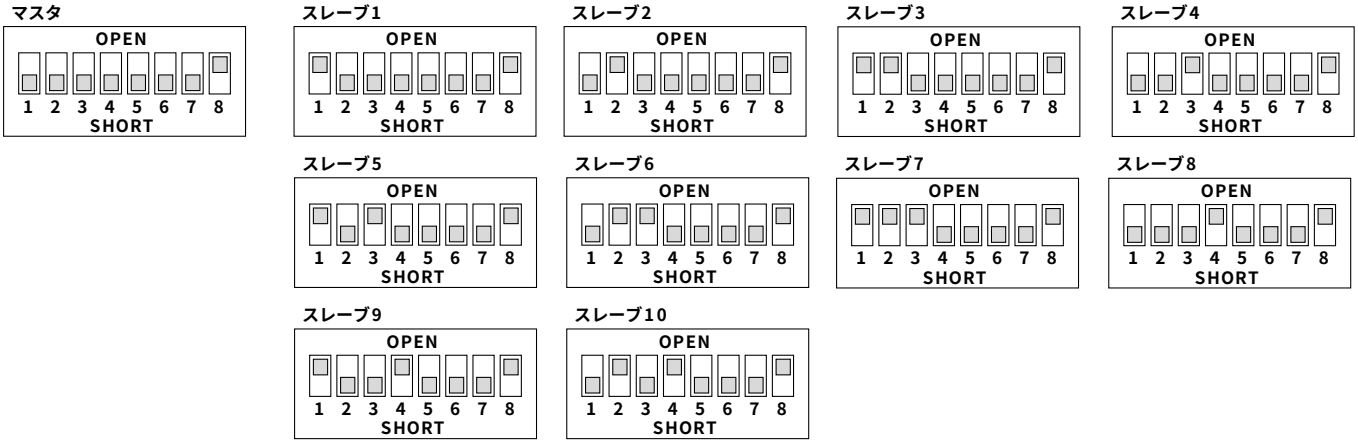


- 本機をビデオユニット（ISS-6020J）連動モードで使用するときは、53ページの囲みの部分をご覧ください。
- RGB2端子は、スイッチャ連動モードには対応していません。
- ビデオユニットのディップスイッチを「プロジェクタ連動モード」に設定してください。（下図参照）
  ディップスイッチは（S8601）の8番ピンを「OPEN」側に切り換えます。
- マスタスイッチャ、スレーブスイッチャ1〜10のRS-232C／RS-422切換スイッチを「RS-422」に切り換えます。（切換スイッチはシステムコントロールモジュール内にあります。）
- プロジェクタのオンスクリーンメニューで次の設定が必要です。

・ビデオユニット接続の設定
　［機器設定メニュー］→［スイッチャ連動モード］の設定画面で［2レベル］を選択します。（*99ページ参照*）

・各機器のチャンネルと入力信号及び画面調整の切り換えと編集
　［信号選択メニュー］→［信号リスト］でリストを表示します。入力信号の切り換えや編集ができます。（*72ページ参照*）

- ビデオユニットのR, G, Bゲイン調整がプロジェクタから制御できます。
  ［画像設定］→［詳細設定］→［スイッチャーゲイン］の調整表示画面で行います。（*78ページ参照*）



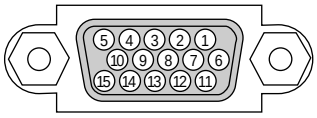
■REMOTE1端子について

この端子はビデオユニットISS-6020Jまたは外部コントロールとの接続に使用します。

ISS-6020Jと接続して使用する場合

ビデオユニットISS-6020J使用時は別売のコントロールケーブル（CTL-6010、15ピン－15ピン／16m）をこの端子に接続します。

REMOTE1

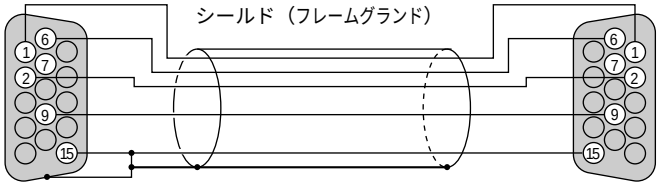


ピンNo.	機　　能
1, 2, 6, 7	ビデオユニット使用時のデータ送受信
9	プロジェクタのモデル判別用です。
8, 11, 12	プロジェクタ内部で使用。常時OPENにしてください。
15	接地（GND）

【ご参考】プロジェクタとビデオユニットISS-6020Jの結線図

プロジェクタ側　REMOTE1端子
（ミニD-Sub 15ピン）メス

ビデオユニット側　REMOTE1端子
（ミニD-Sub 15ピン）メス



本機を単体で使用する場合

制御機器（操作卓など）からコントロールケーブルをREMOTE1端子に接続して入力選択などが操作できます。

ピンNo.	SHORT/OPEN				機　　能
14	SHORT OPEN				外部コントロールモードON 外部コントロールモードOFF
5	SHORT OPEN				電源ON 電源OFF
10	SHORT OPEN				映像ミュートON 映像ミュートOFF
3	SHORT OPEN				音声ミュートON 音声ミュートOFF
4,8,12,11	11	12	8	4	
	OPEN	OPEN	OPEN	OPEN	RGB1
	OPEN	OPEN	OPEN	SHORT	VIDEO1
	OPEN	OPEN	SHORT	OPEN	S-VIDEO1
	OPEN	SHORT	OPEN	SHORT	RGB2
	OPEN	SHORT	SHORT	OPEN	VIDEO2
	OPEN	SHORT	SHORT	SHORT	RGB1 (S-VIDEO)
	SHORT	OPEN	OPEN	OPEN	DVI (DIGITAL)
	SHORT	OPEN	OPEN	SHORT	PC CARD VIEWER
	SHORT	OPEN	SHORT	OPEN	DVI (ANALOG)
	SHORT	OPEN	SHORT	SHORT	RGB1 (VIDEO)
	SHORT	SHORT	OPEN	OPEN	RGB2 (S-VIDEO)
	SHORT	SHORT	OPEN	SHORT	RGB2 (VIDEO)

- “ SHORT ” は15番ピン（接地）と接続します。
- 外部コントロール使用時は、リモコンのPOWER・INPUT・PICTURE MUTE・SOUND MUTEの各ボタンは使用できません。また、タイマー・オートスタート・パワーマネージメント・電源オフ確認メッセージ・初期入力選択の各機能も使用できません。
- 上記以外の組み合わせは、すべてRGB1が選択されます。

お知らせ

- 13番ピンは拡張用のリモコン信号入力用です。添付のリモコンと同じフォーマットの信号を入力することにより、プロジェクタを制御することができます。なお、このリモコン信号入力だけは14番ピンの設定にかかわらず常に動作します。
- システム保護のため、外部コントロールを使用して電源ON/OFFを行う場合、AC電源を遮断しないでください。

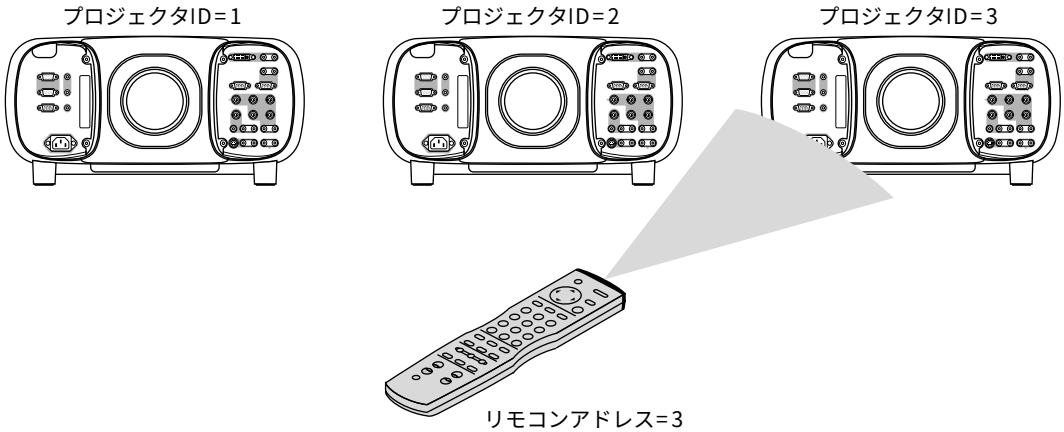
複数台のプロジェクタをリモコンで操作する

■リモコンで各々のプロジェクタをワイヤレス操作する

1個のリモコンで各々のプロジェクタがワイヤレスで操作できます。

この機能を使用するには、はじめにプロジェクタのID番号の設定を行ってください。リモコンIDと同じ番号のプロジェクタが操作できます。（なお、この設定は各々のリモコンとプロジェクタを対応させて他のプロジェクタが動作しないようにする場合にも使います。）

- プロジェクタのメニューの［機器設定］→［セットアップ］→［ページ6］の設定画面の［プロジェクタID］で番号を設定します。（*97*ページ「プロジェクタのID番号を設定する」*参照*）
- リモコンのID番号を操作したいプロジェクタのID番号に設定します。
  〈CTL〉ボタン+〈MENU〉でリモコンIDを入力します。（*68*ページ「リモコンのIDを設定する」*参照*）



■リモコンで各々のプロジェクタをワイヤードで操作する

1個のリモコンでプロジェクタを個別にワイヤードで操作することができます。

1）各プロジェクタのREMOTE2端子を添付のリモコンケーブルで接続します。

2）プロジェクタIDを各々設定します。

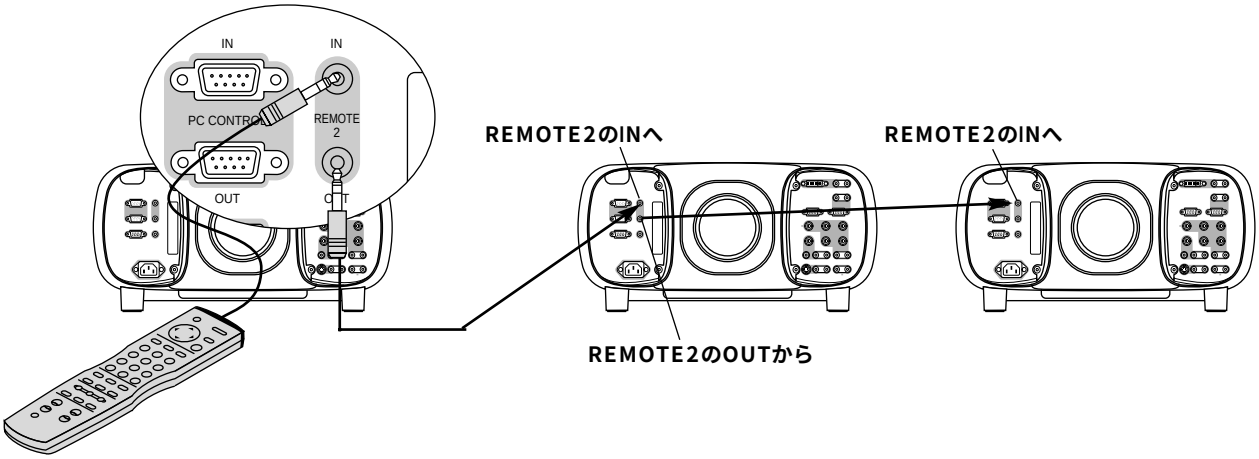
お知らせ：リモコンのID番号を［なし］（0キーを入力）にして、各プロジェクタのREMOTE2端子を添付のリモコンケーブルで接続すると、複数のプロジェクタを同時に操作することもできますが、プロジェクタの中には同期しない場合があります。

また、目的のプロジェクタだけを操作したいときは以下のようにします。

1）各プロジェクタのREMOTE2端子を添付のリモコンケーブルで接続します。

2）プロジェクタIDを各々設定します。

3）動作させたいプロジェクタのIDと同じ番号にリモコンIDを設定します。

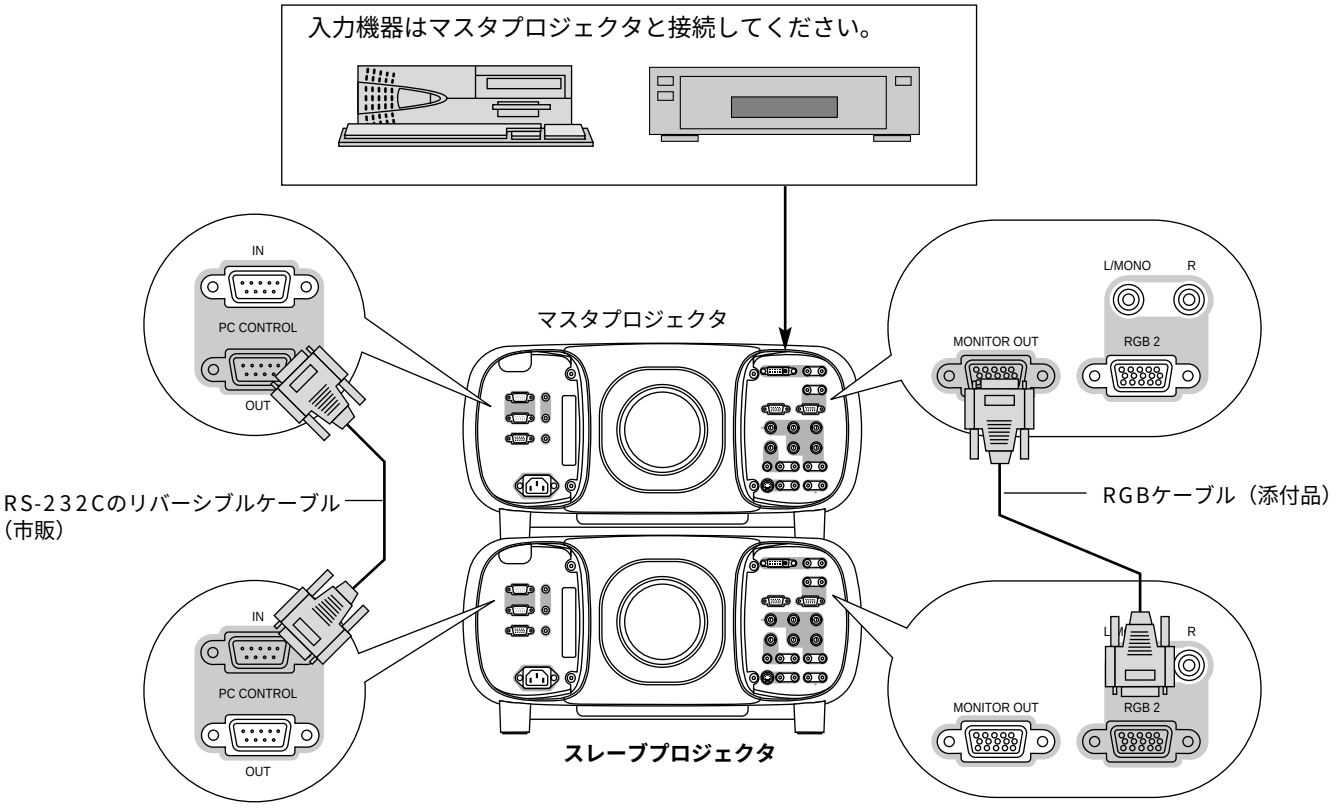


PC-CONTROL端子を使う

RGB 端子とPC-CONTROL 端子を使いリンクモード機能を使用すると、複数台のプロジェクタが一台のプロジェクタで調整や設定ができます。

■リンクモードスタック設置の接続

本機を2段積み重ねて使用することにより最大6,000ANSIルーメン（高輝度モード選択時）の高輝度の画面にすることができます。2台まで積み重ねることができます。設置調整は43ページをご覧ください。



お知らせ

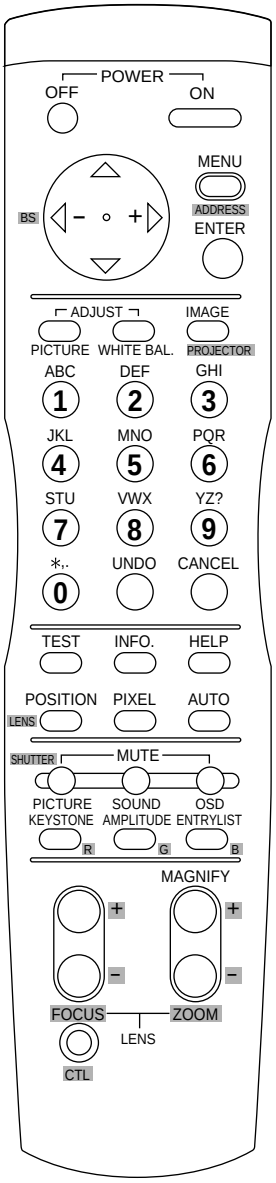
複数台リンク接続をすると画質が劣化します。このときはRGB信号を分配器で分配して各々のRGB入力端子と接続することをおすすめします。

リモコン操作

リモコンと本体のボタンで直接操作することができる機能説明です。
プロジェクタのシステム構成によっては、異なることがありますのでシステム管理者の指示に従ってください。

基本操作

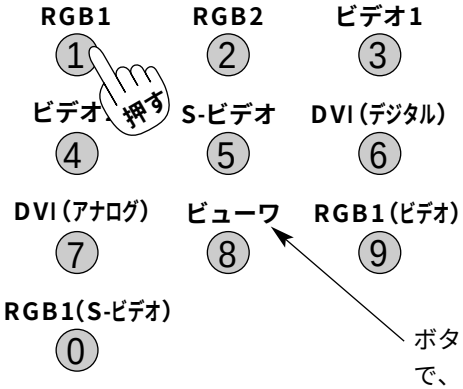
レンズキャップを外し、電源を入れてください。（「電源の入／切」*38ページ参照*）



■入力の選択

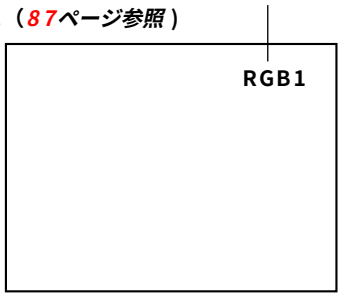
〈INPUT〉ボタンから選ぶ

目的のボタンを押します。



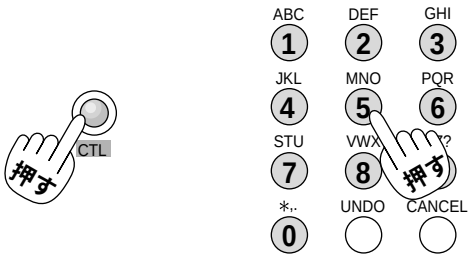
ボタンの数字に対応している入力信号の説明で、リモコンには表記されていません。

設定により入力端子表示をしばらく表示します。（*87ページ参照*）



信号リストから直接呼びだす場合（ダイレクトキー）

〈CTL〉ボタンを押しながら信号リストに登録されている数字ボタンを押します。
登録されている入力信号が呼び出されます。登録のしかたは（*74ページ参照*）



信号リストから入力を選ぶ(メニュー操作)

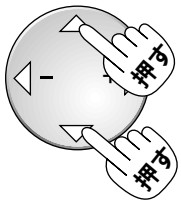
あらかじめ入力信号や画面調整状態が登録されている信号リストを表示して入力を選びます。（*62ページ参照*）

〈SOURCE〉ボタンで入力を選択します。
押すごとに　RGB1 → RGB2 → ビデオ1 →ビデオ2→S-ビデオ→DVI（デジタル）→DVI（アナログ）→ビューワ　とくり返し変わります。
● 信号が入力されていない場合は、飛び越します。

● DVDプレーヤなどコンポーネント信号の機器をRGB端子に接続していて正常に映らない場合は、92ページ「信号モードの選択」をご覧ください。

■ 音量の調整

プロジェクタ内蔵スピーカおよびAUDIO OUT端子の音量調整です。
オンスクリーンメニューを表示しているときは音量が変わりません。



大きくなります。

小さくなります。

音量調整表示

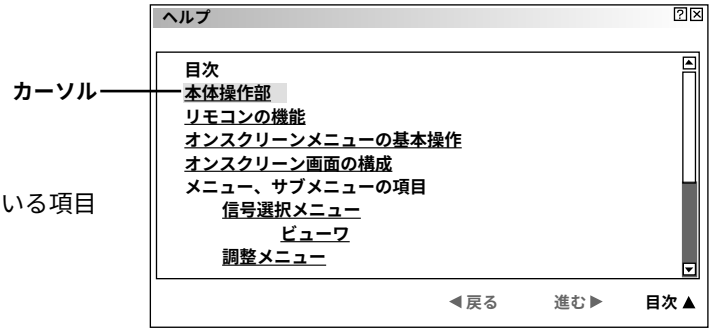
- 音量調整表示は3秒間ボタン操作がないと閉じます。
- ［メニュー設定］の［音量調整バー］が非表示に設定されているときは表示が出ません。（*89ページ参照*）

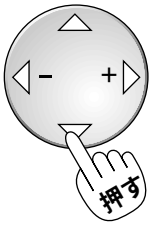
お知らせ　内蔵スピーカの音声を常にOFFにする機能があります。（*95ページ参照*）

■プロジェクタの操作説明を見る

メニューの操作方法やプロジェクタの調整／設定方法が書かれています。

目次を表示します。
各種調整・設定画面を表示しているときは、選択している項目のヘルプを表示します。





ENTER

〈SELECT▲／▼〉ボタンでカーソルが移動し〈ENTER〉ボタンを押すとカーソル位置の項目のページに変わります。
〈SELECT ◀／▶ 〉ボタンでたどってきたページに戻したり進めたりします。
（詳しくは「ヘルプを見る」103ページをご覧ください。）

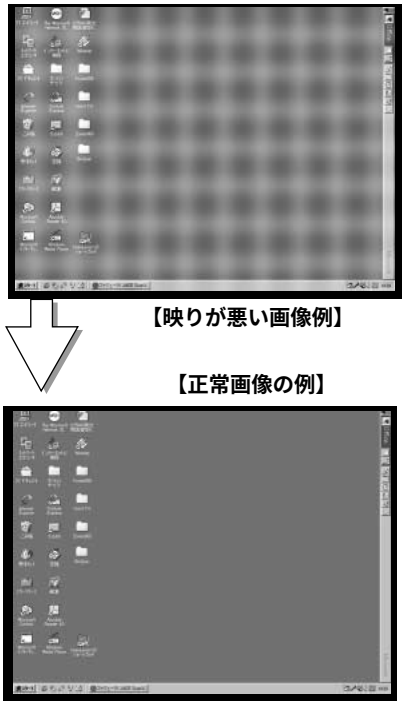
CANCEL

ヘルプ表示を終了するには
〈CANCEL〉ボタンを押します。
メニュー表示になります。さらに〈CANCEL〉ボタンを押します。

■画像を自動調整する 入力 RGB

パソコンと接続している場合で画面が切れていたり映りが悪い場合表示解像度などを調整します。

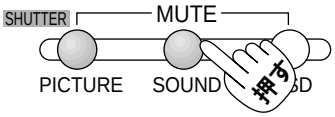
〈AUTO〉ボタンを押します。[ ]アイコンが表示され、しばらくするとパソコンの画面の大きさなどがプロジェクタの投写画面におさまるように自動調整されます。



- 〈AUTO〉ボタンで調整しても表示位置がずれていたり、画面に縦じまがでたり映りが悪い場合は、手動で画像調整を行ってください。(*79ページ参照*)
  パソコンの投写映像がうまく映らない場合は50ページをご覧ください。
- 映像や画像を調整すると自動的に信号登録されますが、自動調整のみ実施した場合、自動的には信号登録されません。その場合は手動で信号登録を行ってください。自動調整後、他の調整を実施すると自動的に信号登録されます。詳しくは72ページ「信号リストからの入力選択」をご覧ください。

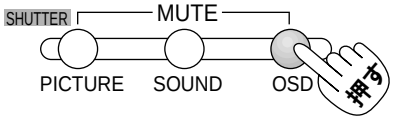
■映像・音声・オンスクリーン表示を消去する

映像、音声およびオンスクリーン表示を一時的に消します。



〈MUTE PICTUER〉ボタンを押すと映像が消えます。
〈MUTE SOUND〉ボタンを押すと音声が消えます。
もとに戻すには、それぞれのボタンをもう一度押してください。

〈MUTE OSD〉ボタンを押すと入力端子表示やオンスクリーンメニューが消えます。



元に戻すには、入力切り換えなどのボタン操作をするか、もう一度このボタンを押します。

お知らせ

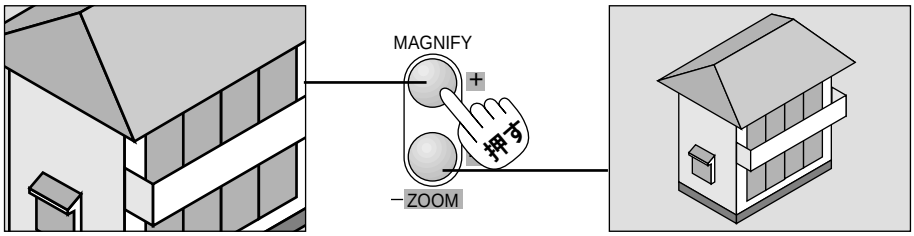
- 〈CTL〉ボタンを押しながら〈MUTE OSD〉ボタンを押すと入力表示を強制消去し、入力切り換えなどのボタン操作をしても入力表示は出ません。
- オンスクリーンメニューを表示中に〈CTL〉ボタンを押しながら〈MUTE OSD〉ボタンを押すと、オンスクリーンメニューは画面から消えますが、各調整は可能となります。

元に戻すには、〈CTL〉ボタンを押しながら〈MUTE OSD〉ボタンを押してください。

■画像の拡大と移動

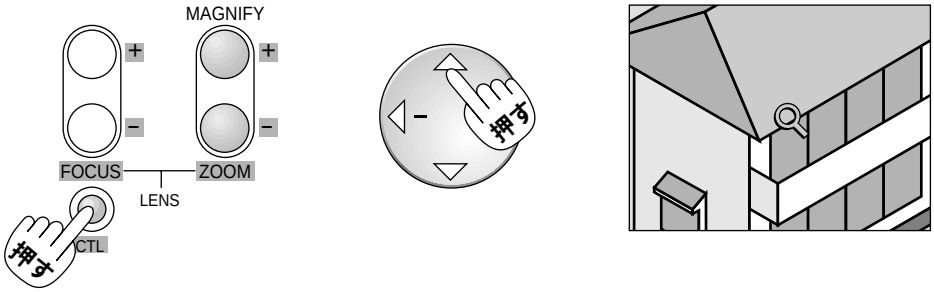
目的の部分を最大4倍まで拡大表示できます。

画面を拡大／縮小（元に戻す）する

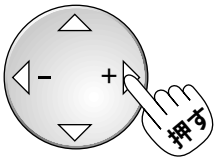


画像を移動する場合

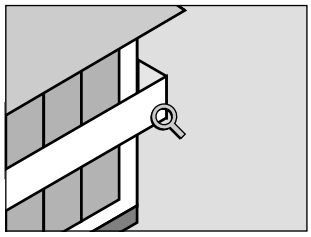
1 画像拡大中に〈CTL〉ボタンを押したまま〈SELECT ▼▲◀▶ 〉のどれかを押すと画面上に［🔍］ポインタを表示します。



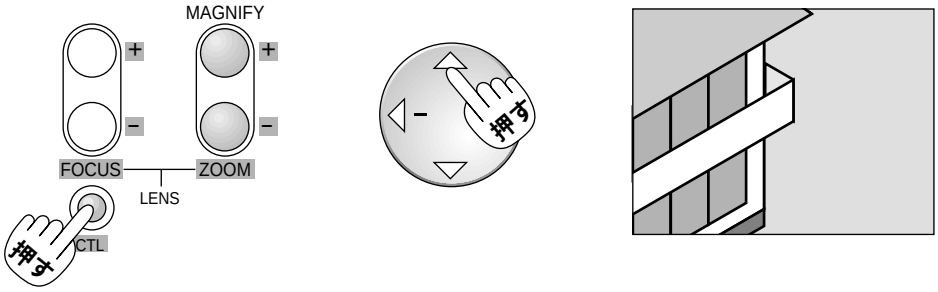
2 ポインタを表示しているとき〈SELECT ▼▲◀▶ 〉ボタンを押すと画像が移動します。



この状態で〈MAGNIFY〉ボタンを押すと［🔍］を中心に拡大／縮小します。



3 終わりましたら〈CTL〉ボタンを押したまま〈SELECT ▼▲◀▶ 〉のどれかを押してポインタ表示を消します。
（拡大していた画面を元の大きさに戻すと自動でポインタが消えます。）

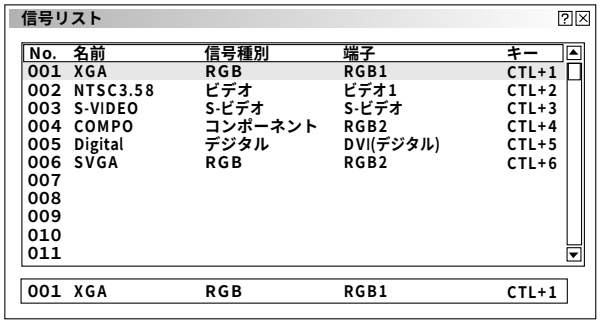


■信号リストから入力選択する

映像・画像が調整済みの信号を選んで映すことができます。

〈ENTRY LIST〉ボタンを押すと信号リストが表示されます。

〈SELECT ▲／▼〉ボタンで目的の信号を選択し〈ENTER〉ボタンを押すと、選択した入力信号に切り換わります。
〈SELECT ►〉ボタンを押すと信号No.が10づつ進み、
〈SELECT ◄〉ボタンを押すと戻ります。



- 本機は、映像や画像を調整すると、自動的に信号リストに登録するメモリ機能があります（最大100件）。
- 〈CTL〉ボタンを押したまま〈ENTER〉ボタンを押すと信号編集コマンド表示が出ます。使いかたは72ページをご覧ください。
- メニューを閉じたとき・入力を切り換えたとき・電源を切るときに登録されます。

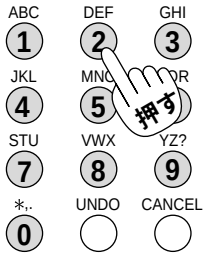
■ビデオユニット（ISS-6020J）のスロット選択

ビデオユニットが接続されている場合は、ビデオユニットのスロット（チャンネル）を直接指定することができます。（オンスクリーンメニュー非表示の時有効）

- あらかじめ、スイッチャ連動モードの設定が必要です。［非連動］に設定されている場合は働きません。（*99ページ参照*）

ビデオユニットが1台接続されている場合（1レベル　設定の時）

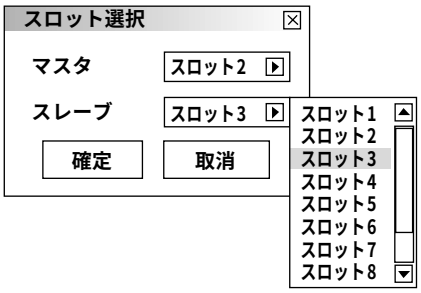
〈INPUT〉ボタンでスロット番号を入力します。



ビデオユニットが2台以上接続されている場合（2レベル　設定の時）

1 〈INPUT〉ボタンで目的のマスタスロット番号を入力します。
［スロット選択］設定画面が出ます。
このとき設定画面のマスタは〈INPUT〉ボタンで選択した番号に設定されます。

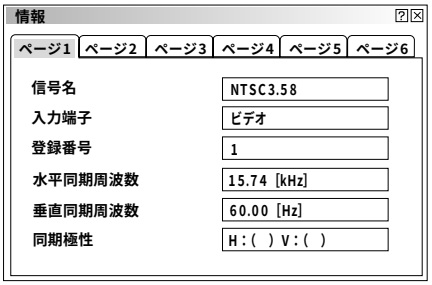
2 スレーブのプルダウン一覧からスロット番号を選択します。
これでよければ、［確定］を選択して〈ENTER〉ボタンを押します。



■情報画面を開く

入力信号やランプ使用時間などの機器に関する情報を表示します。

〈INFO.〉ボタンを押すと［情報］を表示します。



ページ切り換えは〈SELECT ◄／►〉ボタンで行います。
表示を閉じるときは〈INFO.〉ボタンを押します。

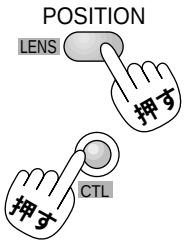
調整と設定

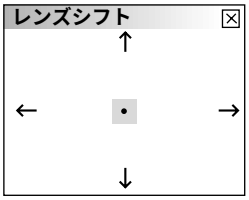
■画面位置を調整する

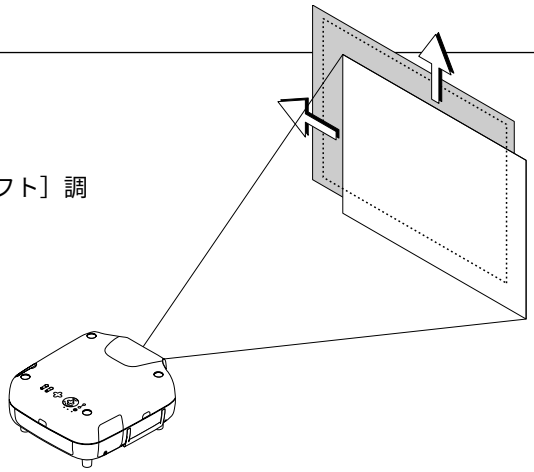
プロジェクタを常設している場合は、通常調整の必要はありません。

〈CTL〉ボタンを押しながら〈POSITION〉ボタンを押します。［レンズシフト］調整画面を表示します。

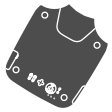
〈SELECT ▼▲◀▶ 〉ボタンで上下左右の画面位置を調整します。







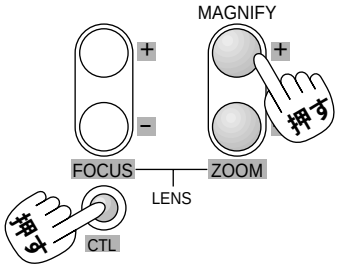
調整表示を閉じるには〈CANCEL〉ボタンを押します。
調整可能範囲は34ページ「レンズシフト範囲」をご覧ください。

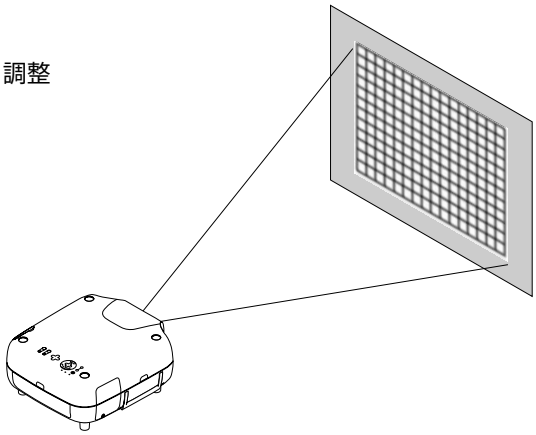


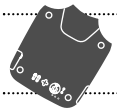
〈LENS SHIFT ▼▲◀▶ 〉ボタンを押すと移動します。

■画面サイズを調整する

〈CTL〉ボタンを押したまま〈ZOOM ＋,－〉ボタンを押して画面サイズを調整します。



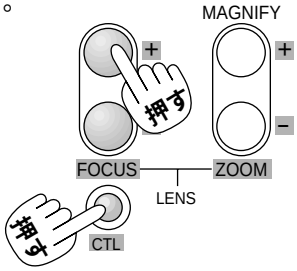


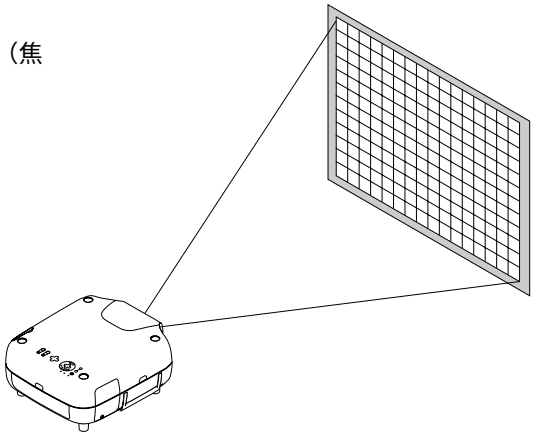


〈ZOOM ＋,－〉ボタンで直接画面サイズが変わります。

■フォーカス（焦点）を調整する

〈CTL〉ボタンを押したまま〈FOCUS ＋,－〉ボタンを押してフォーカス（焦点）を合わせます。

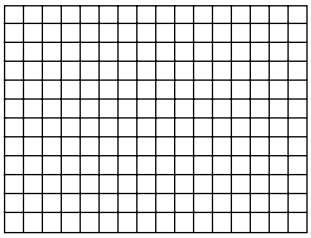




〈FOCUS ＋,－〉ボタンで直接フォーカスが変わります。

■テストパターンを映す

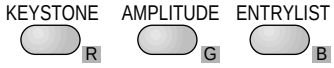
フォーカス調整や映像調整などにテストパターンを使います。



〈TEST〉ボタンを押すごとに
クロスハッチ→グレイバー→カラーバー→ブラックラスタ→グレイラスタ→ホワイトラスタ→チェッカ→フォーカス→アスペクト　とくり返し表示します。
テストパターンを終了するには他の入力に切り換えます。

テストパターン表示中に、〈CTL〉ボタンを押しながら〈KEYSTONE（R)〉〈AMPLITUDE（G)〉〈ENTRY LIST（B)〉ボタンを押して、テストパターンのRGB各色のON／OFFができます。押すごとにON／OFFをくり返します。

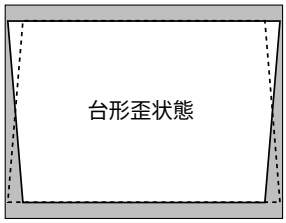
〈CTL〉＋〈KEYSTONE（R)〉……赤（R信号）をON／OFFします。
〈CTL〉＋〈AMPLITUDE（G)〉……緑（G信号）をON／OFFします。
〈CTL〉＋〈ENTRY LIST（B)〉……青（B信号）をON／OFFします。



■上下方向台形歪みの調整

プロジェクタ設置時にプロジェクタとスクリーンが斜めに（上下方向）なっていると台形の歪みが生じます。この歪み調整に台形補正を使います。

〈KEYSTONE〉ボタンを押します。台形補正調整表示が出ます。



〈SELECT ◄／► 〉ボタンで左右が平行になるように調整します。
表示を閉じるには〈KEYSTONE〉ボタンを押します。

- 上下方向の台形歪補正ができます。
- 台形歪補正値を保存しておくことができます。（*95ページ参照*）
- レンズが0度の場合で、上下方向に最大約－30～＋30度まで補正できます。

■映像の調整

入力 RGB　入力 ビデオ　入力 Sビデオ　入力 コンポーネント

調整は目的の映像を映してから行ってください。現在の入力選択で調整できる項目を表示します。

RGB選択, DVI 選択時　［明るさ］［コントラスト］を表示します。

コンポーネント選択時　［明るさ］［コントラスト］［カラー］［色相］を表示します。
ただし、色相の調整範囲は少し狭くなります。

ビデオ／S-ビデオ選択時　［明るさ］［コントラスト］［カラー］［色相］［シャープネス］を表示します。

〈ADJUST PICTURE〉を押すと［映像調整］表示が出ます。

映像調整項目は〈SELECT ▲／▼〉で選択します。選択された項目は明るくなります。
〈SELECT◄／► 〉ボタンで調整します。
表示を閉じるにはもう一度〈ADJUST PICTURE〉ボタンを押します。

【例　コントラスト選択】

標準調整位置は緑色に変わります。

調整バーの長さが変わります。

項　　目	SELECT ◄（−）ボタン	SELECT ►（+）ボタン
明るさ	暗くなります	明るくなります
コントラスト	画像が淡くなります	画像が濃くなります
カラー	色が淡くなります	色が濃くなります
色　相	赤みがかります	緑がかります
シャープネス	やわらかい画像になります	くっきりした画像になります

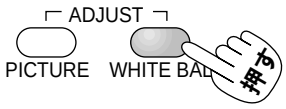
■ホワイトバランスの調整

入力 RGB　入力 ビデオ　入力 Sビデオ　入力 コンポーネント

※ビューワ選択時は色温度のみ調整可

色の再現性の基本となるホワイトバランスや色温度の調整です。

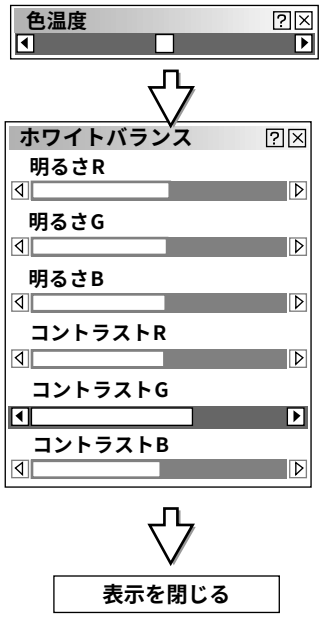
〈ADJUST WHITE BAL.〉ボタンを押します。



押すごとに　［色温度］→［ホワイトバランス］→表示が閉じる　と調整表示が切り換わります。
〈SELECT▲／▼〉ボタンで調整バーを選択し〈SELECT ◄／► 〉ボタンで調整します。

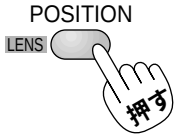
色温度 ……白さを基準にするか肌色を基準にするかの調整です。
入力映像によって使いわけてください。

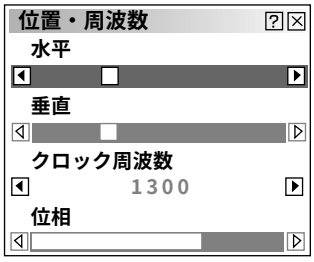
ホワイトバランス …入力信号の黒レベルと白レベルを補正して色の再現性を調整します。
［明るさR］・［明るさG］・［明るさB］で画像の黒レベルを調整します。
［コントラストR］・［コントラストG］・［コントラストB］で白レベルを調整します。



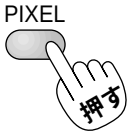
■画像の表示位置と画素を調整する 入力 RGB

〈POSITION〉ボタンを押すと［位置・周波数］の水平が選択された調整表示が出ます。
［水平］［垂直］で表示位置を調整します。調整方法は79ページをご覧ください。





〈PIXEL〉ボタンを押すと［位置・周波数］のクロック周波数が選択された調整表示が出ます。
［クロック周波数］でコンピュータの画素サイズとプロジェクタの画素サイズを合わせ［位相］でプロジェクタの画素の位相を合わせます。調整方法は79ページをご覧ください。

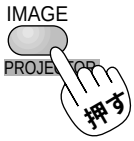


- メニューの［機器設定］→［セットアップ］→［ページ4］の自動調整が［On］に設定されているときは表示が出ません。［Off］に設定してください。（*93ページ参照*）
- 〈SELECT ▲／▼〉ボタンで項目を選択し〈SELECT ◀／▶ 〉ボタンで調整します。
  表示を閉じるには〈POSITION〉または〈PIXEL〉ボタンを押します。

■画像設定表示・機器の設定メニューを直接開く

画像設定表示および機器設定メニュー内の設定メニューを直接開きます。

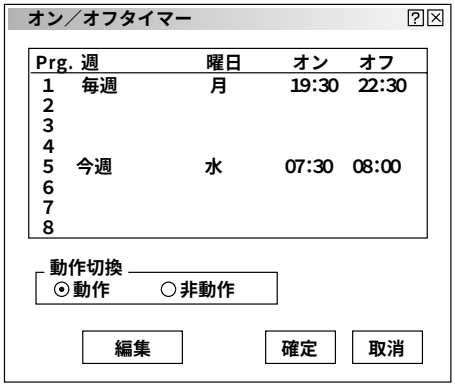
〈IMAGE〉ボタンを押すごとに、次の設定項目を表示します。調整・選択のしかたは77～81ページをご覧ください。



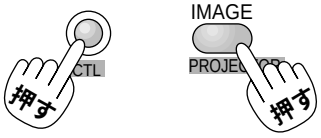
【ガンマ補正表示例】

［画像設定］内にある各設定画面を表示します。
押すごとに［ガンマ補正］→［アスペクト］→［ノイズリダクション］→［カラーマトリクス］→［解像度］→［ビデオ帯域フィルタ］→［オーバースキャン］→［クランプタイミング］→［Y／Cディレイ］→［YTR調整］→［CTR調整］→［HDディレイ］→表示を閉じる　と切り換わり、各調整ができます。
信号によっては表示されない項目があります。

【設定表示例】



〈CTL〉ボタンを押しながら〈IMAGE〉ボタンを押すと、［機器設定］内の各メニューを表示します。選択・設定のしかたは83～99ページをご覧ください。

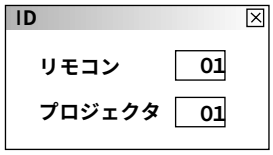


押すごとに　［オン／オフタイマー］→［スリープタイマー］→［メニュー設定］→［セットアップ］→［リンクモード］→［スイッチャ連動モード］→表示を閉じる　と設定メニューが切り換わります。

■リモコンのIDを設定する

プロジェクタを複数台接続して目的のプロジェクタのみリモコン操作する場合や、一台のリモコンで複数台のプロジェクタを同時に操作する場合にリモコンIDを設定します。

〈CTL〉ボタンを押しながら〈MENU〉ボタンを押します。ID設定画面が表示されます。



〈INPUT〉ボタンでIDを入力し、〈ENTER〉ボタンを押します。
表示が閉じて設定されます。
リモコンIDを［1］～［64］…IDが一致したプロジェクタのみが動作します。
リモコンIDを［なし］（0キーを入力）に設定…各プロジェクタにIDが設定されていても各プロジェクタが操作できます。

- ［プロジェクタID］にはすでに設定されている本機のプロジェクタのIDを表示しますが、プロジェクタIDの設定はできません。
  プロジェクタのID設定は97ページをご覧ください。
- プロジェクタIDが［無効］に設定されている場合は、リモコンIDがどの番号に設定されていてもプロジェクタは動作します。
- ビデオユニットと連動モードで使用し、リモコンをワイヤードで使用しているときはこのアドレス設定表示は表示されませんが、設定はできます。
  リモコンの電池を抜いたり、電池が切れた場合は、リモコンIDは［0］に戻ります。

お知らせ

リモコンで直接呼び出した調整表示を閉じるとき

〈ENTER〉ボタンを押すと、調整を確定してサブメニュー表示に変わり、〈CANCEL〉ボタンを押すと、調整を無効にしてサブメニュー表示に変わります。その後、〈CANCEL〉ボタンを押すとメニューを閉じます。

入力の選択

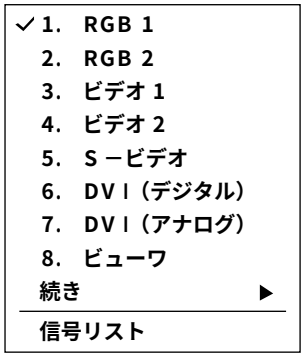
オンスクリーンメニュー表示のしかた、選択・設定のしかたは「オンスクリーンメニューを使う前に」（*24ページ参照*）をご覧ください。

■入力の選択（プロジェクタ単体で使用時）

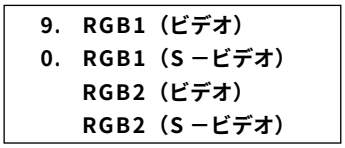
プロジェクタの入力端子に接続している機器の選択です。

- 現在選択されている入力端子には✔マークを表示します。
- ビューワの使いかたは106ページをご覧ください。

1. RGB1　RGB1端子に接続している機器の映像を映します。
2. RGB2　RGB2端子に接続している機器の映像を映します。
RGB1, RGB2端子と接続しているコンポーネント入力信号もRGB1, RGB2入力を選択してください。（*48ページ参照*）
3. ビデオ1　VIDEO1端子に接続している機器の映像を映します。
4. ビデオ2　VIDEO2端子に接続している機器の映像を映します。
5. S－ビデオ　S-VIDEO端子に接続している機器の映像を映します。
6. DVI（デジタル）　DVI端子と接続している機器がDVIデジタル信号の場合に選択します。
7. DVI（アナログ）　DVI端子と接続している機器がDVIアナログ信号の場合に選択します。
8. ビューワ　ビューワのスライドを映します。



- ［続き］にカーソルを合わせると残りの項目を表示します。
但し、この信号選択はRGB1またはRGB2端子と外部機器のビデオ信号を特殊なケーブルで接続する場合で一般には使用しません。

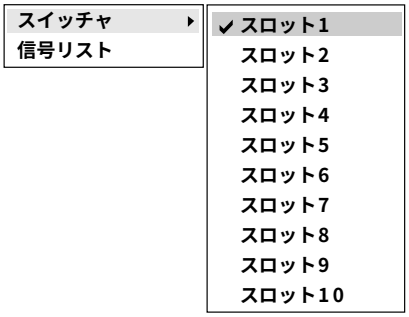


■ビデオユニットの入力選択（ビデオユニット接続時）

本機とビデオユニット（ISS-6020J）を接続している場合のスロット選択です。
［スイッチャ連動モード］の設定により信号選択項目が異なります。
ビデオユニットとの接続は53ページ、スイッチャ連動モードの設定は99ページをご覧ください。

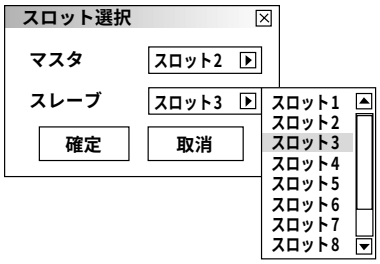
［1レベル］設定の場合

［スイッチャ］を選択するとスイッチャのスロット選択表示が出ます。
目的のスロット番号を選択します。



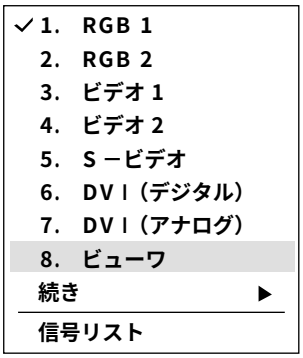
［2レベル］設定の場合

［スイッチャ］を選択するとスロット選択画面を表示します。
マスタのスロット番号とスレーブのスロット番号を各々のプルダウンリストから選択し［確定］してください。



■ビューワツールバーの名称とはたらき

ビューワのスライドを映しているときにビューワツールバーを表示するには、リモコンの〈MENU〉ボタンを押します。



お知らせ

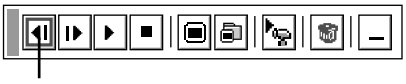
- ［ビューワ］選択後の動作は［セットアップ］→［ページ1］のビューワオプションで設定されている内容で動作します。（*91ページ参照*）
- ビューワで再生できる画像は、ビューワ専用ソフトウェア「PC Card Viewer Utility 1.0］で作成されたスライド（.idx)、本機でキャプチャした画像、デジタルカメラで撮影された画像（対応フォーマットは JPEG, BMP）です。

ビューワツールバーの選択

〈SELECT ◀／▶〉ボタンでカーソルを合わせ、〈ENTER〉ボタンを押します。

- ビューワツールバーは〈CTL〉ボタンを押したまま〈SELECT ▼▲◀▶〉ボタンを押すと移動します。

ビューワツールバー



カーソル

アイコンのはたらき

◀II	**逆送り**	再生画面／スライド一覧／フォルダー一覧画面が前に戻ります。
II▶	**順送り**	再生画面／スライド一覧／フォルダー一覧画面が次に進みます。
▶	**再生**	ビューワオプションの自動再生／手動再生の設定により再生を行います。 手動再生の場合は次の画面に進みます。 スライド一覧画面の場合は、選択しているスライドから、フォルダー一覧画面の場合は選択しているフォルダの始めから再生します。
■	**停止**	自動再生の場合は再生を強制的に停止します。
▣	**スライド一覧**	再生画面のときは、1つのフォルダのスライドを縮小して一覧表示します。 フォルダー一覧画面のときは、選択されているフォルダのスライドを縮小して一覧表示します。

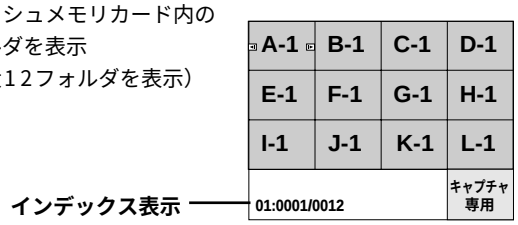
【例】Aフォルダ内のスライドを表示
（最大12スライドを表示）

A-1	A-2	A-3	A-4
A-5	A-6	A-7	A-8
A-9	A-10	A-11	A-12
01:0001/0012			

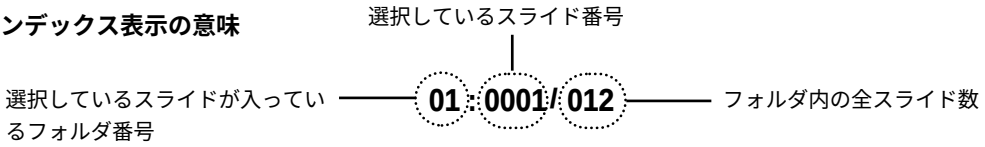
フォルダー覧

フォルダインデックスの一覧を表示します。
フォルダインデックスの最初のスライドを縮小して一覧表示します。

【例】フラッシュメモリカード内のフォルダを表示
（最大12フォルダを表示）

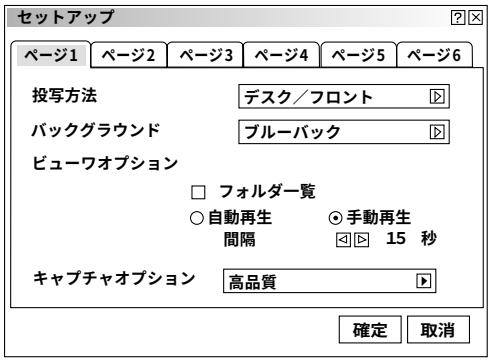


インデックス表示の意味



設定

ビューワオプションの設定画面を表示します。
ビューワ再生時の設定を変える場合に使います。設定のしかたは91ページをご覧ください。



削除

キャプチャ専用フォルダの画像が削除できます。
スライド一覧画面時…選択している画面を削除します。
フォルダー覧画面時…キャプチャ専用フォルダ内の全画像を削除します。

表示

ビューワツールバーを閉じます。
リモコンの〈CANCEL〉ボタンも同じです。
再表示するときはリモコンの〈MENU〉ボタンを押します。

お知らせ

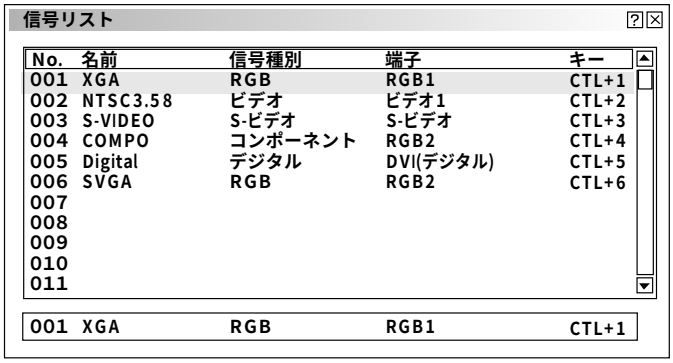
ビューワツールバーの表示中にメニューを表示させる場合

- ビューワツールバー表示中に〈MENU〉ボタンを押すと、ビューワツールバー表示を閉じてメニューを表示します。再び〈MENU〉ボタンを押すとビューワツールバー表示に戻ります。
- ビューワの使用をやめるには、リモコンの〈INPUT〉ボタンの直接入力か本体の〈SOURCE〉ボタンまたはメニューより他の入力を選んでください。

■信号リストからの入力選択

調整済みの信号を信号リストから選択して映すことができます。

［信号リスト］を選択します。信号リスト画面を表示します。
〈SELECT▲／▼〉ボタンで選択し〈ENTER〉ボタンを押します。



- 〈SELECT ►〉ボタンを押すと信号No.が10づつ進み、〈SELECT ◄〉ボタンを押すと戻ります。
- リストの編集ができます。
- 調整した信号は自動的に信号リストに記録されます。

お知らせ

入力信号の自動登録について
映像・画像を少しでも調整した場合は、若い番号順に自動登録されます。100パターンを超えるとエラーメッセージを表示します。この場合は、［信号リスト編集］で不要な登録信号を削除してください。

入力信号の手動登録について
〈CTL〉ボタンを押しながら〈ENTRYLIST〉ボタンを押すと、入力信号が直ちに登録されます。ただし、テストパターン表示中は無効となります。これは、テストパターンの青色のオン・オフの切換えに使用するためです。

■信号リストの編集

信号リストのカット・コピー・貼付けと登録内容の編集です。
［編集］では信号名の変更、入力端子（信号）の選択、リモコンのダイレクトキー設定ができます。

編集の前に［信号リスト］を表示させてください。

リストの信号を削除する

1 信号リストから削除する信号を選択します。

2 〈CTL〉ボタンを押しながら〈ENTER〉ボタンを押して［信号編集コマンド］を表示させます。

3 ［カット］を選択すると信号登録内容を削除してクリップボードに貼付け、信号編集コマンドを閉じます。

- 現在投写中の信号を削除することはできません（白文字）。
- クリップボードの内容は、信号リストを閉じた後も保存されます。
- 削除を取りやめるには、クリップボードから元の場所に貼付けます。

リストの信号をコピーする

1 信号リストからコピー元の登録No.を選択します。

2 〈CTL〉ボタンを押しながら〈ENTER〉ボタンを押して［信号編集コマンド］を表示させます。

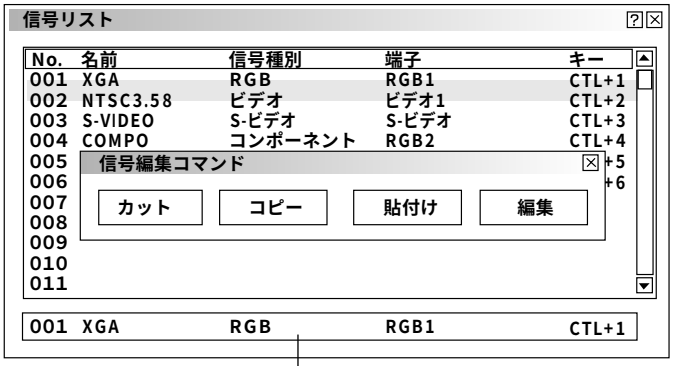
3 ［コピー］を選択すると、信号登録内容をクリップボードにコピーして信号編集コマンドを閉じます。

4 信号リストからコピー先の登録N0.を選択します。

5 〈CTL〉ボタンを押しながら〈ENTER〉ボタンを押して［信号編集コマンド］を表示させます。表示の［貼付け］が選択可能になります。

6 ［貼付け］を選択するとクリップボードの内容がコピー先の登録No.にコピーされ信号編集コマンドを閉じます。

- すでにコピー先に信号が登録されている場合は、［上書き確認］表示が出ますので、［確定］または［取消］を行います。

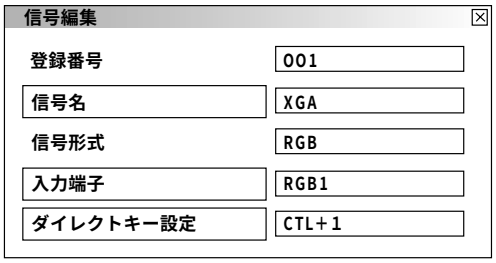


クリップボード

信号リストを編集する

準備：

1. 信号リストから編集する登録No.を選択します。
2. 〈CTL〉ボタンを押しながら〈ENTER〉ボタンを押して［信号編集コマンド］を表示させます。
3. ［編集］を選択すると［信号編集］画面が表示されます。



信号名を変更する

［信号名］を選択すると信号名の編集画面を表示します。
最大14の英数文字の入力ができます。

- 〈SELECT ◄／► 〉ボタンで文字カーソルを移動し、〈INPUT〉ボタンで英数字を選択します。
  文字入力のしかたおよび文字の変更／訂正／消去は74ページをご覧ください。

文字カーソル
文字カーソルのある位置に入力されます。

入力端子を選択する

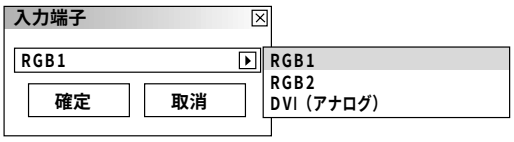
入力端子の変更を行います。RGB信号はRGB1／RGB2／DVI（アナログ）、ビデオ信号・S-ビデオ信号はビデオ1／ビデオ2／RGB1（ビデオ）／RGB2（ビデオ）／S-ビデオ／RGB1（S-ビデオ）／RGB2（S-ビデオ）の端子変更ができます。

1 ［入力端子］を選択すると入力端子設定画面を表示します。

2 プルダウンリストから選択し、［確定］します。

- DVI（デジタル）と現在投写中の信号を編集する場合、信号名、ダイレクトキー設定は変更できますが、入力端子の変更はできません。（ボタン表示になりません。）

【RGB信号時の表示例】



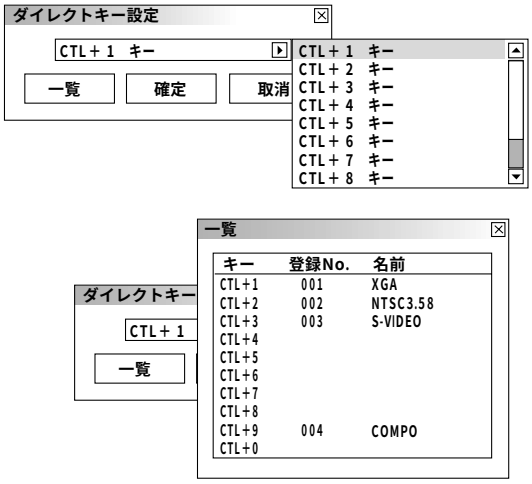
ダイレクトキーを設定する／一覧を見る

ダイレクトキー設定を行うと〈INPUT〉ボタンから直接登録No.の信号に切り換えることができます。
切り換えるには〈CTL〉ボタンを押しながら、目的の〈INPUT〉ボタンを押します。

1 ［ダイレクトキー設定］を選択するとダイレクトキー設定画面を表示します。

2 プルダウンリストから対応させる数字キーを選択し、［確定］します。

ダイレクトキー設定一覧を見るには、［一覧］を選択します。
閉じるには〈ENTER〉ボタンを押します。



文字入力のしかた

文字入力はリモコンの〈INPUT〉ボタン（0〜9）を使います。
入力例　“ XGA ”を入力

1 対応表より“ X ”は〈8〉ボタンを使います。〈8〉ボタンを押して“ X ”を選択します。（押すごとにV→W→X→8　とくり返し変わります）

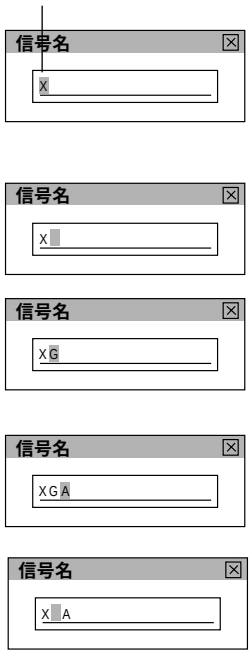
2 〈SELECT ►〉ボタンを押して文字カーソルを次へ移動させます。

3 対応表より〈3〉ボタンを押して“ G ”を選択します。

以下同じ操作で入力します。

4 入力が終わりましたら〈ENTER〉ボタンを押します。信号名表示が閉じます。

文字カーソル

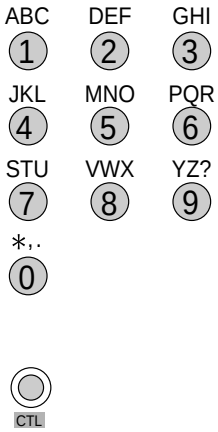


文字の変更／訂正／消去

変更したい文字上に文字カーソルを合わせ、入力例**1**の要領で文字を選択します。
また、リモコンの〈CTL〉＋〈SELECT ◄〉(BS）ボタンを押すと文字カーソルの文字が削除されます。

数字ボタンと英文字対応表

数字ボタン	直接押す	CTL併用時
1	A B C 1	a b c !
2	D E F 2	d e f "
3	G H I 3	g h i #
4	J K L 4	j k l $
5	M N O 5	m n o %
6	P Q R 6	p q r &
7	S T U 7	s t u '
8	V W X 8	v w x (
9	Y Z ? 9	y z /)
0	* , . 0	; : + -



映像調整・音量調整

オンスクリーンメニュー表示のしかた、選択・設定のしかたは「オンスクリーンメニューを使う前に」（*24ページ参照*）をご覧ください。

■映像の調整【映像調整】 入力 RGB 入力 ビデオ 入力 Sビデオ 入力 コンポーネント 入力 DVI

調整は目的の映像を映してから行ってください。現在の入力選択で調整できる項目を表示します。

RGB選択, DVI 選択時　［明るさ］［コントラスト］を表示します。

コンポーネント選択時　［明るさ］［コントラスト］［カラー］［色相］を表示します。
ただし、色相の調整範囲は少し狭くなります。

ビデオ／S-ビデオ選択時　［明るさ］［コントラスト］［カラー］［色相］［シャープネス］を表示します。

映像調整項目は〈SELECT ▲／▼〉で選択します。選択された項目は明るくなります。
〈SELECT ◄／► 〉ボタンで調整します。

項　　目	SELECT ◄（−）ボタン	SELECT ►（+）ボタン
明るさ	暗くなります	明るくなります
コントラスト	画像が淡くなります	画像が濃くなります
カラー	色が淡くなります	色が濃くなります
色　相	赤みがかります	緑がかります
シャープネス	やわらかい画像になります	くっきりした画像になります

【例　コントラスト選択】

標準調整位置は緑色に変わります。
調整バーの長さが変わります。

■音量の調整【音量】 入力 RGB 入力 ビデオ 入力 Sビデオ 入力 コンポーネント 入力 DVI

プロジェクタの内蔵スピーカの音量調整です。プロジェクタのAUDIO端子に接続している音声入力の音量調整ができます。

〈SELECT ◄／► 〉ボタンで音量調整ができます。
〈SELECT◄〉ボタンを押すと音が大きくなります。
〈SELECT◄〉ボタンを押すと音が小さくなります。

調整バーの長さが変わります。

- 工場出荷時は最小に設定されています。
- AUDIO OUT端子と接続している機器の音量も変わります。

お知らせ

内蔵スピーカの音声について

- 内蔵スピーカの音声を切る機能があります。
（*95ページ参照*）

画像調整

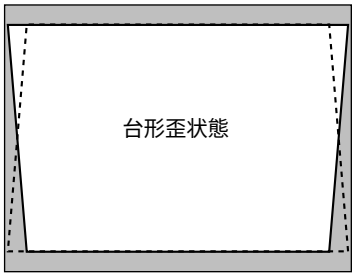
オンスクリーンメニュー表示のしかた、選択・設定のしかたは「オンスクリーンメニューを使う前に」（*24ページ参照*）をご覧ください。

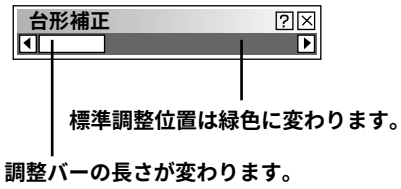
■上下方向台形歪みの調整【台形補正】

プロジェクタ設置時にプロジェクタとスクリーンが斜めに（上下方向）なっていると台形の歪みが生じます。この歪み調整に台形補正を使います。

［解像度］をリアルに設定していると白文字になり選択できません。
（*80ページ参照*）
また、すでに調整・設定している内容も無効になります。

〈SELECT ◄／► 〉ボタンで左右が平行になるように調整します。





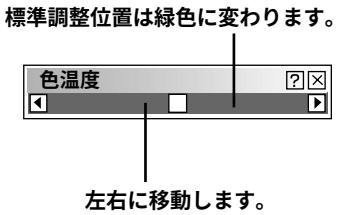
- 台形歪補正値を保存しておくことができます。（*95ページ参照*）
- レンズが0度の場合で、上下方向に最大約－30～＋30度まで補正できます。ただし、本機の表示画素数より上の解像度の信号を表示した場合、補正可能範囲が狭くなることがあります。

■色温度の調整【色温度】

色（R, G, B）のバランスを調整して色再現性を最良にします。

〈SELECT ◄／► 〉ボタンで調整します。

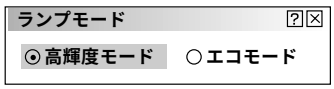
〈SELECT► 〉ボタンを押すと色温度が高くなり青みがかった白になります。
〈SELECT ◄〉ボタンを押すと色温度が低くなり赤みがかった白になります。



■ランプモードの選択【ランプモード】

小さいスクリーンサイズで映して画面が明るすぎるときや暗い室内で映す場合に使います。

〈SELECT ◄／► 〉ボタンで高輝度モードまたはエコモードを選択します。



⦿ **高輝度モード** …ランプの輝度が100%になります。
明るい画面になります。

⦿ **エコモード** ……ランプの輝度が約80%になります。
ランプ寿命がのびます。

■ガンマ補正の選択【ガンマ補正】

映像の黒い部分の階調の選択です。これにより暗い部分も鮮明に表現します。

〈SELECT ◄／► 〉ボタンで目的のガンマ補正を選択します。

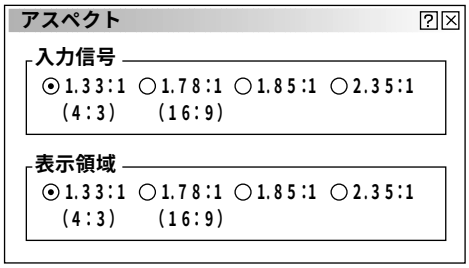
⦿ **ノーマル** ……標準的な設定です。

⦿ **ナチュラル1**……自然な色あいを重視します。
テレビ番組や一般的な映像ソースを見るのに適しています。

⦿ **ナチュラル2**……信号の暗い部分が鮮明になります。
映画を見るのに適しています。

■表示モードの選択【アスペクト】 入力 ビデオ 入力 Sビデオ 入力 コンポーネント 入力 HDTV

入力信号と表示領域それぞれ個別にサイズを指定します。信号に合わせて画面サイズを設定してください。

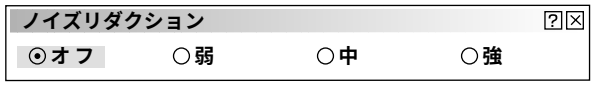


［解像度］をリアルに設定していると白文字になり選択できません。
（*80ページ参照*）
また、すでに調整・設定している内容も無効になります。

〈SELECT▲／▼〉ボタンで項目を選択します。
〈SELECT ◄／► 〉ボタンで目的の入力信号と表示領域を選択（⦿ になります）します。

■ノイズを低減する【ノイズリダクション】 入力 ビデオ 入力 Sビデオ 入力 コンポーネント 入力 HDTV 入力 DVIデジタル

映像のざらつきや色彩の濁りの原因となるノイズを低減させます。



〈SELECT ◄／► 〉ボタンで目的の設定を選択します。

⦿ **オフ**…ノイズリダクションを切ります。

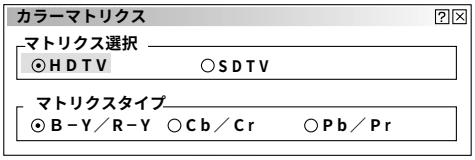
⦿ **弱** ……
⦿ **中** ……
⦿ **強** ……
輝度信号のノイズリダクションの強さを3段階から選択します。

■カラーマトリクスの選択【カラーマトリクス】入力 コンポーネント 入力 HDTV

マトリクス選択とマトリクスタイプは〈SELECT▲／▼〉ボタンで選択します。
〈SELECT ◄／► 〉ボタンで内容を選択します。

マトリクス選択

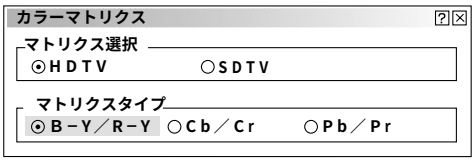
ハイビジョン放送仕様かデジタル放送仕様のカラーマトリクスかの設定です。入力信号のカラーマトリクスタイプを選択します。



⦿ **HDTV**…ハイビジョン放送仕様のカラーマトリクスです。
⦿ **SDTV** …デジタル放送仕様のカラーマトリクスです。

マトリクスタイプ

映像複合信号をRGB信号に分離する形式の選択です。入力信号のカラーマトリクスタイプに合わせます。



⦿ **B-Y／R-Y** ……B-Y／R-Y のマトリクスタイプ
⦿ **Cb／Cr** ……Cb／Cr のマトリクスタイプ
⦿ **Pb／Pr** ……Pb／Pr のマトリクスタイプ

■ホワイトバランスの調整 入力 RGB 入力 ビデオ 入力 Sビデオ 入力 コンポーネント 入力 HDTV 入力 DVI

【ホワイトバランス】

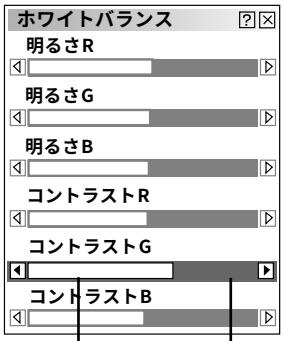
信号の白レベルと黒レベルを調整して色再現性を最良にします。

ホワイトバランス調整項目は〈SELECT▲／▼〉で選択します。選択された項目は明るくなります。
〈SELECT ◄／► 〉ボタンで調整します。

[明るさR]・[明るさG]・[明るさB] で画像の黒色を調整します。

[コントラストR]・[コントラストG]・[コントラストB] で画像の白色を調整します。

【例　コントラストGを選択】



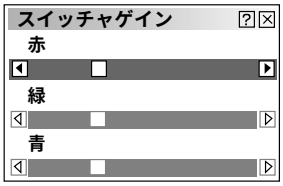
標準調整位置は緑色に変わります。

調整バーの長さが変わります。

■ビデオユニットの調整【スイッチャゲイン】　ISS-6020接続時

ビデオユニットからのRGB入力信号のゲインを調整します。接続は(*53ページ参照*)

ビデオユニットを接続すると、本機からの操作でビデオユニットを制御することができます（最大100ユニットの制御可）。機器の画像調整を統合化して管理するためには、各々のスロットからの画像を調整することにより（調整値は信号リストに自動登録）、どの機器も同じ画像状態で再現することができます。
調整はビデオユニットに接続した外部機器の信号を入力した状態で行います。（無信号時でも調整は可）



〈SELECT▲／▼〉ボタンで調整する項目を選択します。選択すると調整バーが明るくなります。
〈SELECT ◄／► 〉ボタンで調整します。

■画像の表示位置と周波数の調整【位置・周波数】

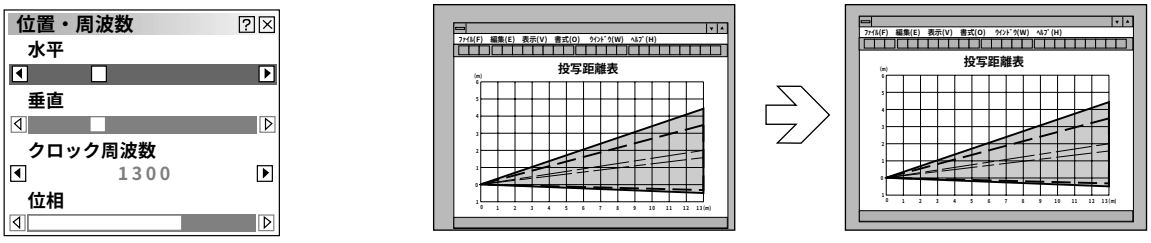
画面の表示位置とRGB信号の画素ズレを調整します。

RGB入力の場合、［自動調整］を設定していると白文字になり選択できません。手動に切り換えてください。（*93ページ参照*）

〈SELECT▲／▼〉ボタンで調整する項目を選択します。選択すると調整バーが明るくなります。
〈SELECT◀／▶ 〉ボタンで調整します。

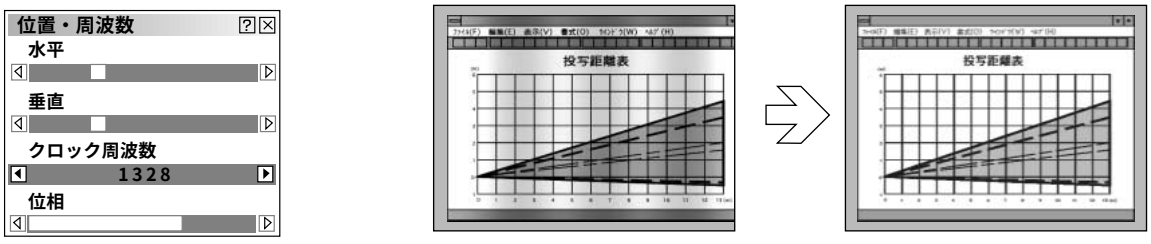
画面表示位置の調整 入力 RGB 入力 ビデオ 入力 Sビデオ 入力 コンポーネント 入力 HDTV 入力 DVI

〈SELECT◀／▶ 〉ボタンを押して画面の中心に移動させます。
［水平］は画面が水平方向に移動します。［垂直］は画面が垂直方向に移動します。



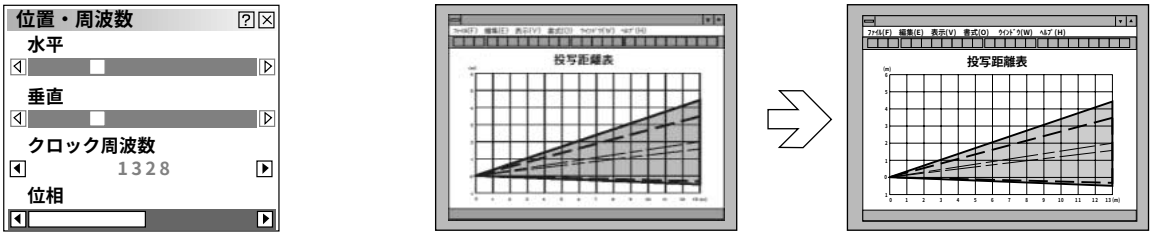
クロック周波数の調整 入力 RGB 入力 DVIアナログ

〈SELECT◀／▶ 〉ボタンを押して画面の明るさが一定になる（明暗の縦帯が出なくなる）ところが最適な調整です。



位相の調整

〈SELECT◀／▶ 〉ボタンを押して画面の色ズレ、ちらつきの最小になるところが最適な調整です。

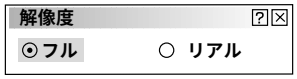


■アドバンスド・アキュブレンドの選択【解像度】 入力 RGB 入力 ビデオ 入力 Sビデオ 入力 コンポーネント 入力 HDTV 入力 DVI

プロジェクタのRGB信号の表示画素数は1024×768ドットです。この表示画素数以外の表示解像度を表示する際、文字や罫線の大きさなどが不均一になる場合があります。アドバンスド・アキュブレンド機能で補正します。この機能のON／OFFの選択です。

RGB入力の場合、［自動調整］を設定していると白文字になり選択できません。手動に切り換えてください。（*93ページ参照*）

〈SELECT◀／▶〉ボタンでフルまたはリアルを選択します。



⦿ **フル**……アドバンスド・アキュブレンド機能を入れます。
投写中の信号（VGA, SVGA, XGA, SXGA, U-XGA）によらず、プロジェクタが自動的に拡大・縮小してフル画面で表示します。

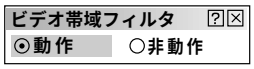
⦿ **リアル**……アドバンスド・アキュブレンド機能を切ります。
投写中の信号解像度がプロジェクタの表示画素数より下の解像度（VGA／SVGAなど）の場合、オリジナルサイズで縮小表示されます。

お知らせ

- 本機の表示画素数より上の解像度（SXGA など）の信号を表示した場合は、［リアル］を選択してもフル（表示画素数）で表示されます。
- 垂直オフセットが0度以外で投写しているときは、画像が正しい位置に表示されません。

■映像フィルタの設定【ビデオ帯域フィルタ】 入力 RGB 入力 ビデオ 入力 Sビデオ 入力 コンポーネント 入力 HDTV 入力 DVIアナログ

映像のざらつきやジッター（文字などの微妙な揺れ）を低減させます。
工場設定では、あらかじめ信号毎に適した状態に設定されています。
信号によって、映像のざらつきやジッターが気になる場合に設定します。



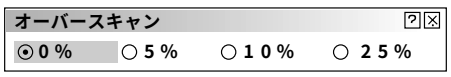
RGB入力の場合、［自動調整］を設定していると白文字になり選択できません。
手動に切り換えてください。（*93ページ参照*）

〈SELECT◀／▶〉ボタンで選択します。

⦿ **動作**　……フィルタがかかります。
⦿ **非動作**　……フィルタが切れます。

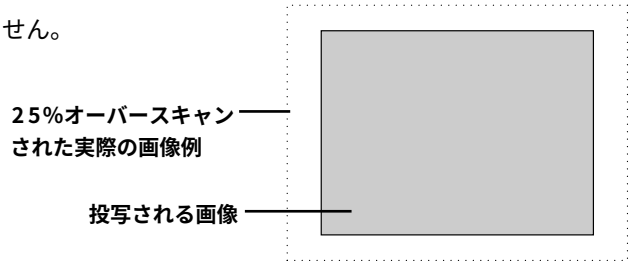
■オーバースキャンの選択【オーバースキャン】 入力 RGB 入力 DVIアナログ

オーバースキャンの割合を設定します。



［解像度］をリアルに設定していると白文字になり選択できません。
（*80ページ参照*）
また、すでに調整・設定している内容も無効になります。

〈SELECT◀／▶〉ボタンで目的の割合を選択します。
選択するとラジオボタンが⦿に変わります。



■クランプタイミングの設定【クランプタイミング】 入力 RGB 入力 ビデオ 入力 Sビデオ 入力 コンポーネント 入力 HDTV

アナログ入力信号の黒レベル再生の検出位置（クランプ位置）を信号に応じて設定します。

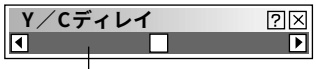
〈SELECT◀／▶ 〉ボタンで選択します。

⦿ **自動** ……通常の設定です。
⦿ **3値** ……ハイビジョン映像を映すときに設定します。
⦿ **フロントポーチ** …自動や3値に設定しても画質が改善されない場合に設定します。

■Y／Cディレイを調整する【Y／Cディレイ】 入力 ビデオ 入力 Sビデオ 入力 コンポーネント 入力 HDTV

ビデオ入力時の輝度信号・色信号の位相調整を行います。映像の輪郭の色がおかしい場合に調整します。

〈SELECT ◀／▶ 〉ボタンで調整します。

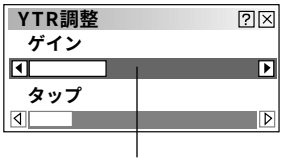


標準調整位置の場合は緑色になります。

■輝度信号のトランジェント調整【YTR調整】 入力 ビデオ 入力 Sビデオ 入力 コンポーネント 入力 HDTV

ビデオ入力時の輝度信号の立ち上がり／立ち下がりを補正します（トランジェント）。

〈SELECT▲／▼〉でゲインまたはタップを選択し、〈SELECT ◀／▶ 〉ボタンで調整します。ゲインは7段階の調整となります。

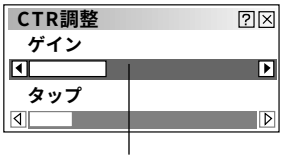


ゲインの標準調整位置の場合は緑色になります。

■色信号のトランジェント調整【CTR調整】 入力 ビデオ 入力 Sビデオ 入力 コンポーネント 入力 HDTV

ビデオ入力時の色信号の立ち上がり／立ち下がりを補正します（トランジェント）。

〈SELECT▲／▼〉でゲインまたはタップを選択し、〈SELECT ◀／▶ 〉ボタンで調整します。ゲインは7段階の調整となります。

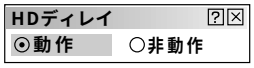


ゲインの標準調整位置の場合は緑色になります。

■HDディレイの調整【HDディレイ】 入力 DVIデジタル

DVIデジタル信号のジッターを低減するため、水平同期を遅延させます。

〈SELECT◀／▶ 〉ボタンで選択します。

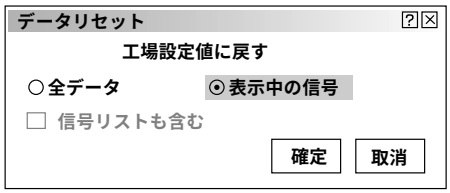


⦿ **動作** ……水平同期を遅延させます。

⦿ **非動作** ……水平同期を遅延させません。

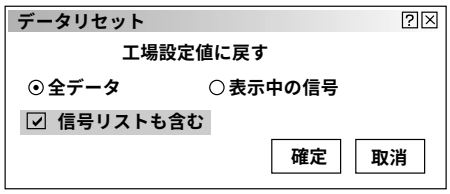
■調整データのリセット【データリセット】

プロジェクタに記録された全調整・設定値または表示中の信号について調整した調整値を初期値に戻します。



〈SELECT◀／▶ 〉ボタンで全データまたは表示中の信号を選択します。

全データを選択したときは、信号リストも　含む／含まない　の選択ができます。
〈SELECT▲／▼〉ボタンを押して［信号リストも含む］にカーソルを合わせ、
〈ENTER〉ボタンを押して✔ を入れます。再び押すとチェックが外れます。



リセットの動作中は ⌛ アイコンを表示します。

⦿ **全データ** ……設定値が工場設定値になります。

リセットされるデータ
[表示言語]・[通信速度]・[ランプ残量]・[ランプ使用時間]・[機器使用時間]
以外の全ての調整・設定値

信号リストも含む

☑ **チェックを入れる** ……信号リスト内の登録信号を削除して工場出荷状態に戻します。
☐ **チェックを入れない** …信号リスト内の登録信号を残して工場出荷状態に戻します。
信号リスト内の登録信号の調整値は戻りません。

⦿ **表示中の信号** ……表示中の信号について調整した調整値が工場設定値になります。

リセットされるデータ
［映像調整］と［画像設定］のうち［台形補正］と［ランプモード］を除いたすべての項目

取り止めるときは、［取消］を選択してください。
〈CANCEL〉ボタンでも取り消すことができます。

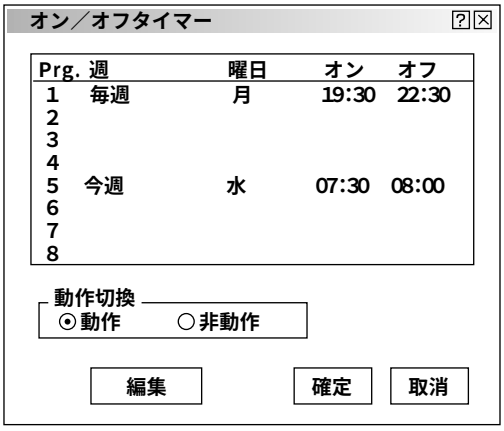
機器設定

オンスクリーンメニュー表示のしかた、選択・設定のしかたは「オンスクリーンメニューを使う前に」（*24ページ参照*）をご覧ください。

タイマー

■オン・オフタイマーの設定と動作【オン／オフタイマー】

オン・オフタイマー設定をするとプロジェクタの電源ON／OFFを自動で行うことができます。8プログラムまで設定できます。



お願い **タイマー機能を使う場合は、必ず現在時刻の設定を行ってください。**
時刻設定はオンスクリーンメニューの［メニュー設定］→［ページ2］にあります。（*88ページ参照*）

次の手順で設定してください。
項目の選択は〈SELECT▲／▼〉ボタン、ラジオボタンの選択は〈SELECT ◀／▶〉ボタン、チェックボタンの選択は〈ENTER〉ボタンで行い、プルダウンリストは〈SELECT ▶〉ボタンで表示します。

オン・オフタイマー設定のしかた

1 編集設定画面を開く
［編集］を選択します。

2 プログラム番号を選択する
プログラムのプルダウンリスト（プログラム1～プログラム8）から選択します。

3 週を選択する
毎週くり返す場合は［毎週］にチェックを入れます。今週のみの場合は［毎週］のチェックは外してください。

4 曜日を選択する
曜日のプルダウンリスト（月, 火, 水, 木, 金, 土, 日, 月～金, 月～土, 月～日）から選択します。

5 〈INPUT〉ボタンでオン時刻を入力します。時刻は24時間表記です。
例えば、午前6時のときは06時と入力してください。文字カーソルの場所に文字が入力されます。1文字入力すると文字カーソルが次に移ります。

6 〈INPUT〉ボタンでオフ時刻を入力します。
5と同じ要領で入力します。

※ オンタイマーのみ動作させる場合は、オフ時刻を空白に設定します。
オフタイマーのみ動作させる場合は、オン時刻を空白に設定します。
すでに時刻が入力されている場合は〈CTL〉＋〈SELECT ◀〉（BS）ボタンで削除します。

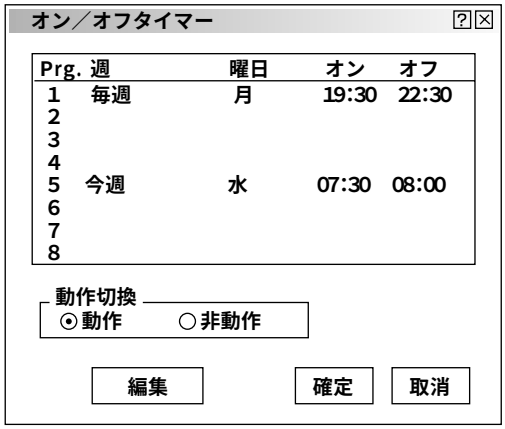
7 登録します。
［登録］を選択します。他のプログラム番号に登録する場合は**2**の操作から行います。終了する場合は［閉じる］を選択してください。

お知らせ オンタイマーのみプログラムで本機を起動し、その後4時間以上リモコンなどによる操作がなかった場合は、スタンバイ状態になります。

オン／オフタイマーを動作させる

1 **［オン／オフタイマー］設定画面で動作切換の［動作］を選択します。**

2 **［確定］を選択し〈ENTER〉ボタンを押すとオン／オフタイマー設定画面を閉じてタイマー動作が始まります。**



- 複数のプログラムを設定した場合は、すべてのプログラムが有効になります。
- オン／オフタイマーはプログラムの設定時間の若い順に動作し、オン／オフ動作が完了したプログラムは自動的に削除されます（［今週］の場合）。
- 電源コードを抜いた場合、［今週］のプログラムは、実行・未実行に関わらずクリアされます。［毎週］のプログラムは、電源コードを抜いても保持されます。

お知らせ

- 冷却ファン回転中やエラー状態の場合、オンタイマーは動作しません。

オン／オフタイマーの動作を途中で止める

［オン／オフタイマー］設定画面で動作切換の［非動作］を選択します。
（プログラムの設定内容は残ります。）

プログラム削除のしかた

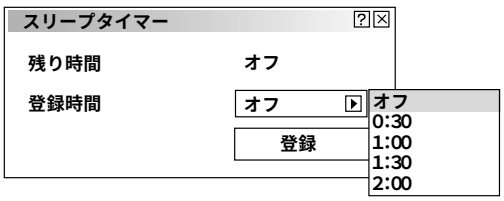
［オン／オフタイマー］→［編集］設定画面でプログラムのプルダウンリストから削除するプログラムを選択し、［削除］を選択して〈ENTER〉ボタンを押すと削除されます。（プログラム一覧表示から消えます。）

■スリープタイマーの設定【スリープタイマー】

電源の消し忘れ防止にスリープタイマーを設定しておくと省エネになります。
設定時間後に電源が切れます。（スタンバイ状態になります。）

1 **［登録時間］のプルダウンリスト（オフ, 0：30, 1：00, 1：30, 2：00）から電源切り時間を選択します。**

2 **［登録］を選択し〈ENTER〉ボタンを押すとタイマーが動作します。**



［残り時間］はスリープタイマーの残り時間を表示します。

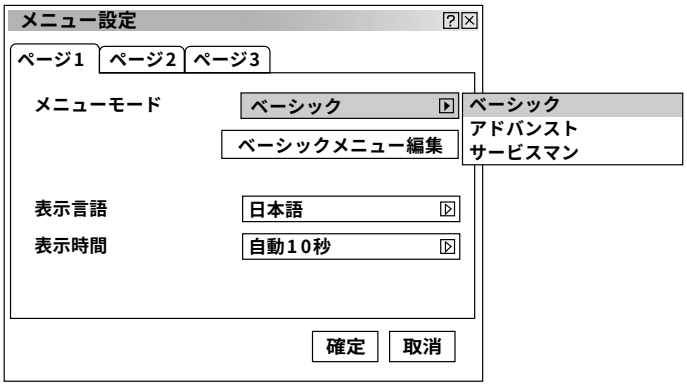
- オン／オフタイマーのオフ設定時刻より早くスリープタイマーの設定時間がきたときはスリープタイマーの時間が優先されます。

メニュー設定

■表示させるメニューモードの選択【メニューモード】

メニュー表示は、全てのメニュー項目を表示するアドバンストメニューとお客様独自に登録したメニュー項目のみを表示するベーシックメニューがあります。表示させたいメニューを選択します。

工場出荷時は基本的なメニュー項目を登録したベーシックメニューに設定しています。登録内容を変えるには［ベーシックメニュー編集］を行ってください。



メニューモードで〈SELECT ▶〉ボタンを押すとプルダウンリストが出ます。目的のモードを選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。(［サービスマン］はサービスマン専用のモードです。)

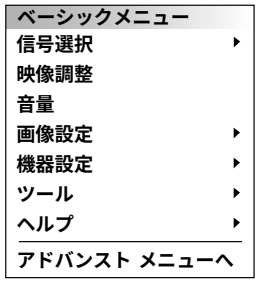
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。メニューに戻ります。

お知らせ

ベーシックメニュー表示のとき一時的にアドバンストメニューを表示させる場合

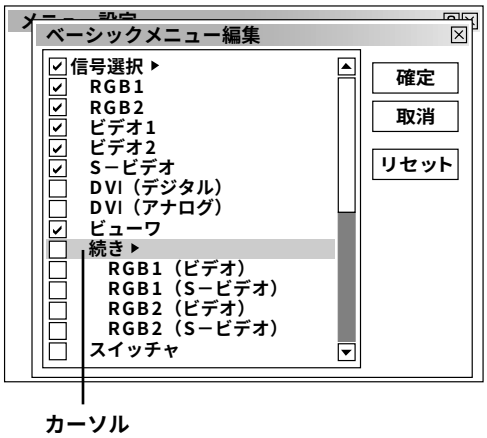
ベーシックメニューに登録していない項目の調整・設定を行う場合は、〈SELECT▲／▼〉ボタンで［アドバンストメニューへ］を選択して〈ENTER〉ボタンを押します。一時的にアドバンストメニュー表示に変わります。

再び〈MENU〉ボタンを押したときはベーシックメニュー表示に戻ります。



■ベーシックメニューを編集する【ベーシックメニュー編集】

ベーシックメニューに表示させるメニュー項目の登録／解除を行います。



1 ［ベーシックメニュー編集］を選択し〈ENTER〉ボタンを押すと、ベーシックメニュー編集表示が開きます。
登録または解除するメニュー項目にカーソルを合わせ〈ENTER〉ボタンを押して、登録（チェックが入る）または、解除（チェックが消える）を選択します。

☑ **チェックを入れる** ……登録されます。

☐ **チェックを入れない** ……登録が解除されます。

- 同様に他のメニュー項目も選択します。
- カーソルを表示範囲の一番下へ移動させ、〈SELECT ▼〉ボタンを押すと1つずつスクロールし次のメニュー項目が出ます。

次ページに続きます

2 〈SELECT ►〉ボタンで［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。メニュー設定画面に戻ります。

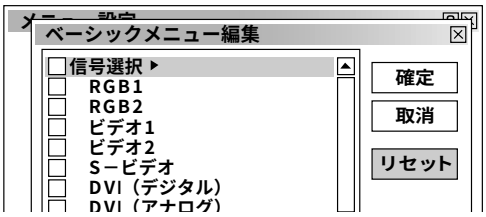
お知らせ 確定をするとメニュー設定での［取消］はできません。

取り消す場合

［取消］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。編集前の状態に戻してメニュー設定画面に戻ります。

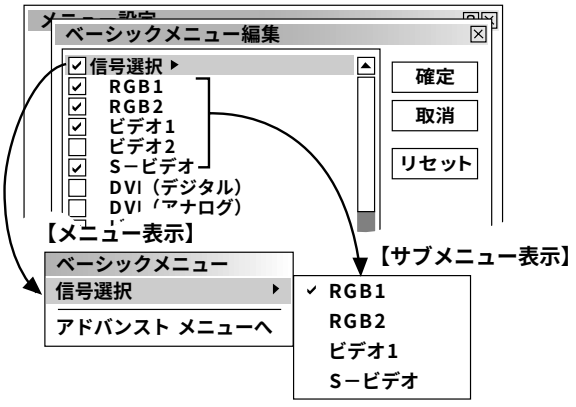
登録を工場設定に戻す場合

［リセット］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。メニュー項目のチェックが工場設定に戻ります。
〈SELECT ◄〉ボタンを押して青色のカーソルを項目選択へ戻し、はじめから操作してください。

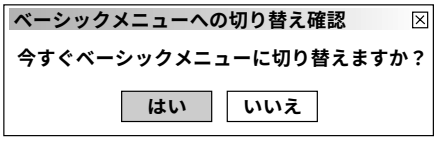


お知らせ

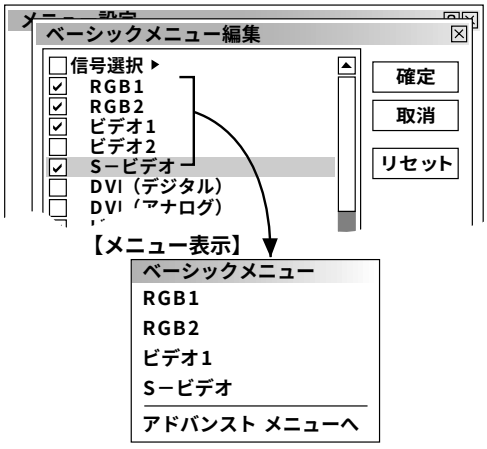
信号選択や画像設定など► が付いている項目を登録するとメニュー表示時にサブメニューで表示します。またこの項目の選択だけでサブメニュー全部の登録ができます。
サブメニューの項目中1つ以上を解除に設定すると► が付いている項目名のチェックがグレーになります。



メニューモードが［アドバンストメニュー］に設定された状態でベーシックメニュー編集を［確定］すると、ベーシックメニューへの切り換え確認表示が出ます。
［はい］を選択すると、開いている画面が全て閉じてベーシックメニューが表示されます。［いいえ］を選択すると、メニューはアドバンストメニューのままで、ベーシックメニュー編集の設定が保存されます。ベーシックメニューを表示するには、メニューモードで［ベーシックメニュー］を選択します。



メニュー表示のときサブメニューを表示しない様にするには► が付いている項目名のチェックを外して、個々にチェックを入れてください。
サブメニューを表示しない方法では最大12項目が登録できます。（サブメニュー表示と非表示の組み合わせでも最大12項目となります。）



工場設定時のベーシックメニュー項目

以下の項目にチェックが付いています。

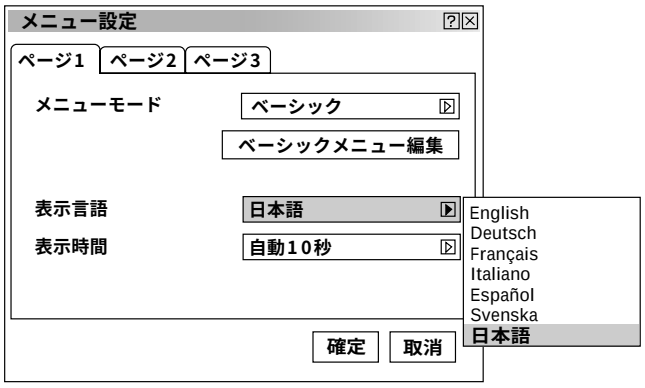
信号選択（RGB1、RGB2、ビデオ1、ビデオ2、S-ビデオ、DVI（デジタル）、DVI（アナログ）、ビューワ）
映像調整
音量
画像設定（台形補正、色温度、ランプモード）
機器設定（メニュー設定、セットアップ）
ツール（キャプチャ、ファイル選択）
ヘルプ（目次、情報）

■メニューの表示言語を選択【表示言語】

メニューに表示される言語の設定です。

表示言語で〈SELECT►〉ボタンを押すとプルダウンリストが出ます。

目的の言語を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

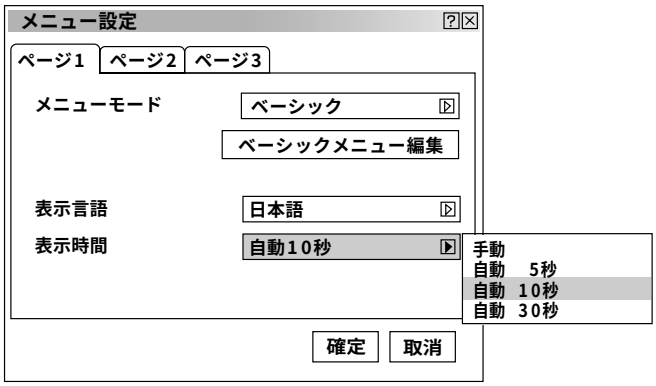


■メニューの表示時間の選択【表示時間】

メニューを表示しているとき、次のボタン操作がない場合にメニューを自動で画面から消去する時間の選択です。

表示時間で〈SELECT►〉ボタンを押すとプルダウンリストが出ます。

目的の時間を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。



お知らせ

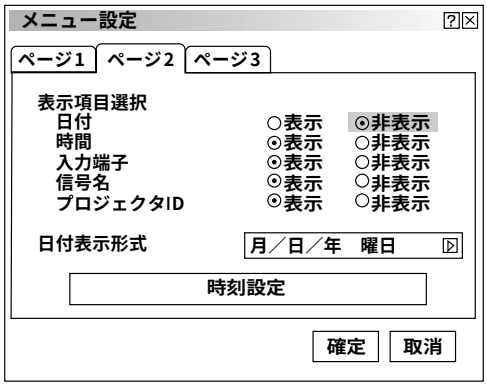
- 手動を選択した時にオンスクリーンを消すには〈MUTE OSD〉ボタンを押します。
  また、このボタンを押さなくても20分間ボタン操作がないとオンスクリーンは消えます。
- メニューが自動的に画面から消えた後に〈MENU〉ボタン、〈ENTER〉ボタン、〈CANCEL〉ボタン、〈SELECT◄／►〉ボタンのいずれかを押すと、消える前に表示していた状態のメニューが表示されます。
- ただし、メニューが消えている間に入力信号を切り換えた場合は、消える前に表示していたメニューは表示されず、通常のメニュー操作と同様になります。

■画面に表示する内容の選択【表示項目選択】

画面上の年月日、時間、入力端子、信号名、プロジェクタIDの表示／非表示の選択です。

［ページ2］で目的の表示項目を選択し〈SELECT ◄／►〉ボタンで表示⦿／非表示○ を選択します。

よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

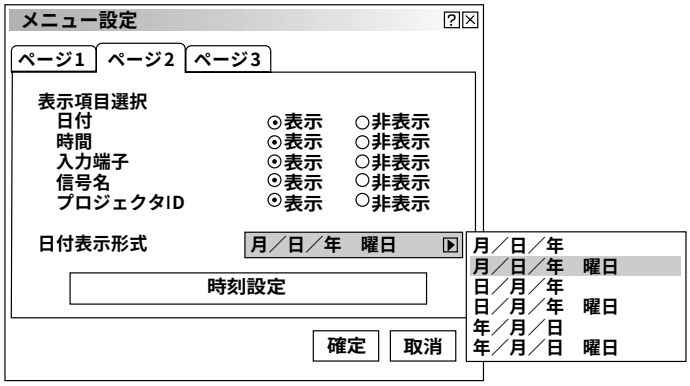


■日付の表示形式を選択する【日付表示形式】

画面に表示する年月日の表示順序の設定です。

［2ページ］の日付表示形式で〈SELECT►〉ボタンを押すとプルダウンリストが出ます。

目的の日付順を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

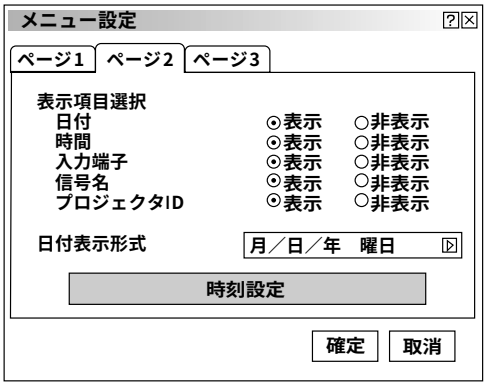


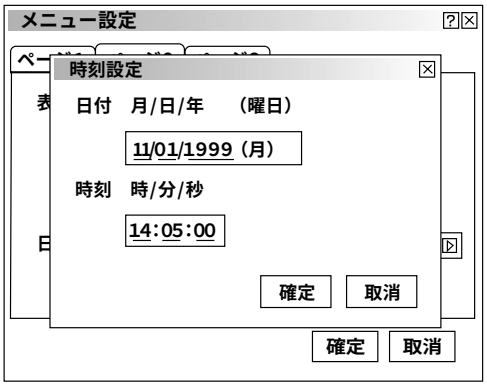
■現在時刻を設定する【時刻設定】

現在時刻の設定です。オン／オフタイマーはこの時刻を参照しますので正しく設定してください。

［ページ2］で時刻設定を選択し〈ENTER〉ボタンを押します。

時刻設定表示が出ます。





1 日付を入力する

〈INPUT〉ボタンで月, 日, 年の順に入力します。
年は西暦で入力してください。曜日は自動で設定されます。
月, 日は2桁入力してください。例えば、2月は02と入力してください。
文字カーソルの場所に数字が入力されます。1文字入力すると文字カーソルが次に移ります。

2 時刻を入力する

時刻は24時間表記です。例えば、午後6時のときは18と入力してください。
2桁入力してください。午前2時は02と入力してください。
文字カーソルの場所に文字が入力されます。1文字入力すると文字カーソルが次に移ります。

3 決定する

時刻設定の［確定］を選択し〈ENTER〉ボタンを押してください。
時計が動作します。

4 ［ページ2］の設定内容を決定する

［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

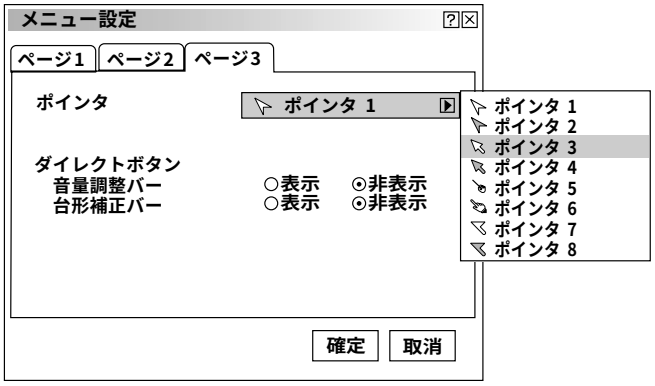
お知らせ

時計機能は主電源を切った後も約3日間動作します。主電源が切れた状態で約3日間を超えると時計機能はリセットされます。このときは、もう一度設定し直してください。なお、スタンバイ状態ではリセットされません。

■ポインタの種類を選択【ポインタ】

プレゼンテーションリモコン（別売品）のポインタ機能のポインタ形状の設定です。

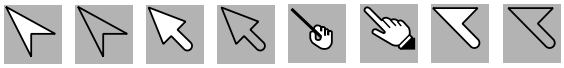
［ページ3］のポインタで〈SELECT►〉ボタンを押すとプルダウンリストが出ます。
目的のポインタを選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。〈ENTER〉ボタンを押します。



お知らせ

TVゲームなど（15kHzのノンインターレース信号）を表示する場合、ポインタ機能が使用できない場合があります。

ポインタの種類



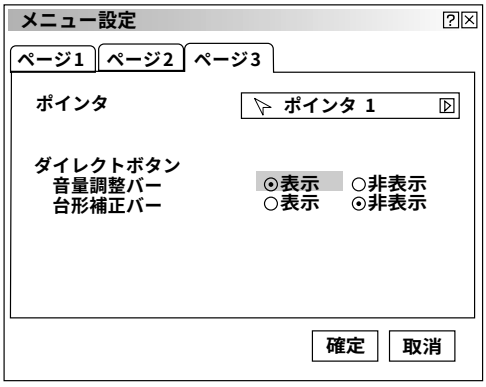
ポインタ番号	1	2	3	4	5	6	7	8

■音量調整表示のOn/Off【音量調整バー】

メニューやポインタを表示していないときに〈SELECT▲／▼〉ボタンで音量調整をする場合に音量調整バーを表示する／しないの設定です。音量調整をしたときのみ表示します。

〈VOL.〉ボタンはメニューやポインタの表示が出ていても音量調整ができます。

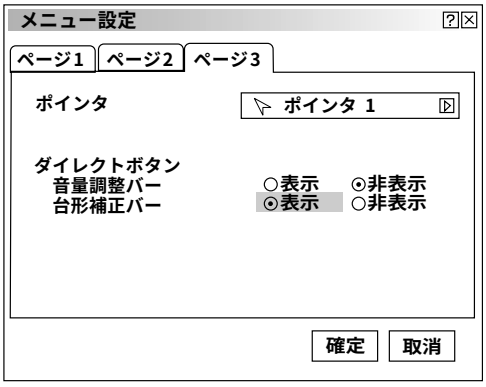
［ページ3］で音量調整バーを選択し〈SELECT ◄／►〉ボタンで
表示⦿／非表示○ を選択します。
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。



■台形補正表示のOn/Off【台形補正バー】

〈KEYSTONE ＋/－〉ボタンで台形補正調整する場合に台形補正調整バーを表示する／しないの設定です。台形補正を調整したときのみ表示します。

［ページ3］で台形補正バーを選択し〈SELECT ◄／►〉ボタンで
表示⦿／非表示○ を選択します。
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。



セットアップ

■プロジェクタの投写方法を選択【投写方法】

設置状況に合わせて選択してください。

投写方法で〈SELECT►〉ボタンを押すとプルダウンリストが出ます。

目的の投写方法を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

デスク／フロント ……テーブルに設置して前面から投写
天吊り／リア ……天井に設置して背面から投写
デスク／リア ……テーブルに設置して背面から投写
天吊り／フロント ……天井に設置して前面から投写

■無信号時の背景色を選択【バックグラウンド】

入力信号が無いときの背景色の設定です。

バックグラウンドで〈SELECT►〉ボタンを押すとプルダウンリストが出ます。

目的のバックグラウンドを選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

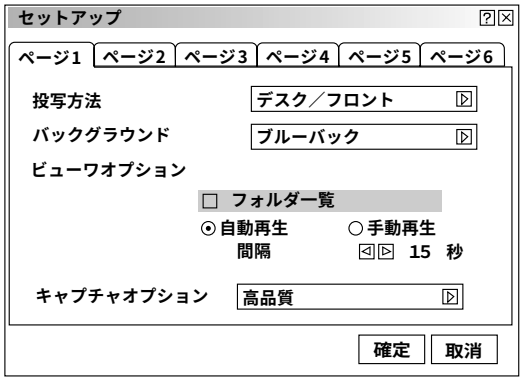
ブルーバック ……背景色が青色
ブラックバック ……背景色が黒
ロゴ ……背景に画像を表示

お知らせ

- ロゴを選択すると、工場出荷状態ではNECロゴが表示されます。
- 自作の背景をバックグラウンドに設定するには、102ページ「バックグラウンドロゴ変更のしかた」をご覧ください。

■ビューワ機能を設定する【ビューワオプション】 入力 ビューワ

ビューワ再生時の初期設定です。ビューワの使いかたは106ページをご覧ください。



フォルダー覧表示の設定

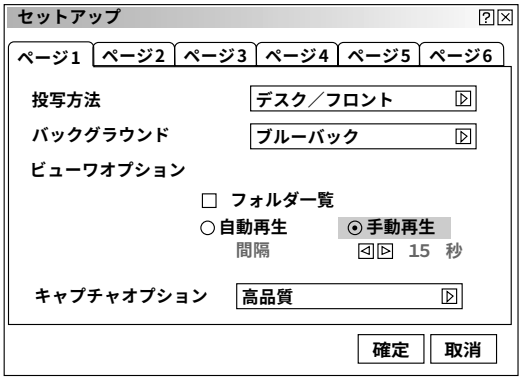
ビューワ入力を選択したときのスタートの状態を設定します。

フォルダー覧で〈ENTER〉ボタンを押してチェックを入れる／入れないを選択します。
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

☑ **チェックを入れる** ……フォルダー覧が表示されます。
☐ **チェックを入れない** ……スライド画面が映ります。

自動再生／手動再生の設定

ビューワツールバーの再生［▶］アイコンの動作の設定です。

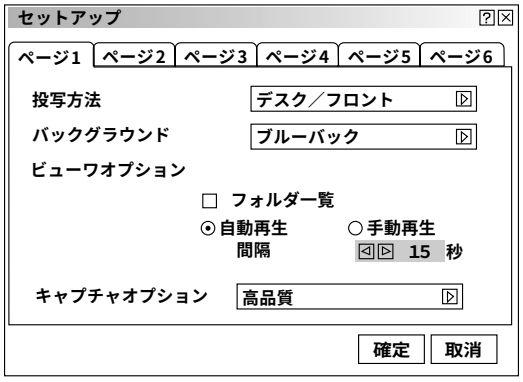


自動再生または手動再生で〈SELECT ◀／▶〉ボタンを押して自動再生／手動再生を選択します。
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

⦿ **自動再生** ……スライドを自動で再生します。
⦿ **手動再生** ……スライドを手動で再生します。

自動再生の間隔設定

自動再生時のスライド送り時間の設定です。［自動再生］を選択しているときに設定できます。



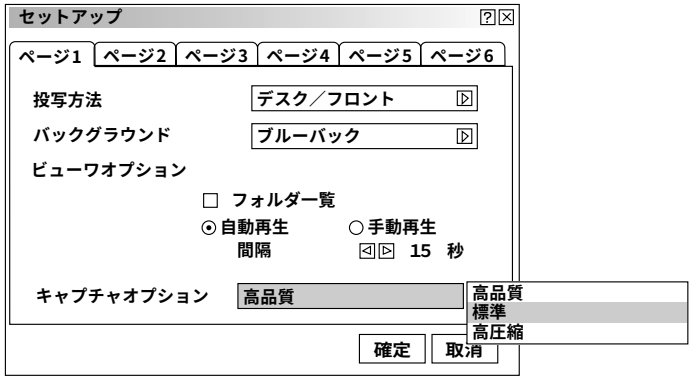
［間隔］で〈SELECT ◀／▶〉ボタンを押して間隔時間を設定します。
5〜300秒まで1秒刻みで設定できます。
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

お知らせ

ビューワ専用ソフトウェアでスライドを作成し、再生間隔を設定している場合は、その時間が有効になります。

■キャプチャの画像圧縮度を設定する【キャプチャオプション】

キャプチャ機能により取り込んだデータを圧縮（少なく）する設定です。
キャプチャはJPEGで圧縮されます。キャプチャの使いかたは115ページをご覧ください。



キャプチャオプションで〈SELECT►〉ボタンを押すとプルダウンリストが出ます。

目的の画像圧縮度を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

高品質 ……画質を優先します。
画像データ量は大きくなります。
標準 ……標準で圧縮します。
高圧縮 ……多少画質は劣化しますが、画像データ量が少なくなります。

■信号モードの選択【信号選択】

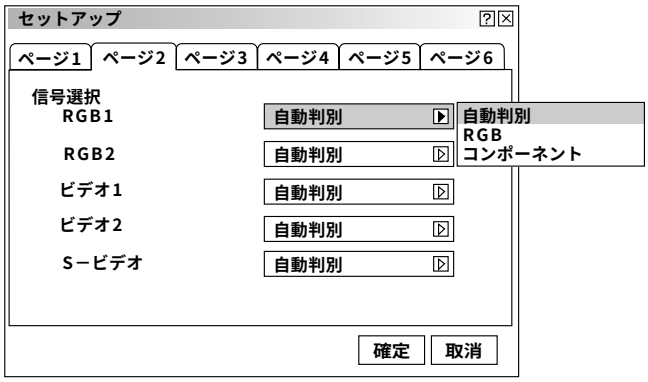
RGB1端子、RGB2端子、VIDEO1端子、VIDEO2端子、S-VIDEO端子の入力信号モードの選択です。通常は自動判別を選択しておきます。
自動判別できない場合はプロジェクタに接続している出力機器の信号モードに合わせてください。

［ページ2］で目的の入力端子を選択し、〈SELECT►〉ボタンを押すとプルダウンリストが出ます。
目的の信号を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

RGB信号の選択【RGB1／RGB2】

DVDプレーヤなどのコンポーネント出力を本機のRGB1端子, RGB2端子と専用ケーブルで接続している場合などに設定します。

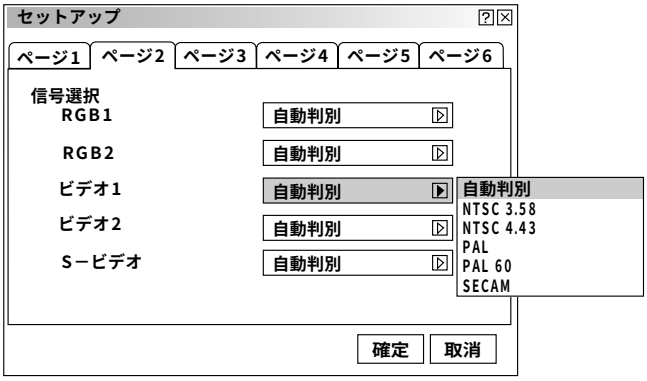
自動判別 ……自動でRGBとコンポーネント信号を判断して切り換えます。
RGB……アナログRGB信号になります。
コンポーネント …コンポーネント信号になります。



映像信号の選択【ビデオ1／ビデオ2／S-ビデオ】

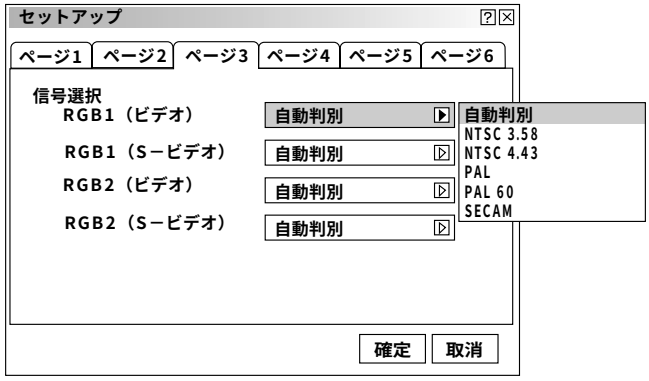
国によってテレビジョンの映像信号方式が異なります。VIDEO1端子、VIDEO2端子、S-VIDEO端子の入力信号の設定ができます。

自動判別……自動で入力信号を判断して切り換えます。
NTSC3.58……NTSC 3.58 モードになります。
NTSC4.43……NTSC 4.43 モードになります。
PAL……PAL モードになります。
PAL60……PAL60 モードになります。
SECAM……SECAM モードになります。



映像信号の選択【RGB1（ビデオ）／RGB1（S－ビデオ）／RGB2（ビデオ）／RGB2（S－ビデオ）】

RGB1端子またはRGB2端子を特殊なケーブルで接続し外部機器のビデオ信号またはS－ビデオ信号を入力する場合の映像信号方式の選択です。選択方法は上記と同じです。

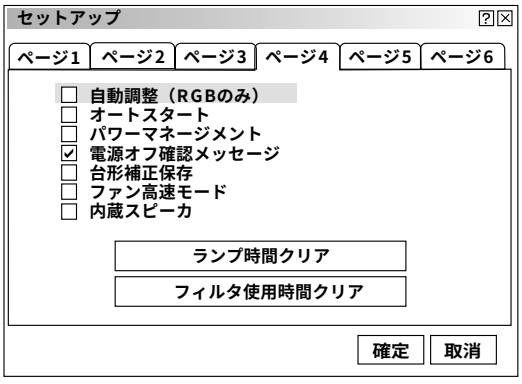


■画像の自動調整【自動調整】 入力 RGB

RGB信号の表示位置と画素のズレの調整を自動で行うか、手動で行うかの設定です。

［ページ4］で自動調整（RGBのみ）を選択し、〈ENTER〉ボタンを押してチェックを入れる／入れないを選択します。
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

☑ **チェックを入れる**……表示位置と画素調整を自動で行います。
☐ **チェックを入れない**……手動で調整できます。（*79ページ参照*）

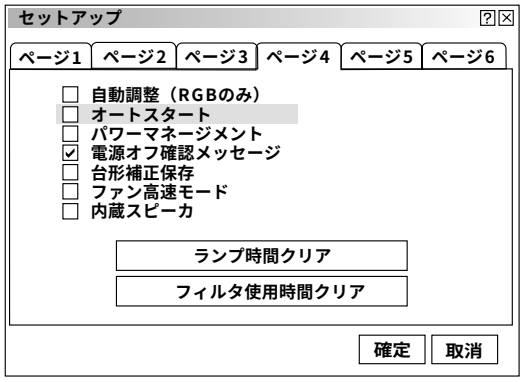


お知らせ

- 画像によっては正しく調整できない場合や、信号を切り換えたとき調整までに時間がかかる場合があります。このような場合は手動で行ってください。

■自動で立ち上げる【オートスタート】

電源プラグに電源が供給されると自動的にプロジェクタが立ち上がります。プロジェクタを制御卓などでコントロールする場合に使用します。



［ページ4］でオートスタートを選択し、〈ENTER〉ボタンを押してチェックを入れる／入れないを選択します。
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

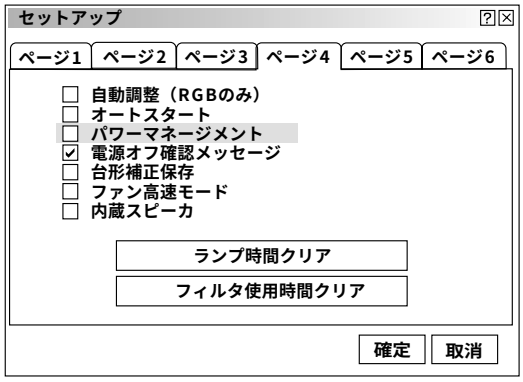
☑ **チェックを入れる** ……オートスタートが動作しプロジェクタが立ち上がります。

☐ **チェックを入れない** ……スタンバイ状態になります。

■RGB入力端子無信号時に電源を切る 入力 RGB

【パワーマネージメント】

5分以上信号入力が無いと自動的に電源を切りスタンバイ状態にします。



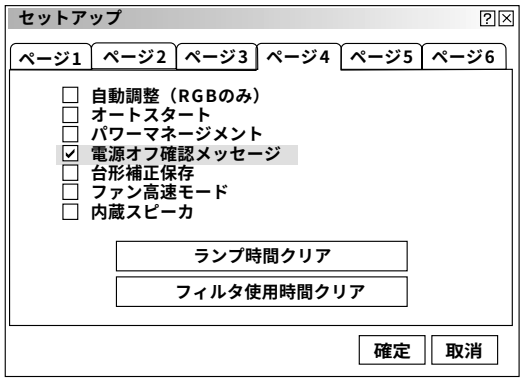
［ページ4］でパワーマネジメントを選択し、〈ENTER〉ボタンを押してチェックを入れる／入れないを選択します。
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

☑ **チェックを入れる** ……自動的にスタンバイ状態になります。

☐ **チェックを入れない** ……パワーマネージメント機能は働きません。

■電源を切るとき確認表示を出す【電源オフ確認メッセージ】

電源をOFFにするとき確認表示を出します。

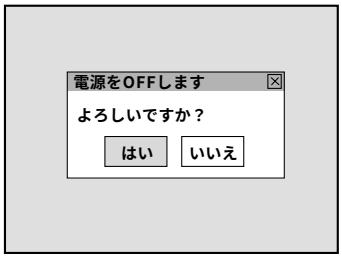


［ページ4］で電源オフ確認メッセージを選択し、〈ENTER〉ボタンを押してチェックを入れる／入れないを選択します。
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

☑ **チェックを入れる** ……確認メッセージを表示します。

☐ **チェックを入れない** ……確認メッセージがでません。

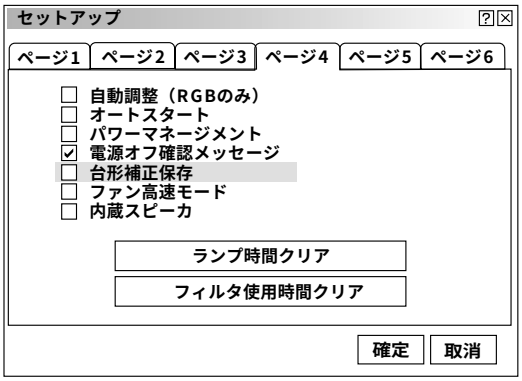
【プロジェクタ投写画面】



設定を有効にしたとき（チェックを入れたとき）
プロジェクタの電源を切るときに確認表示が出ます。
よければ〈ENTER〉ボタンを押してください。確認表示が閉じてスタンバイ状態になります。

■台形補正データを保存する【台形補正保存】

［台形補正］で調整した調整値を保存します。電源を切ってもデータは失われません。



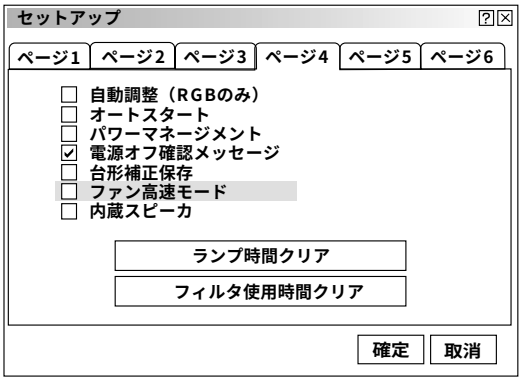
［ページ4］で台形補正保存を選択し、〈ENTER〉ボタンを押して
チェックを入れる／入れないを選択します。
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

☑ **チェックを入れる** ……調整値を上書き保存します。

☐ **チェックを入れない** ……調整値を保存しません。

■冷却ファンを高速回転させる【ファン高速モード】

内部温度を下げるための冷却ファンを、常に高速で回転させます。



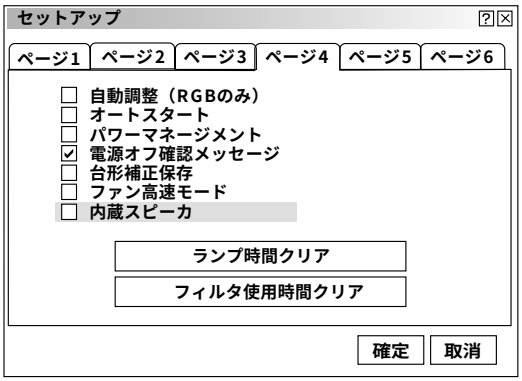
［ページ4］でファン高速モードを選択し、〈ENTER〉ボタンを押して
チェックを入れる／入れないを選択します。
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

☑ **チェックを入れる** ……常に高速で回転します。

☐ **チェックを入れない** ……内部の温度センサにより、適切な速度で回転します。

■内蔵スピーカの音声を消す【内蔵スピーカ】

プロジェクタ内蔵スピーカの音声を切ります。



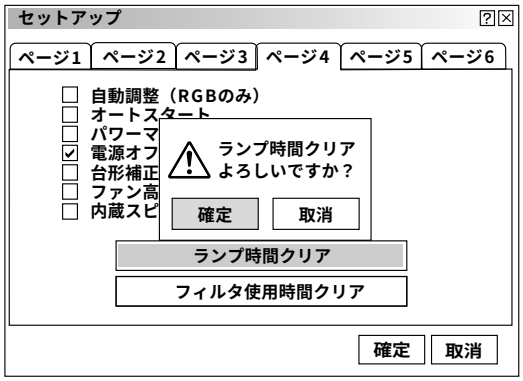
［ページ4］で内蔵スピーカを選択し、〈ENTER〉ボタンを押して
チェックを入れる／入れないを選択します。
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

☑ **チェックを入れる** ……内蔵スピーカの音声が出ます。

☐ **チェックを入れない** ……内蔵スピーカの音声が消えます。

■ランプ使用時間をクリアする【ランプ時間クリア】

ランプ交換を行ったときに［ランプ残量］と［ランプ使用時間］をクリアします。

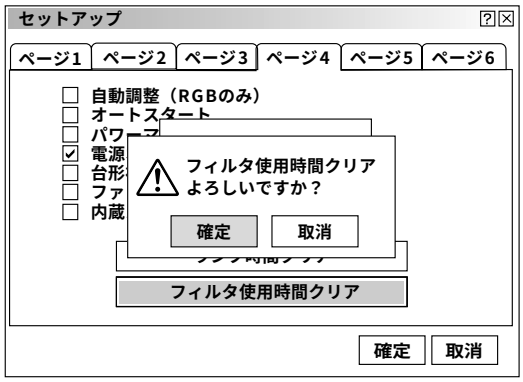


［ページ4］でランプ時間クリアを選択し、〈ENTER〉ボタンを押して確認表示を出します。
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。確認表示が閉じます。
取り消すときは、［取消］にカーソルが合った状態で〈ENTER〉ボタンを押します。
［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。メニューに戻ります。

お知らせ
- 確認表示の確定をするとセットアップでの［取消］はできません。
- ［画像設定］の［データリセット］ではクリアされません。

■フィルタ使用時間をクリアする【フィルタ使用時間クリア】

ランプ交換を行ったときに［フィルタ使用時間］をクリアします。

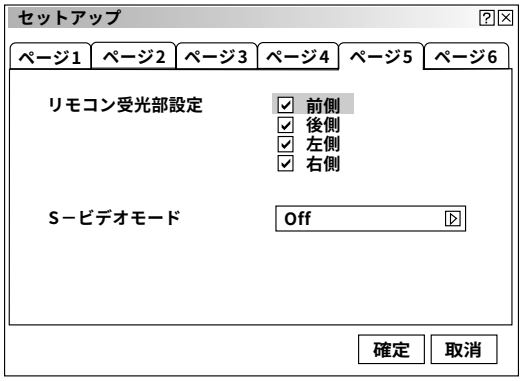


［ページ4］でフィルタ使用時間クリアを選択し、〈ENTER〉ボタンを押して確認表示を出します。
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。確認表示が閉じます。
取り消すときは、［取消］にカーソルが合った状態で〈ENTER〉ボタンを押します。
［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。メニューに戻ります。

お知らせ
- 確認表示の確定をするとセットアップでの［取消］はできません。
- ［画像設定］の［データリセット］ではクリアされません。

■リモコン受光部の選択【リモコン受光部設定】

リモコンをワイヤレスとして使用するとき、プロジェクタ本体の前後左右4カ所にあるリモコン受光部を有効／無効にします。



［ページ5］でリモコン受光部設定の目的の受光部を選択し、〈ENTER〉ボタンを押してチェックを入れる／入れないを選択します。
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

☑ **チェックを入れる** ……この方向からのワイヤレスリモコン操作が有効になります。
☐ **チェックを入れない** ……この方向からはワイヤレスリモコン操作ができません。

お知らせ
- 全ての受光部をオフにすると、ワイヤレスリモコンが効かなくなります。
- リモコンをワイヤードとして使用するときは、この設定の必要はありません。

■Sービデオモードの設定【Sービデオモード】

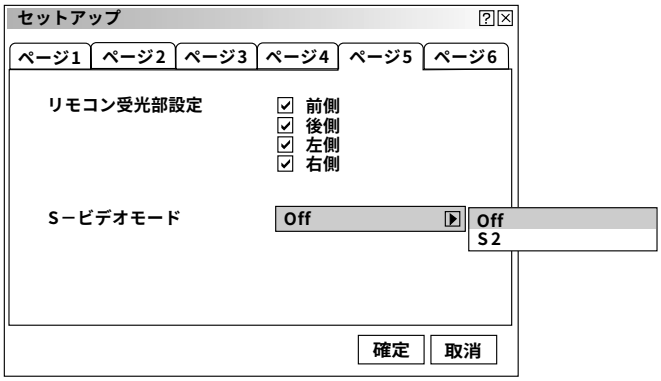
Sービデオ入力の信号判別処理の設定です。
この設定でSービデオ信号のアスペクト比（ズーム信号およびワイドズーム信号）の識別切り換えを可能にします。

アスペクト比　ズーム信号 16（横）：9（縦）
ワイドズーム信号 4（横）：3（縦）

［ページ5］のSービデオモードで〈SELECT►〉ボタンを押すとプルダウンリストが出ます。

OffまたはS2を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

Off……信号を判別しません。
S2……ズーム信号かワイドズーム信号を判別します。

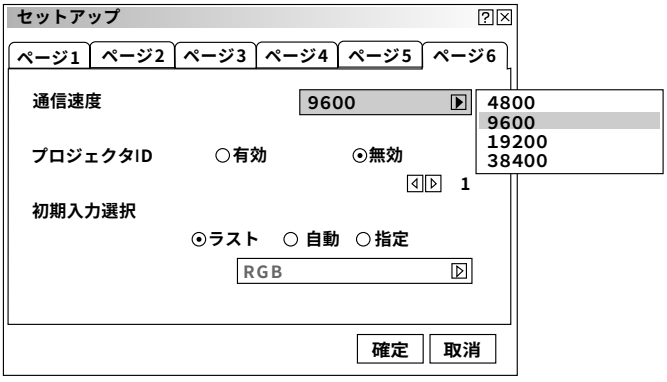


■通信速度の設定【通信速度】

PC CONTROL端子のデータ転送速度の設定です。接続する機器と転送速度を合わせてください。

［ページ6］の通信速度で〈SELECT►〉ボタンを押すとプルダウンリストが出ます。

4800, 9600, 19200, 38400（bps）から通信速度を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。

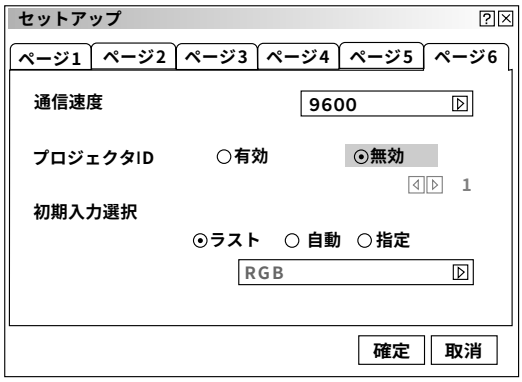


■プロジェクタのIDを設定する【プロジェクタID】

複数のプロジェクタを個別にリモコンで操作するときやリンク接続でプロジェクタを同時に制御するときなどは、プロジェクタに識別番号を設定します。1～64までIDが設定できます。
1台のみ使用の場合は無効に設定してください。

［ページ6］のプロジェクタIDの有効または無効で〈SELECT◄／►〉ボタンを押して有効／無効を選択します。

無効　……プロジェクタを1台で使用するとき
有効　……IDの設定をするとリモコンIDと同じIDのプロジェクタが動作します。

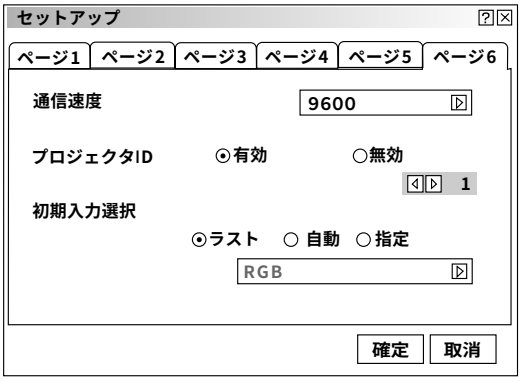


次ページに続きます

プロジェクタIDを設定するとき

プロジェクタIDの設定は有効を選択し、さらに〈SELECT ▼〉ボタンを押してカーソルをID設定項目に移動して、〈SELECT ◄／►〉ボタンで番号を選択します。
無効を選択したときはグレイ表示になりID番号の選択できません。

よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。



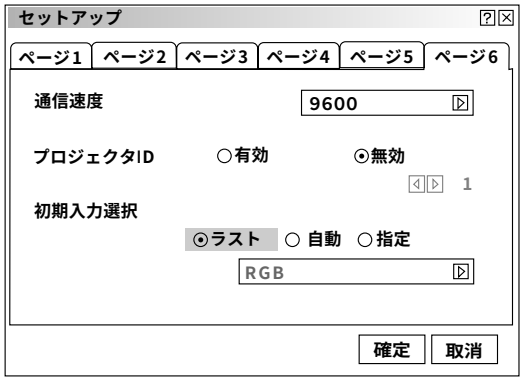
お知らせ

- プロジェクタを複数台使用して全てのプロジェクタのIDを［無効］に設定するとリモコンのIDに関係なく1つのリモコンで全てのプロジェクタが同時に操作できます。
- リモコンのID設定は68ページをご覧ください。

■初期入力の設定【初期入力選択】

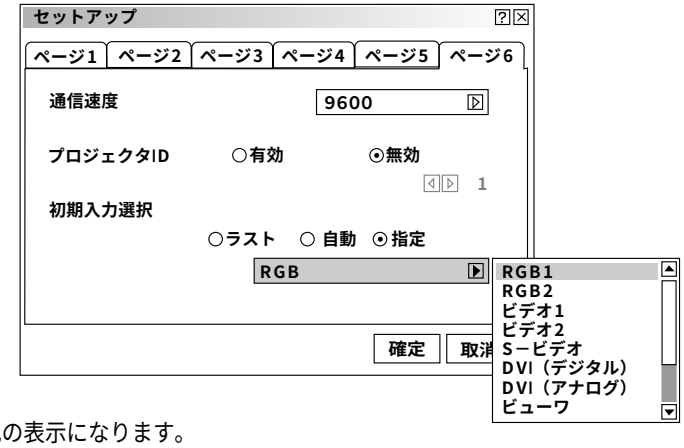
プロジェクタを立ち上げたとき、どの入力信号（入力端子）にするかの設定です。

［ページ6］の初期入力選択で〈SELECT ◄／► 〉ボタンを押して選択します。
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。
メニューに戻ります。



⦿ **ラスト** ……最後に映した入力信号を映します。
⦿ **自動** ……入力信号の自動検出を行い、最初に見つかった入力信号を映します。
⦿ **指定** ……設定した入力信号を映します。

指定を選択した場合
〈SELECT ▼〉ボタンで指定項目にカーソルを移動し、〈SELECT ►〉ボタンでプルダウンリストが出ます。
目的の入力信号を選択して〈ENTER〉ボタンを押します。
［指定］以外のときは指定項目がグレイ表示になり選択できません。



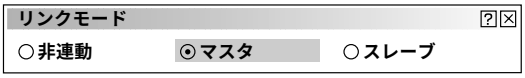
スイッチャ連動モードに設定しているときのプルダウンリストは下記の表示になります。
スイッチャ［1レベル］設定時 ……スロット1〜10
スイッチャ［2レベル］設定時 ……M－01 S－01 〜 M－10 S－10

■リンクモードを設定する【リンクモード】

スタック設置など本機を複数台接続してマスタプロジェクタ（親機）の操作のみで全てのスレーブプロジェクタ（子機）を制御するときの設定です。（*43ページ参照*）
この機能を使用するにはプロジェクタのPC CONTROL端子 の接続が必要です。
（*57ページ参照*）

〈SELECT◀／▶ 〉ボタンでリンクモードを選択します。

⦿ **非連動** ……リンクモードを使用しない場合
⦿ **マスタ** ……マスタプロジェクタの場合
⦿ **スレーブ** ……スレーブプロジェクタの場合



リンクモードの動作状態は［ヘルプ］→［機器情報］→［ページ6］で確認できます。
（*105ページ参照*）

お願い

- リンク機能を動作させるには各プロジェクタの［プロジェクタID］が重複しないように設定してください。（*97ページ参照*）
- すべてのプロジェクタの調整状態や通信速度が一致していないと動作しません。一致させるには44～45ページをご覧ください。
- マスタプロジェクタを設定するとスレーブプロジェクタは操作できなくなりますのではじめにスレーブプロジェクタのリンクモード設定をし、最後にマスタプロジェクタのリンクモード設定をしてください。

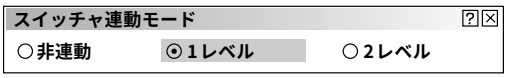
■スイッチャ連動モードの設定 【スイッチャ連動モード】

本機にビデオユニットを複数台接続した場合の設定です。この設定を行うと本機からビデオユニットの入力選択や画像調整、音量調整ができます。

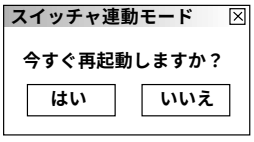
本機にビデオユニット（ISS-6020J）を接続すると、多数の外部機器を接続することができます。（本機での制御は最大100チャンネル）
スイッチャ連動モードを使うには、本機とビデオユニットを接続し更にコントロールケーブルをお互いのREMOTE 1端子に接続してください。（*54, 55ページ参照*）

〈SELECT◀／▶ 〉ボタンでリンクモードを選択します。

⦿ **非連動** ……ビデオユニットを使用しない場合
⦿ **1レベル** ……ビデオユニットを1台使用する場合
⦿ **2レベル** ……ビデオユニットを2台以上使用する場合



スイッチャ連動モードの変更をした場合は、再起動表示が出ます。



［はい］ ……本機を再起動します。
［いいえ］ ……本機を再起動しません。

- スイッチャ連動モードを変更したときは必ず本機の再起動が必要です。
  ［いいえ］を選択した場合は一度電源を切り（スタンバイ状態）、もう一度起動し直してください。

お知らせ

LANモードについて

別売品のLANボード（型名 GT50LAN）をプロジェクタに取り付けたときの設定です。
詳しくはLANボードの説明書をご覧ください。

ツールの機能

ビューワ機能を使うときのツールです。
映している画像を保存する（キャプチャ）、パソコンで作成した資料をプロジェクタに表示する（ファイル選択）ができます。

■キャプチャ機能【キャプチャ】

映している画像をフラッシュメモリカードのキャプチャ専用フォルダに保存します。キャプチャの使いかたは115ページをご覧ください。

キャプチャ
ファイル選択

お知らせ

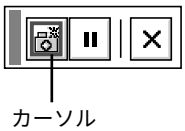
- 本機の表示画素数を超える解像度のキャプチャ画像は、正しく表示されません。
- フラッシュメモリカードをセットしていないと選択できません（白文字）。
- 画像フォーマットはJPEG形式でファイル名は自動的に付きます。

キャプチャツールバーの選択

〈SELECT ◄／►〉ボタンでカーソル（青色枠）を合わせ、〈ENTER〉ボタンを押します。

- キャプチャツールバーは〈CTL〉ボタンを押したまま〈SELECT ▼▲◄►〉ボタンを押すと移動します。

キャプチャツールバー



アイコンのはたらき

キャプチャ	画像の保存を開始します。キャプチャ中はキャプチャが行われていることを示すため アイコンを表示します。このときフラッシュメモリカードを取り出したり、プロジェクタ本体の電源を切ったりしないでください。フラッシュメモリカードが破損します。 また、キャプチャが終了するまではキャプチャツールバーの操作はできません。
静止画	ビデオ映像やパソコンの動画を静止画メモリに入れて表示します。目的のキャプチャ場面を探すときに使います。 静止画アイコンを選択すると静止画になり、もう一度選択すると動画になります。
終了	キャプチャツールバーを閉じます。

■PCファイルを映す【ファイル選択】

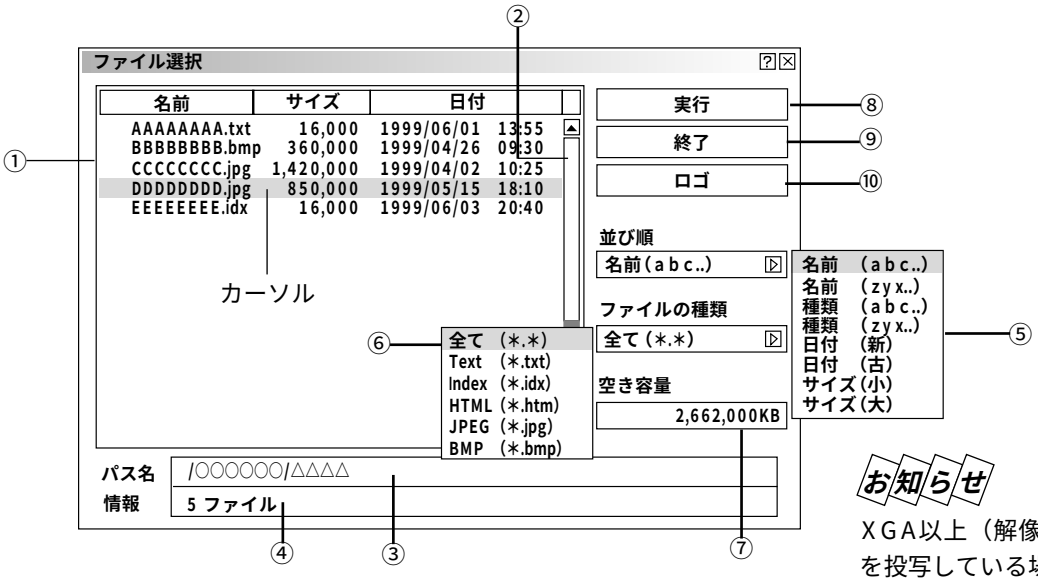
ファイル選択はビューワソフトウェアを使って編集保存したスライドではなく、お手持ちのソフトウェアで作成した資料を映す場合に使います。

キャプチャ
ファイル選択

- フラッシュメモリカードをセットしていないと選択できません（白文字）。
- 実行可能なファイル形式は下記のとおりです。

.txt	テキストファイル
.idx	Index ファイル
.htm	HTML ファイル
.jpg	JPEG形式の画像ファイル
.bmp	BMP形式の画像ファイル

これ以外の形式は、［全て］を選択していればファイルリストには表示されますが、実行してもファイルは開きません。



お知らせ

XGA以上（解像度1024×768以上）の信号を投写している場合、「ファイル選択」画面が正常に表示されないことがあります。

選択のしかた

ファイルリストは〈SELECT▼／▲〉ボタンでファイルを選択します。
ファイルリストから右側を操作するときは、〈SELECT►〉ボタンを押して［実行］にカーソル（青色）を移動させます。
〈SELECT▼／▲〉ボタンで目的の項目を選択します。
ファイルリストに戻るには、カーソルを［実行］に戻してから〈SELECT ◄〉ボタンを押します。
プルダウンリストは〈SELECT►〉ボタンでリストがでます。〈SELECT▼／▲〉ボタンで選択し、〈ENTER〉ボタンを押すと選択されます。

各部のはたらき

①ファイルリスト　フラッシュメモリカードに記録されているファイルのリストを表示します。
リストにはファイル名（拡張子）・サイズ（キロバイト単位）・日付（西暦　24時間表示）を表示します。

②スクロールバー　カーソルがファイルリストの下または上にあるとき〈SELECT▼／▲〉ボタンを押すごとにスクロールします。(スクロールバーはファイルリスト表示範囲を越えたファイル数の場合に表示されます。)

③パス名　選択ファイルのパス名を表示します。

④情報　ファイルリストの総ファイル数を表示します。

⑤並び順　ファイルの名前／種類／日付け／サイズを昇順または降順にファイルリストを並び替えます。
〈SELECT►〉ボタンを押すとプルダウンリストを表示します。

⑥ファイルの種類　全て／.txt／.idx／.htm／.jpg／.bmp の中から選択した種類のファイルをファイルリストに表示します。
〈SELECT►〉ボタンを押すとプルダウンリストを表示します。
［全て］を選択した場合は開けないファイルでもファイルリストには表示します。

⑦ディスク容量　フラッシュメモリカードの使用容量をキロバイト単位で表示します。

⑧実行　選択されたファイルを映します。
ファイル形式JPEG、BMPの画像を実行するとビューワ入力に切り換わります。
画面左下に表示されたツールバーの［戻る］アイコンを選択するとファイル選択画面に戻ります。
アイコンのはたらきは次ページをご覧ください。

⑨終了　ファイル選択を終了し、メニュー表示に戻ります。

⑩ロゴ　パソコンで作成したバックグラウンドのロゴ（背景）を取り込む場合に選択します。
使いかたは次ページ「バックグラウンドロゴの変更」をご覧ください。

画像ファイル選択時（ビューワ画面）に表示されるツールバーアイコンのはたらき

ツールバーの選択

〈SELECT ◄／►〉ボタンでカーソル（青色枠）を合わせ、〈ENTER〉ボタンを押します。

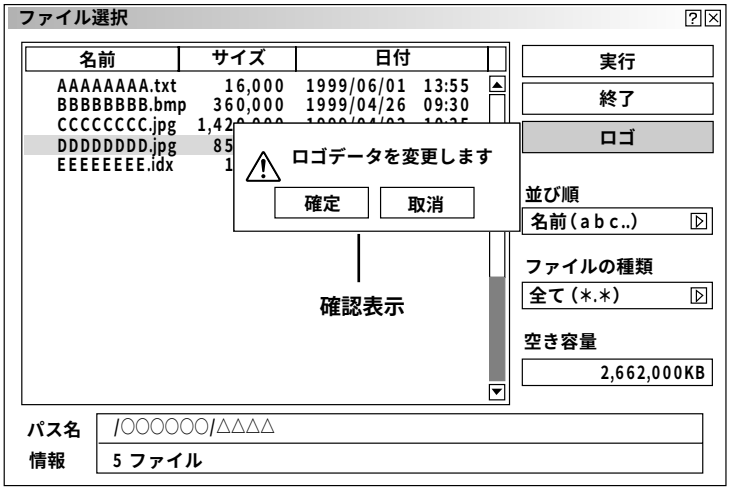
● 移動は〈CTL〉ボタンを押したまま〈SELECT ▼▲◄►〉ボタンを押すと移動します。

戻る　ファイル選択画面に戻ります。

終了　ツールバーを閉じます。

■バックグラウンドロゴ変更のしかた

無信号時の背景（バックグラウンド）を自作することができます。パソコンで作成して、フラッシュメモリカードに保存してください。



お願い

- **画像のファイル形式はJPEGまたはBMP、ファイルサイズは64KB以下で作成してください。**
- **ロゴデータを変更すると、データリセットをしても元には戻りません。**

1 PCカードスロットにフラッシュメモリカードを挿入します。

2 メニューから［ファイル選択］を選択しファイル選択表示を出します。

3 〈SELECT▲／▼〉ボタンで作成したロゴを選択します。

4 〈SELECT ►〉ボタンを押します。［実行］にカーソルが移動します。

5 〈SELECT▲／▼〉ボタンで［ロゴ］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押すと確認表示が出ます。

6 〈SELECT ◄／►〉ボタンで［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。ロゴが変更されます。

※ 変更したロゴを確認するには、バックグランドをロゴに設定して（90ページ参照）、本機を無信号状態にします（接続機器の電源を切るなど）。

お知らせ

工場設定のNECロゴに戻すには

添付のCD-ROMに収録されているNECロゴ（\logo\nec_b_x.jpg）をフラッシュメモリカードにコピーし、上記の手順でロゴを変更してください。

ヘルプと情報を見る

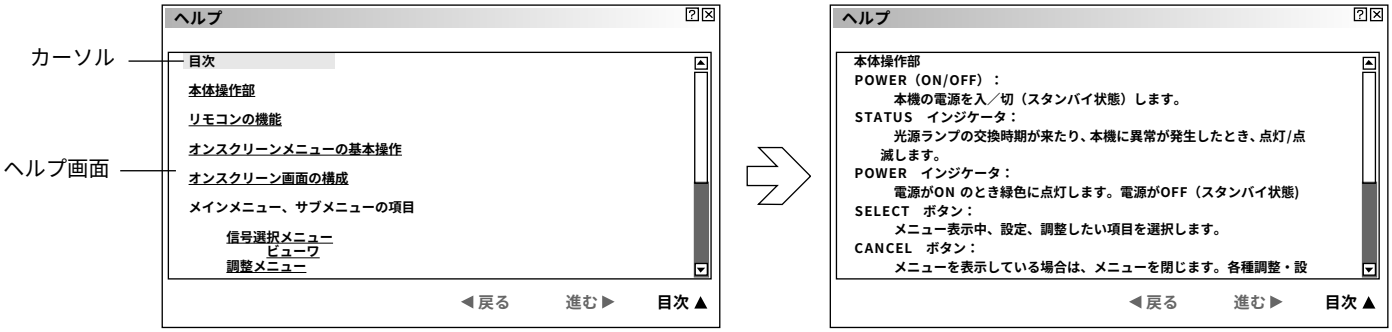
プロジェクタの使いかたや現在入力中の信号情報を知りたいとき、ランプ使用時間や機器情報を知りたいときに使います。

■ヘルプを見る【目次】

本機の操作説明などが書かれています。

［ヘルプ］の［目次］を選択します。

リモコンの〈HELP〉ボタンを押して直接ヘルプを開くことができます。



ヘルプ画面

目次や操作説明が表示されます。

〈SELECT▲／▼〉ボタンを押すとカーソルが関連ある項目へ移動します。

下線のある単語や文にカーソルを合わせ〈ENTER〉ボタンを押すと青色の文字は関連ある項目のページに、緑色の文字は調整表示に変わります。

スクロールするとき

画面内に関連ある項目が無い場合は〈SELECT▲／▼〉ボタンを押すと次の関連ある項目まで画面がスクロールします。

戻るとき／進めるとき

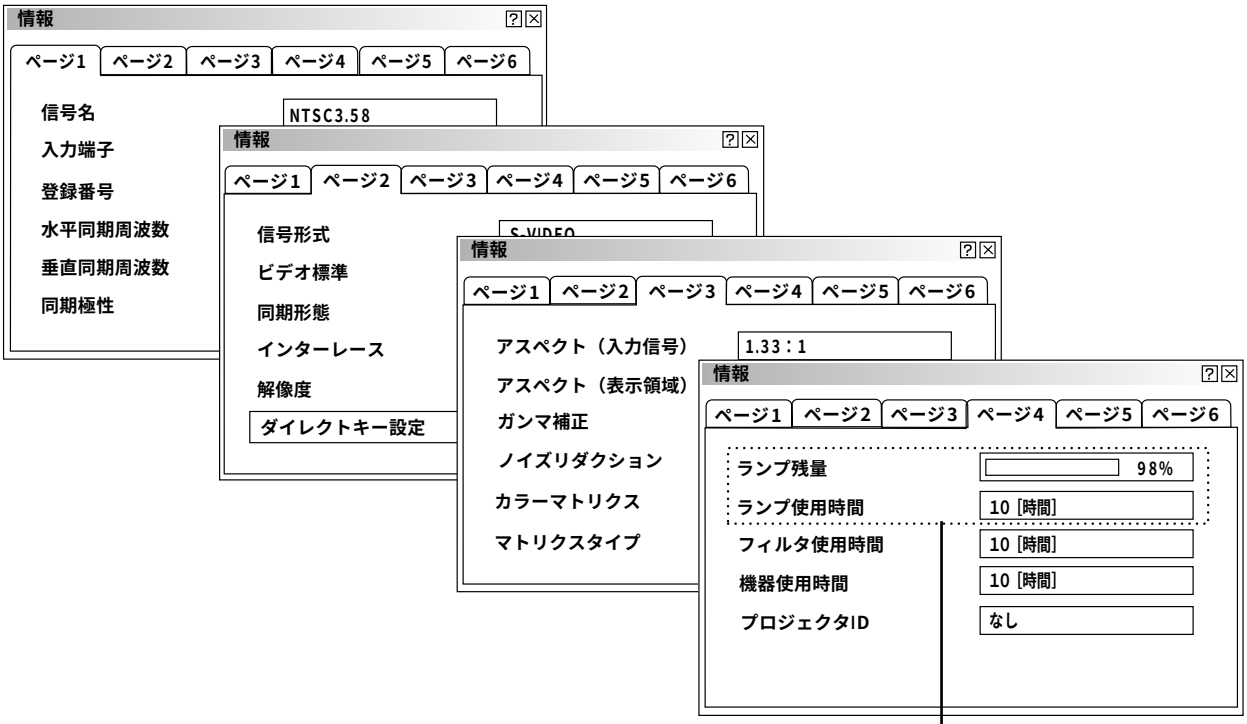
戻る／進むは、たどってきたページを戻したり、進めたりする機能です。（1ページづつ進めたり、戻したりするものではありません。）

たどって来た前のページに戻るときは〈SELECT ◀〉ボタンを押します。戻る前に表示していたページを再び表示するときは〈SELECT ▶〉ボタンを押します。

■入力信号と機器情報を見る【情報】

入力信号の詳細とランプ使用時間などを表示します。

［ヘルプ］の［情報］を選択すると表示します。
〈SELECT ◄／►〉ボタンでページを選びます。



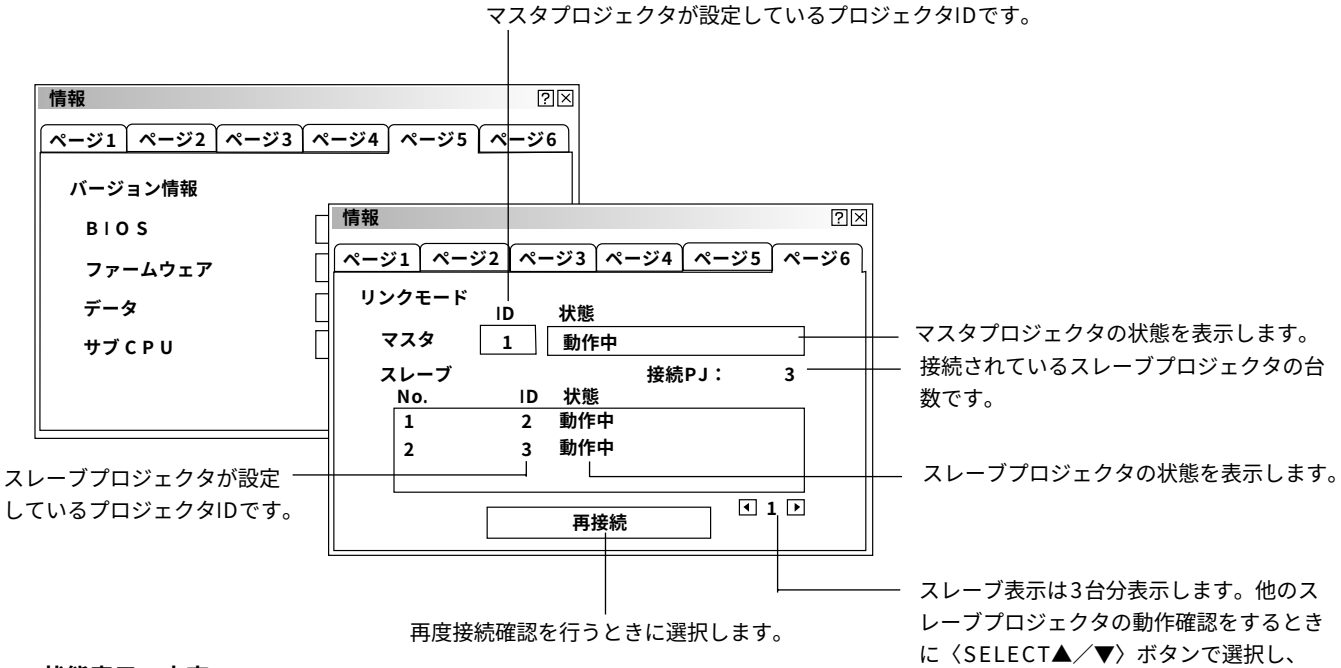
ランプ残量／ランプ使用時間の表示について

本機にはエコモード機能があります。高輝度モードとエコモードではランプの寿命が異なります。
［ランプ使用時間］はランプの通算使用時間を示し、［ランプ残量］はランプの使用時間に対する残量をパーセントで表示しています。

- 0%になると画面上に「**ランプの交換時期です。取扱説明書に従って早めに交換してください。**」のメッセージが表示されます。（メッセージは、投写中ずっと表示されます。）
  新しいランプと交換してください。交換のしかたは「ランプ交換のしかた」121ページをご覧ください。
- －6%になると電源が入らなくなります。

	ランプ使用時間		ランプ残量
	高輝度モードのみ使用（最小）	エコモードのみ使用（最大）	
工場出荷時	0000時間		100%
ランプ交換時期	1500時間	2000時間	0%
ランプ寿命	1600時間	2100時間	－6%

［ページ6］はリンクモードの動作状態を知らせます。



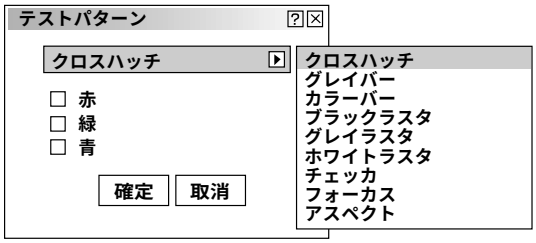
状態表示の内容

動作中……正常動作中です。
ランプ冷却中……冷却ファンが回転中です。
エラースタンバイ……エラーが原因でスタンバイ中です。
スタンバイ……スタンバイ状態です。
接続エラー……通信エラーなどによるエラー状態です。
接続中……接続確認中です。

テストパターン

■テストパターンを映す【テストパターン】

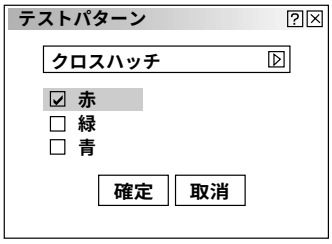
フォーカス調整や映像調整などにテストパターンを使います。
9種類のテストパターンが選択できます。赤, 緑, 青のON/OFFが設定できます。



テストパターンの選択

〈SELECT▶ 〉ボタンを押すとプルダウンリストが出ます。

目的のテストパターンをを選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。表示を閉じます。



赤, 緑, 青 信号のON／OFF

目的の信号を選択し、〈ENTER〉ボタンを押してチェックを入れる／入れないを選択します。
よければ［確定］を選択し、〈ENTER〉ボタンを押します。表示を閉じます。

☑ **チェックを入れる** ……ON

☐ **チェックを入れない** ……OFF

ビューワを使う前に

フラッシュメモリカードに保存したスライドをプロジェクタに映し出すことができます。しかも、その場にパソコンが無くてもプロジェクタ単独でプレゼンテーションが可能です。会議やオフィスでのプレゼンテーション、デジタルカメラで撮影した画像の再生などに便利です。

こんなことができます

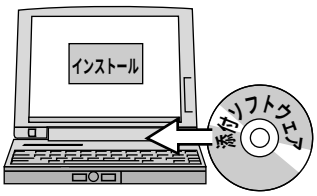
- **パソコンを持ち運ばなくてもフラッシュメモリカードに資料を保存しておけばOK。**
- **添付ソフトウェアを使ってスライドを簡単に作成。**
- **店頭での使用に便利な自動スライド切り換え機能があります。**
- **目的のスライドを探すとき、縮小画面の中から選んでワンタッチ表示。**
- **ワープロソフトや表計算ソフトの画面およびビデオ映像などをキャプチャしてスライドが作れます。**（映像信号により上下方向に伸びることがあります）
- **フラッシュメモリカード内のJPEG, BMP形式の画像やテキストまたはHTMLファイルを映すなど便利なファイル選択。**
- **デジタルカメラで撮影したフラッシュメモリカードも再生。**（MS-DOSフォーマット形式のJPEG, BMPのみ）
- **1024×768ドットの高精細表示可能**

ビューワで映るようにするには

PCカードスロットのないパソコンは使用できません。

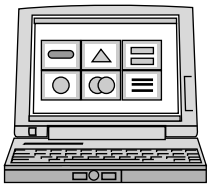
1 プロジェクタに映す資料をパソコンで作成する

PowerPoint や文書作成ソフト、画像ソフトなどで資料を作成します。



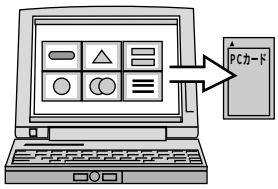
2 添付ソフトウェアをパソコンにインストールする

添付のCD-ROMの中にあります。（*109ページ参照*）



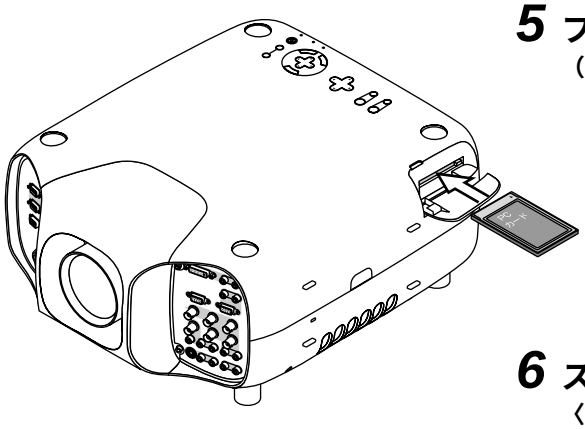
3 作成資料を編集しインデックス形式に変換する

ビューワ専用ソフトウェアを使って作成した資料を取り込んだり、また、画像としてキャプチャして取り込み、再生順や画像サイズなどを調整してビューワで再生できるインデックス形式に変換します。
PowerPoint で作成した資料はPowerPoint変換ソフトウェアでインデックス形式に変換できます。
ソフトウェアの使いかたは各々のソフトウェアのヘルプをご覧ください。



4 フラッシュメモリカードに保存する

ビューワ専用ソフトウェアやPowerPoint変換ソフトウェアを使ってフラッシュメモリカードに保存します。

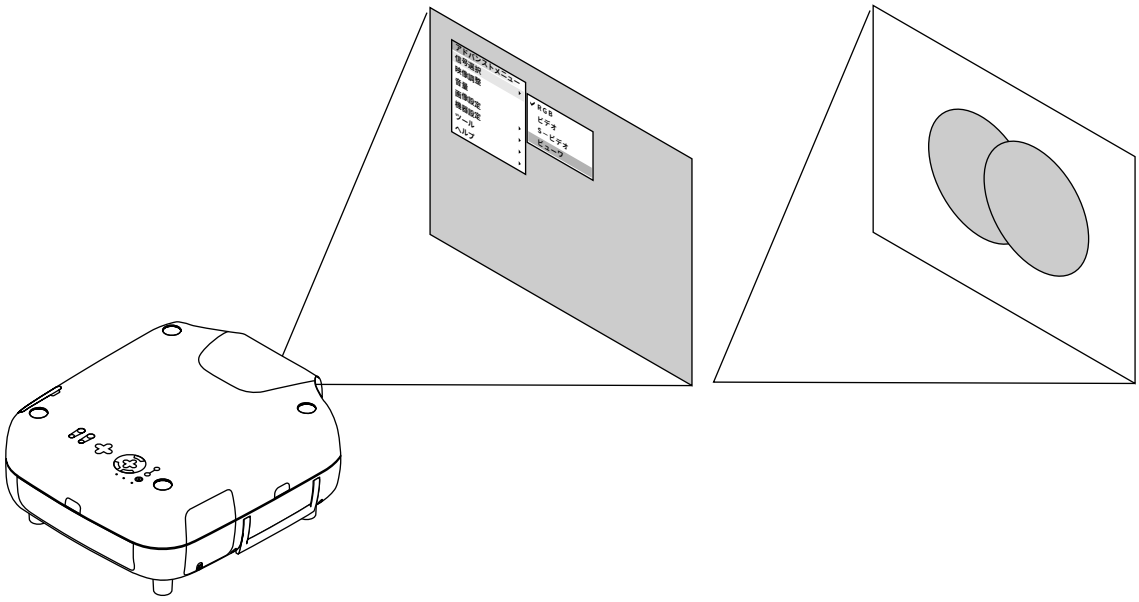


5 フラッシュメモリカードをプロジェクタにセットする

（*108*ページ参照）

6 スライドを映す

〈INPUT〉ボタンまたはメニューより［ビューワ］入力を選択します。スライドが表示されます。（*111*ページ参照）



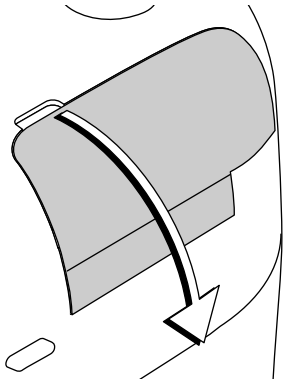
フラッシュメモリカードの出し入れ

フラッシュメモリカードは、パソコンで作成したプレゼンテーション資料のデータ保存やプロジェクタに映っている画像（画像キャプチャ）の保存と再生に使います。

フラッシュメモリカードを挿入する向きについて
フラッシュメモリカードには表と裏があり、PCカードスロットに挿入する向きが決まっています。逆に挿入しようとしてもできないようになっていますが、無理に押し込もうとすると本体内のピンが折れて、PCカードスロットが壊れてしまいます。挿入する向きは、フラッシュメモリカードの説明書があれば、そちらをご覧ください。

■入れかた

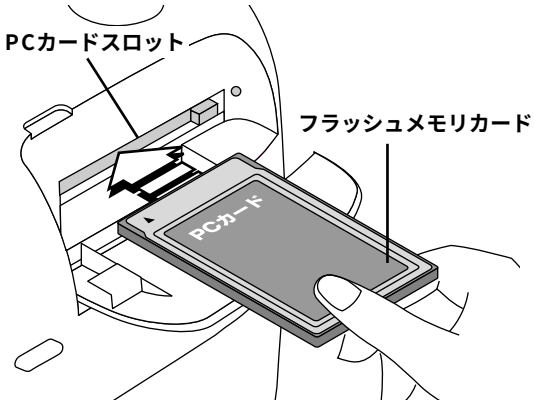
1）カバーを開けます。



2）表面を上にしてPCカードスロットに水平にゆっくり差し込みます。

- 完全に差し込まれると、〈PCカード取り出し〉ボタンが飛び出します。完全に差し込まれたことを確認してください。

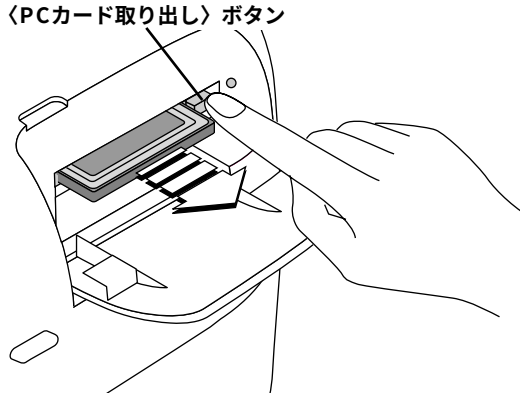
お願い 挿入しづらい場合は無理に押し込まないでください。



■出しかた

〈PCカード取り出し〉ボタンを押すとカードが少し飛び出しますので、カードの両端を持って取り出します。

お願い 〈PC CARD ACCESS〉インジケータが点灯しているとき（カードへデータをアクセスしているとき）は取り出さないでください。フラッシュメモリカードが破損します。



お知らせ

フラッシュメモリカードについて
本機で使用できるフラッシュメモリカードはType IIのPCMCIA-ATA フラッシュメモリカードです。

添付ソフトウェアのインストール

プレゼンテーションを行うときに必要な資料はパソコンを使用してインデックス形式にし、フラッシュメモリカードに保存してから本機で再生します。
インデックス形式にするソフトウェアが添付のCD-ROMの中にありますのでWindows95/98/NT4.0（SP3以上）/2000対応パソコンにインストールしてください。

⚠注意	**添付のCD-ROMはパーソナルコンピュータ専用です。パーソナルコンピュータ以外のCDプレーヤでは再生しないでください。誤って再生すると、大音量で再生され耳やスピーカ等が損傷することがあります。**

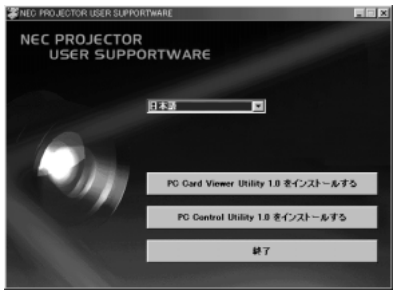
■インストールをする

準備：Windows がすでに起動している場合は、起動中のアプリケーションソフトをすべて終了してください。終了させないと、インストールが正常終了しない場合があります。
また、添付ソフトウェアのインストール操作の途中で、中止したいときは［終了］ボタンを押して、ダイアログボックスの指示にしたがってください。

1 Windows を起動します。

2 CD-ROMドライブ装置へ添付のCD-ROMディスクを挿入します。
CD自動再生機能の働きで、自動的にCD-ROMのプログラムが起動し、目次画面が表示されます。
※ CD自動再生機能は、パソコンのコントロールパネルのCD-ROMで「挿入の自動通知」がチェックされている場合に動作します。（初期設定はチェックされています。）

3 ［PC Card Viewer Utility 1.0のインストール］をクリックします。
セットアップダイアログに変わります。
ダイアログの説明に従って操作をすすめてください。



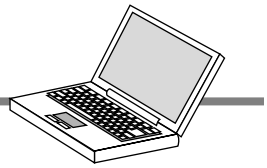
■添付ソフトウェアの内容

PC Card Viewer Utiltty 1.0
ビューワスライド作成専用ソフトウェアです。

PC Card Viewer PPT Converter 1.0
Microsoft PowerPoint 95/97/2000で作成したファイルをビューワで直接再生できるようにインデックス変換するソフトウェアです。
PC Card Viewer Utility 1.0をインストールすると、同時にインストールされます。

PC Control Utility 1.0
パソコンからプロジェクタを直接制御することができます。

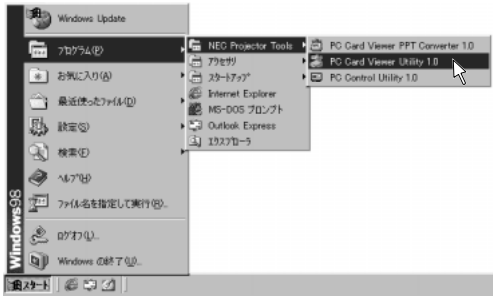
添付ソフトウェアの起動

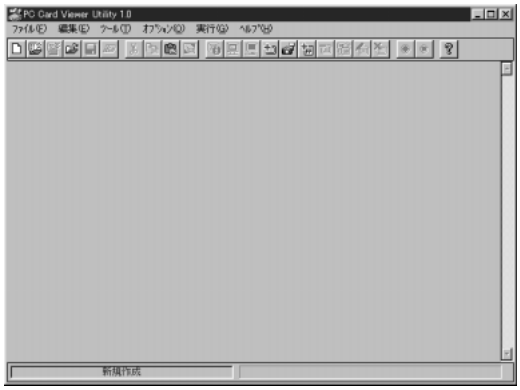


パソコンでプレゼンテーション資料の編集をしてプロジェクタのビューワで映るようにインデックス形式に変えるためにはビューワ専用ソフトウェアを使います。PowerPointで作成した資料をそのままインデックス形式に変えるにはPowerPoint変換ソフトウェアを使います。ここでは、起動方法を説明します。
各々使用方法につきましては、オンラインヘルプをご覧ください。

■ビューワ専用ソフトウェア［PC Card Viewer Utility 1.0］の起動

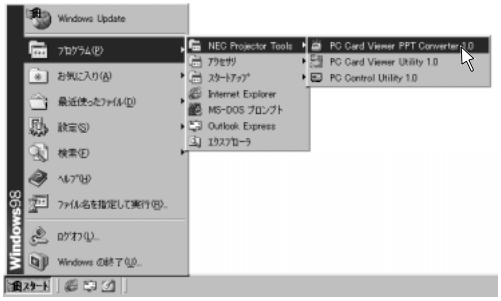
［スタート］メニューの［プログラム］の中にある［NEC Projector Tools］から［PC Card Viewer Utility 1.0］をクリックします。





■ PowerPoint 変換ソフトウェア［PC Card Viewer PPT Converter 1.0］の起動

［スタート］メニューの［プログラム］の中にある［NEC Projector Tools］から［PC Card Viewer PPT Converter 1.0］をクリックします。



ビューワを使う

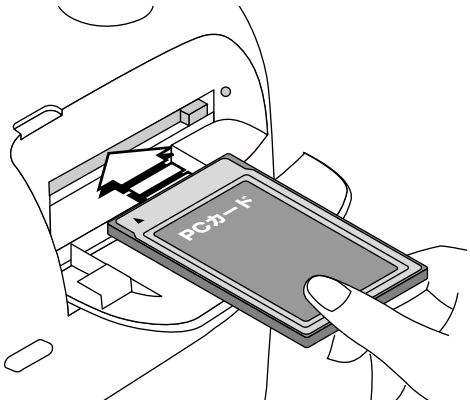
添付ソフトウェアを使って作成したプレゼンテーション資料のスライドを、プロジェクタで映すときの操作のしかたです。

スライドを映す

■スライドを映す基本操作

ビューワオプションが工場出荷時状態（手動再生）に設定されているときのスライドの映しかたで説明します。

お知らせ
- フラッシュメモリカード内のフォルダに複数のスライドが保存されているとします。
- ビューワツールバーはビューワを選択したときは非表示になりますので、非表示の場合の説明です。ビューワツールバーでの操作は次ページをご覧ください。



1 **PCカードスロットにフラッシュメモリカードを挿入します。**

2 **ビューワ入力を選択する**

〈INPUT〉ボタンまたはメニューより［ビューワ］を選択します。
スライドが表示されます。

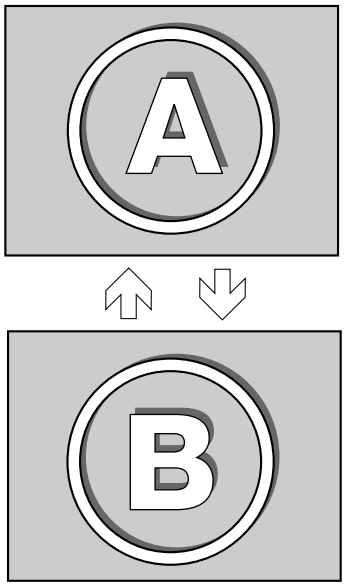
〈PC CARD〉ボタンを押すと、スライドが表示されます。

3 **スライドを切り換える**

〈SELECT ◄／► 〉ボタンを押すとスライドが逆送り／順送りと切り換わります。

〈SLIDE ＋／－〉ボタンを押すとスライドが順送り／逆送りと切り換わります。

【スライド画面】



4 **他の入力に切り換えるとき**

〈INPUT〉ボタンまたはメニューより他の入力を選択します。
再び、ビューワ入力に切り換えると**3**で選択しているスライドが映ります。

■ ビューワツールバーを使って操作する

準備：PCカードスロットにフラッシュメモリカードを挿入して、［ビューワ］入力を選択します。
ビューワツールバーが表示されていない場合は、〈MENU〉ボタンを押して表示させてください。（画面左下に表示されます。）

【アイコンの選択と実行のしかた】
〈SELECT ◀／▶〉ボタンでカーソルを目的のアイコンにカーソルを合わせ、〈ENTER〉ボタンを押すと実行されます。以下“○○アイコンを選択”とご説明します。各アイコンの機能は70ページをご覧ください。

プロジェクタモードになっていないと操作できません。
〈PJ〉ボタンを押してボタンを光らせます。

フォルダー一覧からスライドを映す場合

1 フォルダー一覧を表示させる
フォルダー一覧［ ］アイコンを選択します。
ビューワオプションで［フォルダー一覧表示］をONに設定している場合は、ビューワ入力を選択した時にフォルダー一覧を表示します。）

2 表示したいフォルダを選択します。
逆送り／順送り［ ◀I／I▶ ］アイコンでフォルダカーソル（青色）を目的のフォルダに合わせます。（フォルダカーソルは選択するごとに移動します。）
フォルダの始めのスライドから再生する場合は、再生［ ▶ ］アイコンを選択してください。スライド画面に変わります。

目的のスライドを探す場合は、スライド一覧［ ］アイコンを選択します。スライド一覧表示に変わります。

3 表示したいスライドを指定します。
逆送り／順送り［ ◀I／I▶ ］アイコンでスライドカーソルを目的のスライドに合わせ再生［ ▶ ］アイコンを選択します。指定したスライドが表示されます。

- スライドの切換操作は113、114ページをご覧ください。

このサムネール（縮小）表示はフォルダインデックスの最初のスライドが表示されます。

フォルダカーソル（青色）

インデックス表示
下記参照

A-1 B-1 C-1 D-1
E-1 F-1 G-1 H-1
I-1 J-1 K-1 L-1
03:0001/0012

【フォルダ一覧画面】

スライドカーソル（緑色）

C-1 C-2 C-3 C-4
C-5 C-6 C-7 C-8
C-9 C-10 C-11 C-12
0 5/0012

【スライド一覧画面】

C-1

【フォルダ内の始めのスライド画面】

C-5

【指定したスライド画面】

インデックス表示の意味

選択しているスライドが入っているフォルダ番号（例：A～Lの中の3番目）

選択しているスライド番号
（例：C-1～C-12のうちの1枚目）

03：0001/012

フォルダ内の全スライド数
（例：C-1～C-12　12枚）

お知らせ

フォルダ一覧に表示できるのは、最大12個までのフォルダです。右下に表示されたフォルダは常にキャプチャ専用フォルダとなっています。ただし、キャプチャが行われている場合のみ表示されます。フラッシュメモリカードに13個以上のフォルダを保存して、フォルダ一覧で表示を行いたい場合は、ビューワ専用ソフトウェアの［ファイル］メニューの［フォルダインデックスの編集］で、表示したいフォルダをフォルダインデックスの先頭から12番目以内に移動してください。フォルダインデックスについて詳しくはビューワ専用ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

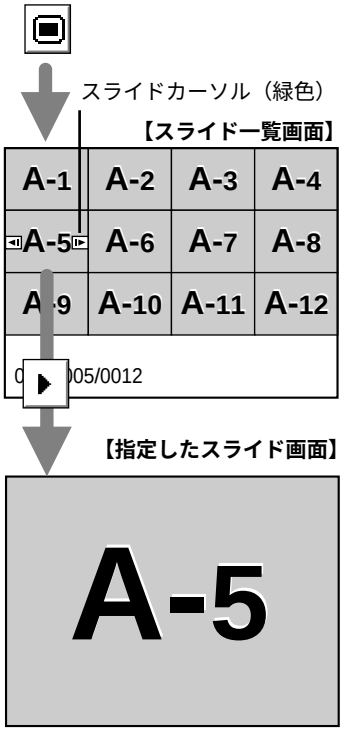
スライド一覧画面から目的のスライドを映す場合

1 スライド一覧画面を表示させる

スライド一覧［▣］アイコンを選択してください。

2 表示したいスライドを指定します。

逆送り／順送り［◀I/I▶］アイコンでスライドカーソル（緑色）を目的のスライドに合わせます。（スライドカーソルは選択するごとに移動します。）
次に、再生［▶］アイコンを選択します。指定したスライドが表示されます。



〈FOLDER LIST〉ボタンを押すとフォルダ一覧画面を表示します。
〈SLIDE LIST〉ボタンを押すとスライド一覧画面を表示します。
〈SLIDE ＋／－〉ボタンを押すとスライドが切り換わります。

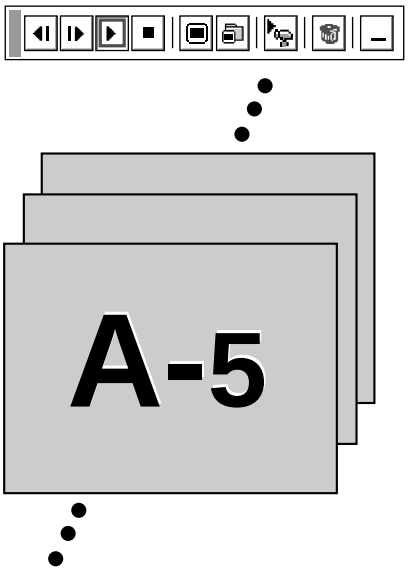
■ 自動再生でスライドを切り換える

ビューワオプションで［自動再生］をONに設定している場合、［自動再生間隔］で設定されている時間で自動的にスライドが切り換わります。

お知らせ
設定のしかたは91ページをご覧ください。
ビューワ専用ソフトウェアでスライドを作成し、再生間隔を設定している場合はその時間が有効になります。

再生［▶］アイコンを選択すると自動で再生が始まります。

お知らせ
- ビューワオプションで［フォルダ一覧表示］をONに設定している場合やフォルダ一覧［▣］アイコンを選択した場合は、表示したいフォルダを選択した後に自動再生を開始します。
- スライド一覧［▣］アイコンを選択した場合は、選択したスライドから自動再生を開始します。
- 他の入力に切り換えて再びビューワに戻ったときは、続きから自動再生を開始します。



自動再生を停止するとき

停止［■］アイコンを選択します。
逆送り／順送り［◀I/I▶］アイコンを選択しても自動再生は停止します。

お知らせ

ビューワオプションの設定を変えたい場合

設定アイコンを選択するとビューワオプションの設定表示が開きます。設定のしかたは91ページをご覧ください。
フォルダ一覧表示のON/OFF、自動再生／手動再生、自動再生間隔の設定変更ができます。

■ 手動再生でスライドを切り換える

ビューワオプションで［手動再生］を設定している場合、手動でスライドを切り換えます。

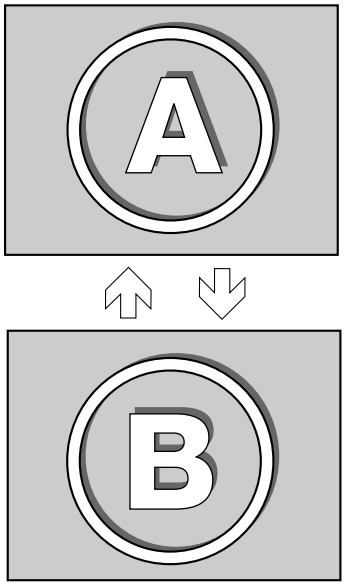
設定のしかたは91ページをご覧ください。

再生［▶］アイコンを選択するとスライドが映ります。

お知らせ

- ビューワオプションの［フォルダ一覧表示］をONに設定している場合やフォルダ一覧［ ］アイコンを選択した場合は、表示したいフォルダを選択した後に画面いっぱいに映ります。
- ビューワオプションの［フォルダ一覧表示］をOFFに設定している場合は、始めのフォルダのスライドが画面いっぱいに映ります。

【スライド画面】

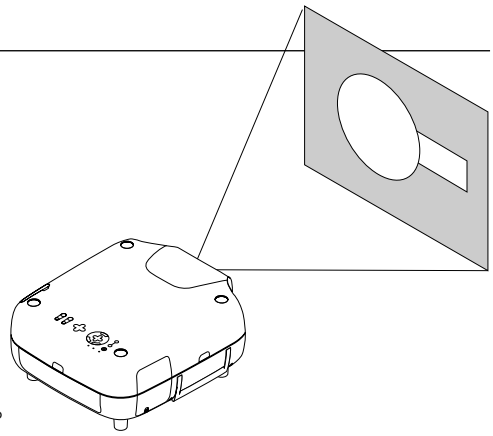


スライドの切換

逆送り／順送り［◀I/I▶］アイコンで切り換わります。

〈SLIDE ＋／－〉ボタンでスライドを切り換えます。

プロジェクタの表示画像をキャプチャ（保存）する



■表示画像をフラッシュメモリカードに保存する

1 **PCカードスロットにフラッシュメモリカードを挿入します。**

2 **保存したい画像をプロジェクタで映します。**

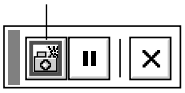
3 **キャプチャツールバーを表示する**

メニューの［ツール］→［キャプチャ］を選択し〈ENTER〉ボタンを押します。メニュー表示が閉じキャプチャツールバーが左下に表示されます。

【アイコンの選択と実行のしかた】

〈SELECT ◀／▶〉ボタンで目的のアイコンにカーソルを合わせ、〈ENTER〉ボタンを押すと実行されます。以下“○○アイコンを選択”とご説明します。各アイコンの機能は100ページをご覧ください。

カーソル



プロジェクタモードになっていないと操作できません。
〈PJ〉ボタンを押してボタンを光らせます。

4 **キャプチャを開始する**

キャプチャ［ ］アイコンを選択すると［ ］アイコンを画面中央に表示し、キャプチャを開始します。

- 保存が完了すると［ ］アイコンが消えます。
(5～10秒かかります。解像度や絵柄によりさらに時間がかかる場合があります。)
- 保存ができなかったり、空き容量がないときは［カードエラー］を表示します。

ビデオ映像や動画のキャプチャは、静止画［ ］アイコンを使用して目的の場面を静止画にしてから、キャプチャ操作をすると便利です。

お知らせ

- キャプチャされた画像ファイルのサイズは入力信号の解像度により異なります。
- キャプチャした画像ファイルをビューワ機能で表示する場合、信号によっては画像サイズが異なる場合があります。
- JPEG 形式で画像データを圧縮しておりますので、多少画質が劣化します。
- 画像の削除は、ビューワツールバーの［削除］アイコンで行います。（*71ページ参照*）
- 本機の表示画素数を超える解像度のキャプチャ画像は、正しく表示されません。

お願い

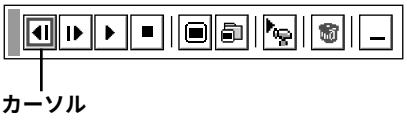
キャプチャ中はキャプチャが行われていることを示すため アイコンを表示します。このときに、フラッシュメモリカードを取り出したり、プロジェクタ本体の電源を切ったりしないでください。フラッシュメモリカードが破損します。

■キャプチャされた画像を見る

1 ビューワを選択する

〈INPUT〉ボタンまたはメニューの［ビューワ］を選択します。
ビューワツールバーが表示していない場合は、〈MENU〉ボタンを押してビューワツールバーを表示します。

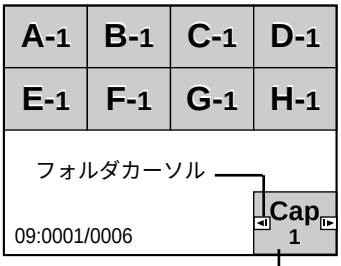
【アイコンの選択と実行のしかた】
〈SELECT ◀／▶〉ボタンで目的のアイコンにカーソルを合わせ、〈ENTER〉ボタンを押すと実行されます。以下“○○アイコンを選択”とご説明します。
各アイコンの機能は70ページをご覧ください。



プロジェクタモードになっていないと操作できません。
〈PJ〉ボタンを押してボタンを光らせます。

2 フォルダ一覧画像を映し、右下のフォルダを選択する

右下のフォルダがキャプチャ専用フォルダです。
フォルダ一覧［ ］アイコンを選択するとフォルダ一覧画面を表示します。
順送り［ ］アイコンを選択して最後のフォルダにフォルダカーソルを合わせます。
（ビューワオプションの［フォルダ一覧表示］を設定している場合は、ビューワ入力を選択した時に表示します。）



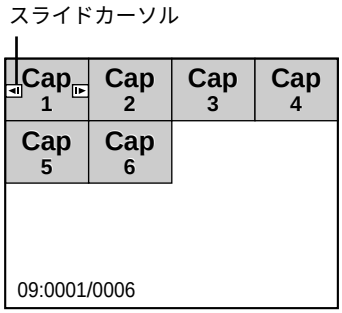
キャプチャ専用フォルダ
サムネイル(縮小画面)には最初にキャプチャした画面が表示されます

3 キャプチャ画像を映します。（ただし、キャプチャ画像がある場合）

キャプチャ画像のスライドを始めから再生する場合
再生［ ］アイコンを選択します。

目的のキャプチャ画像を再生する場合
スライド一覧［ ］アイコンを選択し、逆送り／順送り［ ］アイコンでスライドカーソルを目的のスライドに合わせます。
次に、再生［ ］アイコンを選択します。

指定したキャプチャ画像が映ります。
●逆送り／順送り［ ］アイコンの選択でスライドが切り換わります。



お知らせ

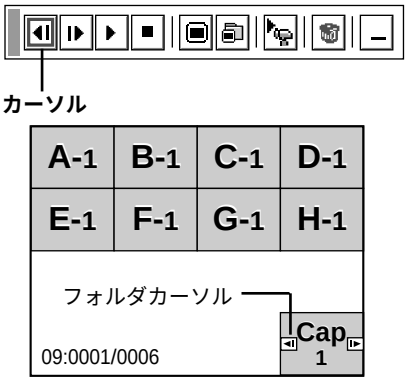
フォルダ一覧に表示の右下のフォルダは常にキャプチャ専用フォルダとなっています。
フラッシュメモリカードに13個以上のインデックスを保存して、フォルダ一覧で表示を行いたい場合は、ビューワ専用ソフトウェアの［ファイル］メニューの［フォルダインデックスの編集］で、表示したいインデックスをフォルダインデックスの先頭から12番目以内に移動してください。インデックスについて詳しくはビューワ専用ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

■キャプチャされた画像を削除する

削除にはキャプチャ専用フォルダ内の全削除と１つのスライドの削除があります。ビューワ専用ソフトウェアで作成・編集されたスライドやパソコンのソフトで作成されたスライドの削除はできません。

フォルダの削除

準備：「キャプチャされた画像を見る」の操作をしてフォルダ一覧画面を表示します。



1 右下のキャプチャ専用フォルダを選択します。

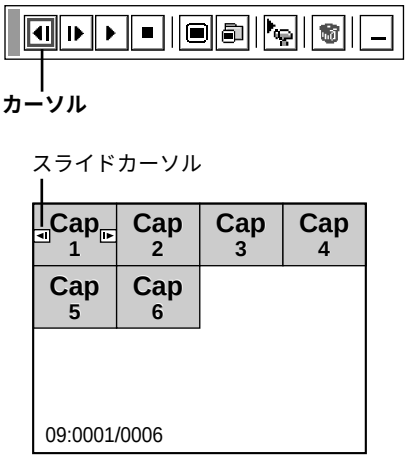
順送り［ ］アイコンを選択して画面のフォルダカーソルをキャプチャ専用フォルダに合わせます。

2 ［削除］アイコンを選択します。

削除［ ］アイコンを選択します。
これでキャプチャフォルダが削除されました。

1つのキャプチャファイルの削除

準備：「キャプチャされた画像を見る」の操作をしてフォルダ一覧画面を表示します。



1 右下のキャプチャ専用フォルダを選択します。

順送り［ ］アイコンを選択して画面のフォルダカーソルをキャプチャ専用フォルダに合わせ、スライド一覧［ ］アイコンを選択します。
キャプチャ画像のスライド一覧が表示されます。

2 削除するスライドを選びます。

逆送り／順送り［ / ］アイコンを選んで、削除するスライドに画面のスライドカーソルを合わせます。

3 ［削除］アイコンを選択します。

削除［ ］アイコンを選択します。

これで1つのキャプチャ画像が削除されました。

■キャプチャされた画像をパソコンで削除・保存する

キャプチャされた画像はパソコンで削除したりパソコンに保存することができます。
（パソコンでの削除はキャプチャされた画像全てを一括して消去します。）

画像フォルダを削除する

1 **画像がキャプチャされたフラッシュメモリカードをパソコンのPCカードスロットにセットします。**

2 **エクスプローラ等で、そのフラッシュメモリカード内のフォルダを表示させてください。**

3 **［__cap__］というフォルダがありますので、そのフォルダを削除します。**

画像をパソコンに保存するとき

1 **キャプチャ画像を保存したフラッシュメモリカードをパソコンのPCカードスロットにセットします。**

2 **エクスプローラ等で、そのフラッシュメモリカード内の［__cap__］フォルダを開きます。**

3 **○○○○.jpg（○○○○は任意の数字　.jpg はJPEGフォーマット形式を示す拡張子）としてファイル名が表示されますので、必要なファイルをハードディスクに保存してください。**

- ハードディスクなどに保存した画像ファイルは、ビューワ専用ソフトウェア PC Card Viewer Utility 1.0 にて呼び出しプレゼンテーション資料として、再びフラッシュメモリカードに保存することができます。

デジタルカメラで撮影した画像を見る

以下の条件に合う場合には、ビューワでの再生が可能です。
- 画像をMS-DOSフォーマットのフラッシュメモリカードに保存できる。
- 本機に対応している形式(以下の条件)の画像で保存できる。
  ビューワでは、カード上でのディレクトリを検索しその中に存在するJPEGまたはBMP形式の画像をスライドとして認識します。
  表示の対象となるディレクトリはルートディレクトリから2階層かつ最初から12個以内までです。

お知らせ
- スライドとして認識する画像は1つのディレクトリにつき128枚までです。
- 編集を行うには添付の専用ソフトウェアでフラッシュメモリカードから画像を読み込んで編集し、別のフラッシュメモリカードに画像を格納してください。

キャプチャした画像およびデジタルカメラで撮影した画像を見る場合のお知らせ
〈INPUT〉ボタンまたはメニューより［ビューワ］を選んで手動または自動で再生します。

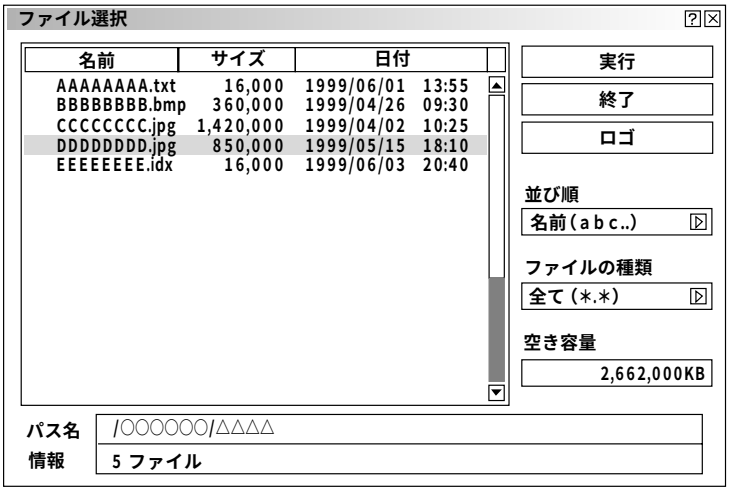
ファイル選択のしかた

パソコンのお手持ちのソフトウェアで作成した資料をフラッシュメモリカード（PCカード）に保存してプロジェクタに映すことができます。ファイル選択は目的のファイルを早く見つけることができます。
ここでは、使いかた例を説明します。各項目の機能説明は100～102ページをご覧ください。

1 PCカードスロットにフラッシュメモリカードを挿入します。

2 ［ファイル選択］表示を出す

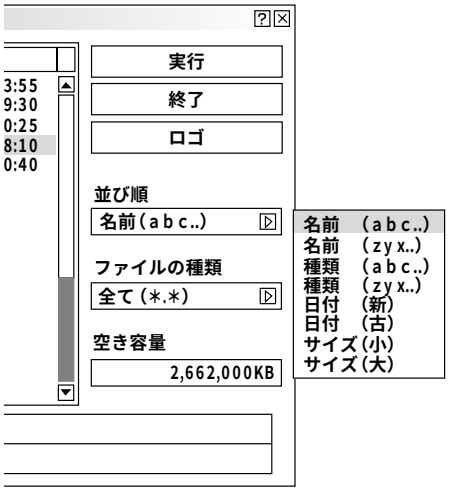
メニューの［ツール］→［ファイル選択］を選択するとファイル選択画面が表示されます。
ファイルリストにフラッシュメモリカードのファイル名などが表示されます。



例：昇順（a→zの順）にファイル名を並び替えます。

3 ［並び順］を選択する

ファイルリストにカーソルがある場合は、〈SELECT►〉ボタンを押してください。［実行］にカーソルが移動します。
〈SELECT▲／▼〉ボタンを押してカーソルを［並び順］に合わせ
〈SELECT►〉ボタン押してプルダウンリストを出します。
〈SELECT▲／▼〉ボタンを押してカーソルを［名前（abc . .）］に合わせ
〈ENTER〉ボタンを押すとファイルリストの並び替えが実行されます。

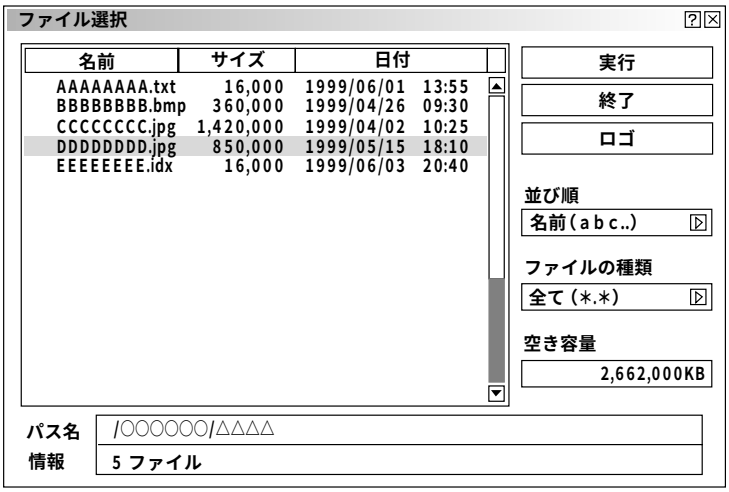


- ファイルの種類で［全て］を選択するとカード内の全てのファイルリストが表示されますが、［実行］ボタンを押して表示できるファイル形式は JPEG, BMP, TEXT, HTML. INDEX の5種類です。
（JPEG, BMPのファイル形式は［実行］して表示させるとビューワ入力に切り換わります。）

次ページに続きます

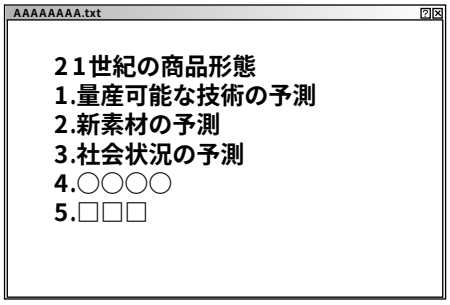
4 ファイルを選択する

〈SELECT◀〉ボタンを押してカーソルをファイルリストに移動します。
〈SELECT▲／▼〉ボタンを押してカーソルを目的のファイルに合わせます。



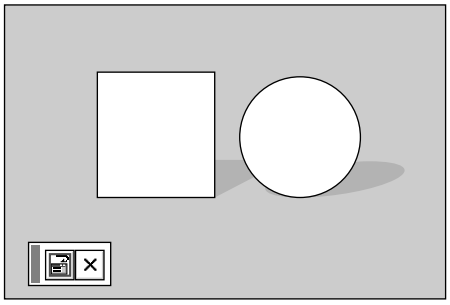
5 ファイルを映す

〈SELECT▶〉ボタンを押してカーソルを［実行］に合わせます。
〈ENTER〉ボタンを押すと選択したファイルが映ります。

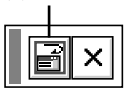


JPEG, BMP以外のファイルを選択した場合は、ウインドウが画面いっぱいに表示されます。
〈CANCEL〉ボタンを押すとファイル選択画面に戻ります。

JPEG, BMPファイルを選択した場合は、自動的にビューワ入力に切り換わります。
画面左下に表示されたツールバーの［戻る］アイコンを選択すると、ファイル選択画面に戻ります。



戻るアイコン



他のファイルを映す場合は**2**の操作から行ってください。

6 終了する

カーソルを［終了］に合わせて〈ENTER〉ボタンを押すとファイル選択画面が閉じます。

ランプ交換のしかた

光源につかわれているランプの使用時間が1500時間（高輝度モードのみ使用時）を超えるとSTATUSインジケータが赤点灯（エコモード時はオレンジ点灯）し、メッセージ「ランプの交換時期です。取扱説明書に従って早めに交換してください。」が画面上に表示されます。
この場合は光源ランプの交換時期ですので、新しいランプと交換してください。
なお、エコモードで使用している割合が多いとランプ寿命が延びます。従ってこの場合ランプ使用時間は延びることになります。現在のランプ使用残量の目安は104ページをご覧ください。

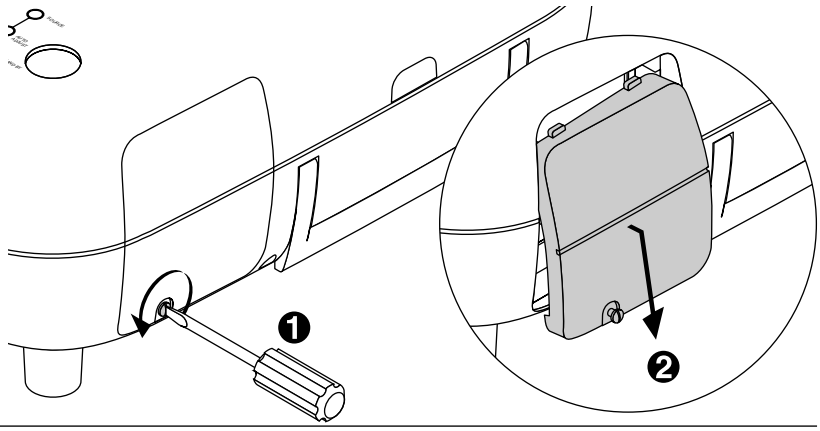
- 交換用ランプは販売店でお求めください。ご注文の際は交換用ランプキット型名GT50LPとご指定ください。
- 指定のネジ以外は外さないでください。
- ランプのバルブ本体および反射板に触れると輝度が落ちるなどランプの寿命が短くなる恐れがあります。
- メッセージが表示されてもなお使用を続けると、ランプが切れることがあります。ランプが切れる時には、小さな破裂音が発生し、ランプの破片がランプボックス内に散らばります。この場合は、販売店に交換を依頼してください。
- ランプ寿命の限界を超えるとスタンバイ状態になり電源が入らなくなります。
- エアーフィルタの交換も同時に行うことをお薦めします。（*123ページ参照*）

⚠ 注意	**ランプの交換は、電源を切り1分間待って、冷却ファン停止後、電源プラグをコンセントから抜き、約60分おいてから行ってください。動作中や停止直後にランプを交換すると高温のため、やけどの原因となることがあります。**

1 ランプカバーを外します。

❶ ランプカバーのネジを左に空転するまでゆるめます。ネジは外れません。

❷ ランプカバーネジ側を持ち上げ、引いて外します。

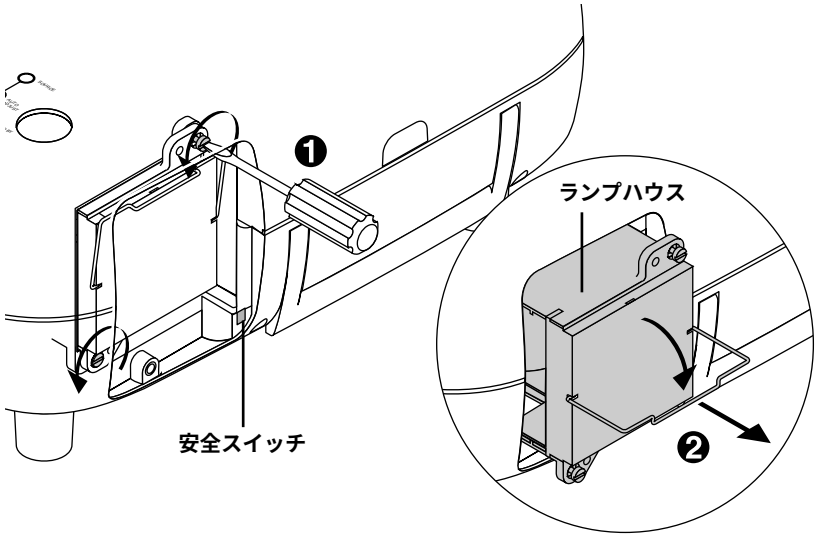


2 ランプハウスを外します。

❶ ランプハウス固定のネジ（2箇所）を左に空転するまでゆるめます。ネジは外れません。

❷ ランプハウスの取っ手を持って引きます。このとき、ランプハウスのランプソケットも外れます。

お願い
本機には安全スイッチが付いています。安全スイッチには触れないでください。

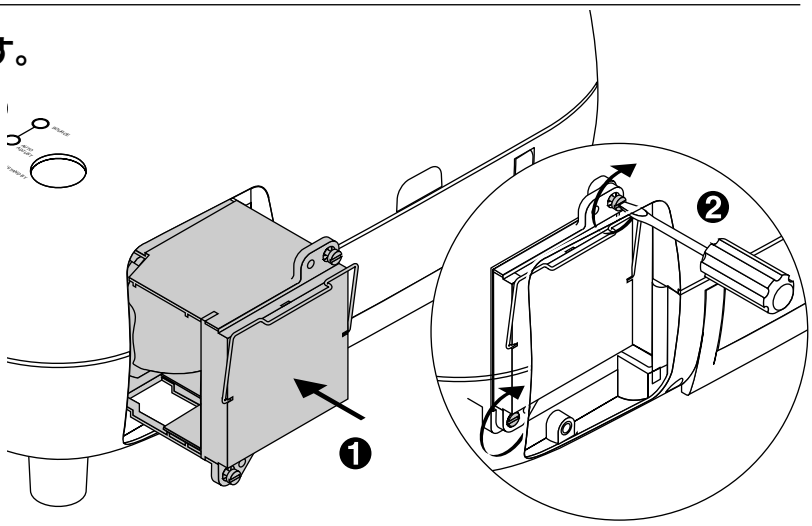


3 新しいランプハウスを取り付けます。

❶ ランプハウスを静かにいれます。
このとき、ランプハウスのランププラグが本体のソケットに差し込まれます。

❷ ランプハウス固定のネジ（2箇所）を右に回してしめます。
ランプハウスの取っ手を倒してください。

ネジは確実にしめてください。

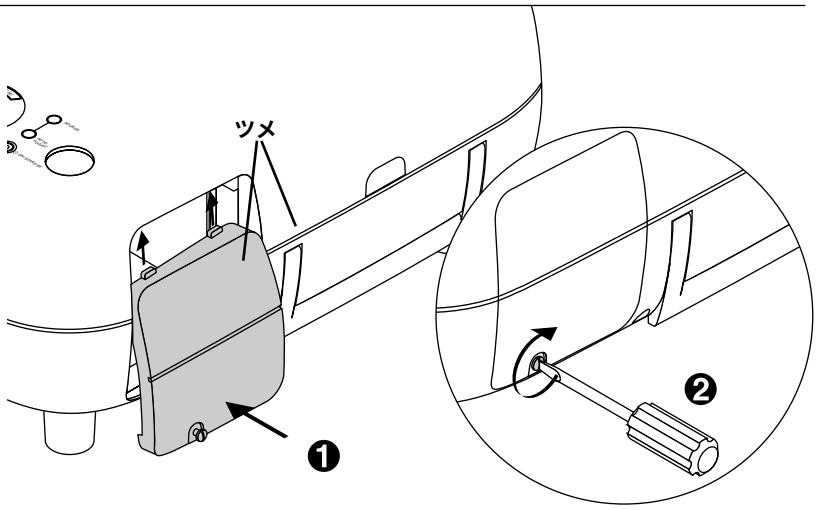


4 ランプカバーを取り付けます。

❶ ランプカバーのツメを本体の穴に入れ、ランプカバーを閉めます。

❷ ランプカバーのネジを右に回してしめます。

ネジは確実にしめてください。



5 ランプ残量とランプ時間をクリアします。

電源プラグをコンセントに差し込み、電源を入れてから行います。
メニューの［機器設定］→［セットアップ］→［ページ4］の［ランプ時間クリア］ボタンを選択して、［確定］を選択してください。（*96ページ参照*）

これで、ランプ交換が終わりました。

お知らせ

ランプ寿命（高輝度モードのみ使用時1500時間）を超えると電源が入らなくなり、メッセージが表示されません。そのような場合は、スタンバイ状態でリモコンの〈HELP〉ボタンを10秒以上押すことでランプ残量とランプ時間をクリアできます。クリアされたかどうかは、STATUSインジケータが消灯することで確認できます。

フィルタの交換と清掃

- 吸気孔のエアーフィルタはプロジェクタ内部をほこりや汚れから守っています。
  エアーフィルタにほこりがたまると、空気の通りが悪くなり内部の温度が上昇し、故障の原因となりますので、こまめに掃除をしてください。設置場所にもよりますが100時間を目安に掃除をしてください。
- 交換用ランプキット型名GT50LPを購入しますと、エアーフィルタが添付されていますので、ランプ交換の際は同時にエアーフィルタも交換してください。

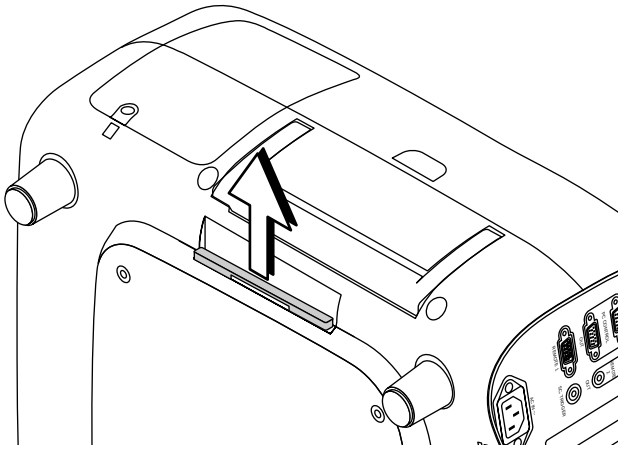
お願い

- エアーフィルタを交換するときは、プロジェクタ本体のほこりをよくふき取ってから行ってください。
- プロジェクタは精密機器ですので、内部にほこりが入らないようにご注意ください。
- エアーフィルタからスポンジをはがさないでください。また、スポンジを水洗いしないでください。目づまりの原因となります。
- 必ずエアーフィルタを正しく取付けてください。正しく取付けていないとプロジェクタの電源が入りません。

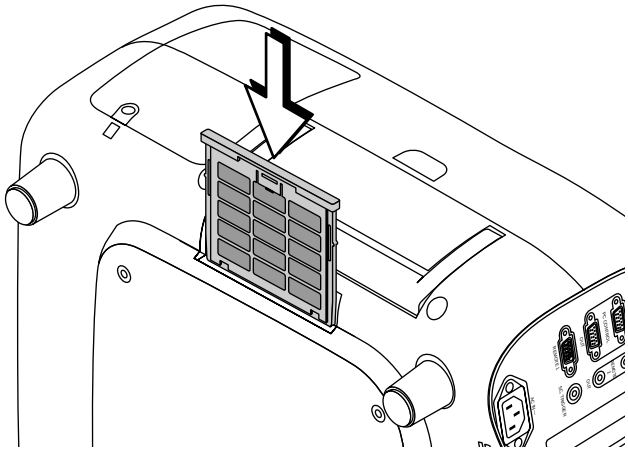
■エアーフィルタの交換

ランプの交換がすみましたら続けて、下記のようにエアーフィルタを交換します。エアーフィルタ交換の際はプロジェクタが倒れないように手を添えて行ってください。

1 エアーフィルタを引っ張ると外れます。



2 図の様に新しいエアーフィルタを差し込みます。



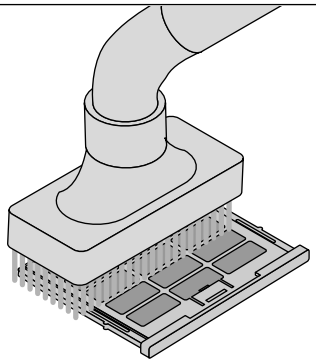
3 **フィルタ使用時間をクリアします。**

メニューの［機器設定］→［セットアップ］→［ページ4］の［フィルタ使用時間クリア］ボタンを選択して、［確定］を選択してください。（*96ページ参照*）

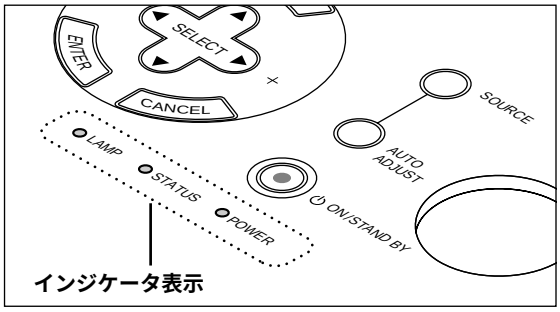
これで、フィルタ交換が終わりました。

■エアーフィルタの清掃

- 電源を切り電源プラグをコンセントから抜きます。
- エアーフィルタは本体の底にあります。
- 掃除機でエアーフィルタの掃除を行ってください。
- エアーフィルタの取り外し、取り付けは上記と同様です。



インジケータ（LED）表示一覧表



本体操作部のインジケータ表示が点灯したり点滅しているときは下記の異常またはオンタイマー動作中を知らせています。
電源を入れたときも動作状態をインジケータ表示で知らせます。詳しくは38ページ「電源の入／切」をご覧ください。

インジケータ表示		プロジェクタの状態	行なってください
STATUS 赤点灯（高輝度モード時） オレンジ点灯（エコモード時）	POWER 緑点灯	**ランプ交換時期**	● ランプの交換時期です。新しいランプに交換してください。
STATUS 赤点灯	POWER オレンジ点灯	**ランプ寿命**	● ランプの寿命がきました。電源は入りません。新しいランプに交換してください。
STATUS 赤点滅（0.5秒点灯／0.5秒消灯）	POWER オレンジ点灯	**カバーが開いています**	● エアーフィルタが正しく取り付けられていません。正しく取り付けてください。 ● ランプカバーが正しく取り付けられていません。正しく取り付けてください。 ● フロントパネルが正しく取り付けられていません。正しく取り付けてください。
STATUS 赤点滅（2秒点灯／2秒消灯）	POWER オレンジ点灯	**温度エラー**	● 温度プロテクタが動作しています。室温が高い場合は、プロジェクタを涼しい場所へ移動してください。
STATUS 赤点滅（4秒点灯／4秒消灯）	POWER オレンジ点灯	**冷却ファンの停止**	● 冷却ファンの回転が停止しています。販売店へ修理を依頼してください。
STATUS 赤点滅（6秒点灯／6秒消灯）	POWER オレンジ点灯	**ランプエラー**	● ランプが点灯しません。1分以上待って再度電源を入れてください。 それでも点灯しない場合は販売店にご相談ください。
STATUS 緑点滅（2秒点灯／2秒消灯）	POWER オレンジ点灯	**オンタイマー動作中**	● 設定時刻にプロジェクタの電源を入れるオンタイマーがセットされています。（*83ページ参照*）

LAMPインジケータ表示

ランプ残量をインジケータで知らせます。

LAMPインジケータの状態	ランプ残量
LAMP 緑点灯	ランプ残量が 100～50% です。
LAMP オレンジ点灯	ランプ残量が 50～25% です。
LAMP 赤点灯	ランプ残量が 25～0% です。

温度プロテクタについて

プロジェクタ内部の温度が異常に高くなるとランプが消灯しPOWERインジケータがオレンジ色に点灯すると共にSTATUSインジケータが緑色に点滅（2秒点灯／2秒消灯）します。

同時に温度プロテクタが働いてプロジェクタの電源が切れることがあります。（この場合はインジケータは点灯しません。）このときは、以下のことを行ってください。

1 電源を切り電源プラグをコンセントから抜きます。

2 次の事項を確認し、必要な処置をしてください。

- 周囲温度が高い場所に置いて使用しているときは、涼しい場所に設置しなおしてください。
- エアーフィルタにほこりがたまっていたら掃除してください。（*123ページ参照*）

3 プロジェクタの温度が下がるまで、約60分待ってください。

以上のことを行っても解決しないときは、販売店にご相談ください。

故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に、もう一度接続や設定および操作に間違いがないかご確認ください。

このようなとき	確認してください	参照ページ
電源が入らない	● プロジェクタはACコンセントに接続されていますか。 ● プロジェクタのPOWERインジケータは点灯していますか。 ● STATUSインジケータは点灯していますか。 STATUSインジケータが点滅している場合はビデオユニットおよびケーブルを確認してください（スイッチャ連動モード時）。 ● ビデオユニットのスタンバイ・インジケータは点灯していますか（スイッチャ連動モード時）。 ● ビデオユニットはACコンセントに接続され、電源スイッチがON になっていますか（スイッチャ連動モード時）。 ● ケーブルがビデオユニットとプロジェクタの間で接続され、確実に固定されていますか（スイッチャ連動モード時）。 ● リモコンをワイヤードで使用する時、リモコンケーブルは接続され、プロジェクタの電源がON になっていますか。 ● リモコンをワイヤレスとして使用する時、動作有効範囲内(7m)にありプロジェクタの電源がON になっていますか。 ● 外部コントロールにて制御中ではありませんか。	37 38 53 — — 53 23 22 —
映像が出ない	● R 、G 、B 、H 、V のケーブルはビデオユニット出力端子とプロジェクタ入力端子との間で正しく接続されていますか。 ● 外部機器は正しく接続されていますか。 ● 外部機器はACコンセントに接続され、電源スイッチがONになっていますか。 ● リモコンの〈MUTE　PICTURE 〉ボタンを押していませんか。 ● 接続されている入力を選んでいますか。 ● 画像調整の明るさ、コントラストが最小になっていませんか。 ● レンズキャップをつけたままではありませんか。 ● RGB入力の場合、画面調整を正しく行っていますか。 ● テストパターンのブラックラスタ表示中ではありませんか。または「赤、緑、青」チェックボックスが全てOFFになっていませんか。	53 47～57 — 60 58, 69 66, 75 — 60, 79 105
映像が歪む	● 正しく設置されていますか。 台形状に歪む→台形補正を行ってください。	65, 76
映像がぼやける	● レンズのフォーカスは合っていますか。 ● 投写画面とプロジェクタが正しい角度で設置されていますか。 ● 投写距離がフォーカスの範囲を超えていませんか。 ● レンズなどが結露していませんか。 気温が低い所に保管しておいて暖かい所で電源を入れるとレンズや内部の光学部が結露することがあります。このような場合は結露がなくなるまで数分お待ちください。	64 40～42 33 —
水平または垂直方向に映像がずれて正常に表示されない	● 画面の水平位置、垂直位置を正しく調整しましたか。	40

このようなとき	確認してください	参照ページ
RGB 入力で文字がチラついたり色がずれている場合	● クロック周波数と位相を調整してください。	79
リモコンで操作できない	● 電池が消耗していませんか。新しい乾電池を2 個とも取り替えてください。 ● ワイヤレスとして使用しているときはリモコンとプロジェクタ本体のリモコン受光部の間に障害物がありませんか。 ● ワイヤレスとして使用しているとき、有効範囲（7m）を超えていませんか。 ● プロジェクタのID とリモコンのID を同じ番号に設定していますか。または、リモコンID を「00」に設定していますか ● ワイヤードとして使用しているとき、リモコンケーブルは接続されていますか。	22 — 22 68, 97 23
オンスクリーンメニューが表示されない	● 〈CTL〉＋〈MUTE OSD〉ボタンによる強制ミュート中ではありませんか。	60
電源がかってにオン／オフしてしまう	● タイマーを設定していませんか。	83, 84

■登録されている信号と、水平・垂直同期周波数が近似した他の信号を入力した場合

既に登録されている信号と認識されるため、正しく表示されない場合があります。（その時、自動調整を実行しても正しく表示されない場合があります。）
両方の信号を使用するときは、入力端子を別々（RGB1/RGB2）にするか、信号毎にダイレクトキーを設定して切り換えるようにしてください。

●信号別にダイレクトキーを設定するには以下の手順で行います。

1 信号リスト上で、既に登録している信号をカットする

1）投写中の信号はカットできないため既に登録している信号以外の信号に切り換えます。
2）リモコンの〈ENTRY LIST〉ボタンを押します。
3）既に登録している信号を選択後に、リモコンの〈CTL〉ボタンを押しながら〈ENTER〉ボタンを押します。［信号編集コマンド］画面が表示されますので、［カット］ボタンを選択して〈ENTER〉ボタンを押します。信号がカットされます。（信号データがクリップボードに保存されます）

2 追加する信号を入力し、登録する

〈CTL〉ボタンを押しながら 〈ENTRYLIST〉ボタンを押して登録します。

3 ***1*** 項でカットした信号を貼り付ける

1）信号リスト上の空欄行を選択します。
2）〈CTL〉ボタンを押しながら〈ENTER〉ボタンを押して、［信号編集コマンド］画面を表示させます。
3）［貼付け］ボタンを選択して〈ENTER〉ボタンを押すと、クリップボードの信号が信号リストに追加されます。

4 信号リストに登録された信号にそれぞれダイレクトキーを割り当てる

1）信号リスト上で信号を選択し、〈CTL〉ボタンを押しながら〈ENTER〉ボタンを押して［信号編集コマンド］画面を表示させます。
2）［編集］ボタンを選択してENTERボタンを押して、［信号編集］画面を表示させます。
3）［ダイレクトキー設定］ボタンを押して、［ダイレクトキー設定］画面を表示させます。
4）ダイレクトキーを割り当てます。

お願い 上記1から3の操作中は、電源を切らないでください。途中で電源を切ると、クリップボードに保存されたデータ内容が消去されます。詳しい信号リストの編集方法については、P.72をご覧ください。

お手入れについて

お手入れの前に必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

■キャビネットのよごれは・・・・・・

- 毛羽立ちのすくない柔らかい乾いた布でふいてください。
  汚れのひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたした布をよく絞ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
  化学ぞうきんを使用する場合は、その注意書に従ってください。

- シンナーやベンジンなどの溶剤でふかないでください。変質したり、塗料がはげることがあります。

- 通風孔のほこりを取り除く場合は、掃除機のブラシ付きのアダプタを使用して吸い取ってください。なお、アダプタを付けずに直接当てたり、ノズルアダプタを使用することは避けてください。

- 通風孔にほこりがたまると、空気の通りが悪くなり内部の温度が上昇し故障の原因となりますので、こまめに掃除をしてください。設置場所にもよりますが100時間を目安に掃除をしてください。

- キャビネットを爪や硬いもので強くひっかいたり、当てたりしないでください。傷の原因となります。

本体内部の掃除については、お買いあげの販売店またはNECフィールディングの支店・営業所にお問い合わせください。

■レンズのよごれは・・・・・・

- カメラのレンズと同じ方法で（市販のカメラ用ブローワーやメガネ用クリーニングペーパーを使って）クリーニングしてください。その際、レンズを傷つけないようご注意ください。

キャビネットやレンズおよびスクリーンに殺虫剤など揮発性のものをかけたりしないでください。
また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させたままにしないでください。変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。

仕　　様

方　式			三原色液晶シャッタ投映方式
主要部品仕様	液晶パネル	サイズ	1.3型 p-Si TFT (MLA付)
		駆動方式	TFTアクティブマトリクス
		画素数	786,432画素× 3枚（1024ドット×768ライン）
		配列	ストライプ
	光源		250W　NSHランプ
	ランプ寿命		1500時間（ランプエコモードのみ使用の場合2000時間）
	光学装置		ダイクロイックミラーによる光分離・クロスダイクロプリズムによる合成方式
最大表示解像度(縦×横)			1,600 × 1,200ドット（アドバンスド・アキュブレンド対応）
画面サイズ			40～500型（使用するオプションレンズにより異なる）
色再現性			フルカラー 1,677万色
音声出力			5W ＋ 5W　ステレオスピーカ内蔵
走査周波数		水平	15 ～100 kHz
		垂直	48 ～120 Hz
電動レンズ調整機能			レンズシフト（縦／横）、ズーム、フォーカス
レンズシフト範囲			縦：±0.5V／横：±0.25H
上下方向台形歪み補正機能			±30°（投写角を中心として）
オンスクリーンメニュー			アドバンスト／ベーシックモード（カスタマイズ可能）
入力信号	R,G,B,H,V		RGB：0.7Vp-p　75Ω正極性
			Y：1.0Vp-p　75Ω正極性（With Sync）
			Cb,Cr (Pb, Pr)：0.7Vp-p　75Ω
			H/V Sync：2.0～4.0Vp-p　TTL　正極性／負極性
			Composite Sync：0.7～4.0Vp-p　TTL　正極性／負極性
			Sync on G：75Ω　0.3Vp-p　負極性
	コンポジットビデオ		75Ω　1.0Vp-p
	Sビデオ		Y：75Ω　1.0Vp-p
			C：75Ω　0.283Vp-p
	コンポーネント		DTV：1080i, 720p, 480p,480i（リフレッシュレート60Hz）
			DVDコンポーネントビデオ信号（15kHz）
入出力端子	アナログRGB	映像入力	ミニD-Sub 15ピン×1、BNC×5（コンポーネント入力端子と共用）
		映像出力	ミニD-Sub 15ピン×1
		音声入力	RCA（L/MONO, R）×2
	デジタルRGB	映像入力	DVI×1（アナログRGBと共用）
		音声入力	RCA（L/MONO, R）×1
	ビデオ	映像入力	RCA×1、BNC×1
		音声入力	RCA（L/MONO, R）×1
	Sビデオ	映像入力	Din4ピン
		音声入力	RCA（L／MONO. R）×1
	音声出力		RCA（L／MONO. R）×1
	ワイヤードリモコン端子		入力：ステレオミニジャック×1／出力：ステレオミニジャック×1
	PCコントロール端子		入力：ミニD-Sub 9ピン×1／出力：ミニD-Sub 9ピン×1
	スイッチャコントロール端子		ミニD-Sub 15ピン×1
	スクリーントリガ出力端子		ステレオミニジャック×1
内蔵ビューワ			PCMCIAタイプIIカード対応
ファイル選択機能			TEXTファイル、HTMLファイル、JPEGファイル、BMPファイル表示可能
使用環境			動作温度　0～40℃　　動作湿度　20～80%（ただし結露しないこと）
			保存温度　−10～50℃　　保存湿度　20～80%（ただし結露しないこと）
電源			AC 100V　50／60Hz
消費電力（最大）			430W *
外形寸法			419（幅）×195（高）×494（奥行）mm (脚含まず)
質量			10.0kg（レンズ含まず）

*　:本製品は通産省の「家電汎用品高調波抑制対策ガイドライン」に基づいた適合品です。

- 液晶パネルの有効画素は99.99%以上です。0.01%以下の点欠陥が生じる場合があります。ご了承ください。
- この仕様･意匠はお断りなく変更することがあります。

対応解像度一覧

機　種	解像度	走査周波数		GT1150
		水平（kHz）	垂直（Hz）	
ビデオ（NTSC）	640× 480	15.734	60.0	◎
ビデオ（PAL/SECAM）	768× 576	15.625	50.0	◎
PC-9800シリーズ	640× 400	24.8	56.4	◎
	640× 400	31.5	70.1	◎
	640× 480	31.5	60.0	◎
	640× 480	37.5	75.0	◎
	800× 600	37.9	60.3	◎
	800× 600	46.9	75.0	◎
	1120× 750	50.0	60.0	○
	1024× 768	56.5	70.1	◎
	1024× 768	60.0	75.0	◎
	1280×1024	64.6	59.9	○
PC-98NXシリーズ IBM PC/AT対応機 DOS/V対応機	640× 350	31.5	70.1	◎
	640× 350	37.9	85.1	◎
	640× 400	31.5	70.1	◎
	640× 400	37.9	85.1	◎
	720× 350	31.5	70.0	◎
	720× 400	37.9	85.0	◎
	720× 400	31.5	70.0	◎
	640× 480	31.5	60.0	◎
	640× 480	37.9	72.8	◎
	640× 480	37.5	75.0	◎
	640× 480	43.3	85.0	◎
	800× 600	35.2	56.3	◎
	800× 600	37.9	60.3	◎
	800× 600	46.9	75.0	◎
	800× 600	48.1	72.2	◎
	800× 600	53.7	85.1	◎
	1024× 768	48.4	60.0	◎
	1024× 768	56.5	70.1	◎
	1024× 768	58.1	72.0	◎
	1024× 768	60.0	75.0	◎
	1024× 768	68.7	85.0	◎
	1152× 864	67.5	75.0	○
	1280×1024	64.0	60.0	○
	1280×1024	80.0	75.0	○
	1280×1024	91.0	85.0	○
	1600×1200*	75.0	60.0	△
	1600×1200*	81.3	65.0	△
	1600×1200*	87.5	70.0	△
	1600×1200*	93.8	75.0	△
Apple Macintosh®	640× 480	35.0	66.7	◎
	832× 624	49.7	74.6	◎
	1024× 768	60.2	74.9	◎
	1152× 870	68.7	75.1	○
	1280×1024	64.3	60.4	○
	1280×1024	69.9	65.2	○
Apple iMac™	640× 480	—	117.0	◎
	800× 600	—	95.0	◎
	1024× 768	—	75.0	◎
EWSシリーズ	1280×1024	64.6	59.9	○
	1280×1024	75.1	71.2	○
HP	1280×1024	78.1	72.0	○
SUN	1152× 900	61.8	66.0	○
	1280×1024	81.1	76.1	○
SGI	1024× 768	49.7	60.4	◎
	1152× 900	71.7	76.1	○
	1280×1024	63.9	60.0	○
HDTV（720p, 750p）	1280× 720	33.6	60.0	△
（1080i, 1125i）	1920×1080	45.0	60.0	△
SDTV（480p, 525p）	—	31.5	59.9	◎
（480i, 525i）	—	15.7	59.9	◎

◎：出荷時プリセット
○：アドバンスド・アキュブレンド対応
△：アドバンスド・アキュブレンドにより表示可能
—：非対応

- 「出荷時プリセット」はその表示解像度／周波数の標準的な信号に合わせていますが、パソコンの種類によっては調整が必要な場合があります。
- ワークステーションとの接続に関しての詳細は、当社にお問い合わせください。
- コンポジット同期信号などの場合は、正常に表示できない場合があります。
- アドバンスド・アキュブレンド表示の場合、文字や罫線の太さなどが不均一になる場合があります。
- * U-XGAはセパレート信号のみ対応です。

リンクモードでの調整可能機能一覧（アドバンストモード）

リンクモードでで調整可能な機能は、下記の表を参照ください。DVIデジタル入力では対応できません。その場合は、市販の分配機を使用して各プロジェクタの端子に接続してください。

表中の文字の意味は下記のとおりです。

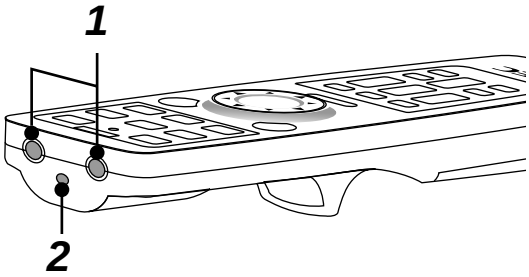
文字	マスタプロジェクタ	スレーブプロジェクタ
L	有効	リンク
N	無効	無効
M	有効	無効
I	個々に調整可能	個々に調整可能

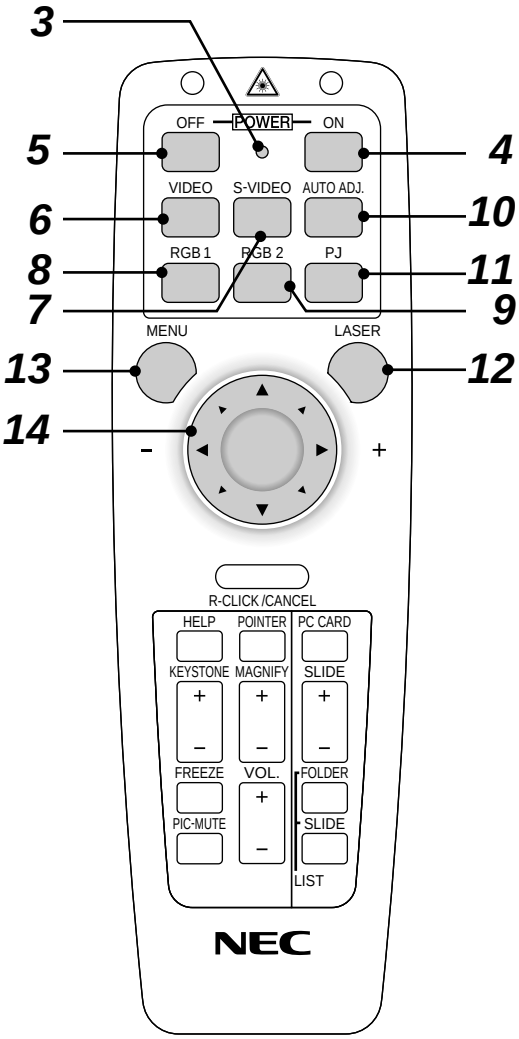
機　　能					リンクモード
メニュー	信号選択	全項目（ただしビューワは無効）			L
	映像調整	全項目			L
	音量				L
	画像調整	台形補正			N
		色温度			L
		ランプモード			N
		ガンマ補正			L
		詳細設定	アスペクト		L
			ノイズリダクション		N
			カラーマトリクス		N
			ホワイトバランス		L
			スイッチャーゲイン		N
			位置		N
			周波数		N
			解像度		L
			ビデオ帯域フィルタ		L
			オーバースキャン		L
			クランプタイミング		N
			Y/Cディレイ		N
			YTR調整		N
			CTR調整		N
			HDディレイ		N
		データリセット			N
	機器設定	タイマー			L
		メニュー設定			M
		セットアップ			N
		リンクモード			M
		スイッチャ連動モード			N
		LANモード			N
	ツール	キャプチャ			N
		ファイル選択			N
	ヘルプ				M
	テストパターン				N
ダイレクトキー	LENS SHIFT	プロジェクタ			I
		リモコン			N
	FOCUS	プロジェクタ			I
		リモコン			I
	ZOOM	プロジェクタ			I
		リモコン			I
	MENU	プロジェクタ			L（*1）
		リモコン			L（*1）
	POWER	プロジェクタ			L（*2）
	POWER ON	リモコン			L（*2）
	POWER OFF	リモコン			L（*2）
	INPUT	リモコン			L（*1）
	MUTE（PICTURE）	リモコン			L（*1）
	MUTE（OSD）	リモコン			L（*1）
	MUTE（SOUND）	リモコン			L（*1）
	VOLUME（音量）	プロジェクタ		調整表示ON	L（*1）
				調整表示OFF	L（*1）
		リモコン		調整表示ON	L（*1）
				調整表示OFF	L（*1）
	KEYSTONE	リモコン			N
	AUTO	プロジェクタ			N
		リモコン			N
	SOURCE	プロジェクタ			L（*1）
	TEST	リモコン			N

*1　スレーブプロジェクタ側の調整はできません。
*2　スレーブプロジェクタ側も調整できます。

プレゼンテーションリモコン各部のはたらき（別売品）

別売品のプレゼンテーションリモコンキット（PR50KIT)の機能説明です。
ビューワ機能がダイレクトに操作できる機能ボタン、パソコンのマウス操作ができるマウスコントロール機能、ピンポイントでスクリーンの説明箇所を指すことができるレーザーポインタ機能のついたプレゼンテーションに便利なリモコンキットです。
詳しくはプレゼンテーションリモコンキットに添付されている取扱説明書をご覧ください。





1　リモコン送信部
リモコン信号を赤外線で送信するところです。

2　レーザー発光部
レーザーポインタの光を出すところです。

3　リモコン送信中ランプ
赤外線送信中は赤いランプが点灯します。

4　POWER〈ON〉ボタン
スタンバイ時（POWERインジケータがオレンジ色に点灯）に本機の電源を入れます。

5　POWER〈OFF〉ボタン
本機の電源を切ります（スタンバイ状態）。2秒以上押してください。

6〈VIDEO〉ボタン
ビデオ入力を選択します。押すごとにビデオ1→ビデオ2と切り換わります。

7〈S-VIDEO〉ボタン
Sビデオ入力を選択します。

8〈RGB 1〉ボタン
RGB入力1（または コンポーネント）を選択します。

9〈RGB 2〉ボタン
RGB入力2（または コンポーネント）およびDVI（デジタル／アナログ）入力を選択します。
押すごとに　RGB2→DVI（デジタル）→DVI（アナログ）と切り換わります。

10〈AUTO ADJ.〉ボタン
映しているRGB信号の画像を最適な状態に自動調整します。

11〈PJ〉ボタン
マウス／SELECT〈▼▲◀▶〉ボタン、〈R-CLICK/CANCEL〉ボタン、〈L-CLICK/ENTER〉ボタンの動作をプロジェクタモードに切り換えます。プロジェクタモードのときは赤く点灯します。もう一度押すとパソコンモードに戻ります。

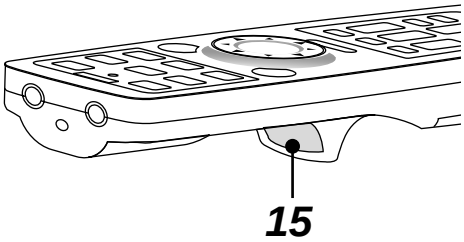
12〈LASER〉ボタン
レーザーポインタが発光します。

13〈MENU〉ボタン
各種設定・調整のメニューを表示します。

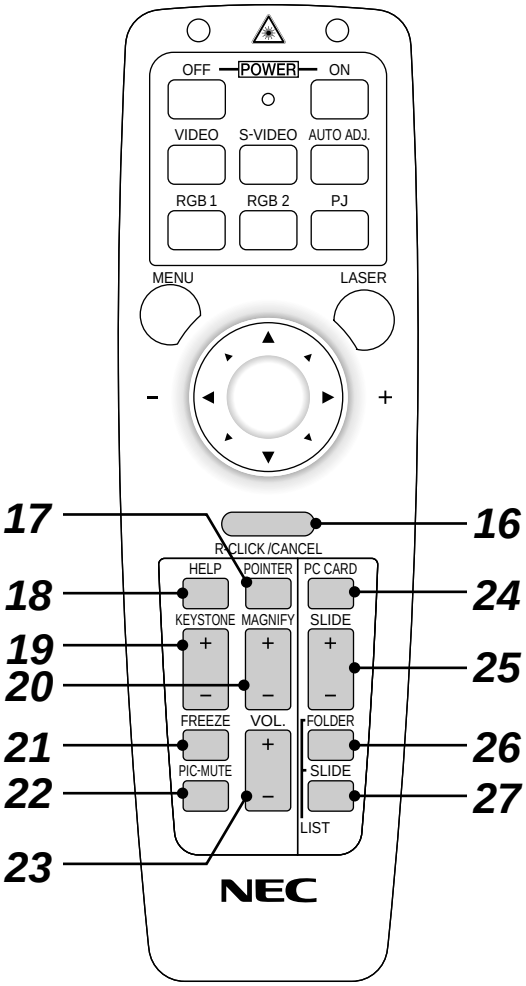
14　マウス／SELECT〈▼▲◀▶〉ボタン
パソコンモードのとき……パソコンのマウスとして動作します。
プロジェクタモード（〈PJ〉ボタン ***11*** が赤く点灯）**のとき**……メニュー操作やポインタ移動、〈MAGNIFY〉ボタンを使った画面拡大時の表示位置調整に使います。

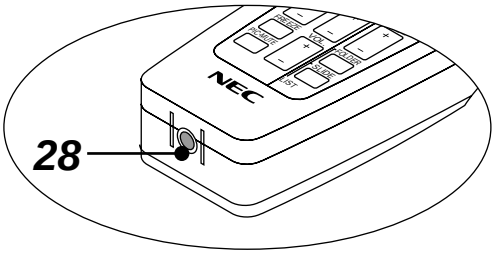
お知らせ

本リモコンは、同じボタンが1分以上押されたままになると、ボタン操作ができなくなります。これは省電力機能が働いているためで、故障ではありません。この状態を解除するには、マウス／SELECT〈▼▲◀▶〉ボタン以外のボタンを押してください。



Apple社製Macintoshを使用している場合は、右クリックと左クリックは同じ働きをします。





15 〈L-CLICK/ENTER〉ボタン

パソコンモードのとき……マウスの左ボタンの動作をします。

プロジェクタモードのとき……メニューを表示しているときは、項目を決定します。各種調整・設定画面を表示しているときは、調整・設定値を確定してメニュー表示に戻ります。

16 〈R-CLICK/CANCEL〉ボタン

パソコンモードのとき……マウスの右ボタンの動作をします。

プロジェクタモードのとき……メニューを表示しているときは、メニューを閉じます。各種調整・設定画面を表示しているときは、調整・設定値を調整・設定前の状態に戻してメニュー表示に戻ります。

17 〈POINTER〉ボタン

ポインタを表示します。画面拡大時にこのボタンを押すと表示位置の調整ができます。

18 〈HELP〉ボタン

ヘルプを表示します。

各種調整・設定画面を表示しているときは、選択している項目のヘルプを表示します。

19 〈KEYSTONE ＋/－〉ボタン

画面の台形歪みを調整します。

20 〈MAGNIFY ＋/－〉ボタン

画面の拡大・縮小（元に戻す）をします。

21 〈FREEZE〉ボタン

表示されている画像が静止画となります。もう一度押すと戻ります。

22 〈PIC-MUTE〉ボタン

映像と音声を一時的に消します。もう一度押すと戻ります。

（メニュー表示中に押した場合は、映像と音声は消えますが、メニューは消えません。）

23 〈VOL. ＋/－〉ボタン

内蔵スピーカの音量を調整します。

24 〈PC CARD〉ボタン

ビューワを表示します。

25 〈SLIDE ＋/－〉ボタン

ビューワのスライド画面の切り換えや、フォルダ／スライド一覧表示のカーソル送りに使います。

26 〈FOLDER LIST〉ボタン

フラッシュメモリカードに保存されたフォルダ一覧を表示します。

27 〈SLIDE LIST〉ボタン

フラッシュメモリカードに保存されたスライド一覧を表示します。

28 リモコンケーブル接続端子

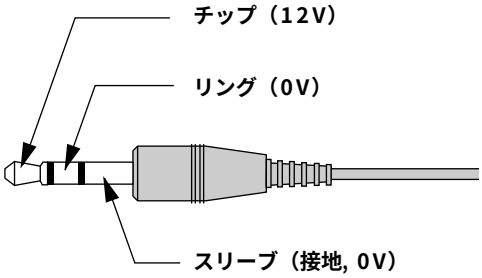
添付のリモコンケーブルを接続するとワイヤードリモコンになります。

お知らせ

- マウス／SELECT〈▼▲◀▶〉ボタン、〈R-CLICK/CANCEL〉ボタン、〈L-CLICK/ENTER〉ボタンは通常パソコンモードになっていますが、〈MENU〉ボタン、〈POINTER〉ボタン、〈HELP〉ボタン、〈PC CARD〉ボタン、〈FOLDER LIST〉ボタン、〈SLIDE LIST〉ボタンを押すと、自動的にプロジェクタモードになります。その後、約10秒間ボタン操作をしないとパソコンモードに戻ります。

SC, TRIGGER端子の仕様（ステレオミニ）

本機の電源を入れると、SC, TRIGGER端子からスクリーンコントローラへ制御電圧が出力されて、スクリーンが降ります。本機の電源を切ると制御電圧の出力が止まり、スクリーンが上がります。
制御電圧は下記のとおりです。ステレオミニケーブルは市販品をお使いください。



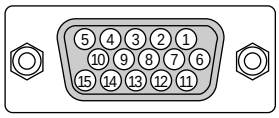
お知らせ

- この端子はスクリーントリガ機能以外の目的には使用しないでください。ワイヤードリモコンを接続するとリモコンが故障します。
- スクリーンコントローラは、本機に添付されていません。スクリーンメーカから購入してください。

RGB2端子のピン配列と信号名

■ミニD-Sub 15ピン（アナログ）入力端子

各ピンの接続と信号レベル

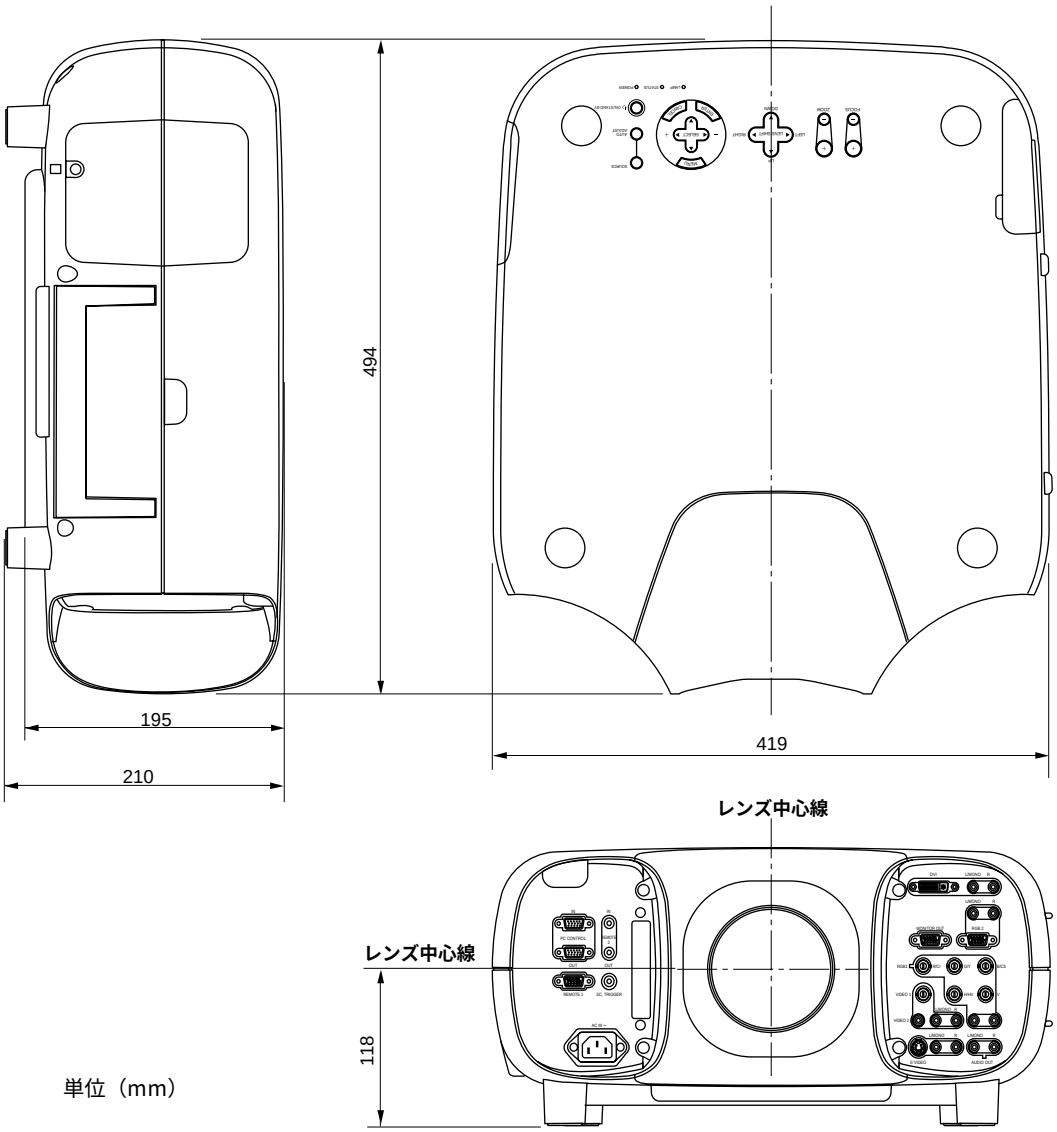


信号レベル
ビデオ信号：0.7Vp-p（アナログ）
同期信号：TTLレベル

ピン番号	RGB信号（アナログ）	YCbCr 信号	ビデオ／S-ビデオ信号
1	赤	Cr	コンポジットビデオ
2	緑またはシンクオングリーン	Y	Y
3	青	Cb	C
4	接　地		
5	接　地		
6	赤　　接　地	Cr　接　地	コンポジット接地
7	緑　　接　地	Y　接　地	Y　　接地
8	青　　接　地	Cb　接　地	C　　接地
9	非接続		
10	同期信号　　接　地		
11	接　地		
12	Bi-directional DATA (SDA) *		
13	水平またはコンポジット同期		
14	垂直同期		
15	Data Clock *		

* RGB2 端子のみ対応

外観図



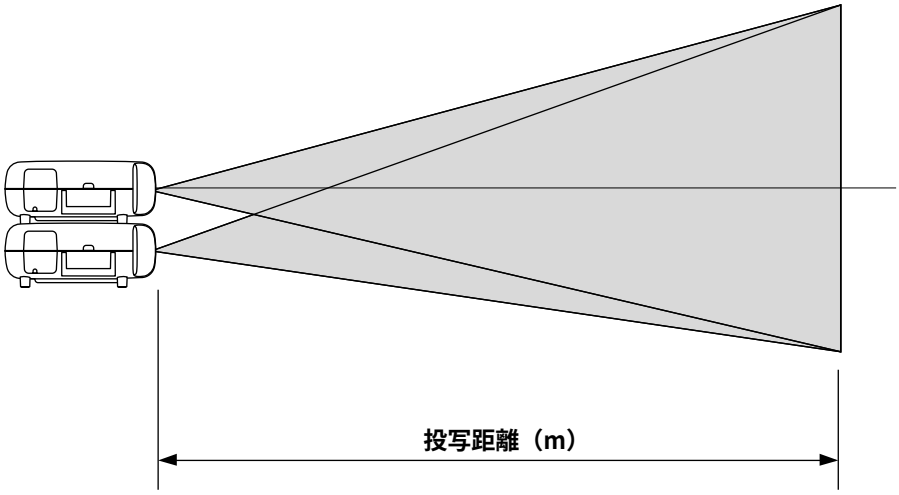
単位（mm）

関連商品

商　品　名		型　名
レンズ	オプションレンズ（リア固定レンズ1.0）	GT10RL
	オプションレンズ（ズームレンズ1.3～1.6）	GT13ZL
	オプションレンズ（ズームレンズ1.8～2.4）	GT19ZL
	オプションレンズ（ズームレンズ3.4～5.2）	GT34ZL
ランプ	交換用ランプキット	GT50LP
天吊り金具	天井取付ユニット	GT50CM
拡張モジュール	LANモジュール	GT50LAN
リモコン	プレゼンテーションリモコンキット	PR50KIT

スタック時の推奨投写距離

画面サイズ（型）	投写距離（m）		
	GT19ZL	GT13ZL	GT34ZL
40	1.74	1.04	—
60	2.64	1.58	—
80	3.54	2.12	6.71
100	4.44	2.66	8.39
120	5.34	3.20	10.07
150	6.70	4.01	12.59
200	8.94	5.36	16.79
240	10.74	6.44	20.15
300	13.44	8.06	25.19
350	—	—	29.39
400	—	—	33.59
450	—	—	37.79
500	—	—	42.00



保証と修理サービス（必ずお読みください）

保証書

この商品には、保証書を別途添付しております。
保証書は、必ず「お買いあげ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき内容をよくお読みのあと大切に保存してください。

保証期間

お買いあげ日から1年間です。
ただし、ランプは6ヶ月以内で1500時間までです。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、このプロジェクタの補修用性能部品を製造打切後、最低8年保有しています。

性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

ご不明な点や修理に関するご質問は

製品の故障、修理に関するご質問はお買い上げの販売店またはNECフィールディング株式会社の支店・営業所にお願いいたします。
各地の支店・営業所については、別紙一覧表をご覧ください。

修理を依頼されるときは

「故障かな？と思ったら」（126ページ）に従って調べていただき、なお異常があるときは、電源を切り、必ず電源プラグを抜いてから、お買いあげの販売店にご連絡ください。

保証期間は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品名	高輝度液晶プロジェクタ
形名	GT1150
お買いあげ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印なども合わせてお知らせください
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	

べんりメモ	お買いあげ店名	☎（　）　-

保証期間がすぎているときは

修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

修理料金の仕組み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

＋

部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材などを含む場合もあります。

＋

出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

愛情点検

長年ご使用のプロジェクタの点検をぜひ！

熱・湿気・ホコリなどの影響や、使用の度合いにより部品が劣化し、故障したり、ときには安全性を損なって事故につながることもあります。

このような症状はありませんか

- 電源スイッチを入れても映像が出ない。
- 上下、または左右の映像がかけて映る。
- 映像が時々、消えることがある。
- 変なにおいがしたり、煙が出たりする。
- 電源スイッチを切っても、映像が消えない。
- 内部に水や異物が入った。

ご使用中止

故障や事故防止のため、スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店にご相談ください。

NECビューテクノロジー株式会社

〒108-0014 東京都港区芝五丁目33番1号　森永プラザビル

営業本部　国内営業部

☎(03) 5232−6148 (ダイヤルイン)

7N8P0102